

第 1 部

男女共同参画に関する市民生活意識調査

男女共同参画に関する市民生活意識調査（調査結果概要）

1 調査目的

男女共同参画に関する市民の意識や家庭生活や職場の実情などを把握し、第5次たかまつ男女共同参画プラン（仮称）策定の基礎データとするとともに、今後の男女共同参画施策推進の参考資料とする。

2 調査内容

- (1) 家庭生活・子育て・介護について
- (2) 地域活動への参加・学校教育・防災活動について
- (3) 就労について
- (4) ワーク・ライフ・バランスについて
- (5) 男女平等と多様性について
- (6) 男女間における暴力とハラスメントについて
- (7) 男女共同参画社会に関する行政への要望について（ご意見・ご要望）

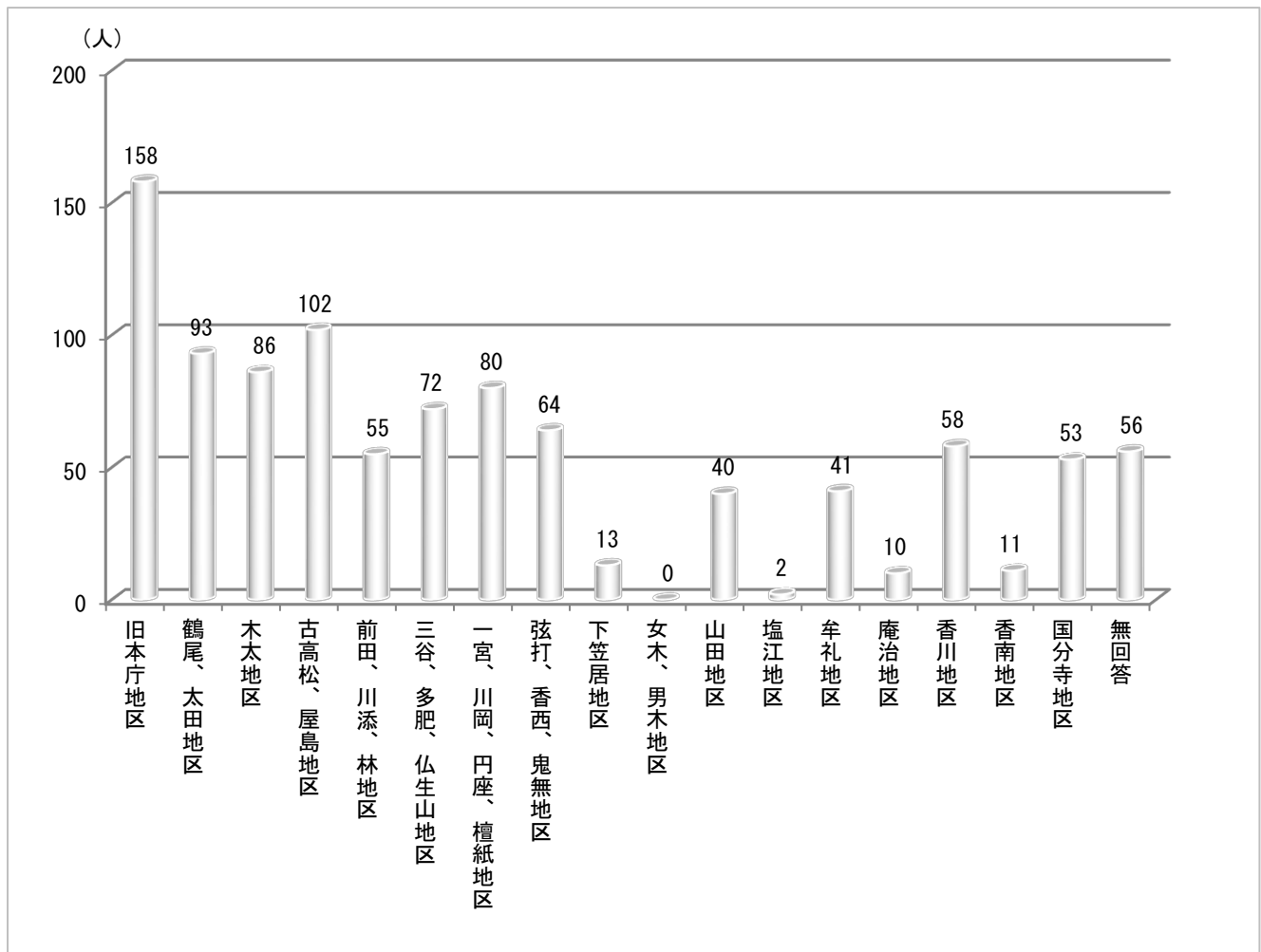
3 調査設計

- (1) 調査期間 令和元年10月16日～10月31日
- (2) 調査対象 18歳以上の市民2,400人（無作為抽出）
- (3) 調査方法 アンケート方式、郵送法

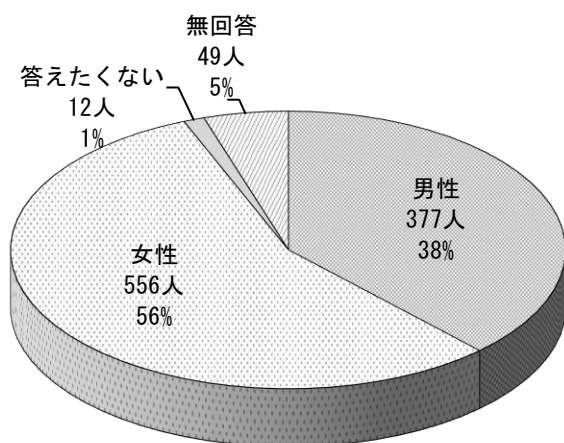
4 回収結果

- (1) 回収数 994人
- (2) 回収率 41.4%

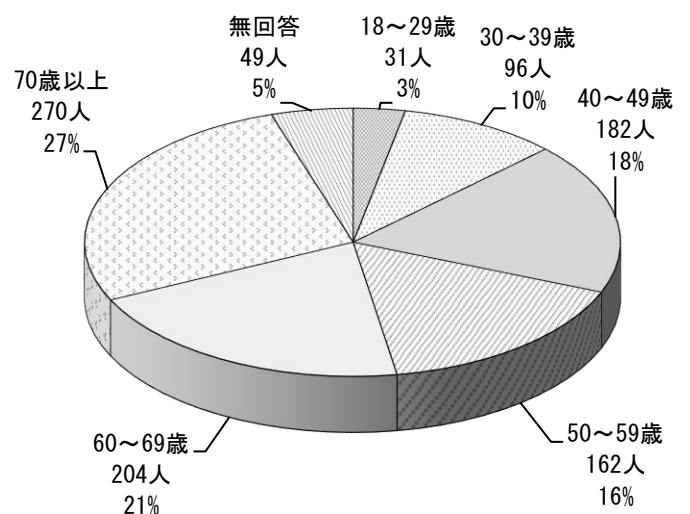
F1 住居地区（あなたがお住まいの住居地区の番号を1つ選んでください。）



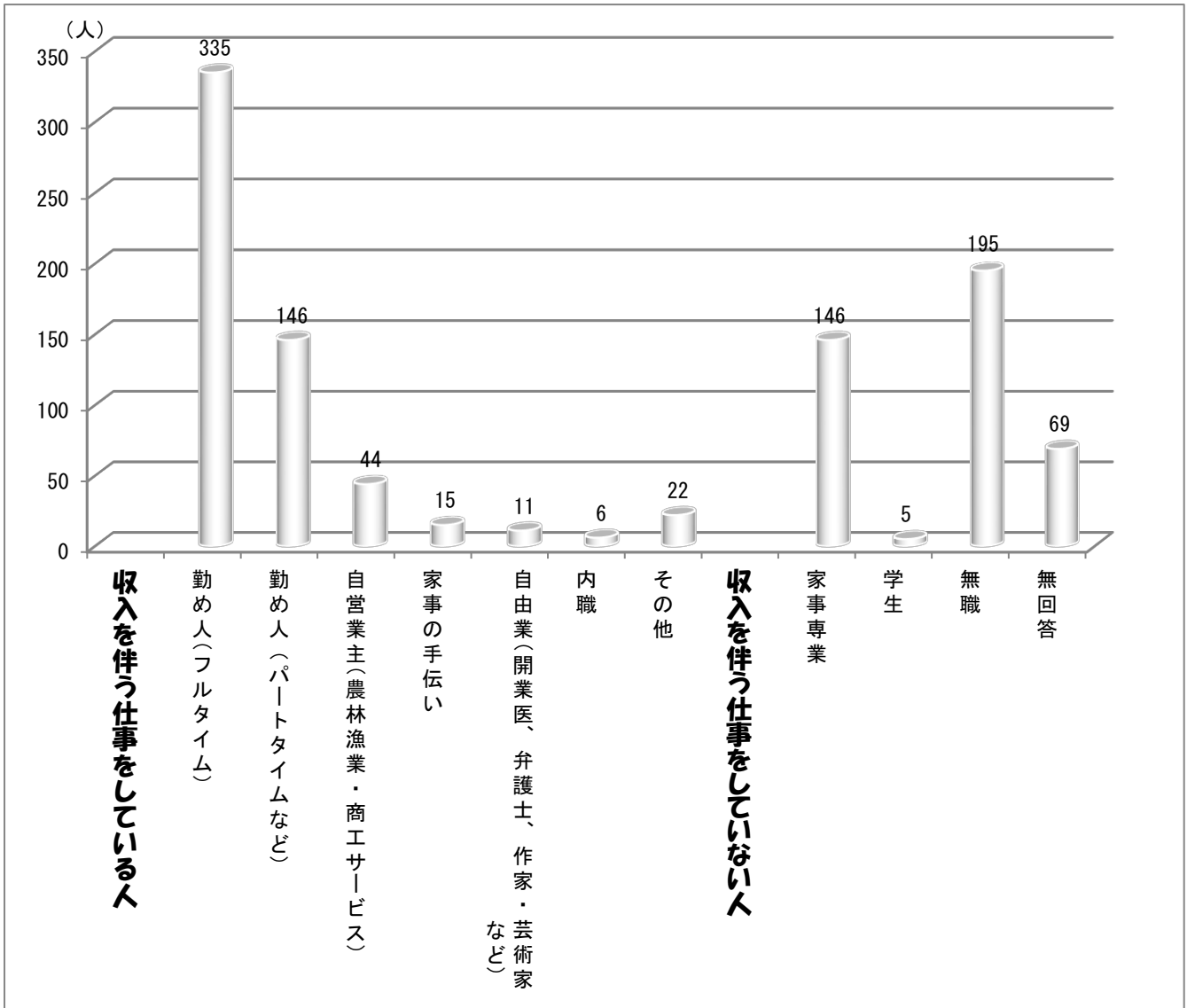
F2 性別



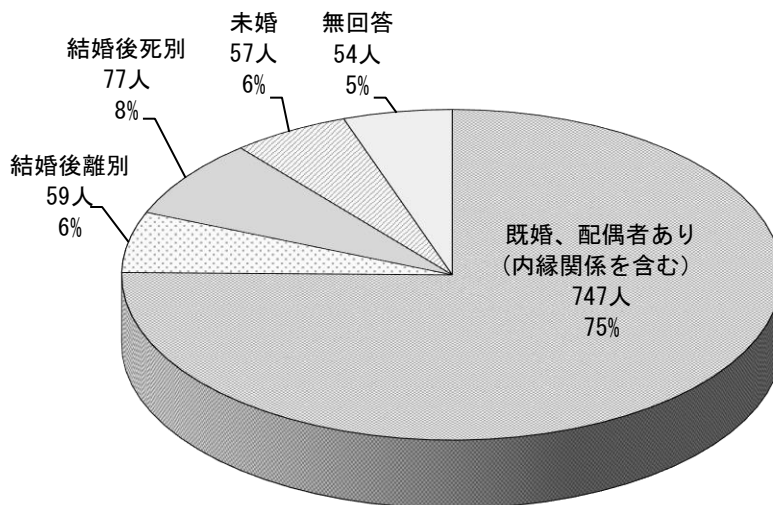
F3 年齢（令和元年10月1日現在）



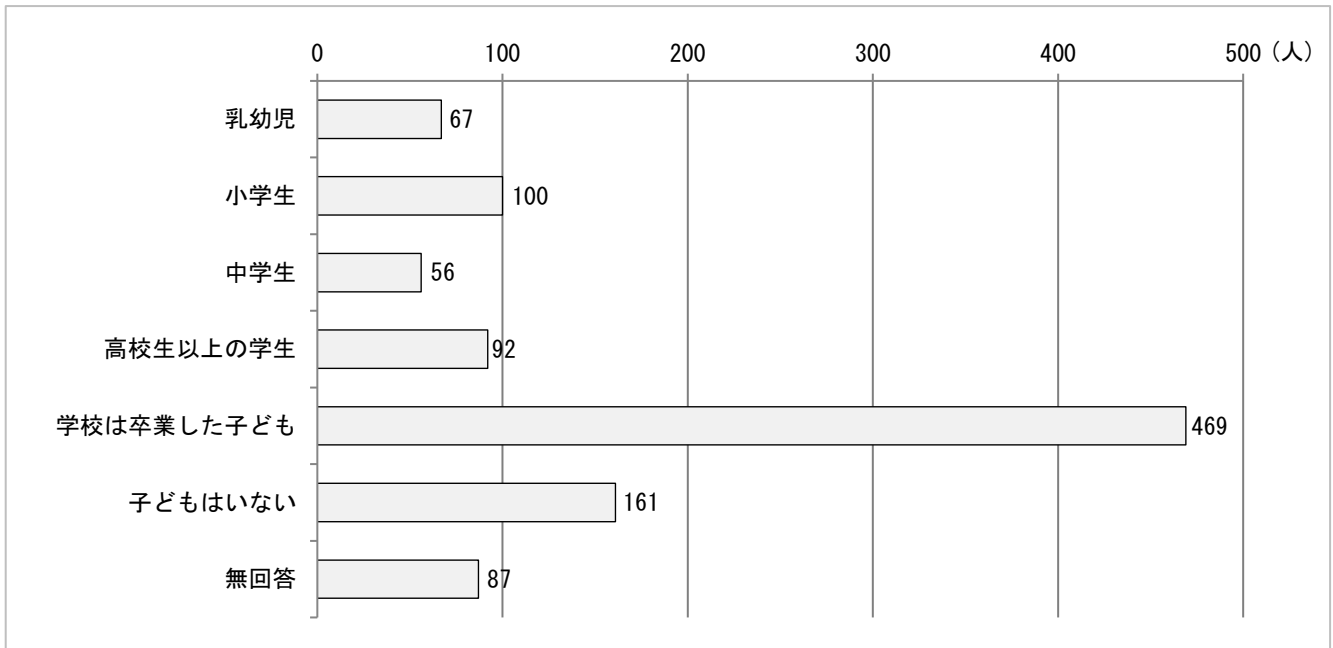
F 4 主な仕事（収入を伴う仕事をしている人・収入を伴う仕事をしていない人）



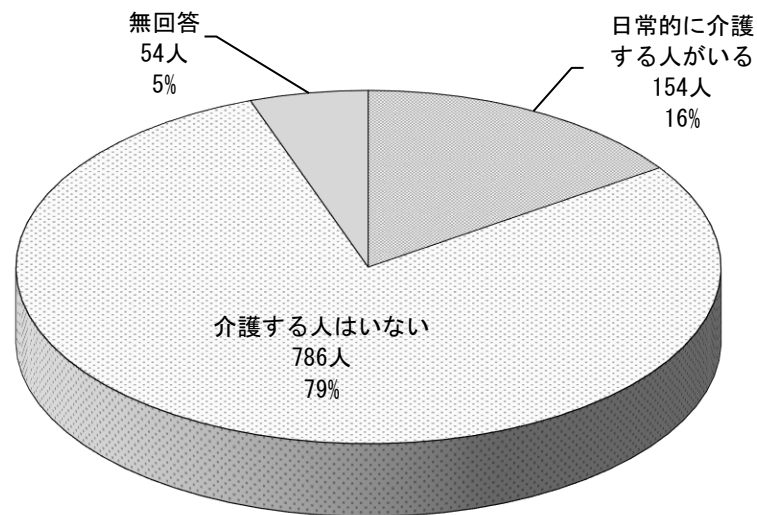
F 5 結婚



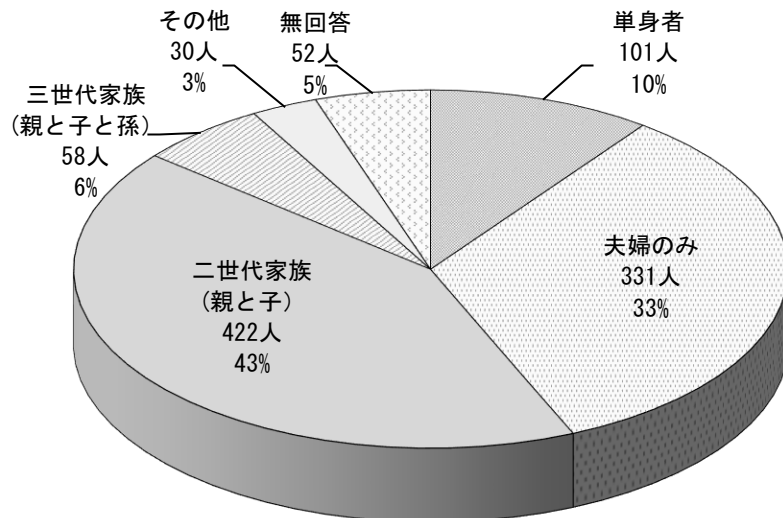
F 6 子ども



F 7 介護

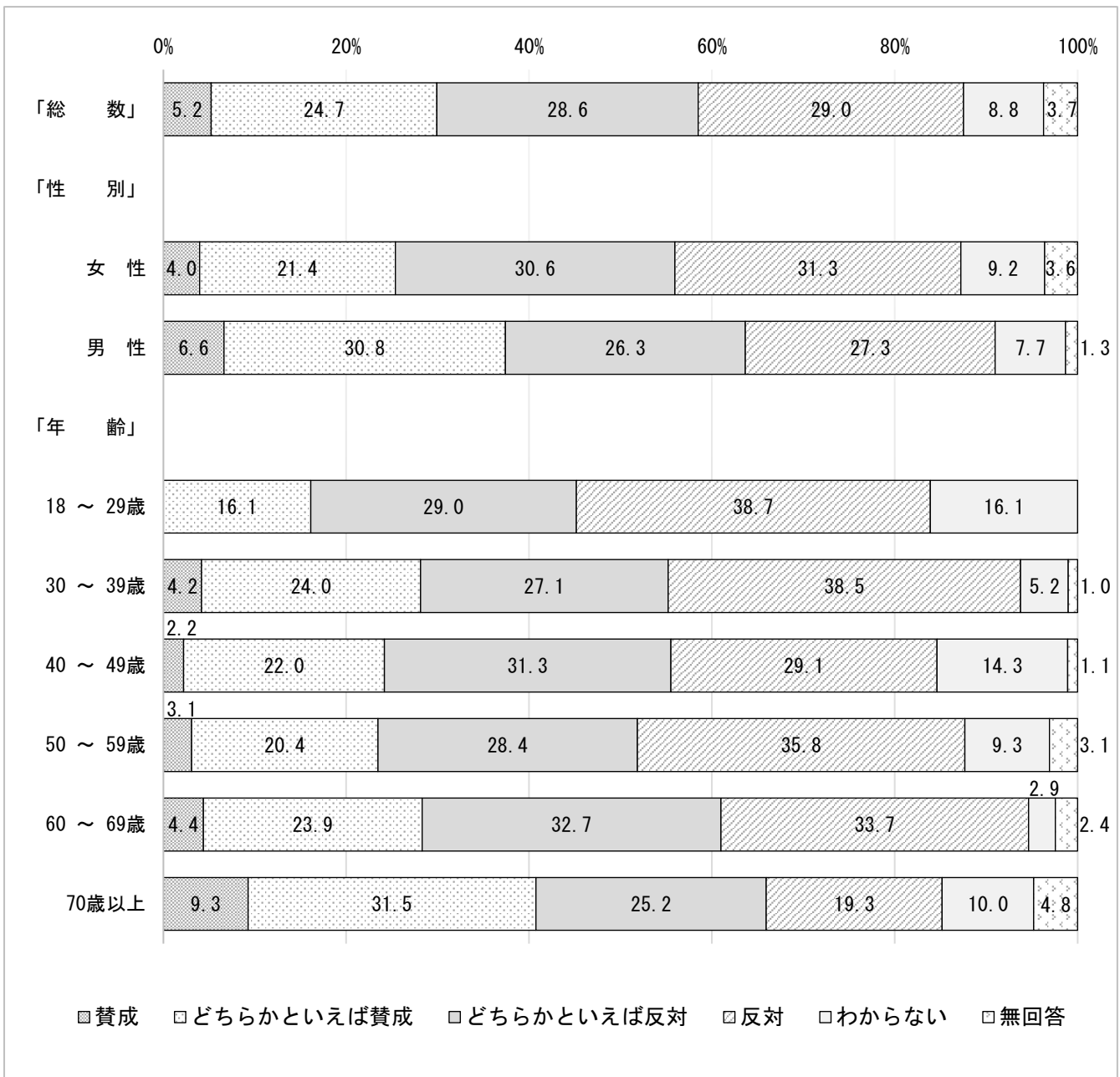


F 8 家族形態



家庭生活・子育て・介護について

問1 「男は仕事、女は家庭」といった考えがありますが、このことについて、あなたは賛成ですか、それとも反対ですか。当てはまるものを選んでください。（○は1つだけ）



【全体】

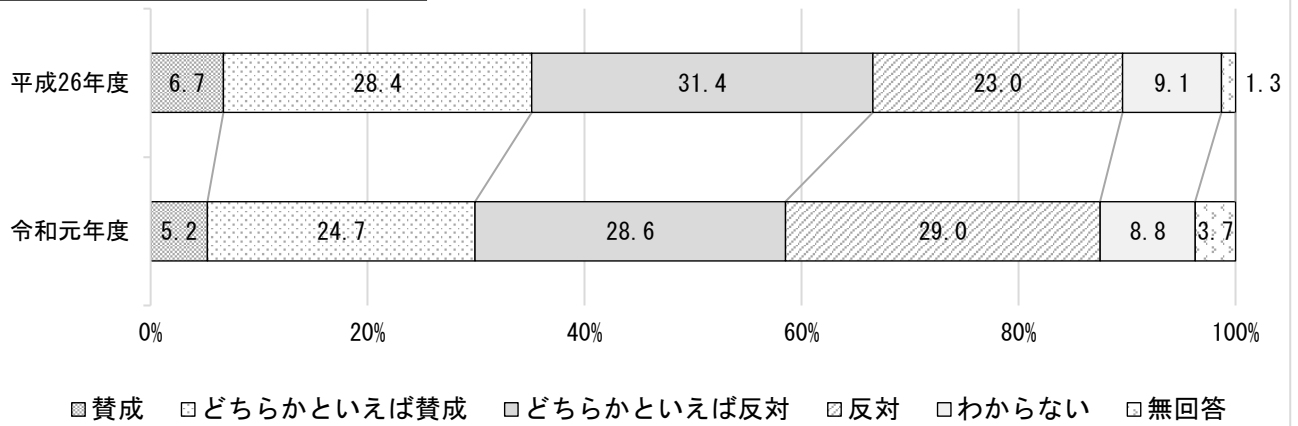
男は仕事、女は家庭といった考え方について、「賛成」とする者の割合が29.9%（「賛成」5.2%+「どちらかといえば賛成」24.7%）、「反対」とする者の割合が57.6%（「どちらかといえば反対」28.6%+「反対」29.0%）となっている。

性別に見ると、「賛成」とする者の割合は、男性の方が高くなっている。

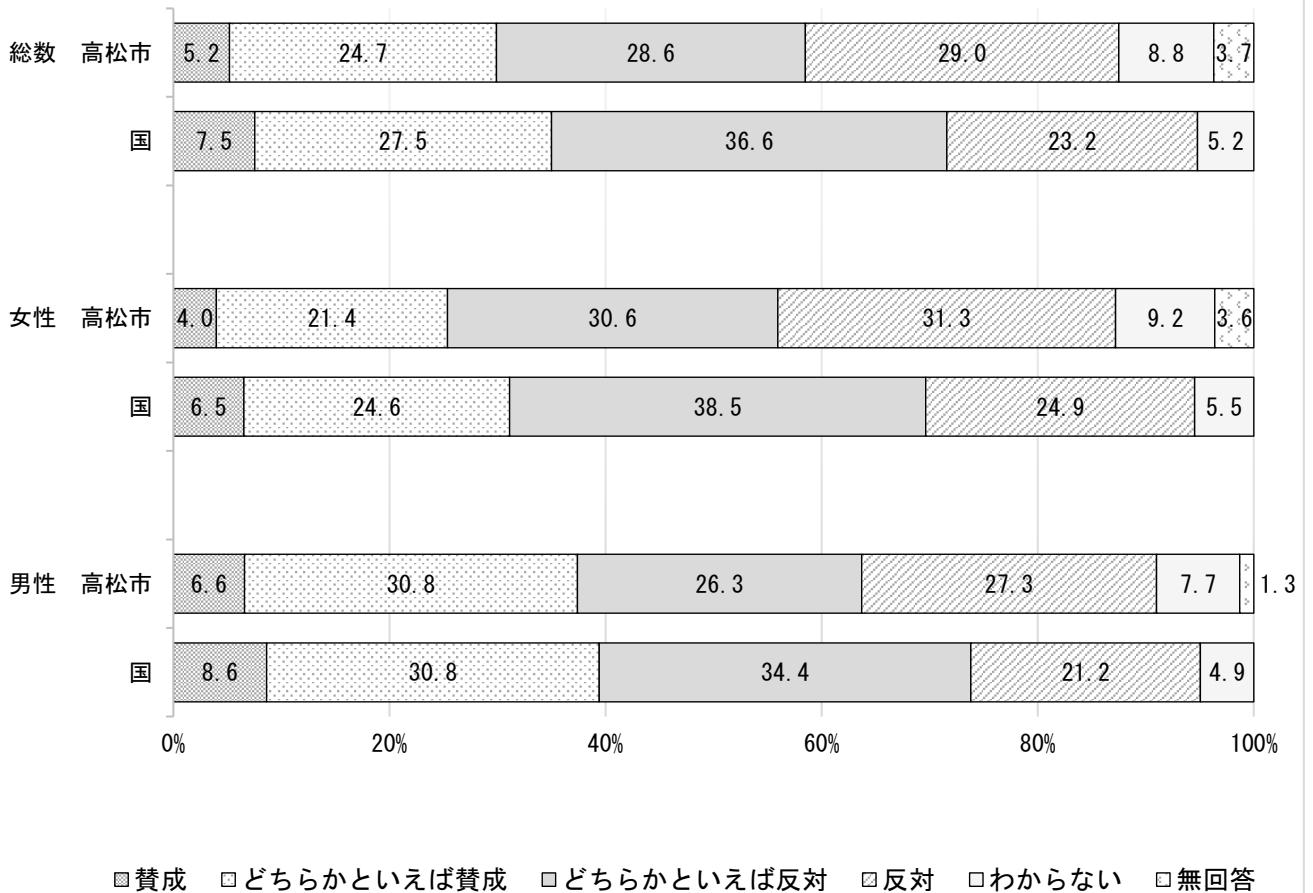
年齢別に見ると、「賛成」とする者の割合は、70歳以上で特に多くなっている。

前回の調査結果と比較してみると、「賛成」（35.1%→29.9%）とする者の割合が低下し、「反対」（54.4%→57.6%）とする者の割合が上昇しており、固定的な性別役割分担意識については、徐々に解消に向かっているとと言える。

前回調査（平成26年度）との比較

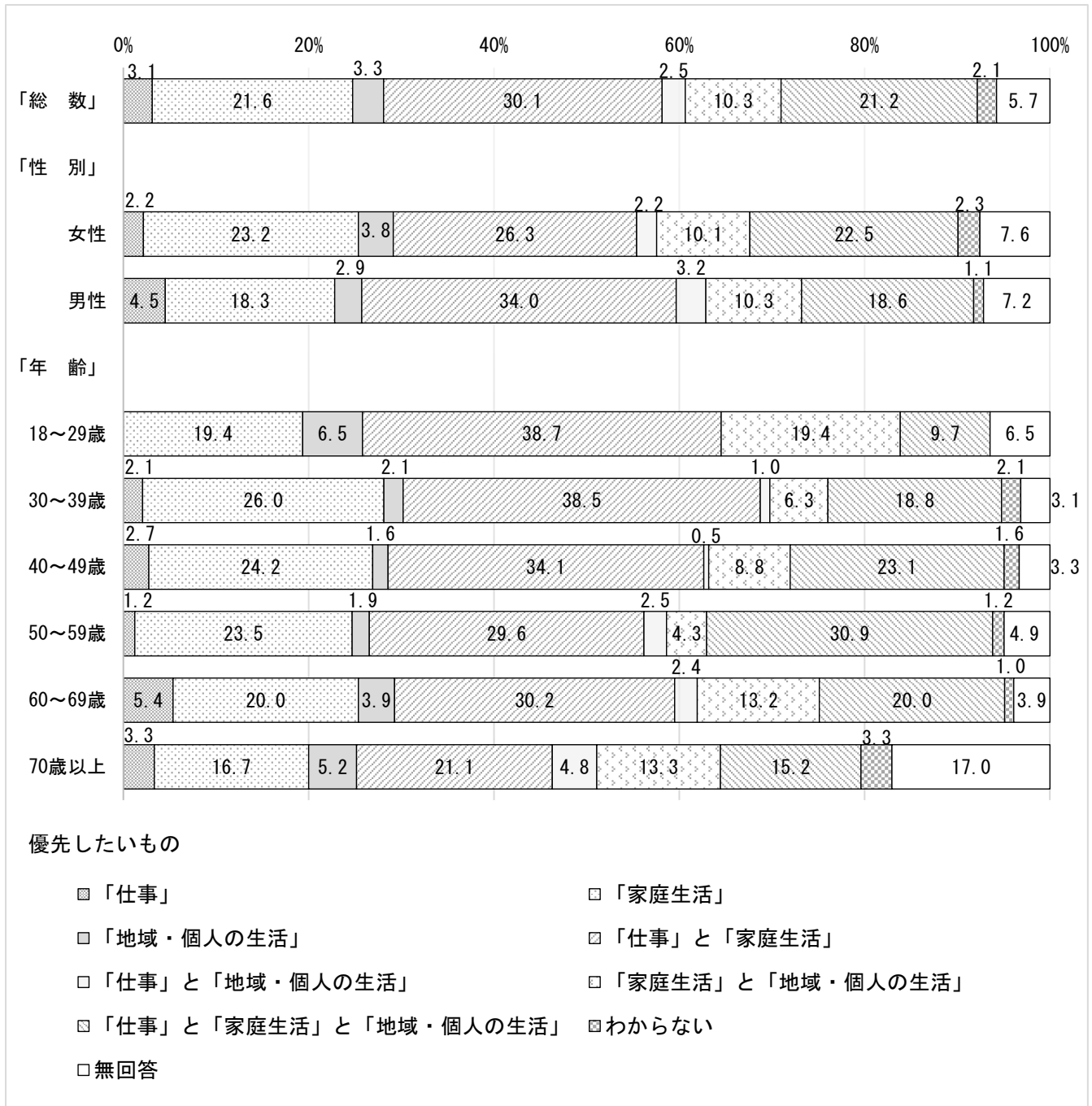


国との比較



問2 あなたの「希望に最も近いもの」と、「現実（現状）に最も近いもの」はどれですか。当てはまるものをそれぞれ1つずつ選んで番号を記入してください。

(1) あなたの希望に最も近いもの（優先したい）

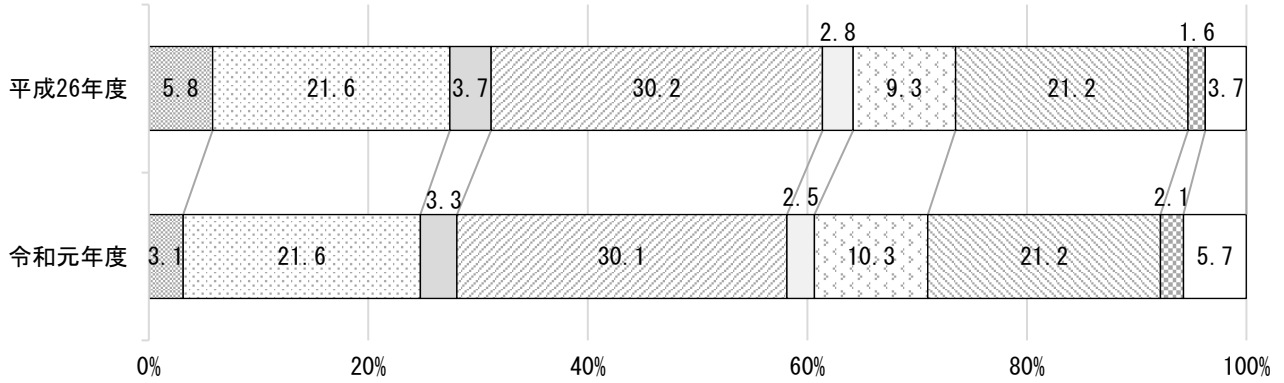


【全体】

生活の中での、「仕事」を優先したいと答えた者の割合が3.1%、「家庭生活」を優先したいと答えた者の割合が21.6%、「地域・個人の生活」を優先したいと答えた者の割合が3.3%、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したいと答えた者の割合が30.1%、「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したいと答えた者の割合が2.5%、「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したいと答えた者の割合が10.3%、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したいと答えた者の割合が21.2%となっている。

性別に見ると、女性は「家庭生活を優先」する傾向が、男性は「仕事を優先する」傾向が見られる。前回の調査結果と比較してみると、大きな変化は見られない。

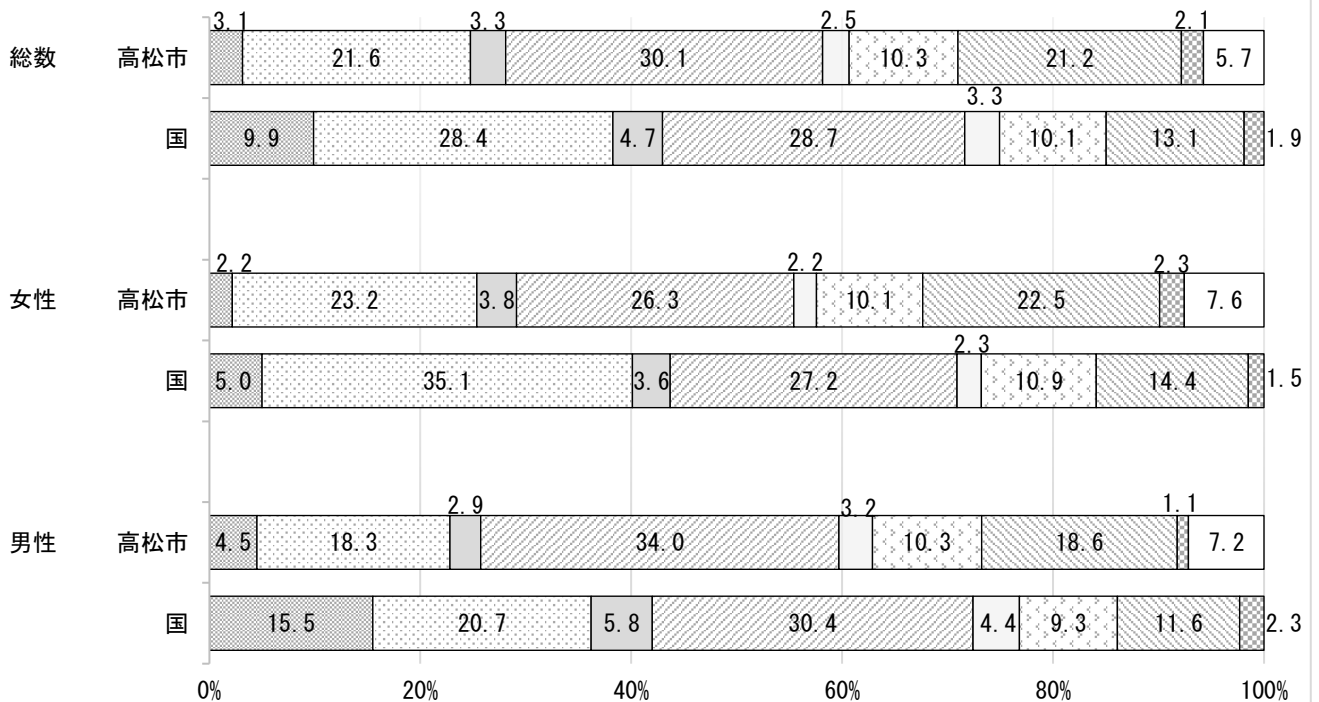
前回調査（平成26年度）との比較



優先したいもの

- 「仕事」
- 「家庭生活」
- 「地域・個人の生活」
- 「仕事」と「家庭生活」
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」
- わからない
- 無回答

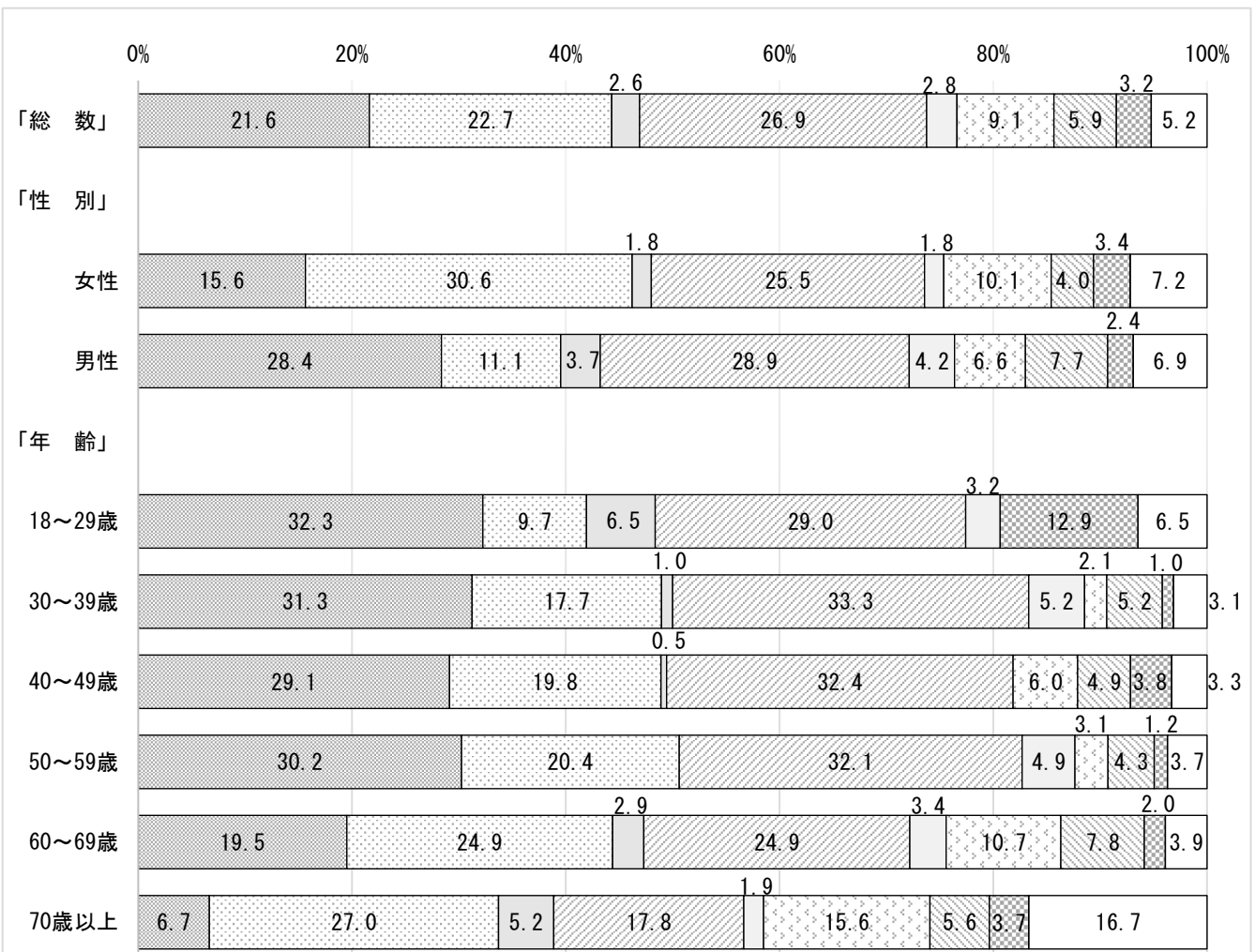
国との比較



優先したいもの

- 「仕事」
- 「家庭生活」
- 「地域・個人の生活」
- 「仕事」と「家庭生活」
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」
- わからない
- 無回答

(2) あなたの現実に最も近いもの（優先している）



優先しているもの

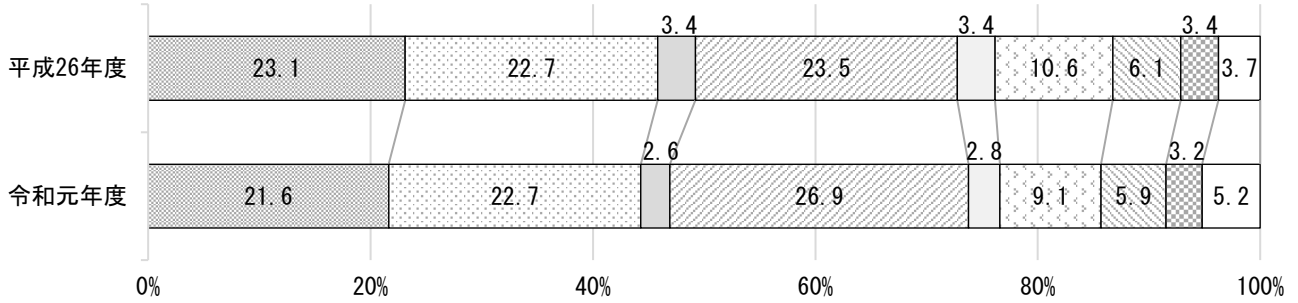
- 「仕事」
- 「家庭生活」
- 「地域・個人の生活」
- 「仕事」と「家庭生活」
- 「仕事」と「地域・個人の生活」
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」
- わからない
- 無回答

【全体】

現実（現状）に最も近いものを聞いたところ、「仕事」を優先している」と答えた者の割合が21.6%、「家庭生活」を優先している」と答えた者の割合が22.7%、「地域・個人の生活」を優先している」と答えた者の割合が2.6%、「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」と答えた者の割合が26.9%、「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している」と答えた者の割合が2.8%、「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している」と答えた者の割合が9.1%、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している」と答えた者の割合が5.9%となっている。

前回の調査結果と比較してみると、女性は、「家庭生活」を優先している（30.1%→30.6%）と答えた者の割合が高くなっている。男性は、「仕事」を優先している（34.4%→28.4%）とする者の割合が低下し、「仕事」と「家庭」をともに優先している（23.2%→28.9%）が高くなっている。

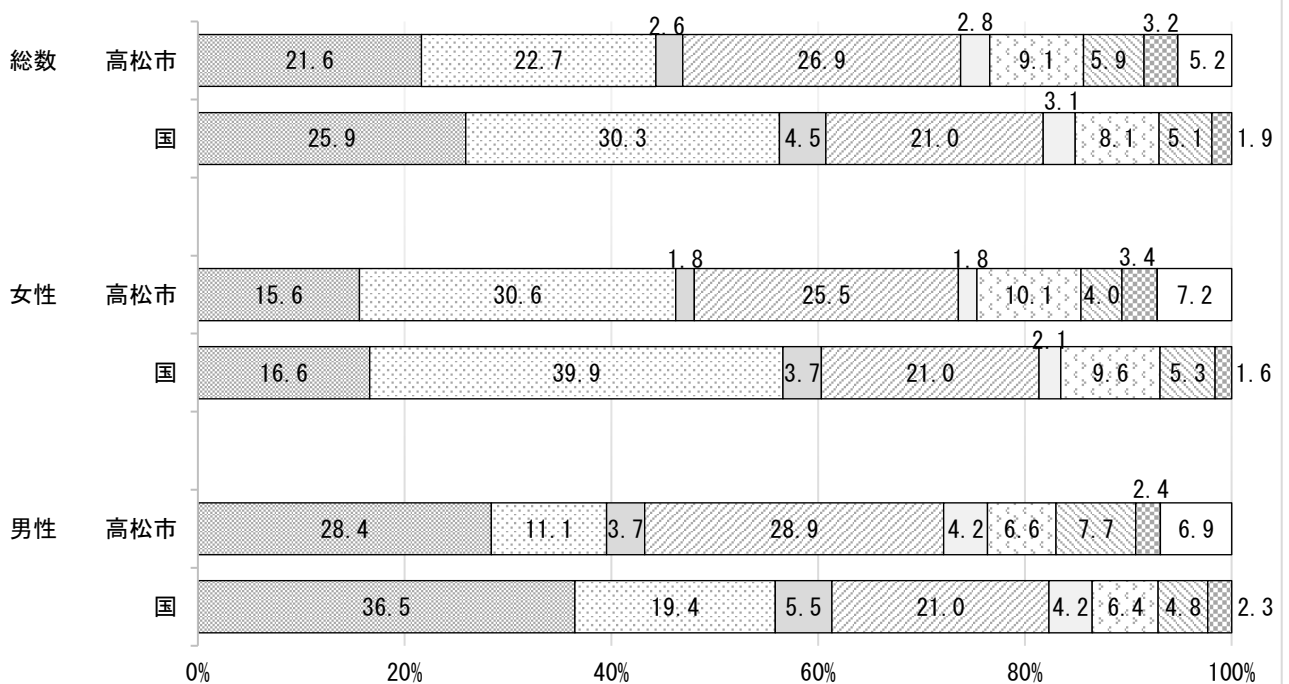
前回調査（平成26年度）との比較



優先しているもの

- 「仕事」
- 「地域・個人の生活」
- 「仕事」と「地域・個人の生活」
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」
- 無回答
- 「家庭生活」
- 「仕事」と「家庭生活」
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」
- わからない

国との比較

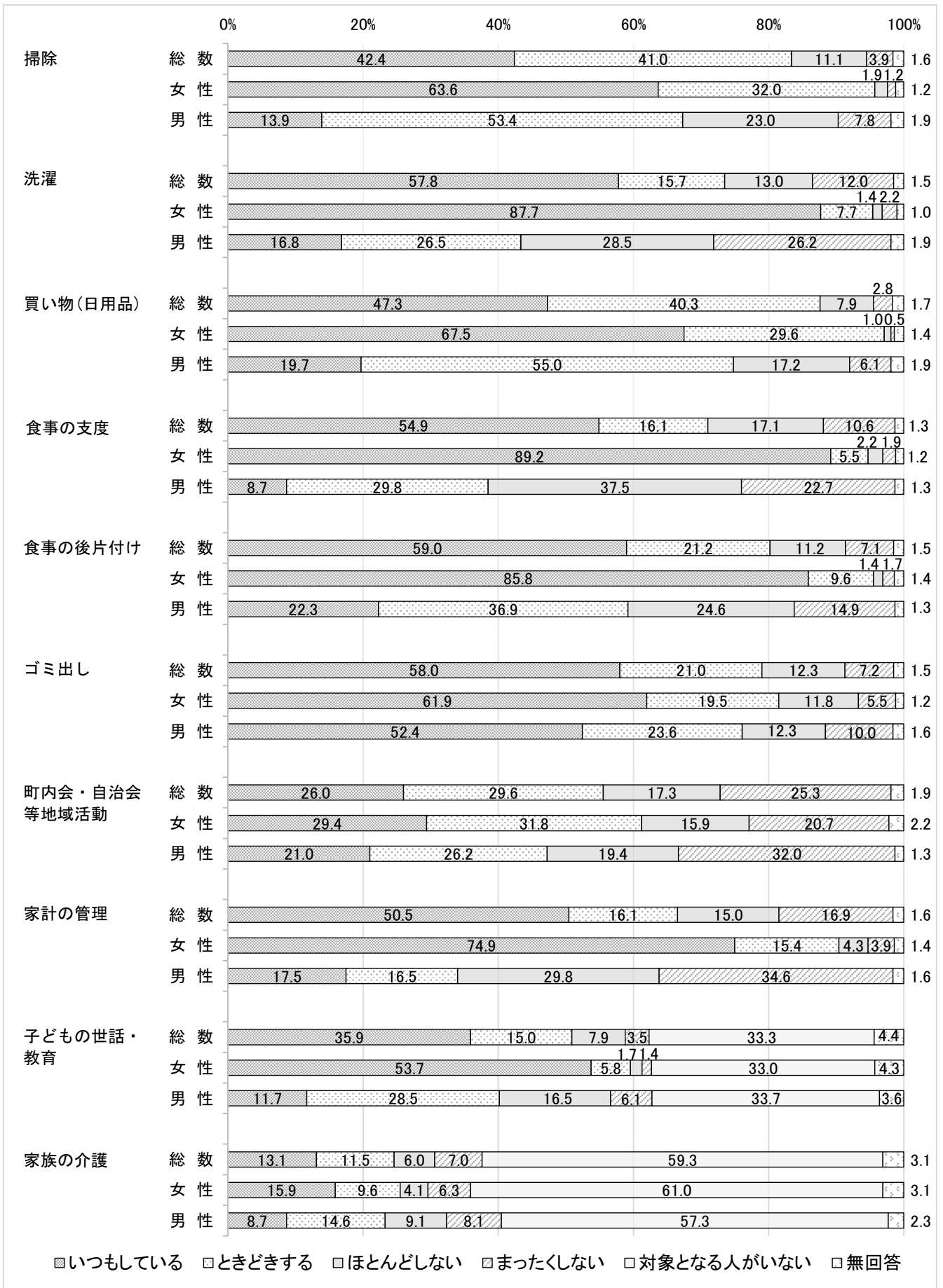


優先しているもの

- 「仕事」
- 「地域・個人の生活」
- 「仕事」と「地域・個人の生活」
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」
- 無回答
- 「家庭生活」
- 「仕事」と「家庭生活」
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」
- わからない

[ご結婚されている方（内縁を含む）のみにお聞きします。]

問3 あなたは、家庭において、次の家事等をどの程度行っていますか。当てはまる数字をそれぞれ1つずつ選んでください。



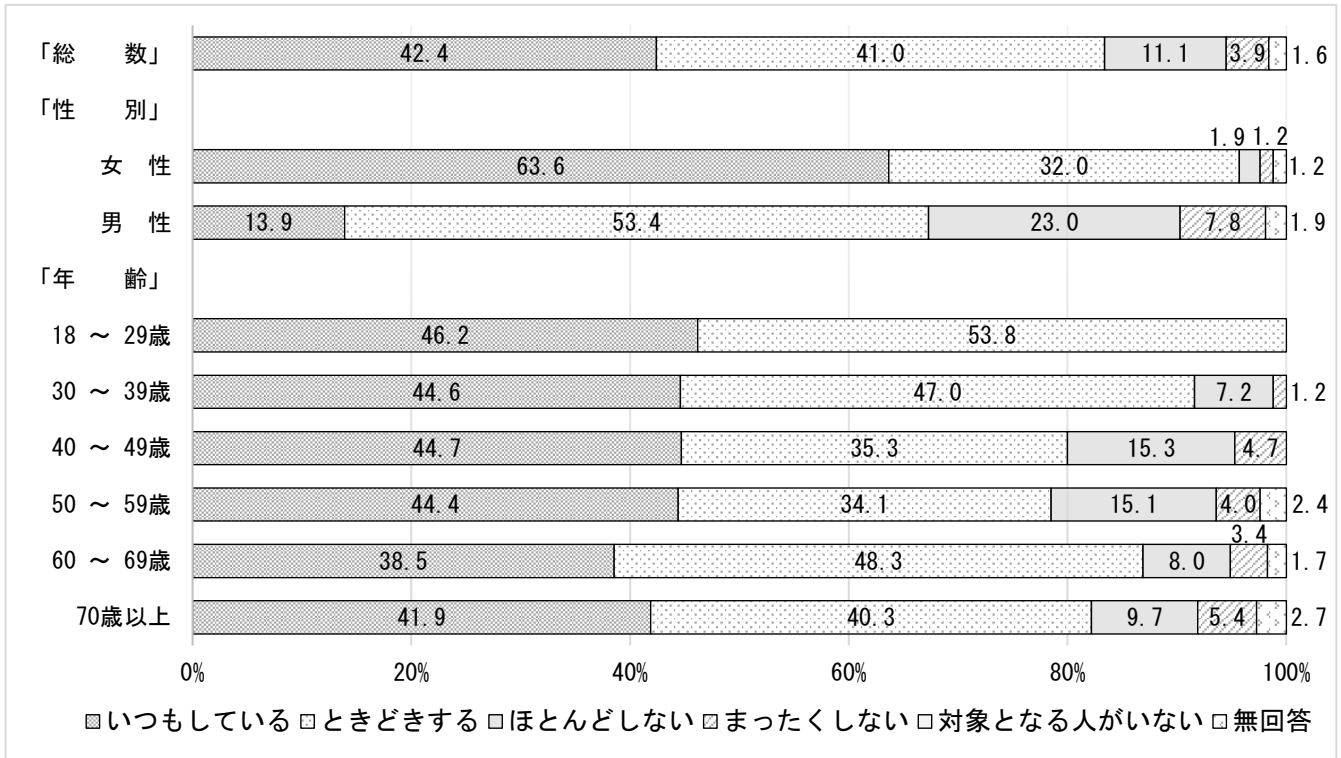
【全体】

家事等に関して、「洗濯」、「食事の支度」、「食事の後片付け」では、依然として女性の割合が80%を超えており、女性の家事等への負担割合が高いことが分かる。

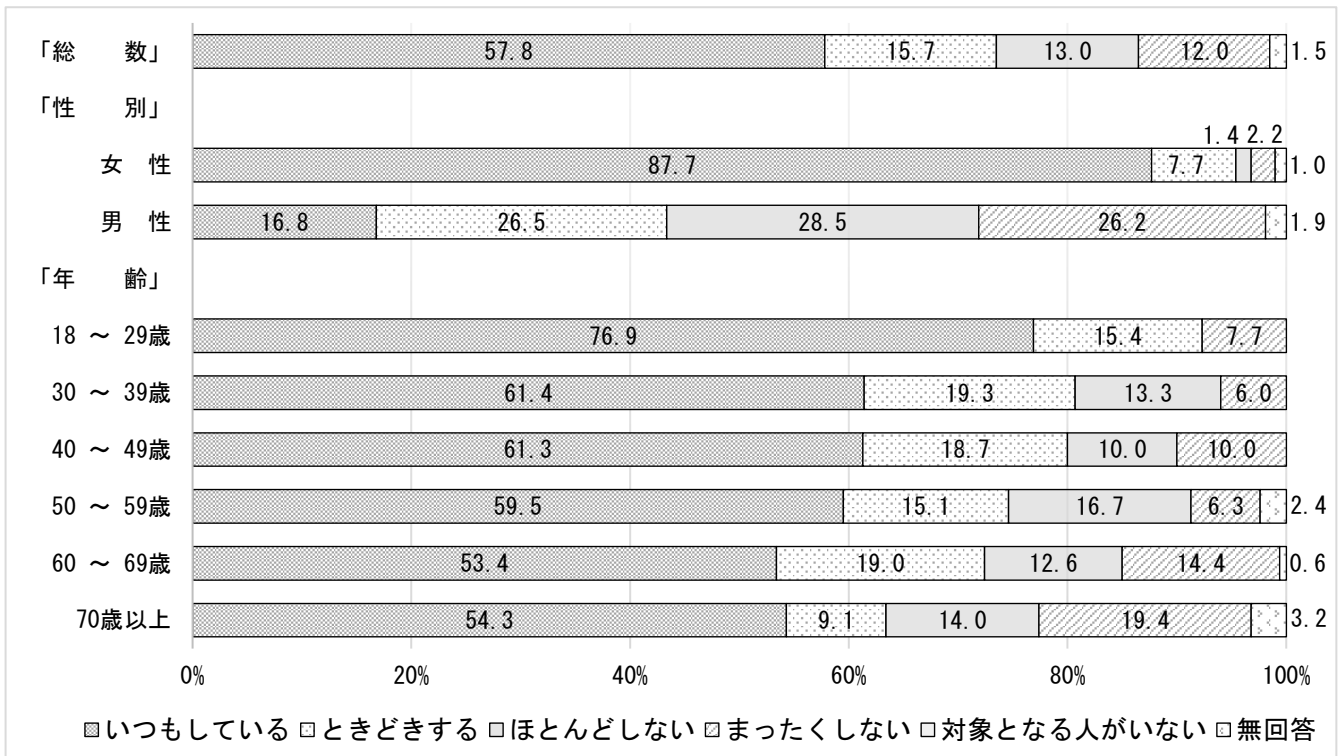
前回の調査結果と比較してみると、大きな変化は見られないが、男性では「洗濯」と「ゴミ出し」をいつもしていると回答した者が、4ポイント余り増加している。

このような結果を踏まえて、固定的性別役割分担意識にとらわれることなく、男性の家事等への参加を促すような取組をさらに推進していく必要がある。

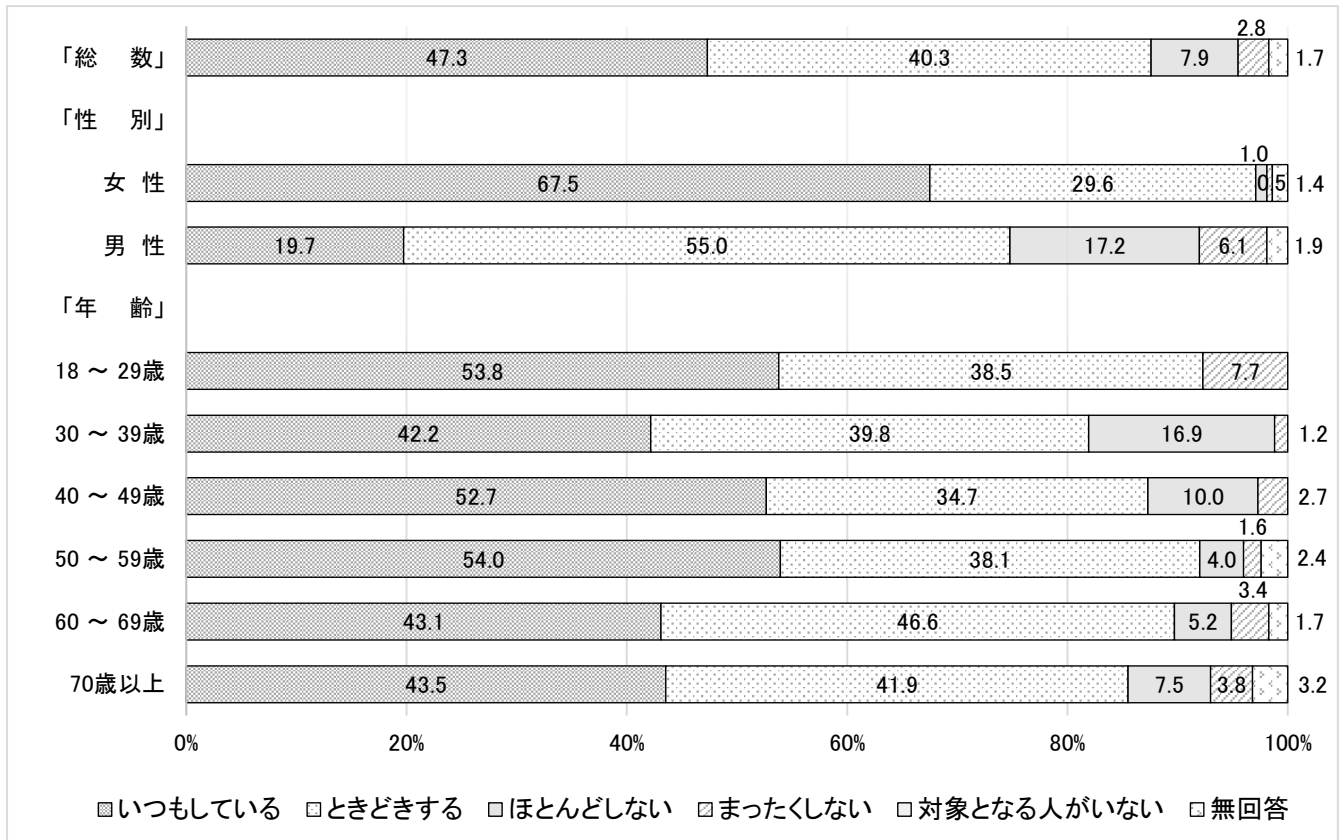
(1) 掃除



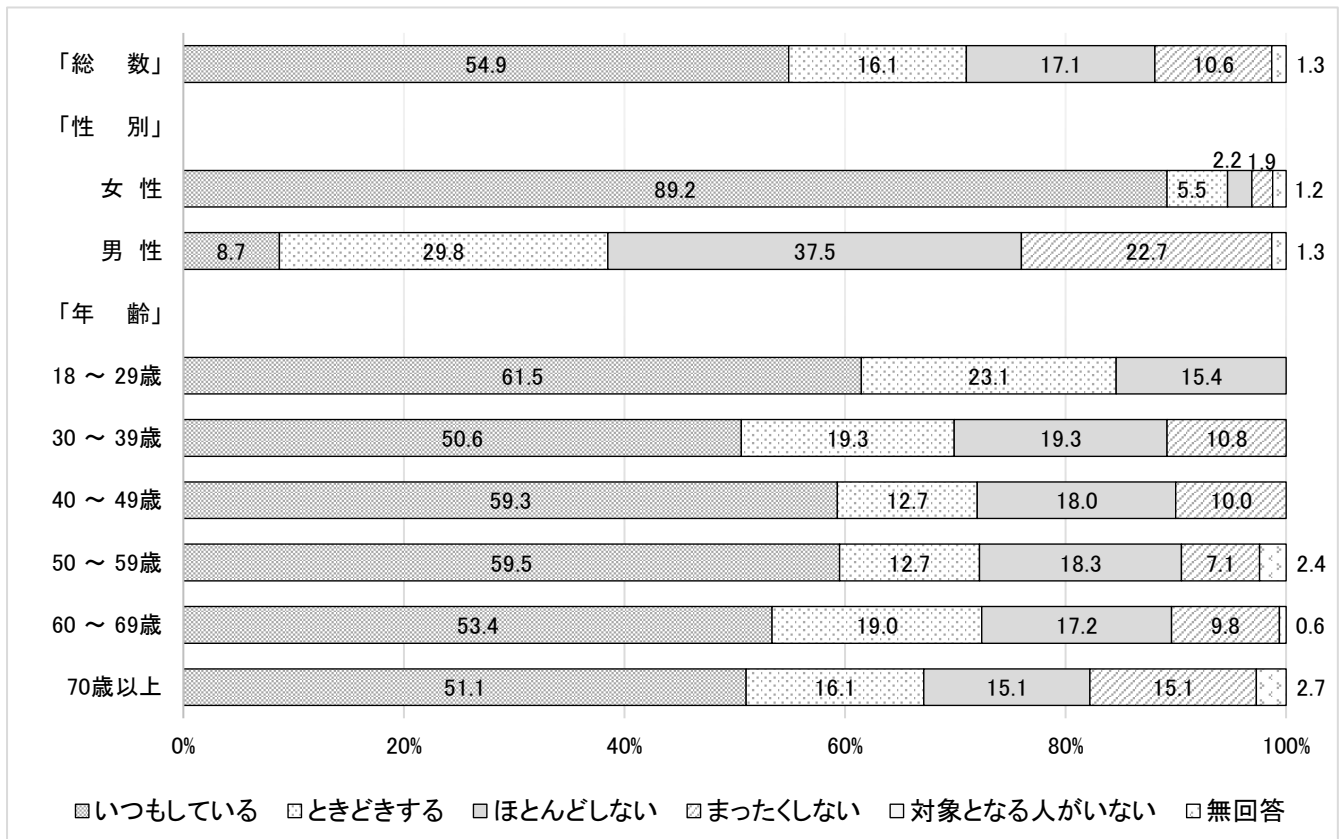
(2) 洗濯



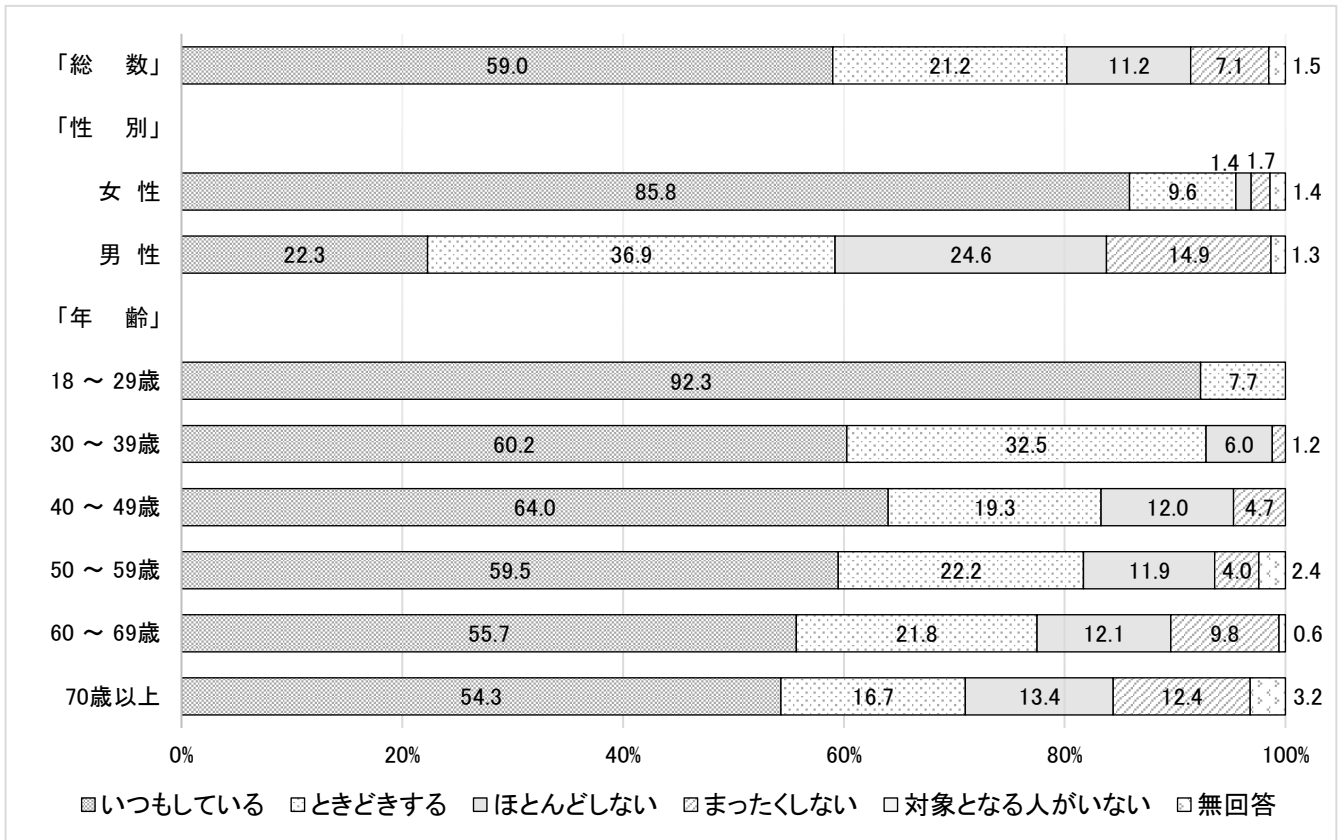
(3) 買い物（日用品）



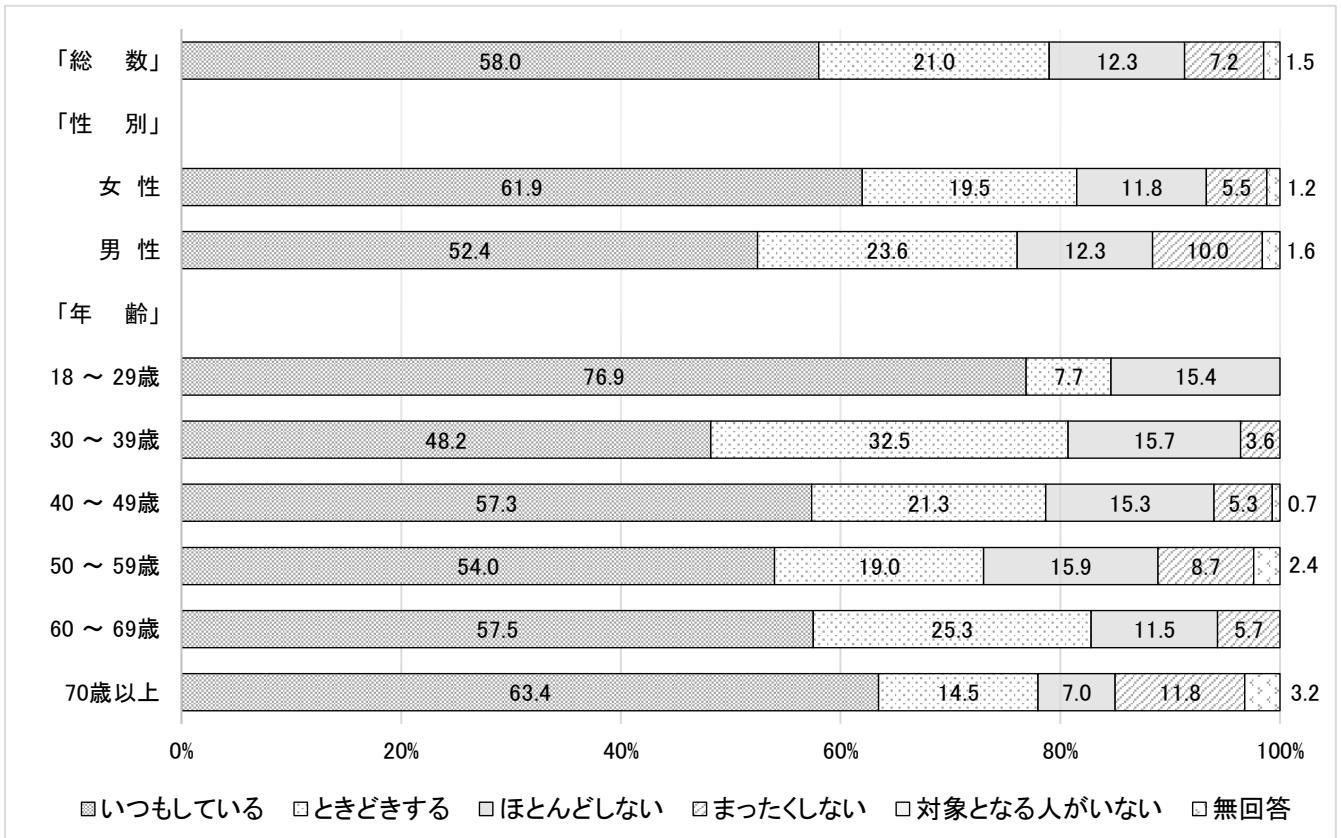
(4) 食事の支度



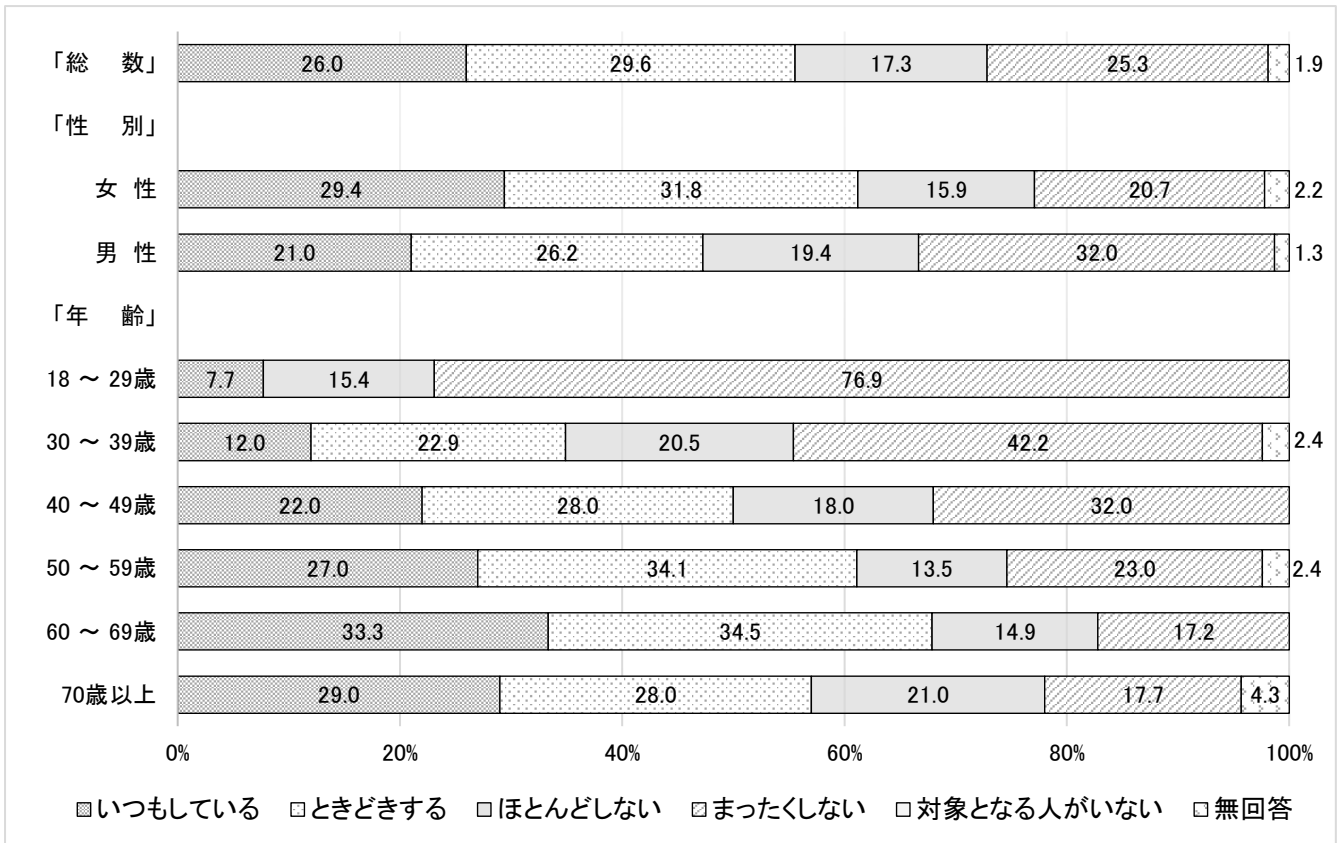
(5) 食事の後片付け



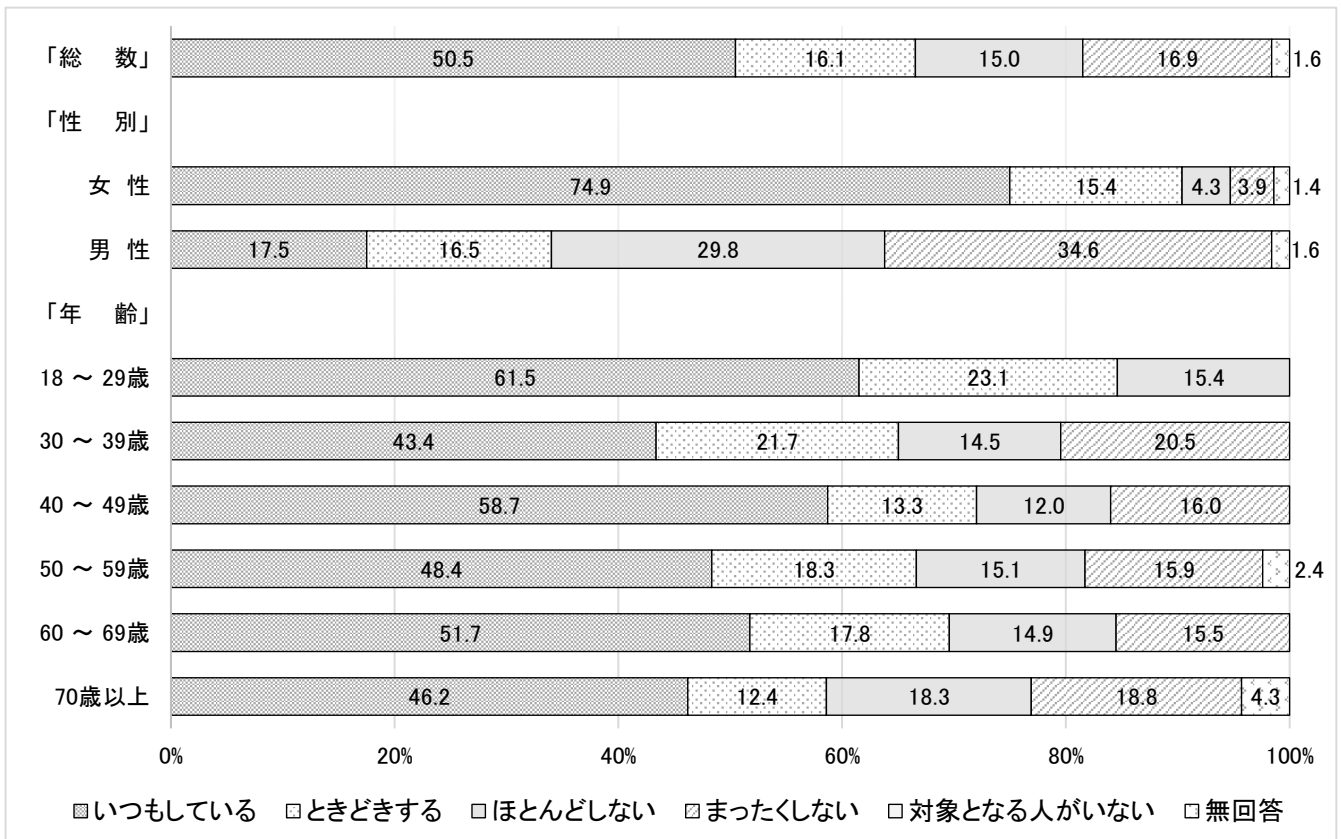
(6) ゴミ出し



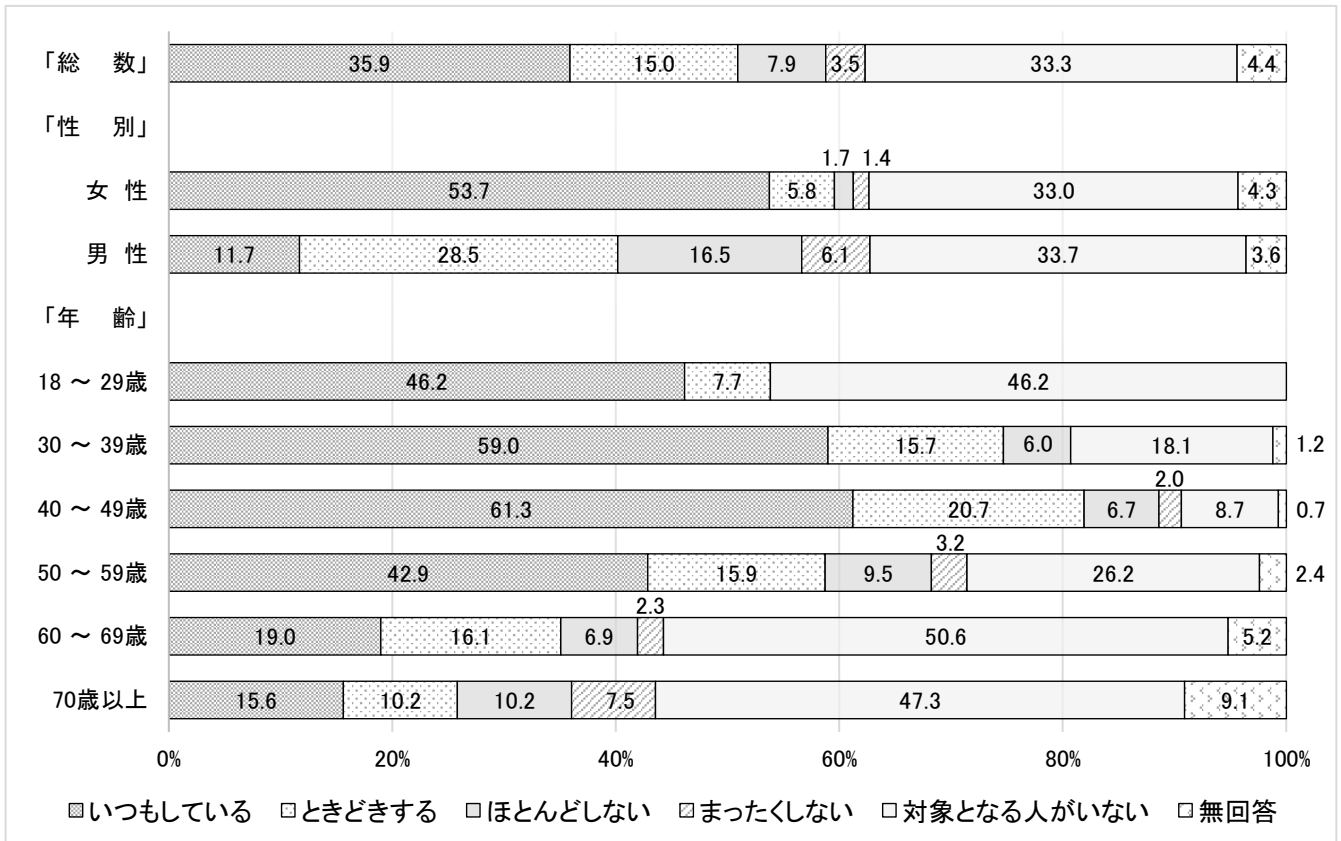
(7) 町内会・自治会等地域活動



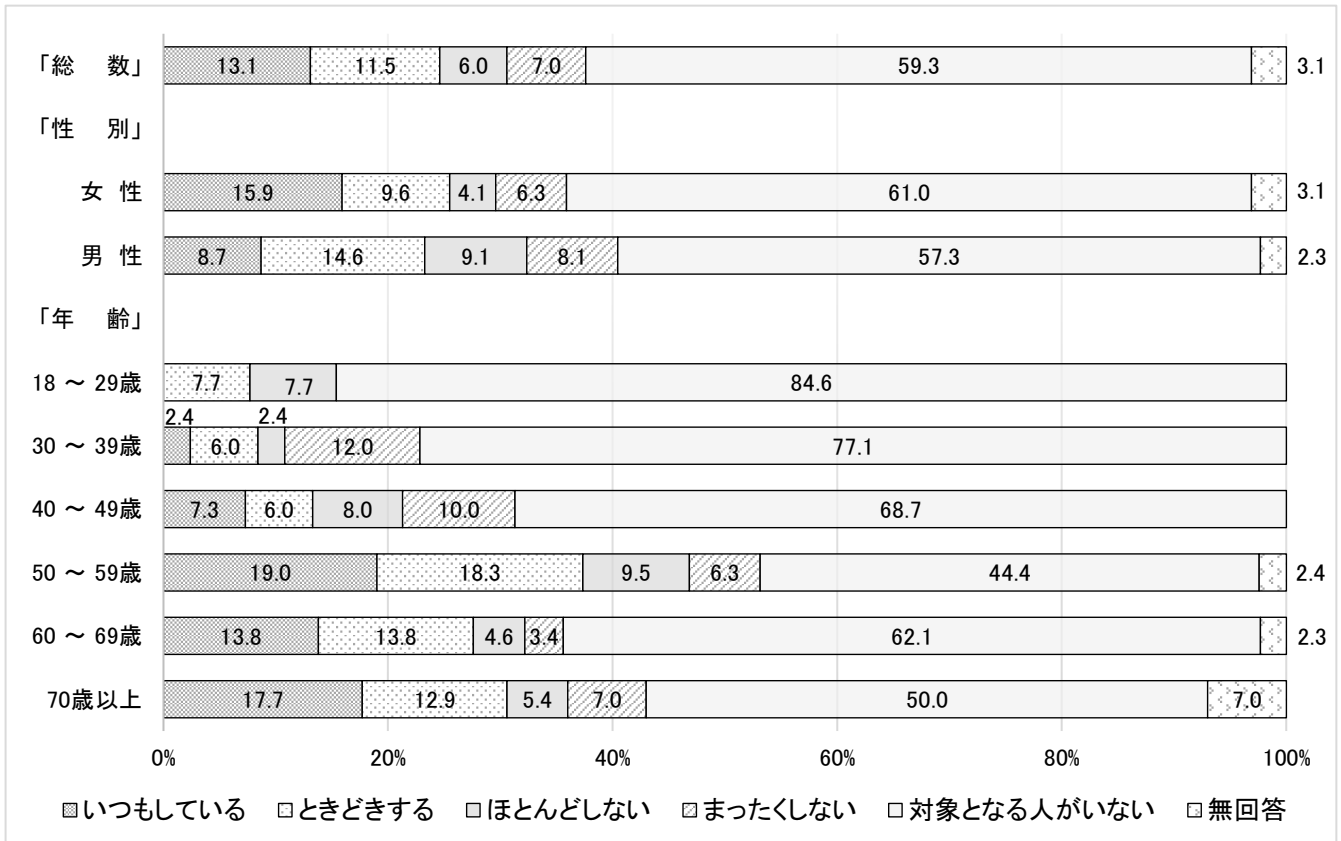
(8) 家計の管理



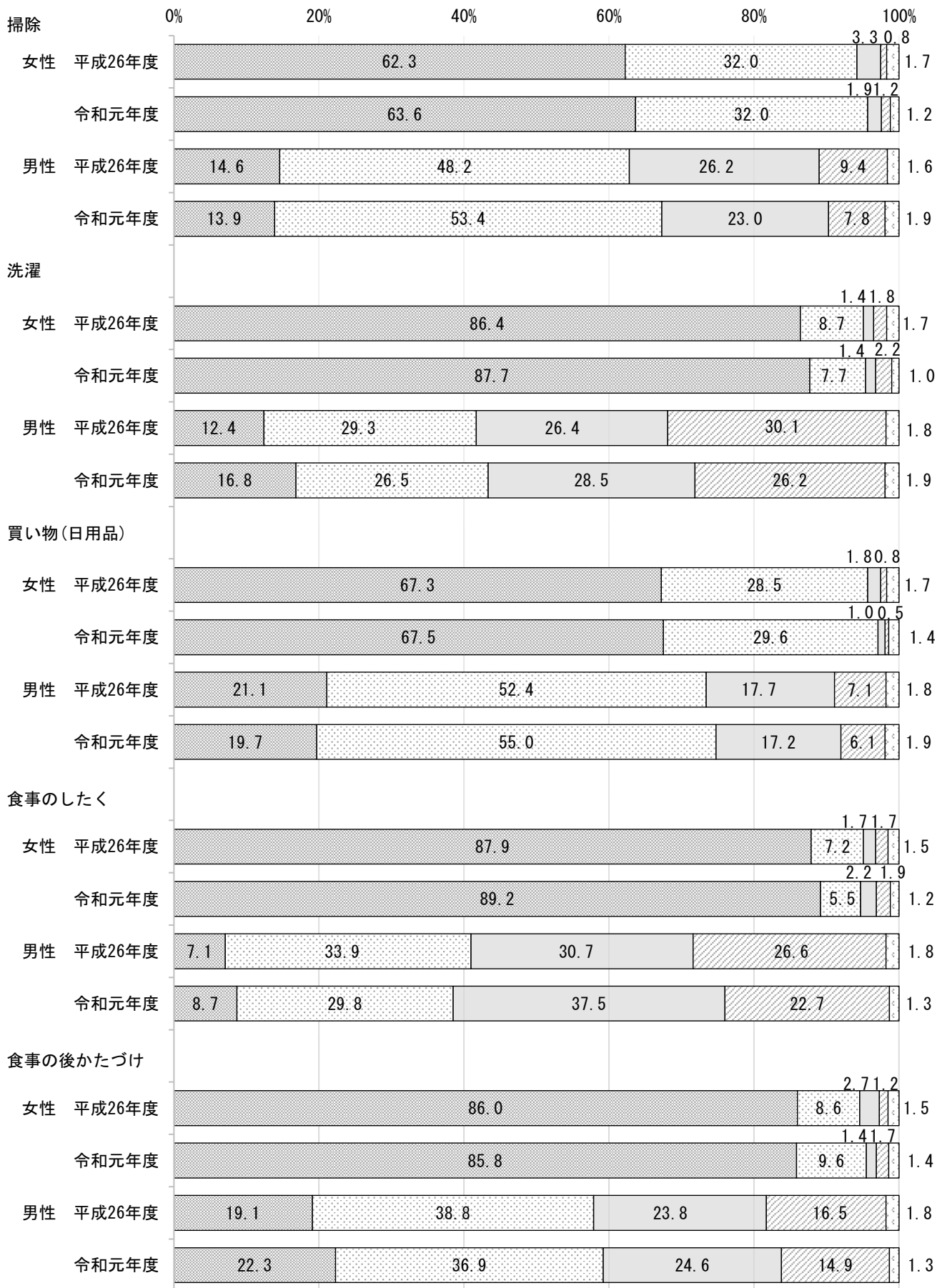
(9) 子どもの世話・教育



(10) 家族の介護

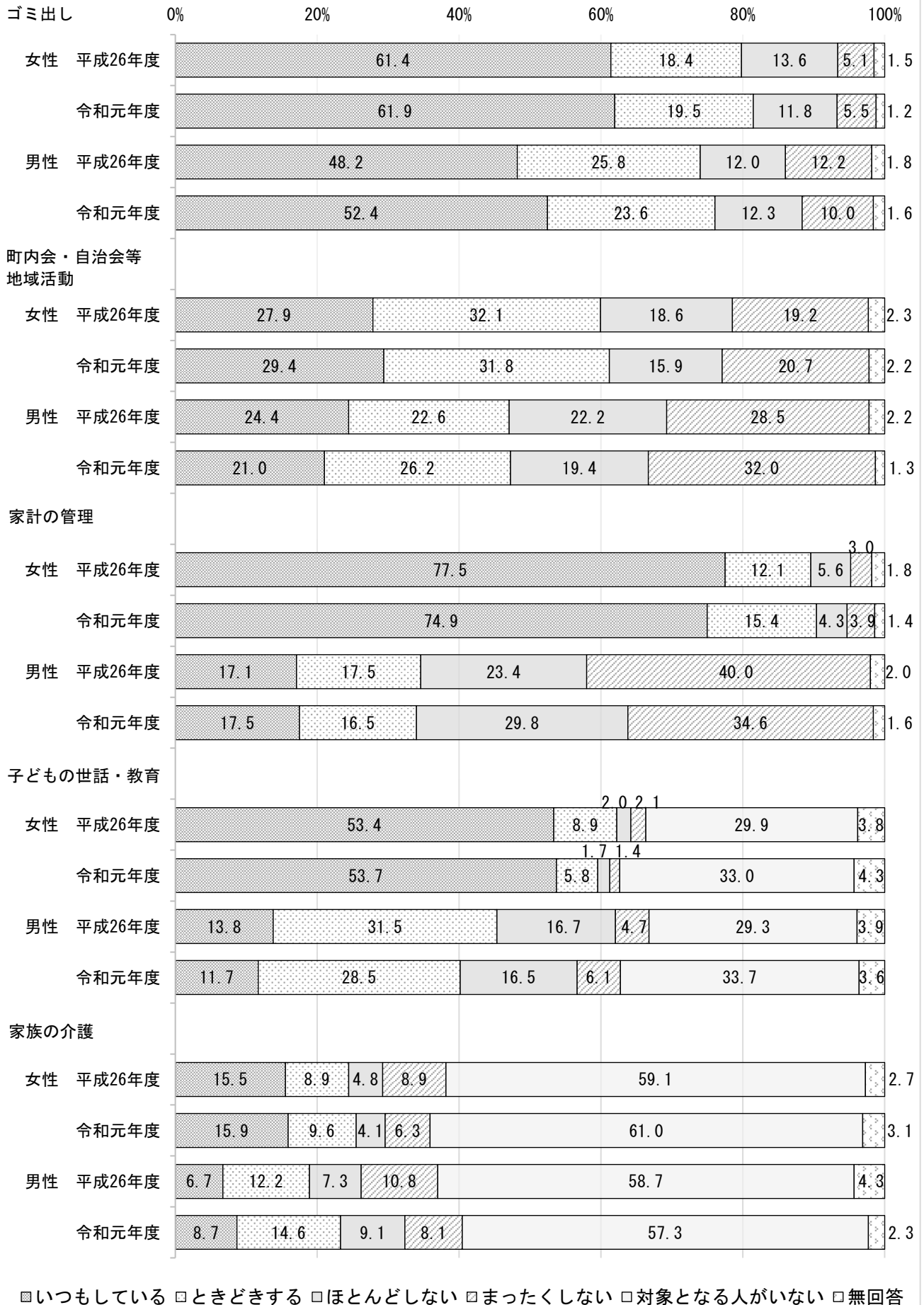


前回調査（平成26年度）との比較

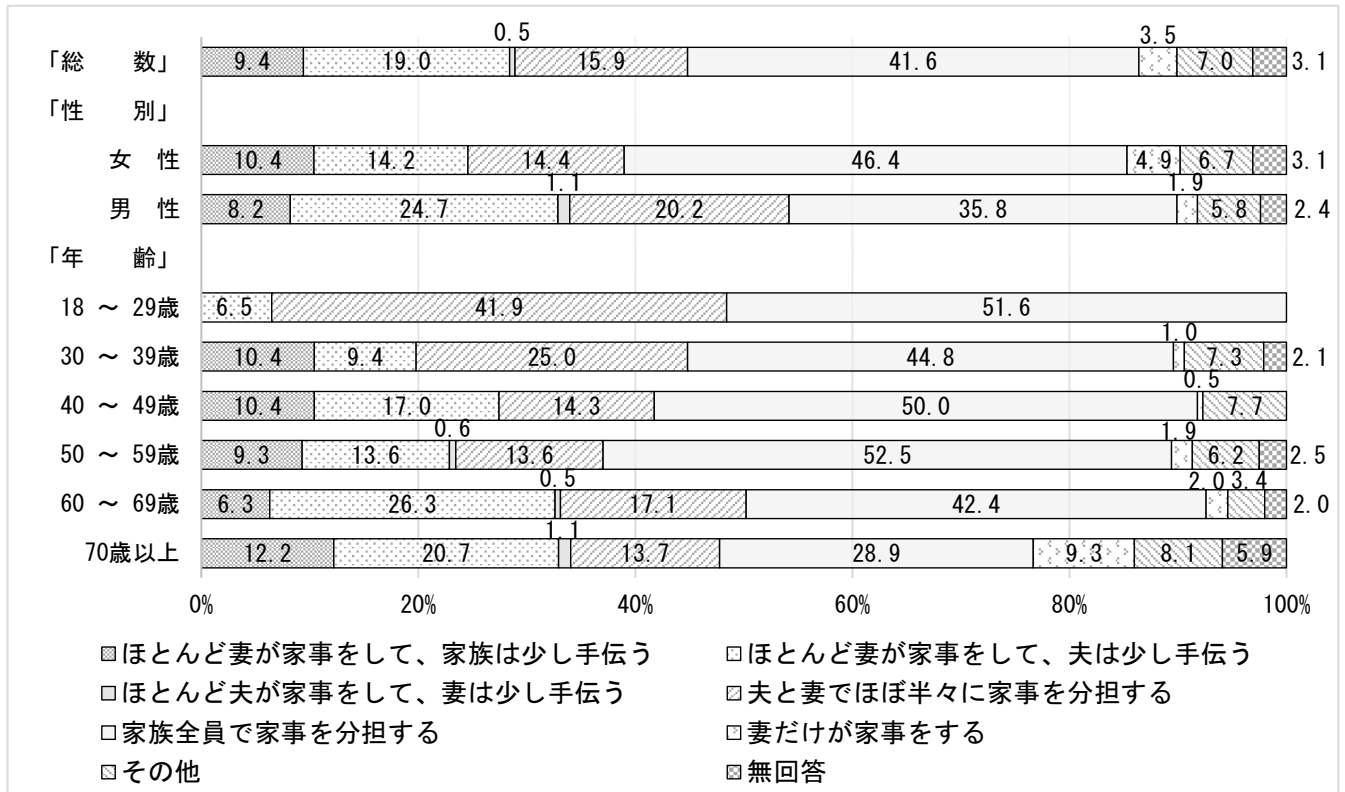


いつもしている
 ときどきする
 ほとんどしない
 まったくしない
 対象となる人がいない
 無回答

前回調査（平成26年度）との比較



問4 あなたは、家事（育児・介護を含む）について、どのように分担すべきだと思いますか。当てはまるものを選んでください。（○は1つだけ）

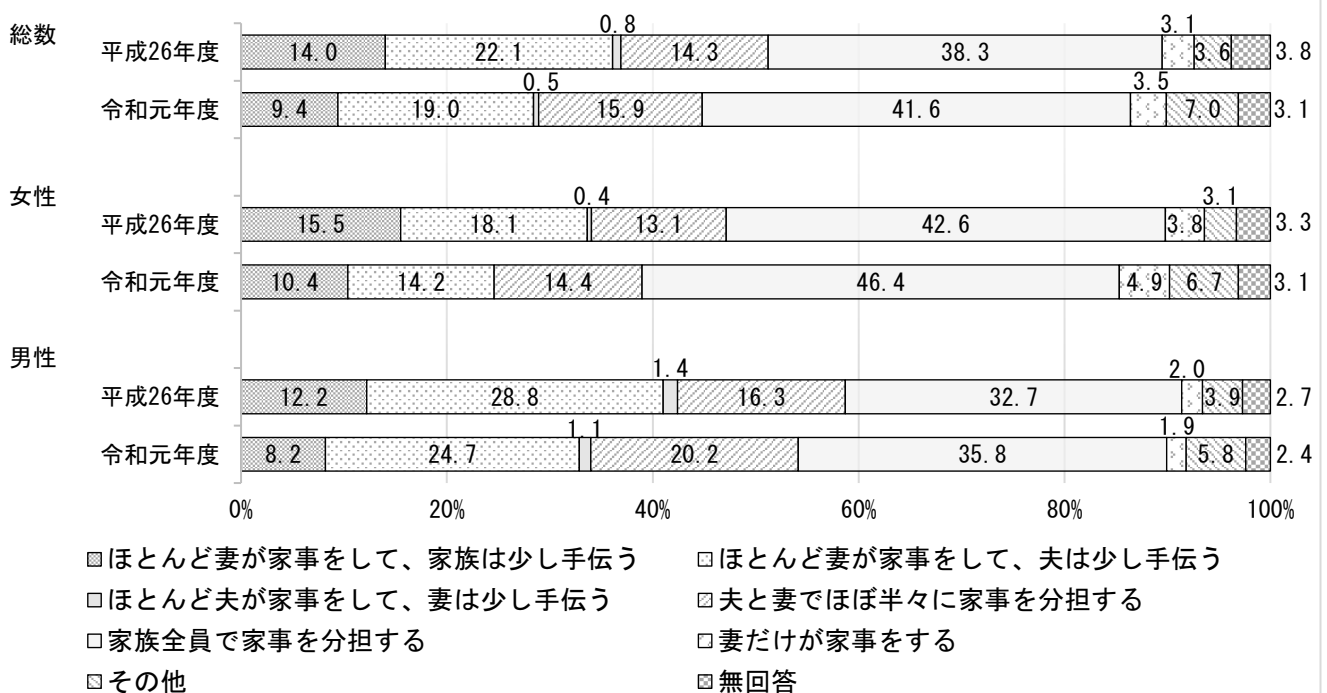


【全体】

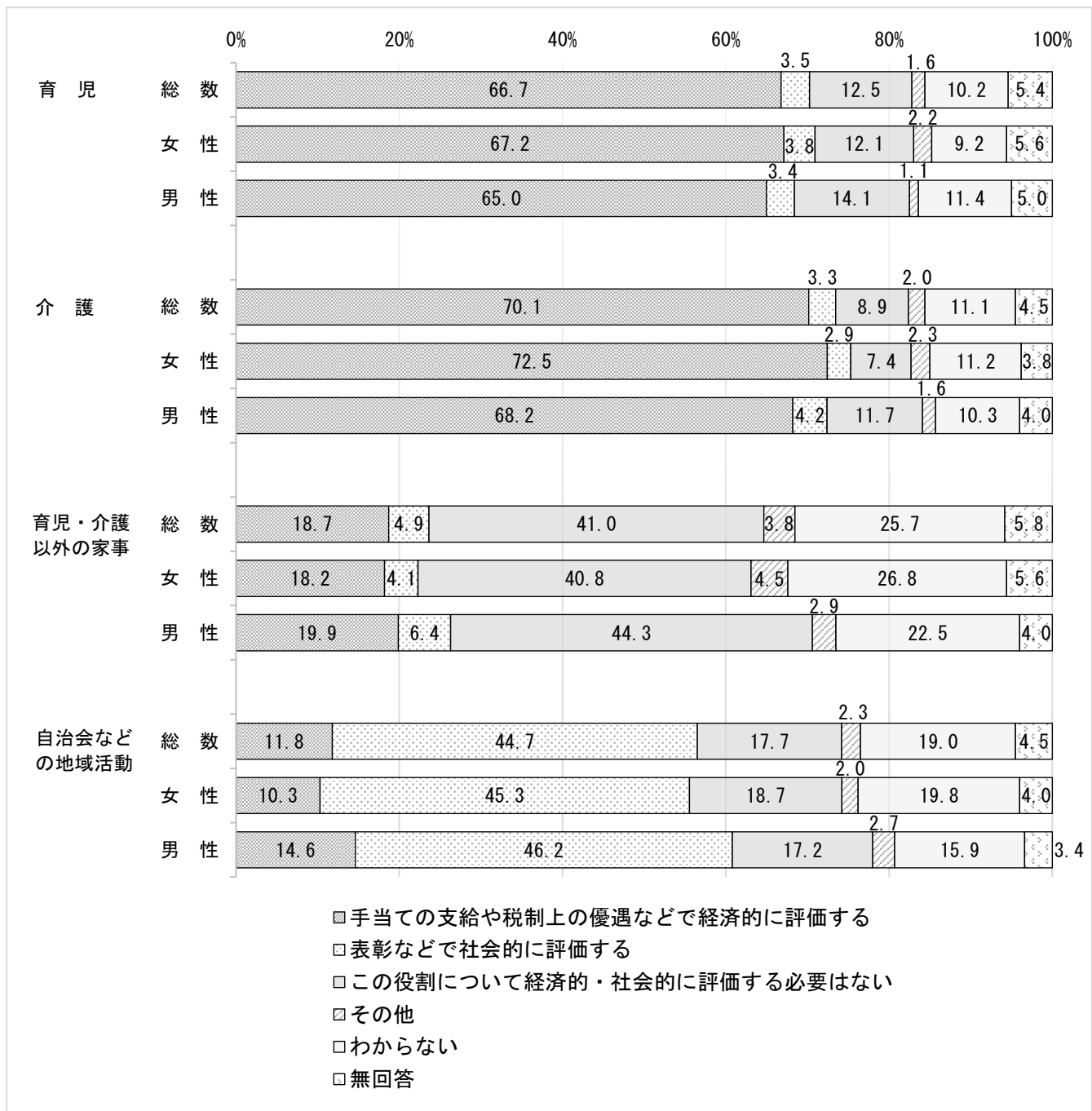
家事の分担のうち、回答が多かったのは、「家族全員で家事を分担する」（41.6%）、「ほとんど妻が家事をして夫は少し手伝う」（19.0%）、「夫と妻でほぼ半々に家事をする」（15.9%）である。

前回調査と比較してみると、全体では大きな変化は見られないが、29歳以下では「夫と妻でほぼ半々に家事を分担する」と答えた者の割合が19ポイント（22.9%→41.9%）増加している。40歳代においては、「ほとんど妻が家事をして、家族は少し手伝う」と答えた者の割合が8.9ポイント減少している。（19.3%→10.4%）

前回調査（平成26年度）との比較



問5 「育児、介護などの家庭で担われている役割は社会的にも重要であるため、社会全体で評価して
いこう」という考え方がありますが、あなたは具体的にどのような形で評価することが必要だ
と思いますか。当てはまる数字をそれぞれ1つずつ選んでください。



【全体】

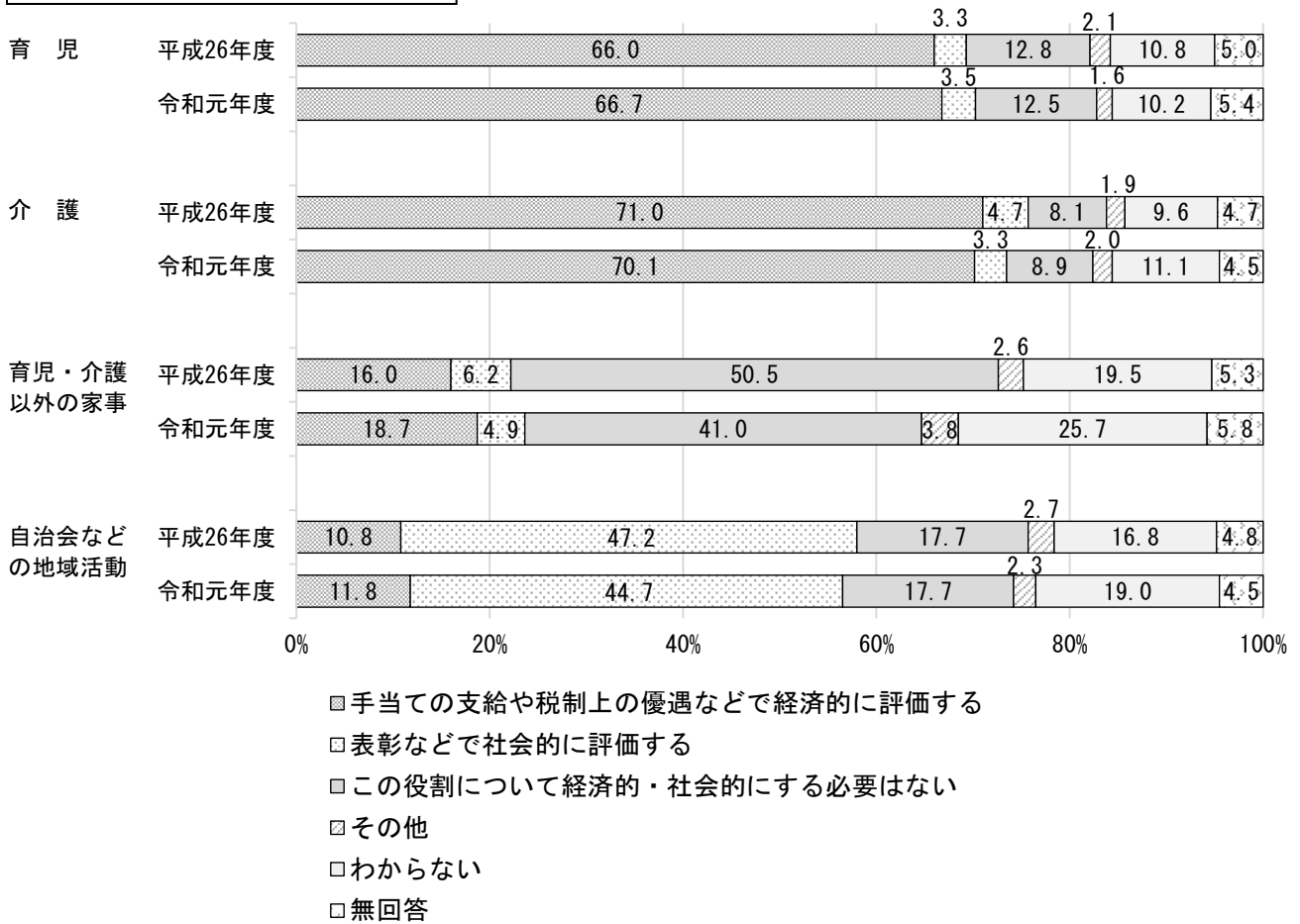
評価すべき事柄のうち、育児と介護に関して、最も回答が多かったのは、「手当での支給や税制上の優遇などで経済的に評価する」（育児66.7%）（介護70.1%）である。

また、自治会などの地域活動に関して、最も回答が多かったのは、「表彰などで社会的に評価する」（44.7%）である。

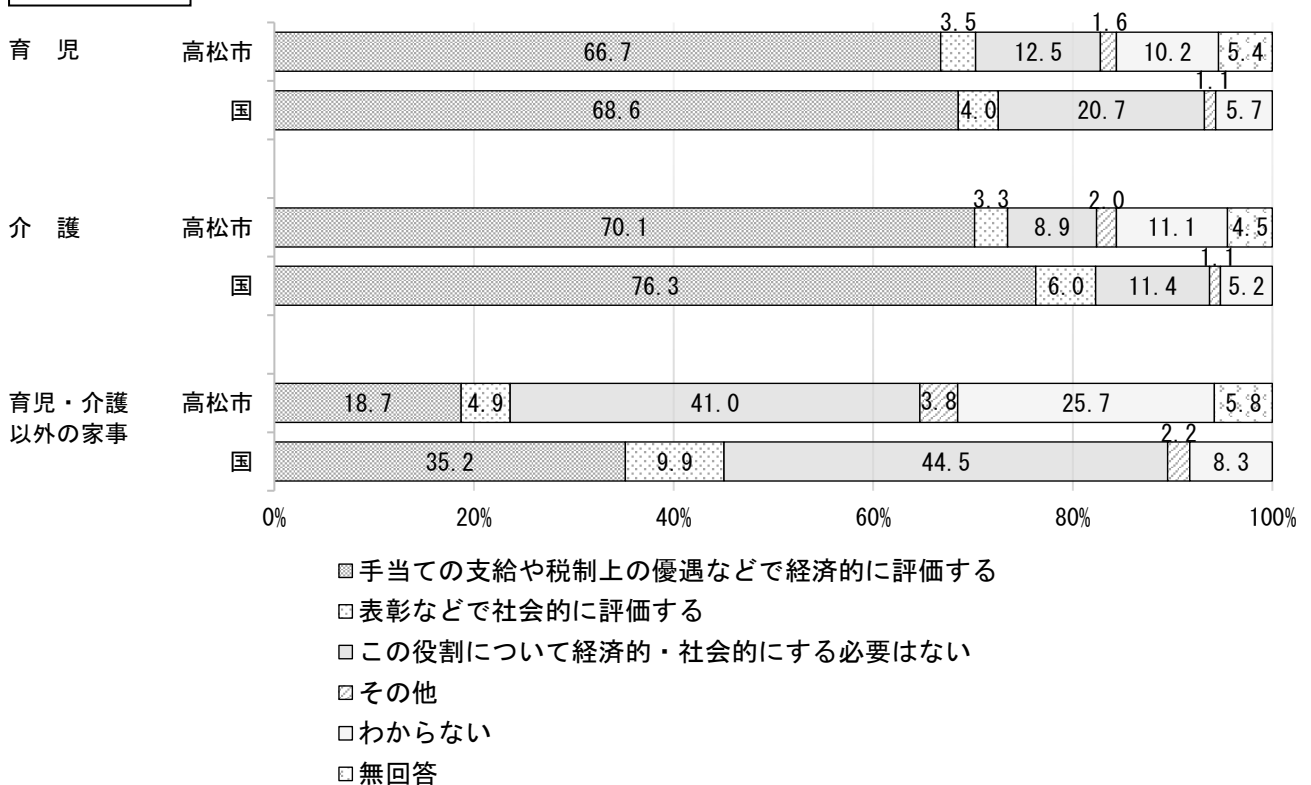
性別に見ると、「手当の支給や税制上の優遇などで経済的に評価する」と答えた者の割合は、育児、介護とも女性が高くなっている。

前回の調査結果と比較してみると、「手当の支給や税制上の優遇などで経済的に評価する」（育児66.0%→66.7%）（育児・介護以外の家事16.0%→18.7%）（自治会など地域活動10.8%→11.8%）と答えた者の割合が上昇している。

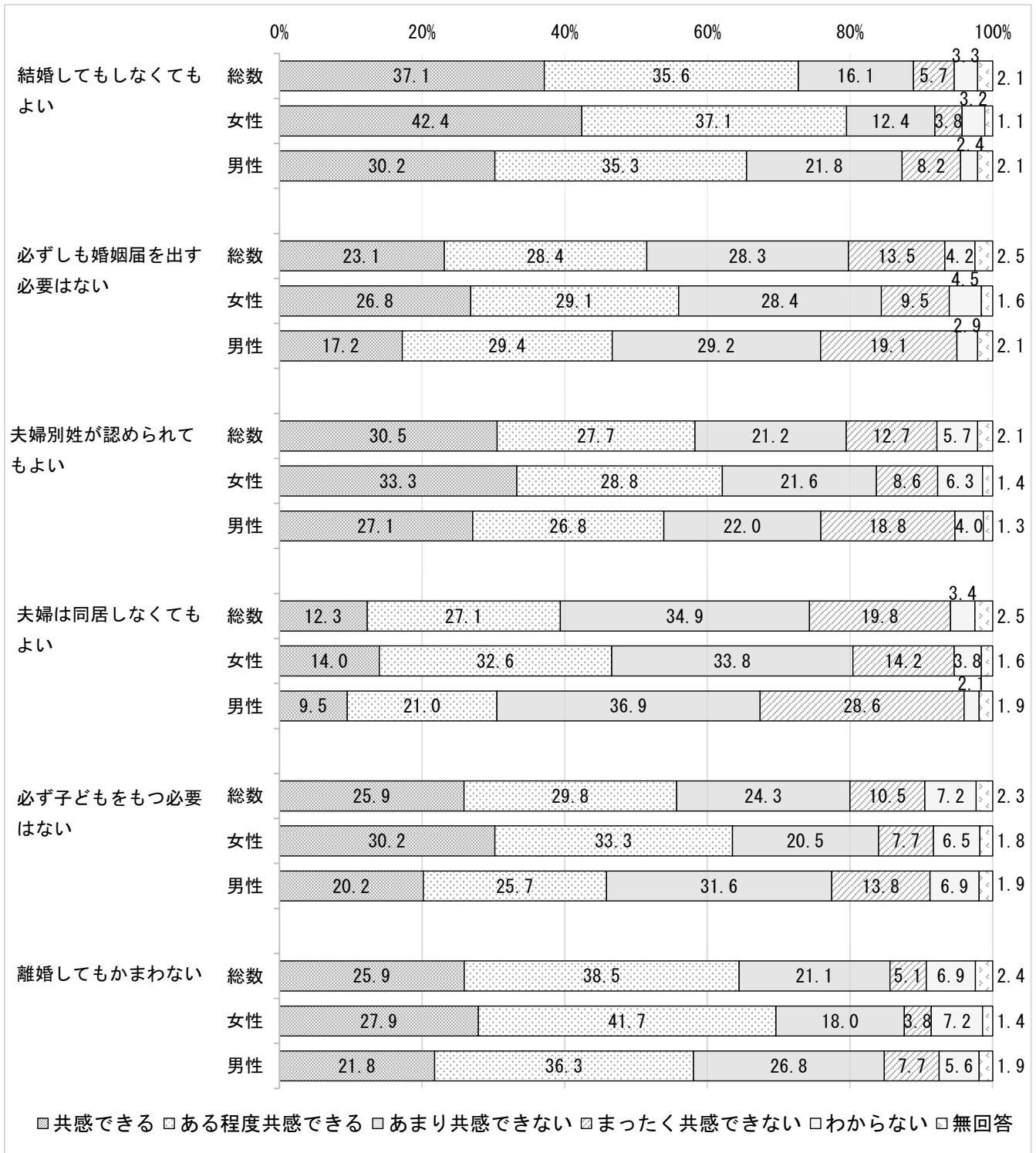
前回調査（平成26年度）との比較



国との比較



問6 あなたは、結婚について、どのように考えていますか。当てはまる数字をそれぞれ1つずつ選んでください。

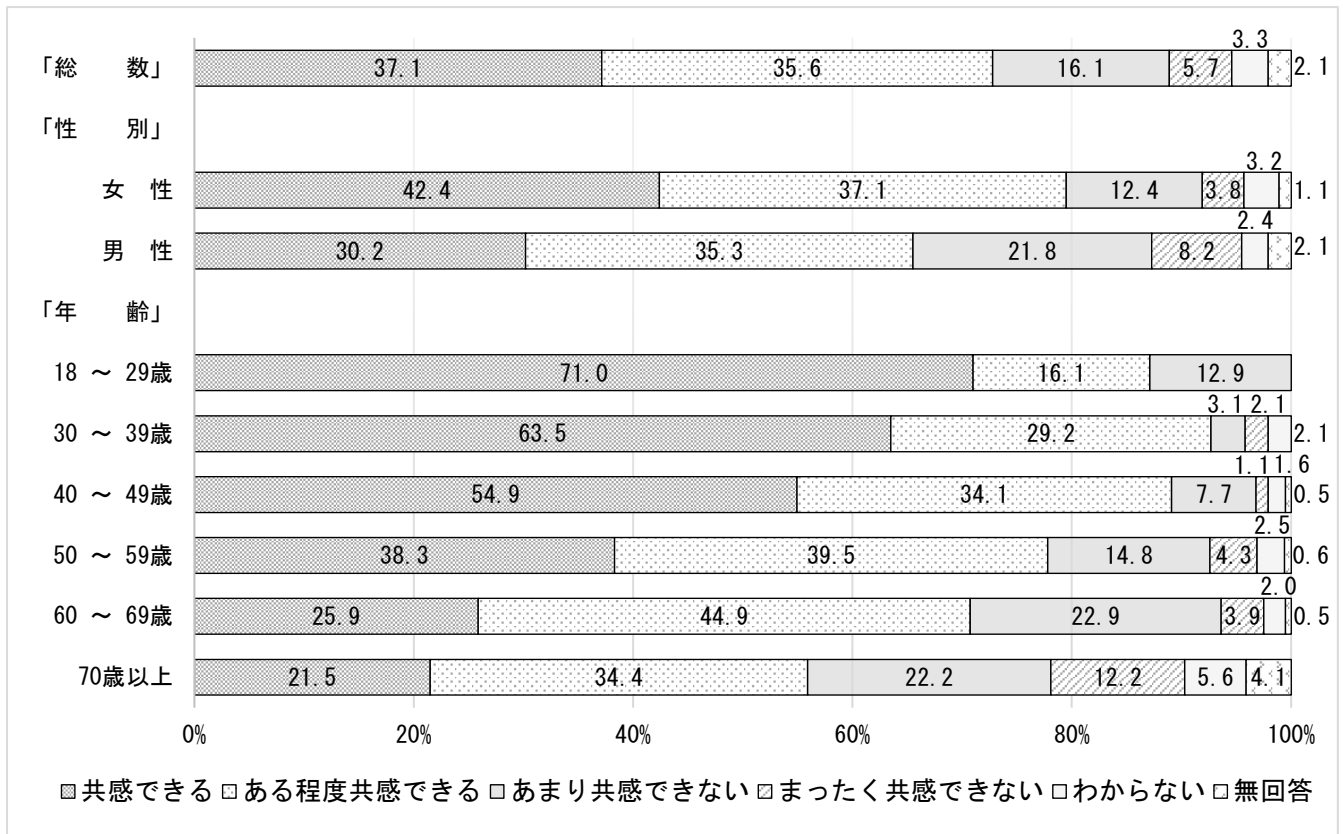


【全体】

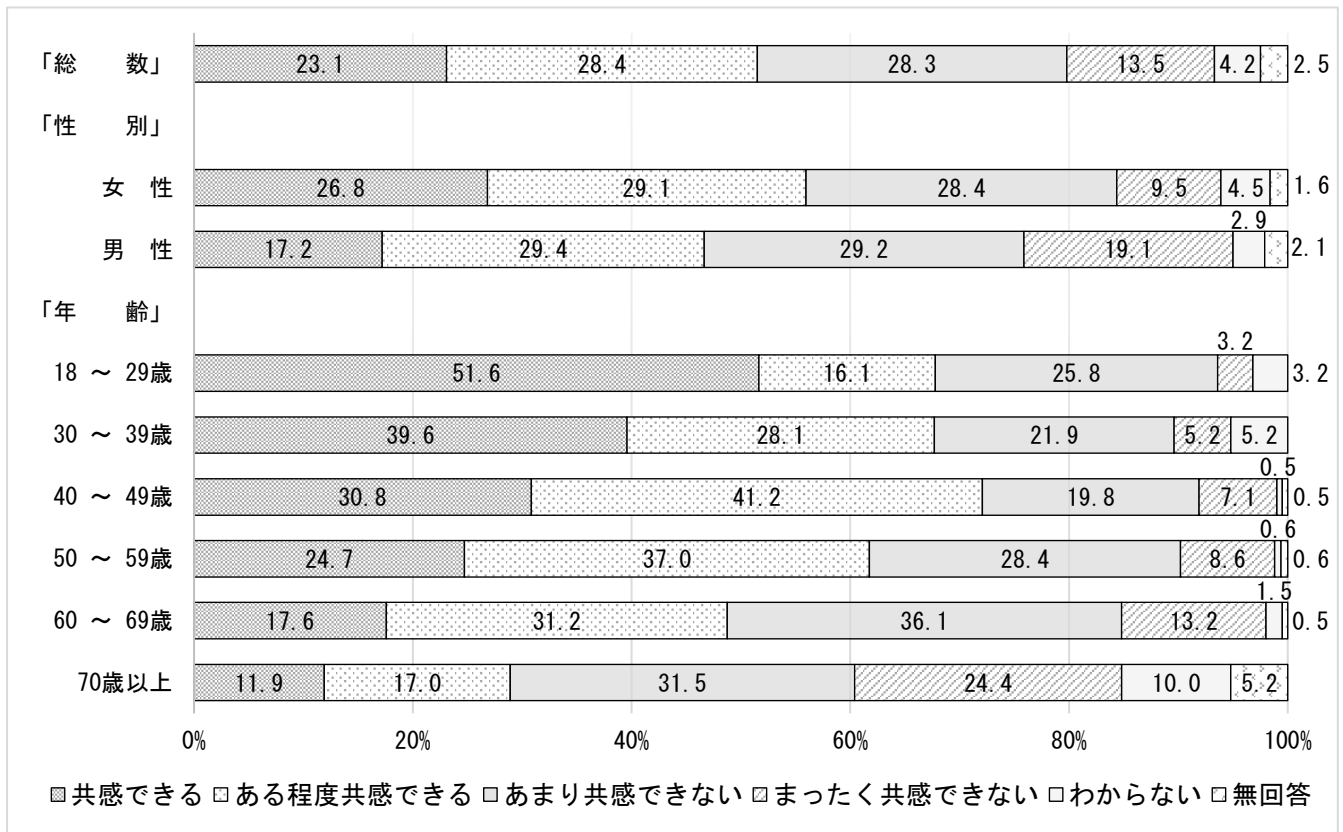
結婚に関する考え方のうち、「共感できる」、「ある程度共感できる」という回答が多かったのは、「結婚は個人の自由だから、結婚しても、しなくてもどちらでもよい」（72.7%）と、「結婚生活に満足できないときは離婚してもかまわない」（64.4%）などとなっている。

前回調査と比較して大きな変化が見られるのは、「夫婦は同居しなくてもよい」に「共感できる」、「ある程度共感できる」と答えた者が、12.1ポイント（27.3%→39.4%）増加、「夫婦が別の姓を名乗る結婚が認められてもよい」に「共感できる」、「ある程度共感できる」と答えた者が、8.8ポイント（49.4%→58.2%）増加している。

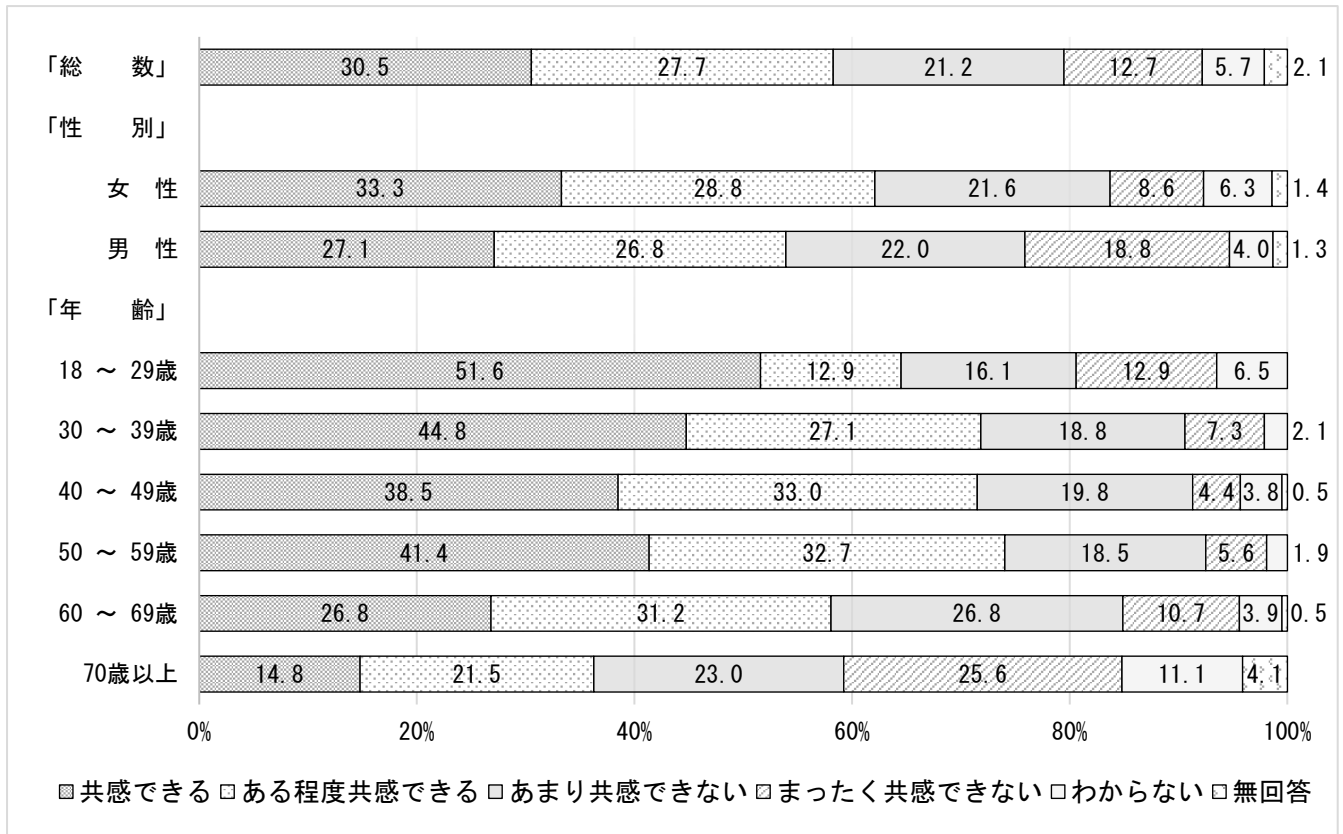
(1) 結婚は個人の自由だから、結婚しても、しなくてもどちらでもよい



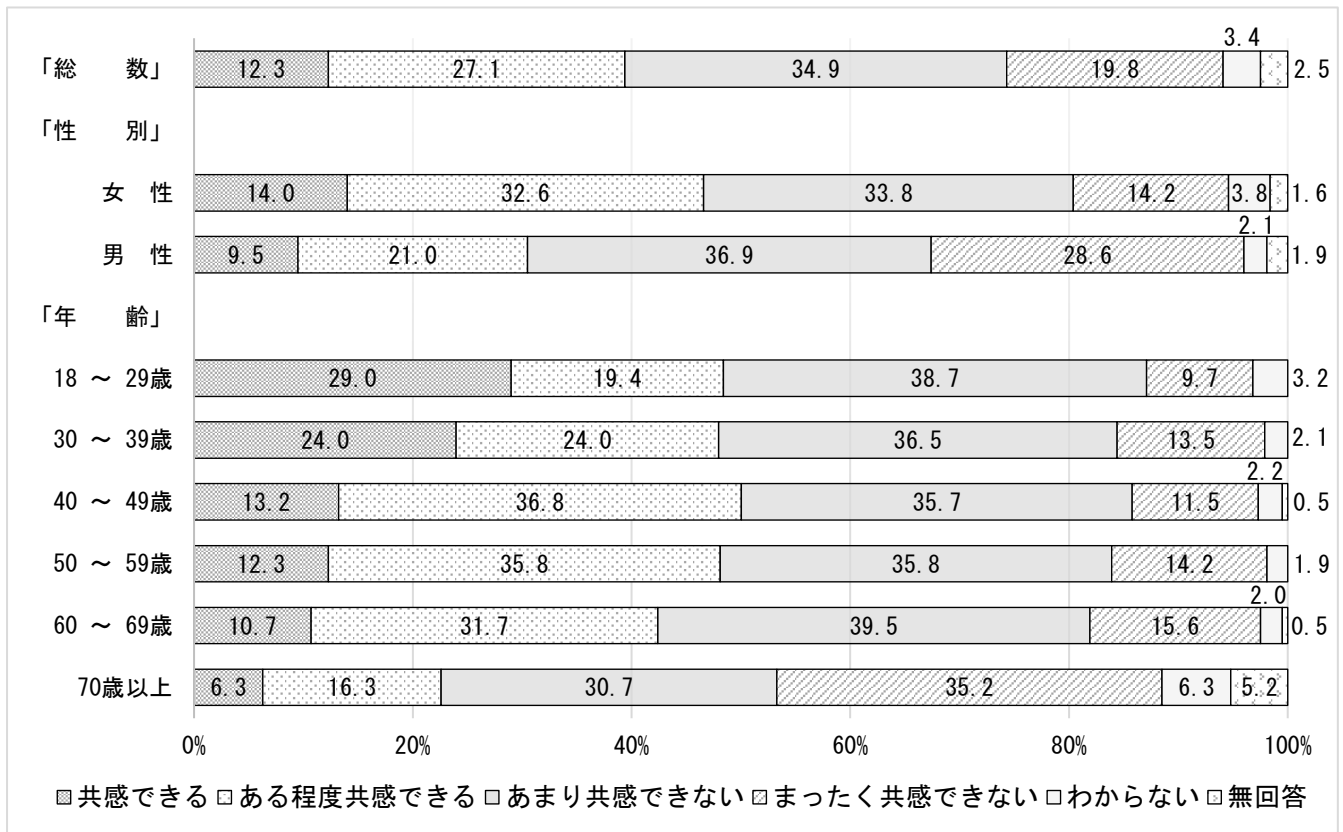
(2) お互いが合意すれば、必ずしも婚姻届を出す必要はない



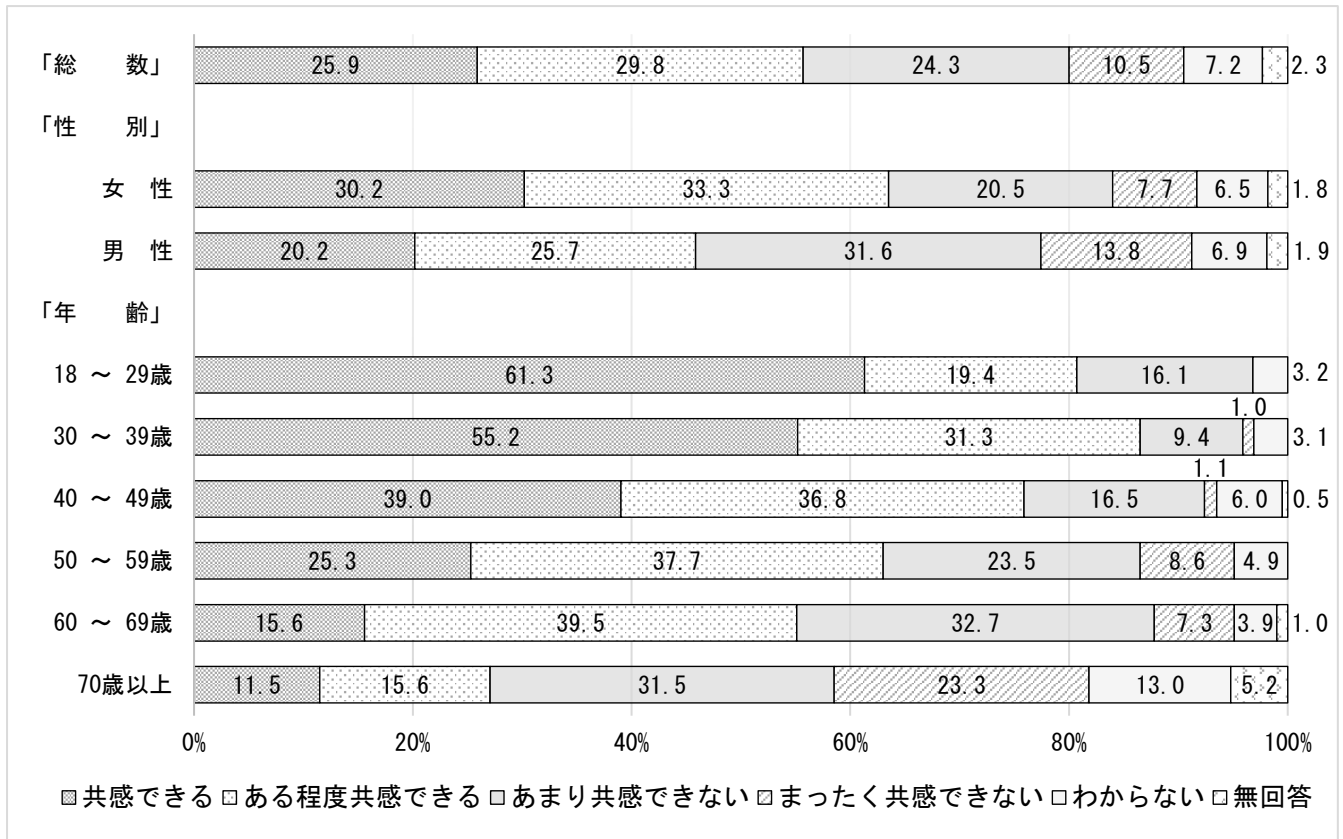
(3) 夫婦が別の姓を名乗る結婚が認められてもよい



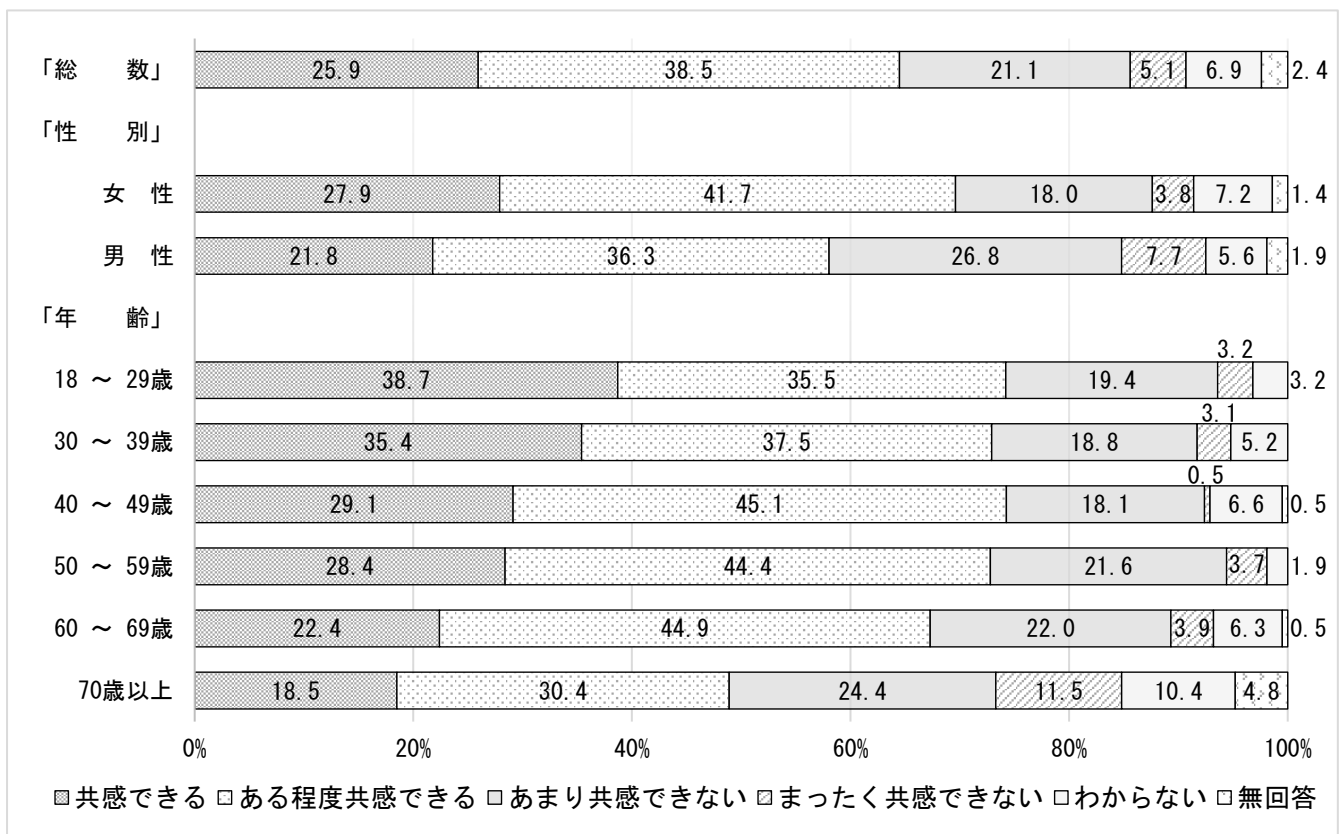
(4) 夫婦は同居しなくてもよい



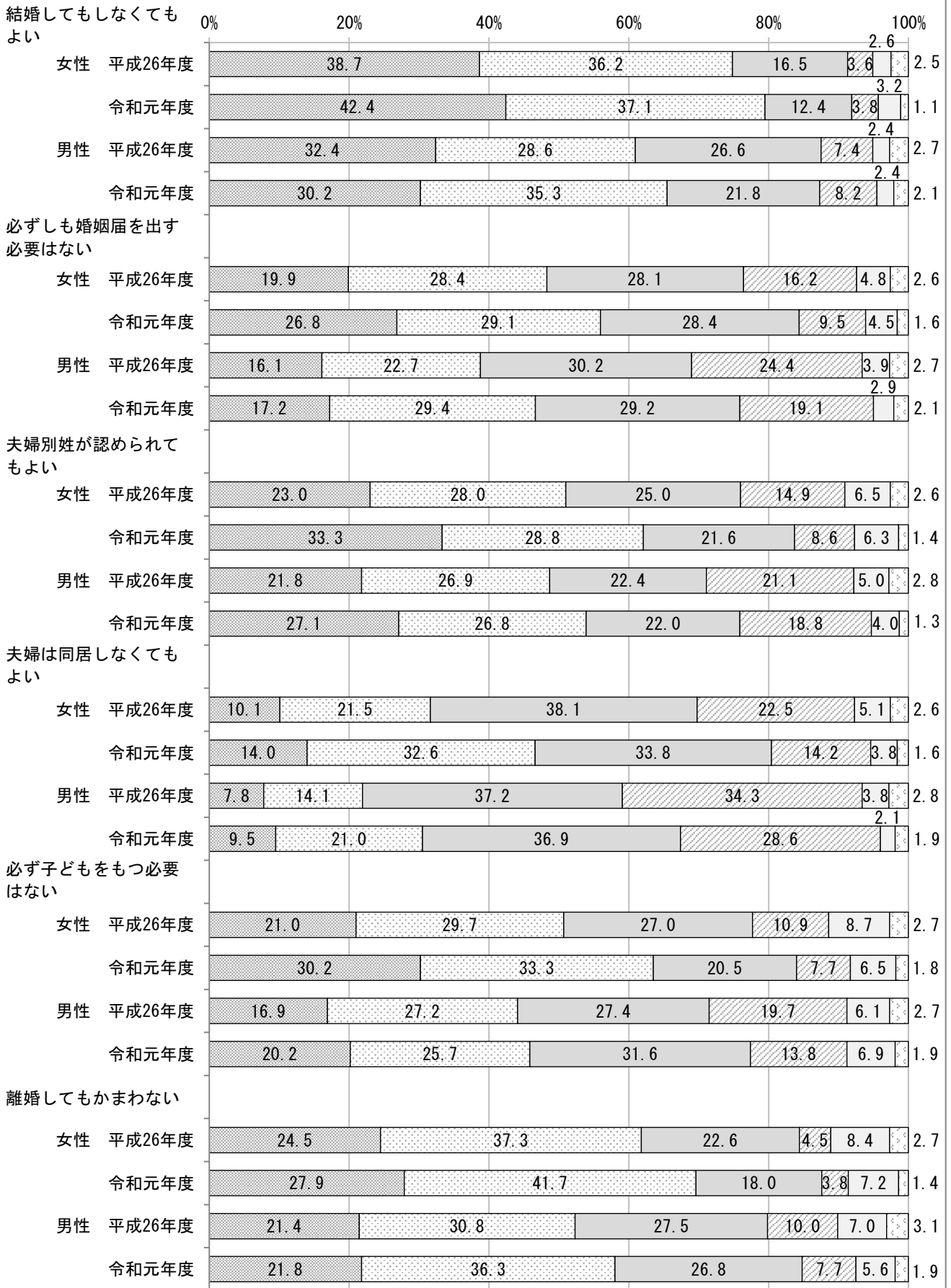
(5) 結婚しても必ず子どもをもつ必要はない



(6) 結婚生活に満足できないときは離婚してもかまわない

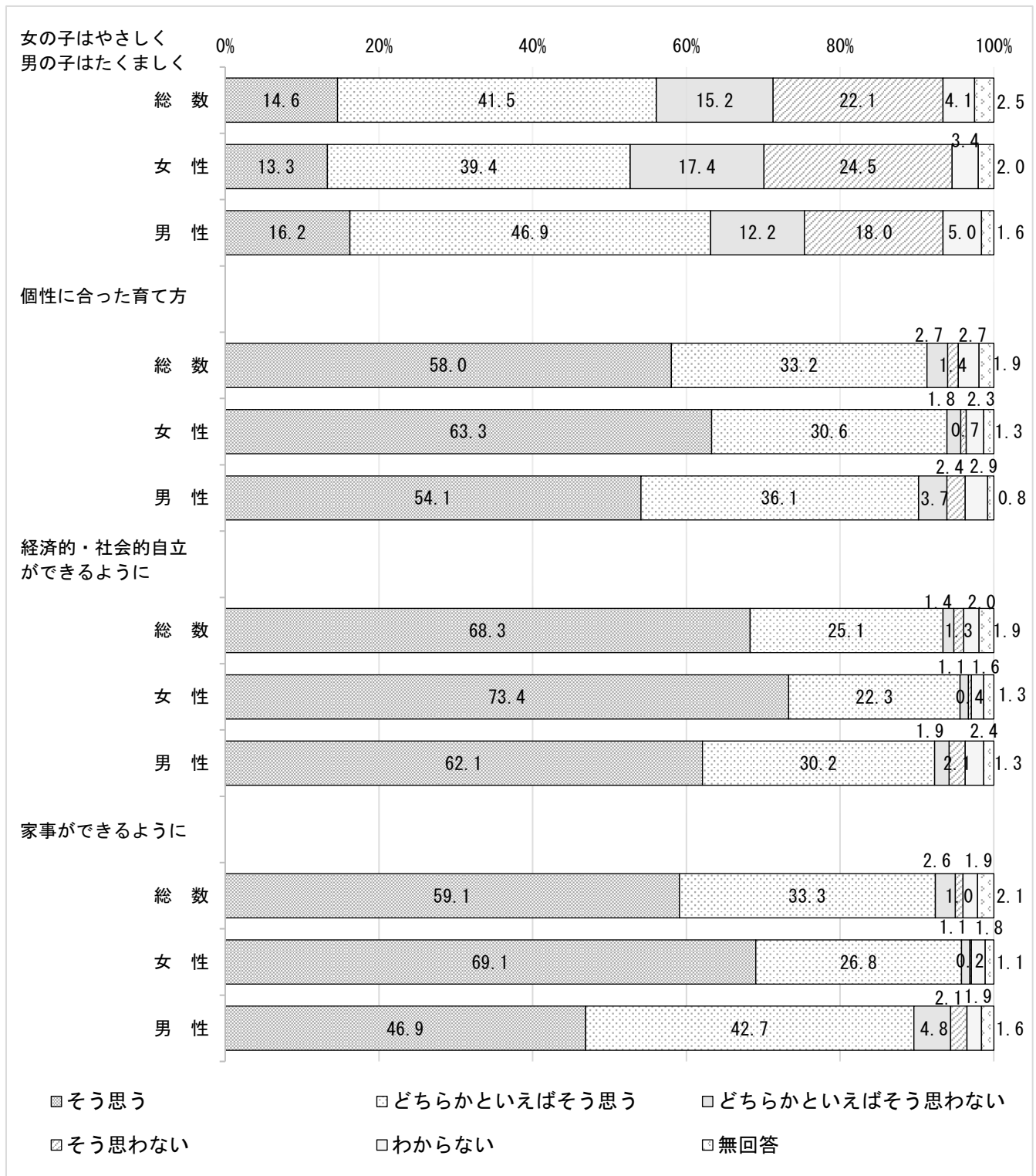


前回調査（平成26年度）との比較



■共感できる □ある程度共感できる □あまり共感できない □まったく共感できない □わからない □無回答

問7 あなたは、子どもの育て方について、どのように考えていますか。当てはまる数字をそれぞれ1つずつ選んでください。

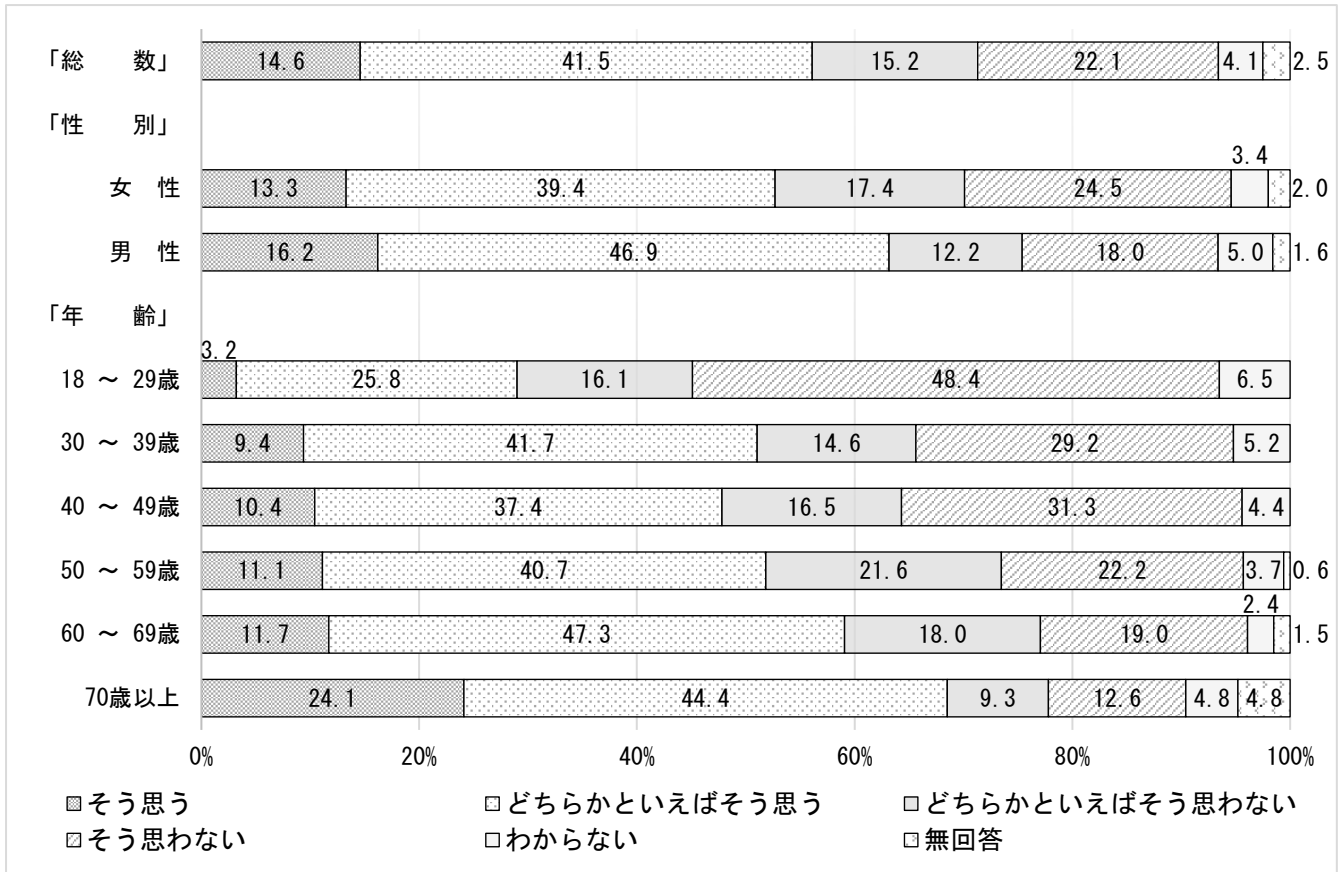


【全体】

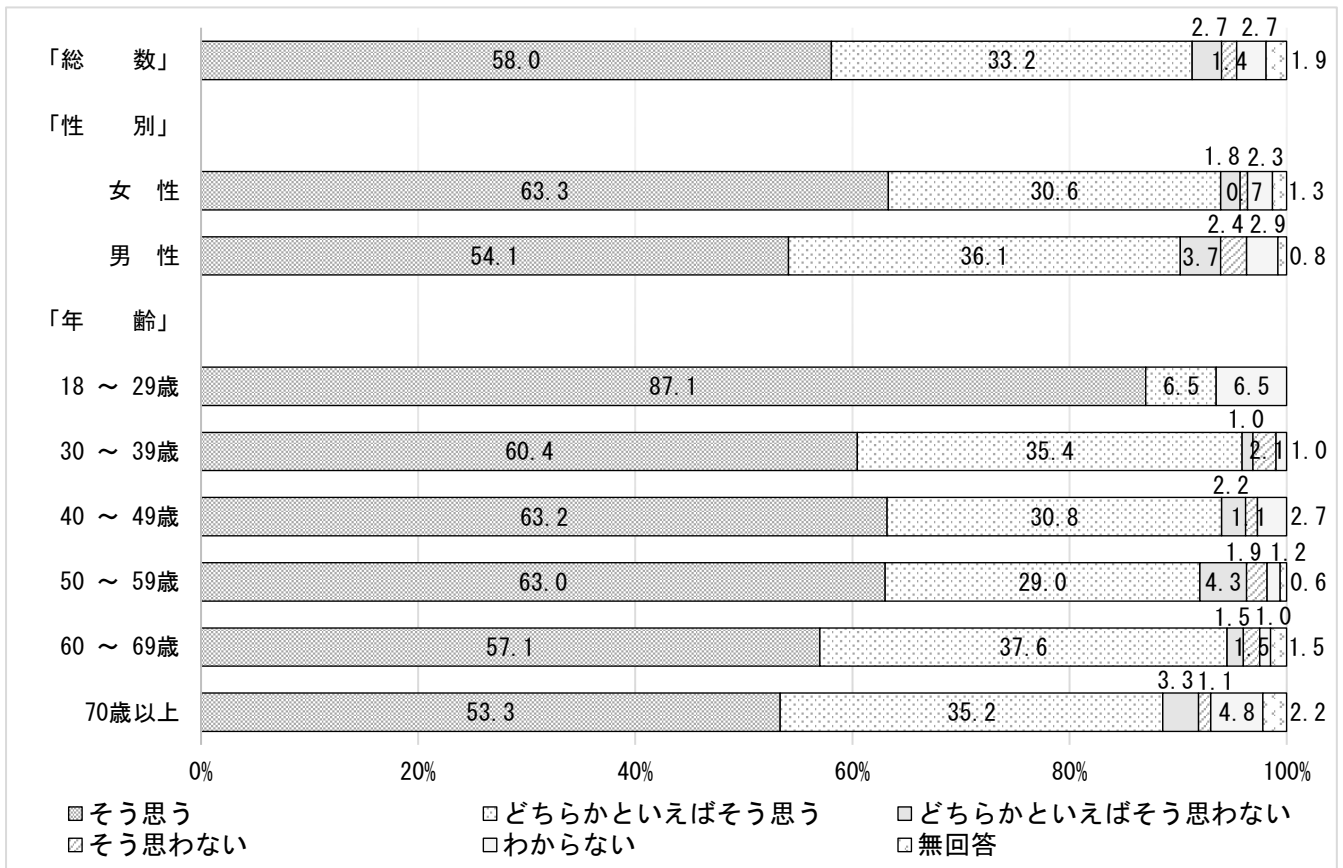
子どもの育て方に関する考え方のうち、「そう思う」の回答が多かったのは、「経済的・社会的自立ができるように育てる」（68.3%）、「家事ができるように育てる」（59.1%）、「性別にとらわれず個性に合った育て方をする」（58.0%）である。

前回調査と比較してみると、「女の子はやさしい子、男の子はたくましい子に育てる」といった考え方について、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と答えた者の割合が4.0ポイント（60.1%→56.1%）低下したが、「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」と答えた者の割合が4.2ポイント（33.1%→37.3%）上昇している。

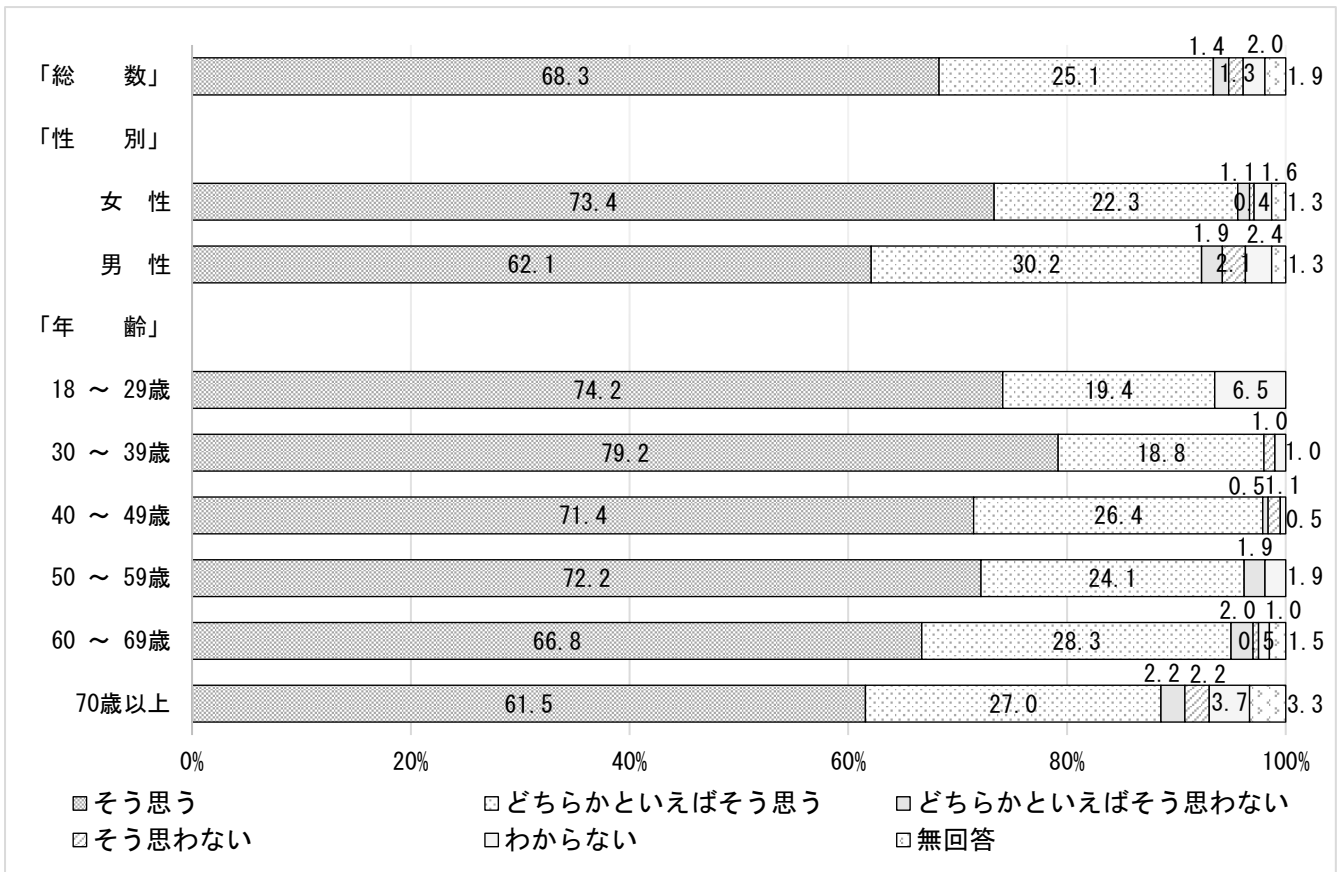
(1) 女の子はやさしい子、男の子はたくましい子に育てる方がよい



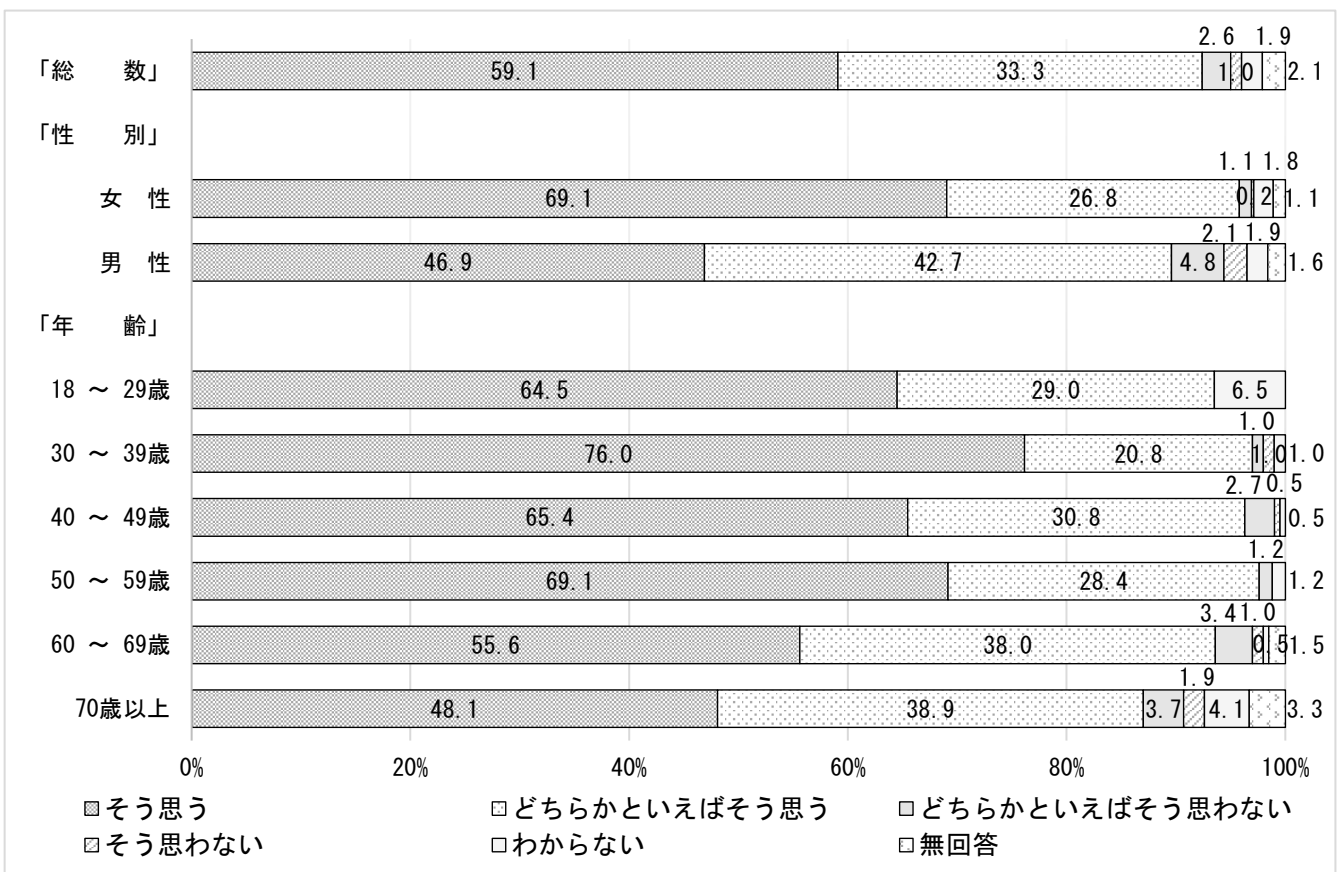
(2) 女の子、男の子にとらわれず、個性に合った育て方をした方がよい



(3) 女の子も男の子も経済的、社会的自立ができるように育てる方がよい



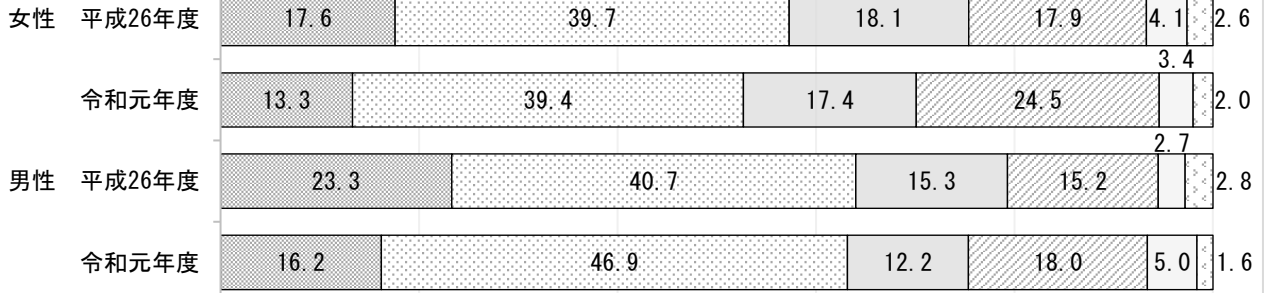
(4) 女の子も男の子も、家事ができるように育てる方がよい



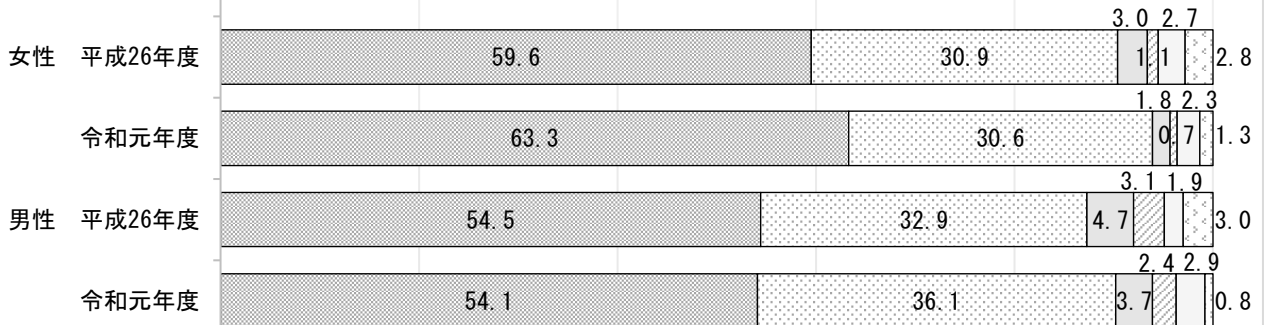
前回調査（平成26年度）との比較

女の子はやさしく
男の子はたくましく

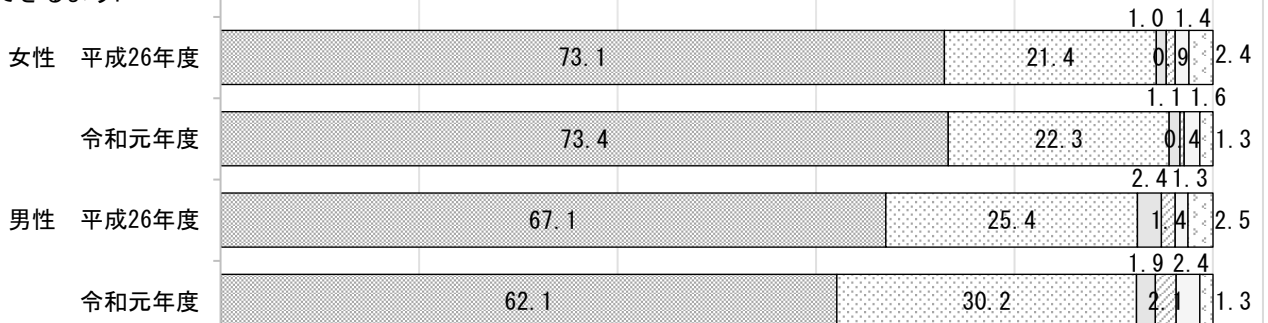
0% 20% 40% 60% 80% 100%



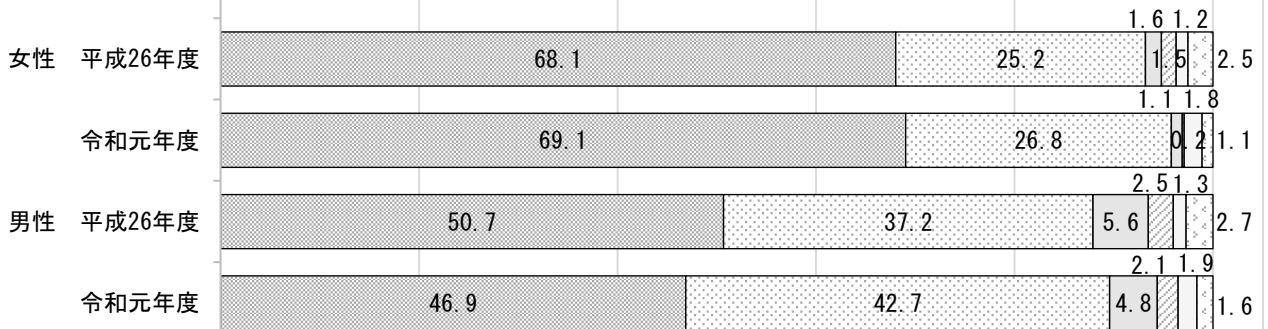
個性に合った育て方



経済的・社会的自立
ができるように

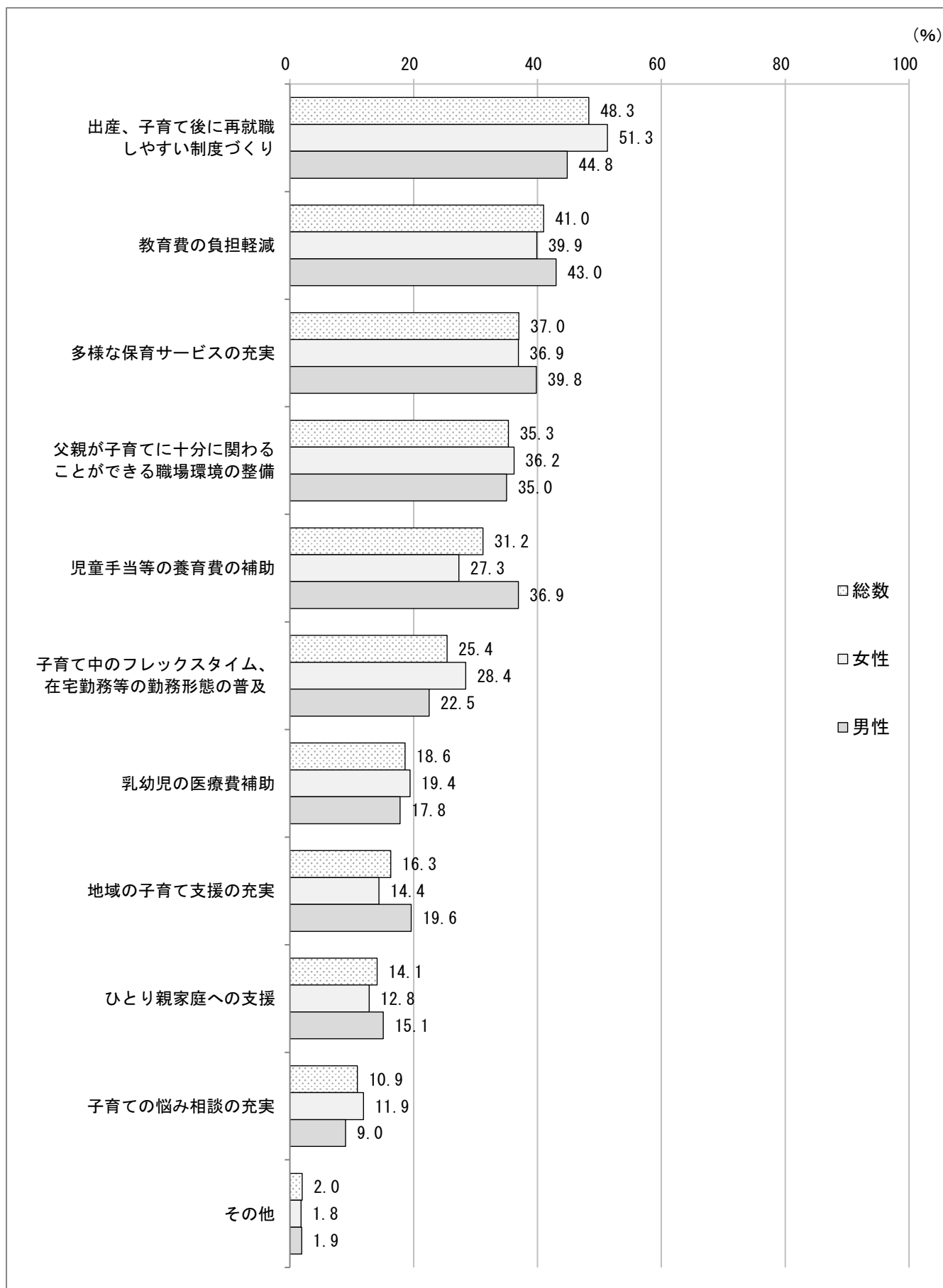


家事ができるように



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない
- わからない
- 無回答

問8 あなたは、安心して子どもを生み育てるためには、何が必要だと思いますか。特に当てはまるものを選んでください。（〇は3つまで）



○その他意見

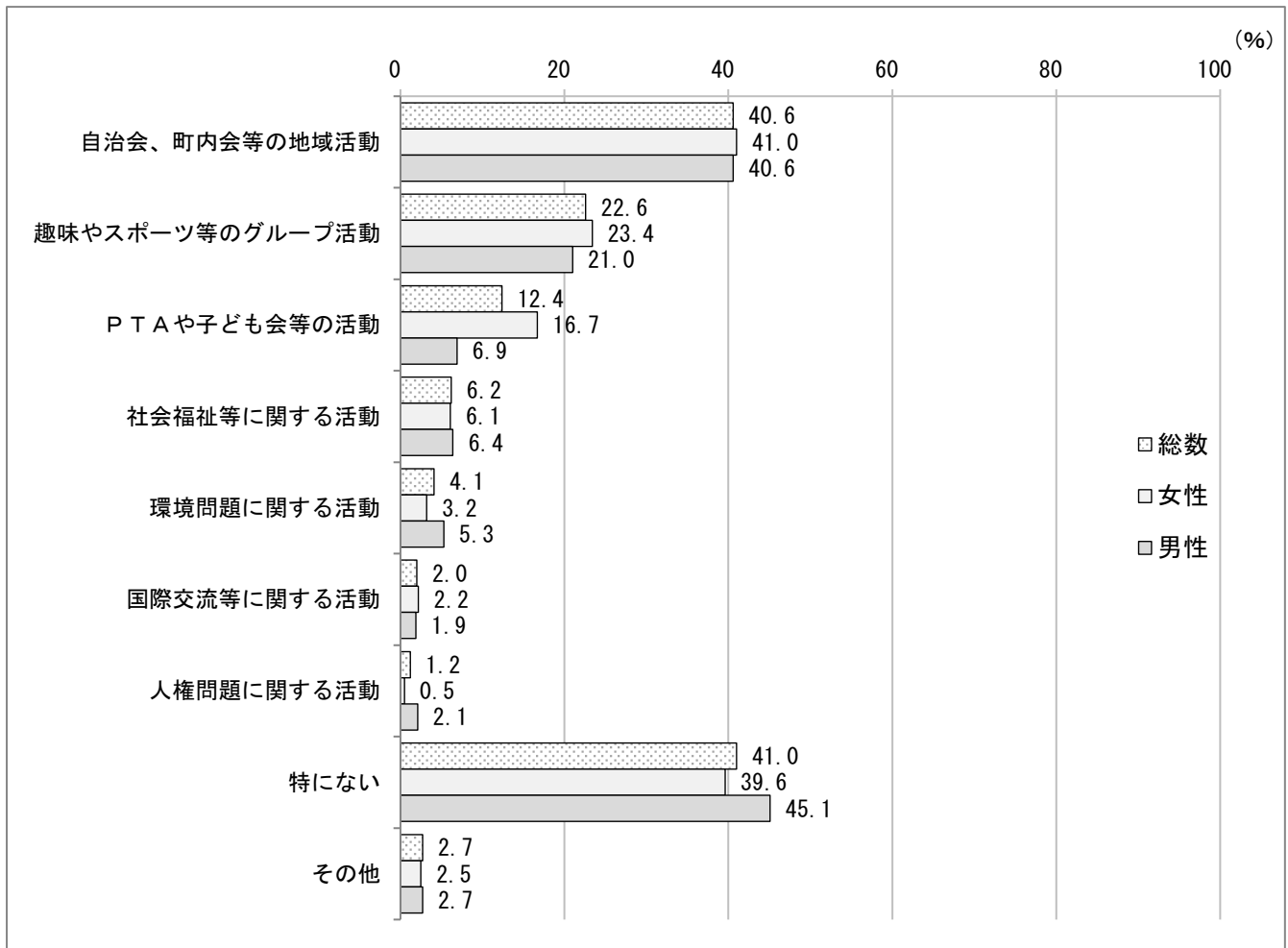
- 1 親の両親との生活（2世帯以上住宅の推進）
- 2 親の十分な収入安定
- 3 “家庭の中”だけで育てる、母親に全責任を負わせるという社会通念、メディアのあり方を少しずつでも変えていく。“ちゃんと育てなければ”というプレッシャーを減らす。
- 4 平和な世界であること
- 5 今の公務員とか大手の人は取れるかも知れないが、個人企業の勤めの場合は無理がある。
- 6 子どもは地域で育ててもらい、もっと子どもを開放的に育てる。
- 7 育児休業のとりやすさと、復帰のしやすさ
- 8 私の子育ての時は義理の母にずいぶん助けられたので働くことが出来た。
- 9 2人以上子どもがいると子ども1人が体調を崩すと2人つれて病院に行かねばならず苦勞するのでそういった2世帯夫婦を支える制度（緊急時に預かってくれるところが少ない）
- 10 父親の給与を上げ、母親が無理に働きに出なくて良い環境づくり
- 11 会社の支援（夜勤、転勤、残業アリなので。会社の制度上できない実現できないことが多い）
- 12 父親が自営の場合も育児のため休んだ時の収入補償の制度が何かあればと思います。
- 13 不妊治療費の全額負担
- 14 経済面、企業の扶養手当増額
- 15 核家族の方への支援（精神的）
- 16 不妊治療などへの理解、金銭面の補助
- 17 産後一年間の休み。愛情をかけて育てる。共働きはややもすると、子どもに、しわよせが来る。大人になって自立できなかつたり、問題が多いと思います。（お金で解決して冷い人間になりやすい等。）

【全体】

子どもを生き育てるのに必要な事柄のうち、回答が多かったのは、「出産、子育て後に再就職しやすい制度づくり」と答えた者の割合が48.3%と最も高く、以下、「教育費の負担軽減」（41.0%）、「多様な保育サービスの充実」（37.0%）、「父親が子育てに十分に関わることができる職場環境の整備」（35.3%）などの順となっている。

地域活動への参加・学校教育・防災活動について

問9 あなたは、いまどのような地域活動をしていますか。特に当てはまるものを選んでください。
(〇は3つまで)



○その他意見

- 1 ボランティア
- 2 学校 (OBとして)
- 3 政治
- 4 自治会長なので勉強中
- 5 発達障がい児サポート (ペアレントメンターなど)
- 6 神社の祭り
- 7 音楽イベントへの出店
- 8 N P O への参加
- 9 農業に関する活動
- 10 無料法律相談

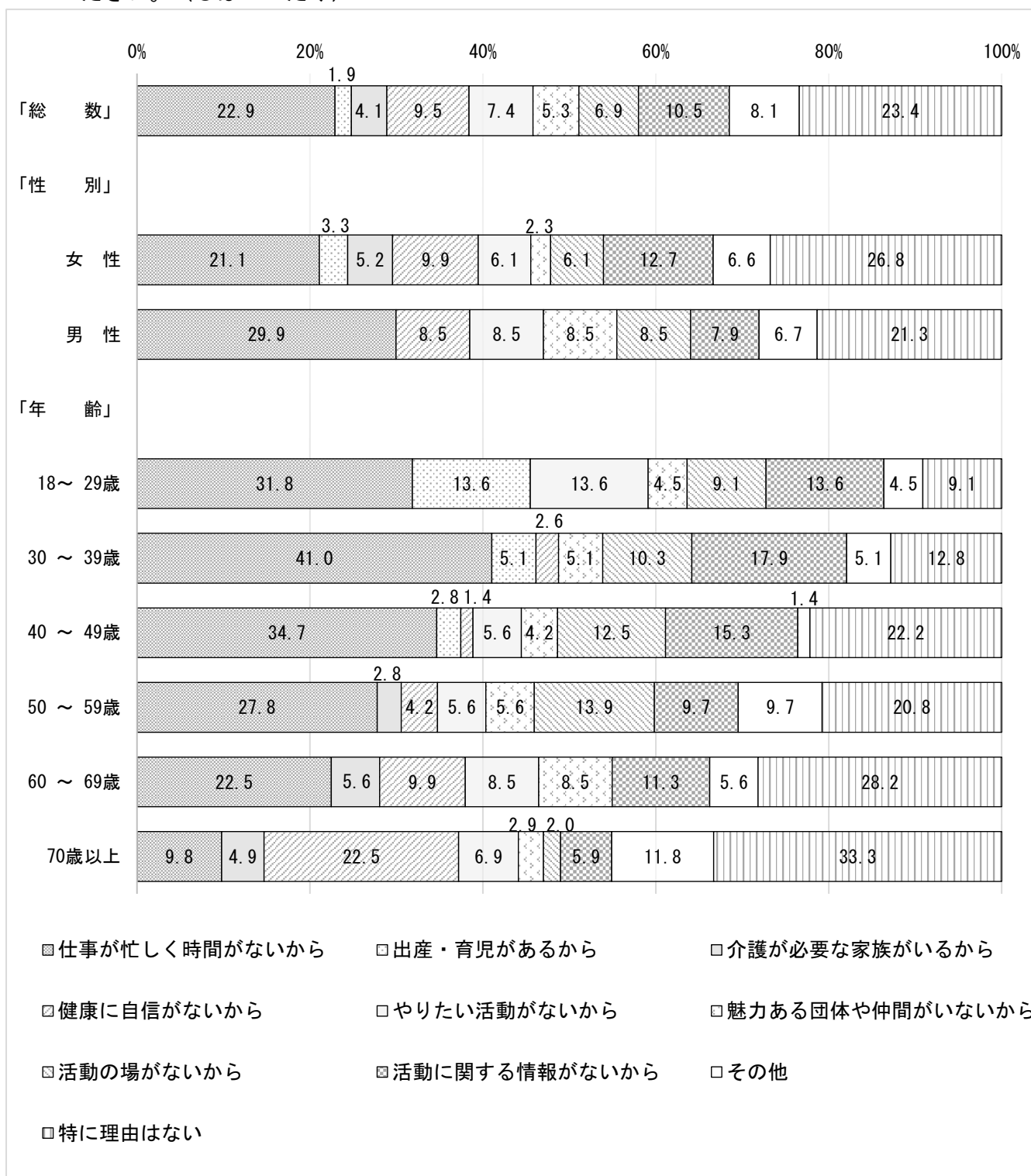
【全体】

地域活動の内容のうち、回答が多かったのは、「自治会、町内会等の地域活動」と答えた者の割合が 40.6%と最も高く、以下、「趣味やスポーツ等のグループ活動」(22.6%)、「P T A や子ども会等の活動」(12.4%)の順となっている。

一方で、「特にない」(地域活動に参加していない)人が、41.0%に上ることから、地域活動への積極的な参加を促す取組を推進していく必要がある。

[問9で「9 特にない」を選んだ方のみお答えください。]

問10 あなたが、こうした地域活動に参加されていない理由は何ですか。当てはまるものを選んでください。(〇は1つだけ)

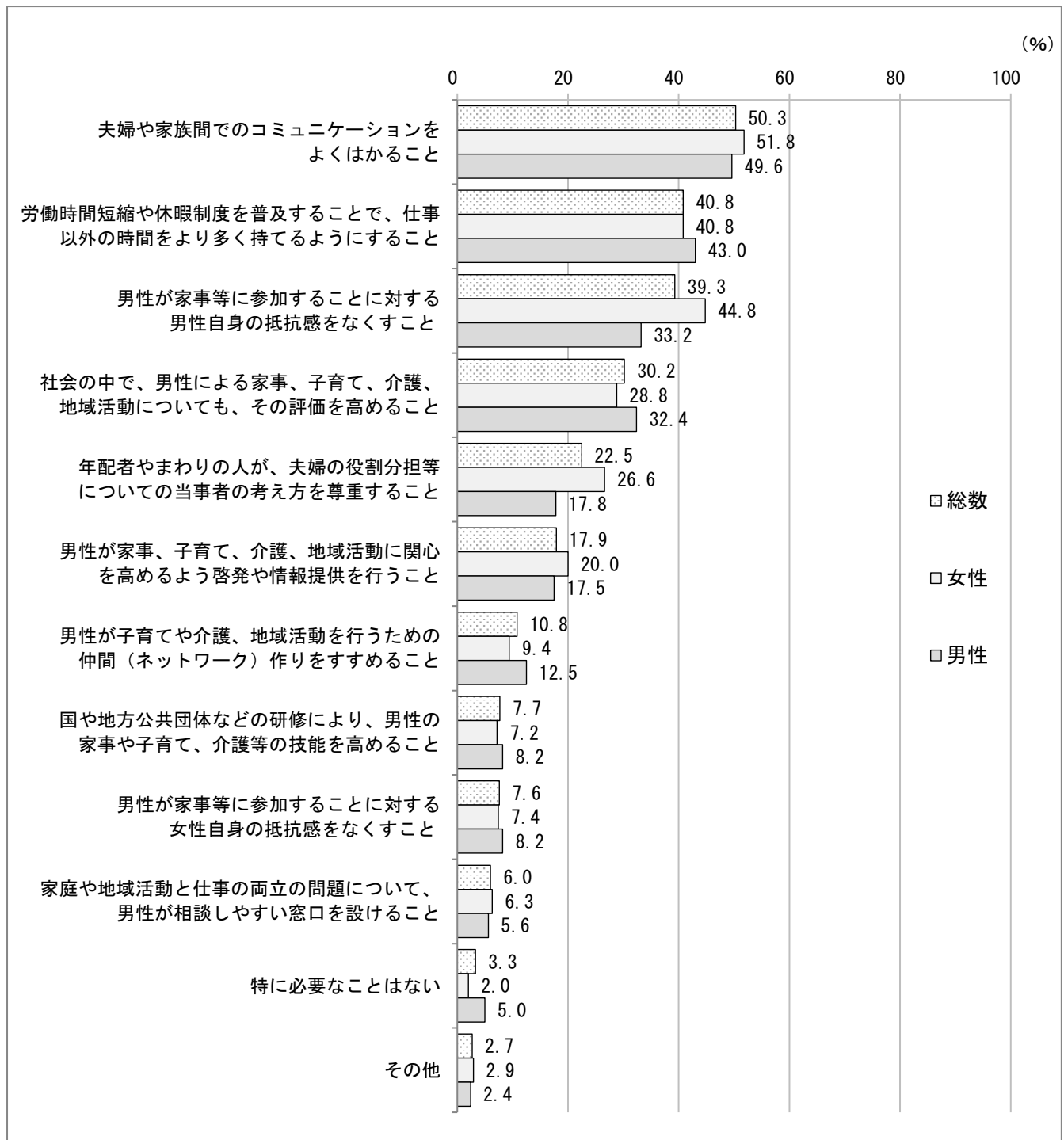


【全体】

地域活動をしていない理由について、回答が多かったのは、「仕事が忙しく時間がない」(22.9%)、「活動に関する情報がない」(10.5%)、「健康に自信がない」(9.5%)の順になっている。

一方で、「やりたい活動がない」(7.4%)、「活動の場がない」(6.9%)、「魅力ある団体や仲間がない」(5.3%)といった理由もあることから、ワーク・ライフ・バランスの促進はもとより、地域活動への積極的な参加を促す取り組みを推進していく必要がある。

問 11 今後、男性が女性とともに地域活動を始め、家事、子育て、介護に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。特に当てはまるものを選んでください。（〇は3つまで）



○その他意見

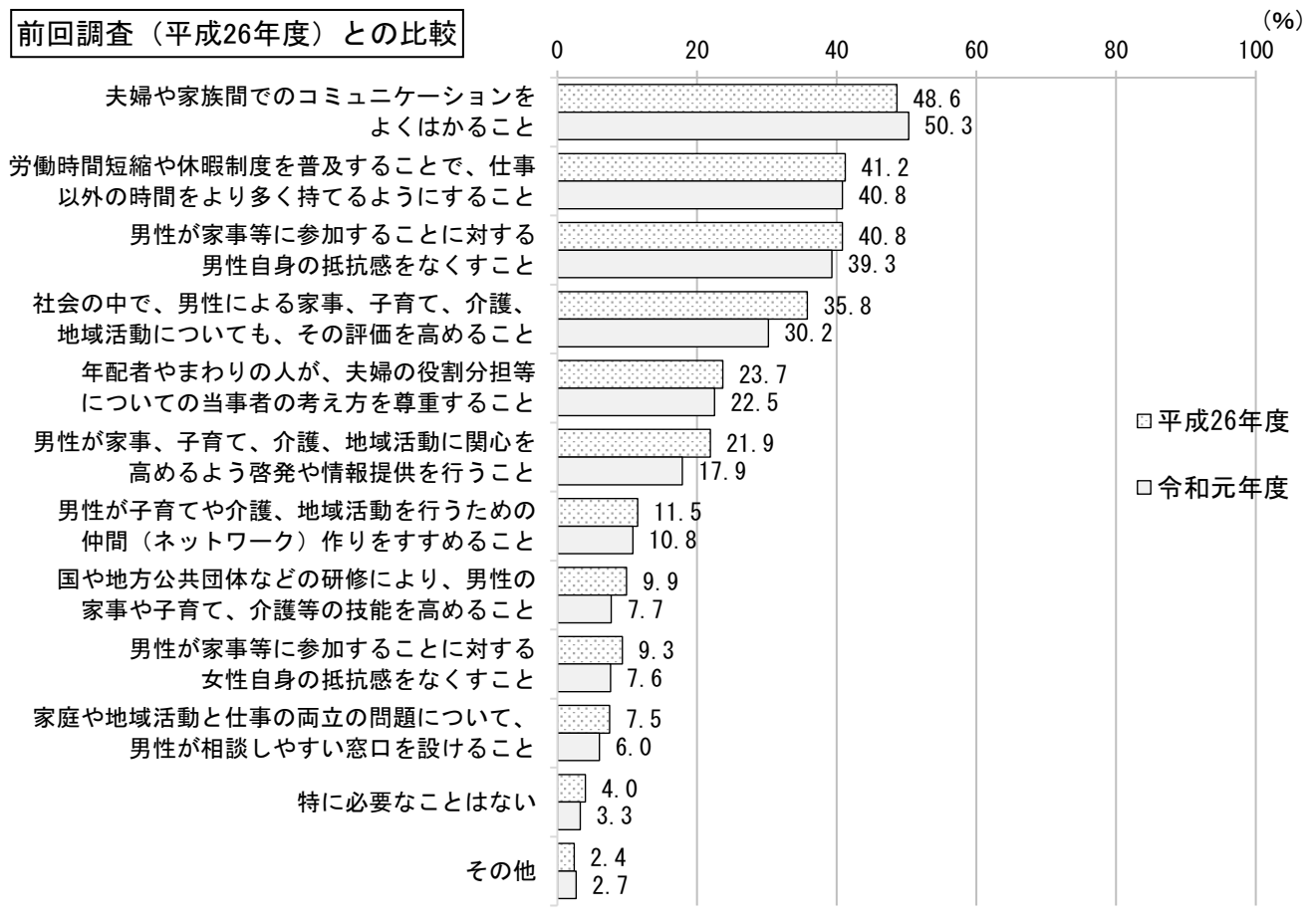
- 1 子どものうちに参加することへの意識を身に付けるようにする。
- 2 選択肢にあることを進める為に、性別役割分担の意識をさせない子育て、教育、社会の関わりにしていく。意識が初めからないとどの対策も形だけになる。
- 3 各家庭で仕事、家事の役割分担ができていれば、出来る人がすれば良い。
- 4 もっと、すそを広げる。参加する人しない人の区分が激しい。
- 5 特に男性の職場内での家事、子育て、介護、地域活動に対する理解が必要

- 6 信頼
- 7 魅力ある地域活動、家事、子育ての価値感
- 8 親と同居の場合、親の古い体質が一番になるので。
- 9 40歳以上の頭のかたい男性が地域活動を心良く思わせる活動が必要と思います。
- 10 男性トイレにもベビーベッド、おむつがえコーナーが必要
- 11 行政からの金銭的な補助
- 12 家事ができるかどうかは結婚前の実践の有無と考え方
- 13 便利・多様化が困難事を駆逐している。易きに流されている。
- 14 家族愛・自覚を持つ事
- 15 男女平等の教育
- 16 男性、女性ではなく、個人に支援評価する。男性がとか女性がとかを言う前に、社会全体が個人という目を持つこと。休暇、家事、介護、地域活動全部に対する見方
- 17 本人のやりたい気持ち
- 18 男性が女性がという考えをすてること。この間もバリアがあります。
- 19 自己判断でワクに当てはめる必要はない。

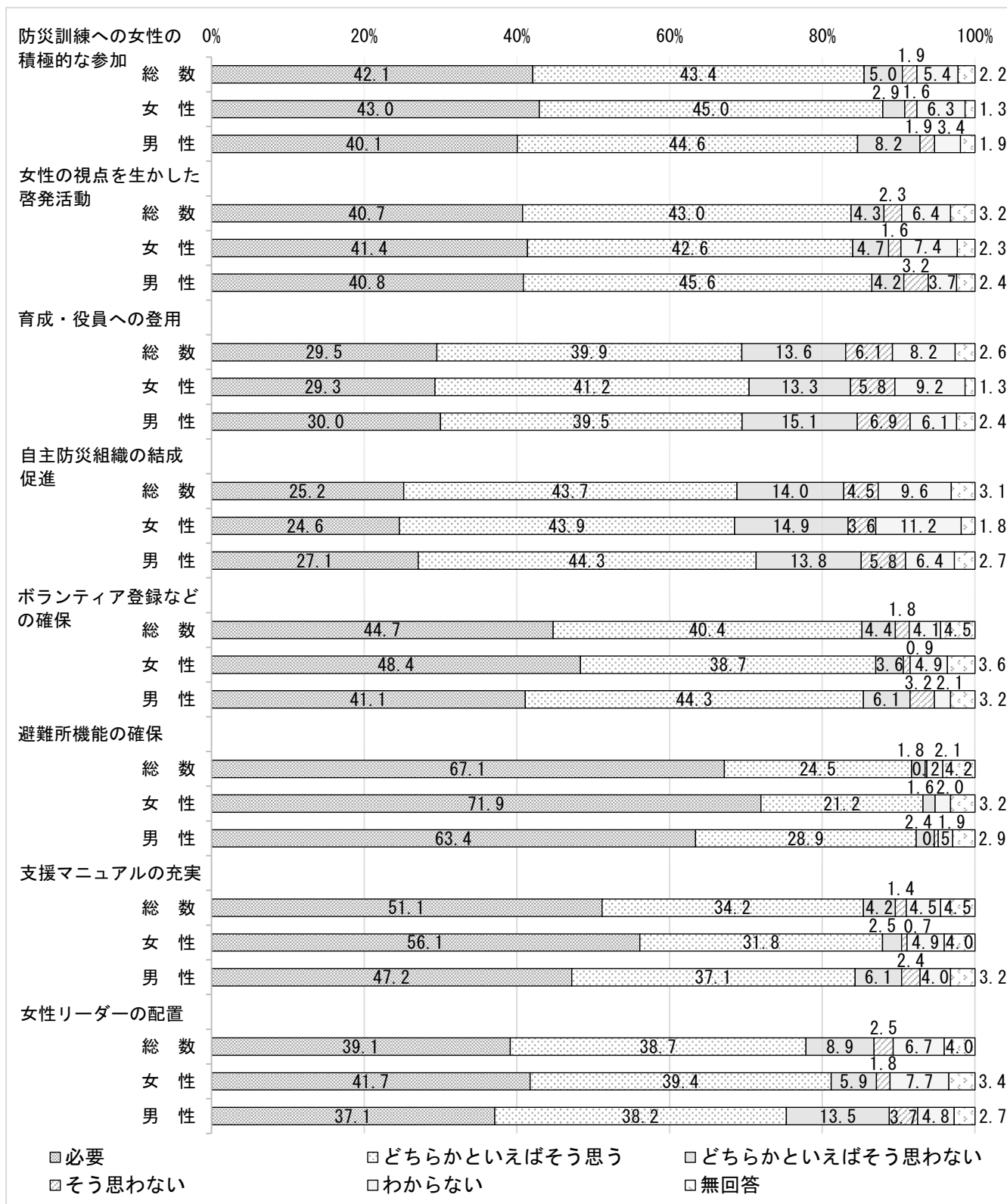
【全体】

家事等に男性が参加するために必要なことについて、回答が多かったのは、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」で50.3%と最も高く、以下、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」(40.8%)、「男性が家事等に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(39.3%)の順となっている。男性が家庭や地域活動に参画し、生きがいを持って生活していくためには、夫婦間のコミュニケーションが重要であるとともに、男性自身の男性に関する固定的性別役割分担意識の解消が必要である。

前回調査（平成26年度）との比較



問 12 防災（災害復興も含む）活動に関して、男女が協力して活動していくためには、どのようなことが必要と考えますか。当てはまる数字をそれぞれ1つずつ選んでください。

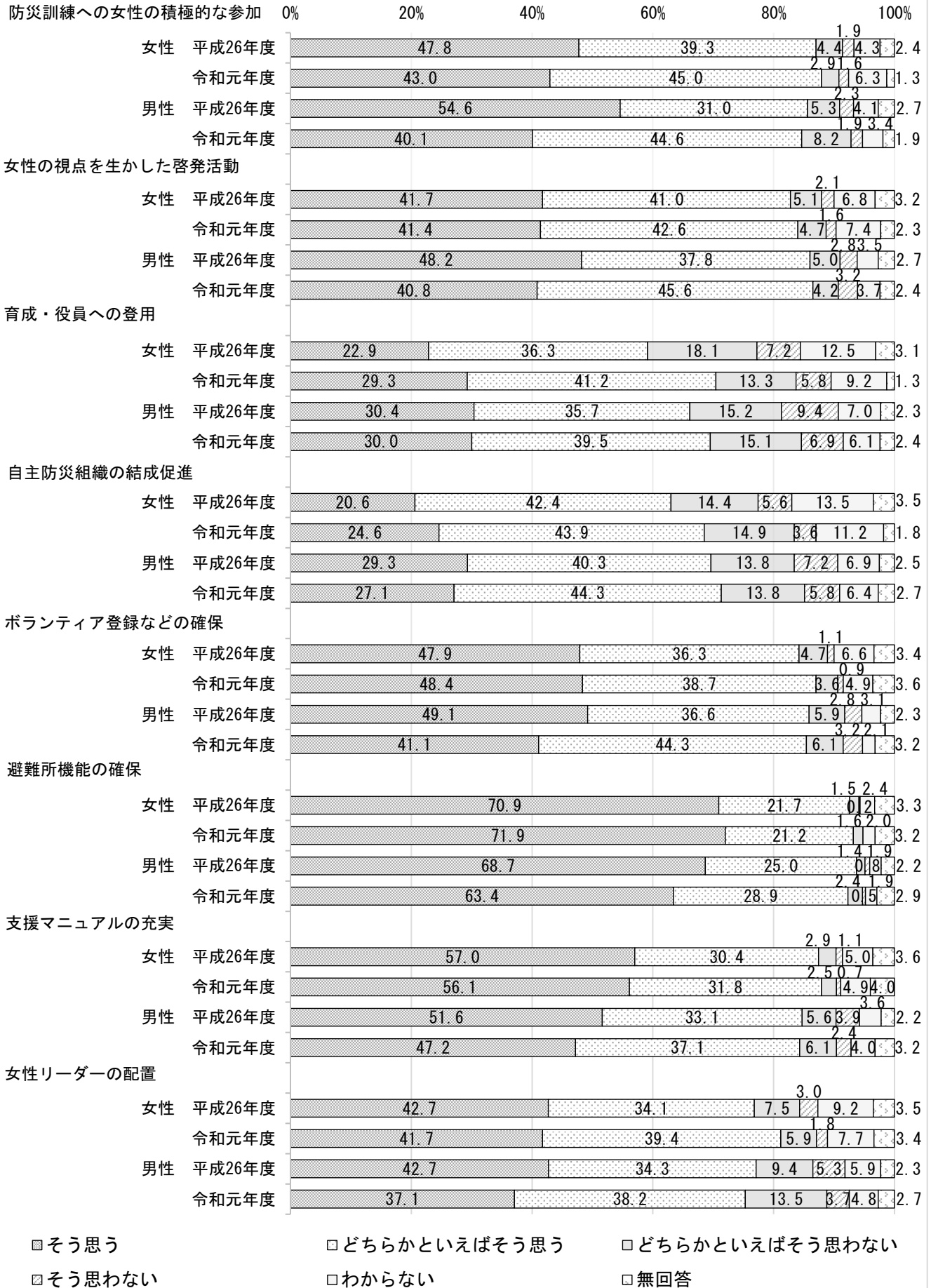


【全体】

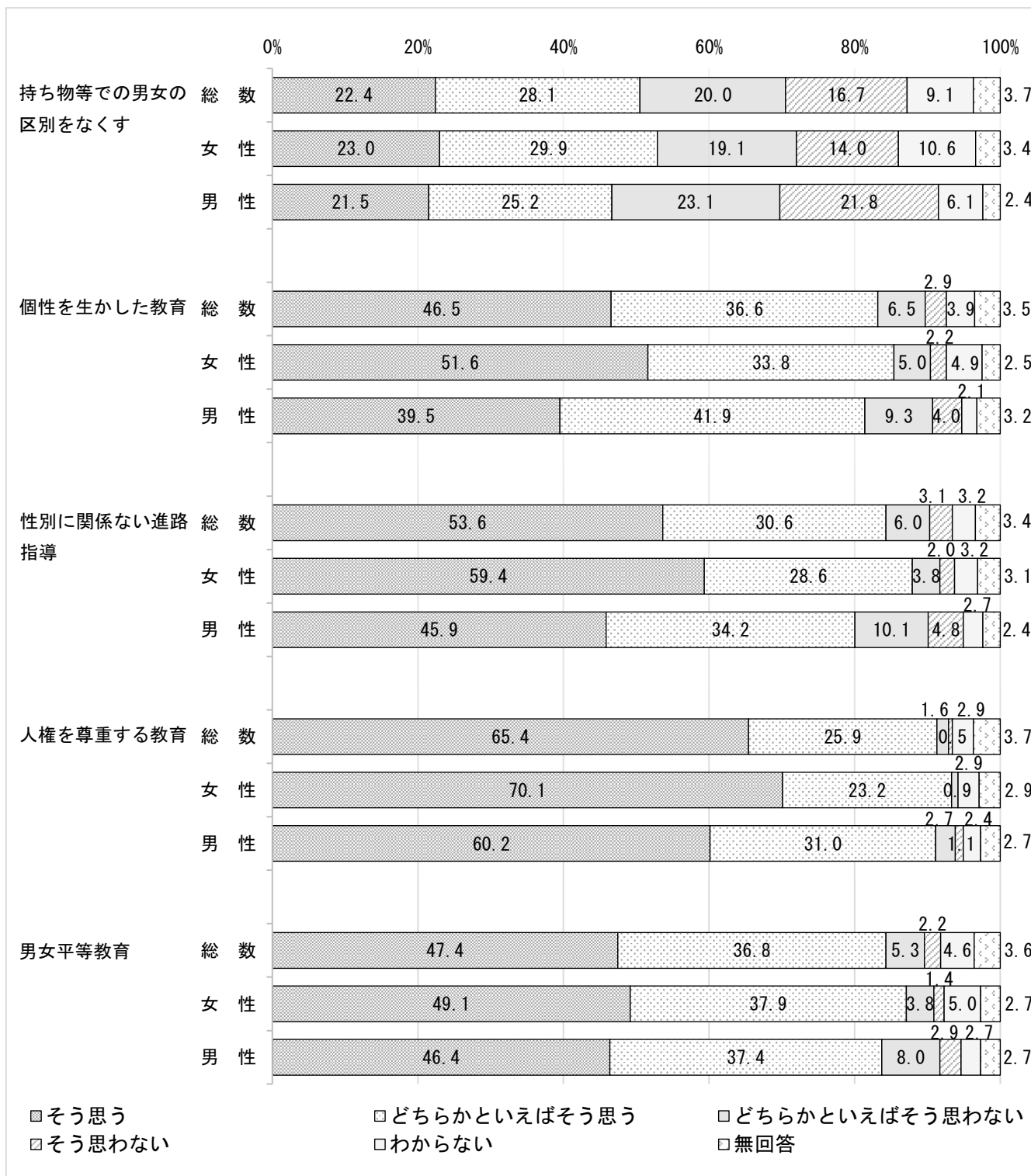
防災（災害復興も含む）活動に関して、男女が協力して活動していくために必要なことについて、「必要」「どちらかといえばそう思う」の回答が多かったのは、「女性や乳幼児等に配慮した避難所機能の確保」（91.6%）、「防災訓練への女性の積極的な参加」（85.5%）、「男女別のニーズに配慮した避難所などでの支援マニュアルの充実」（85.3%）の順になっている。

男女共同参画の視点による防災対策が必要であり、そのノウハウの充実や女性リーダーの配置が重要である。

前回調査（平成26年度）との比較



問 13 あなたは、学校での教育について、どのように思いますか。当てはまる数字をそれぞれ1つずつ選んでください。

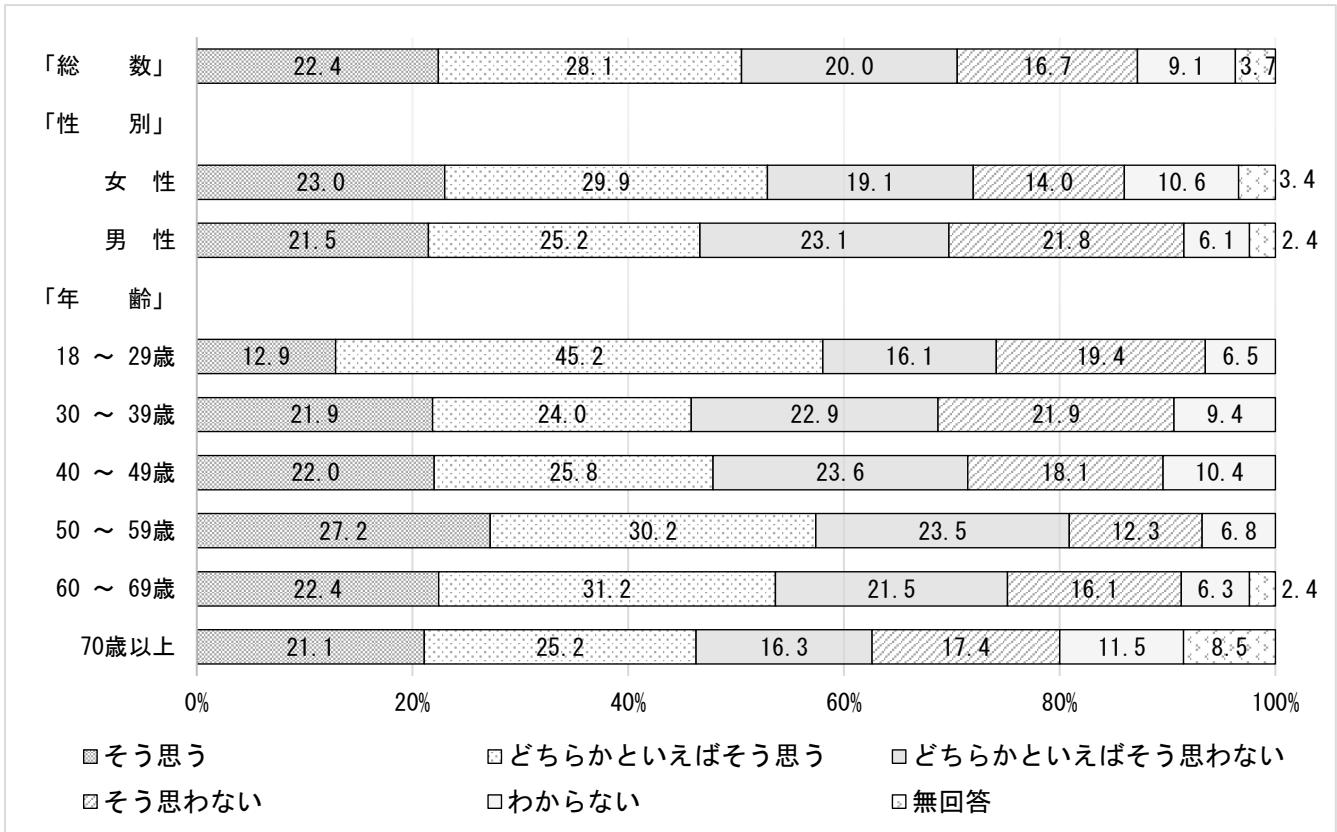


【全体】

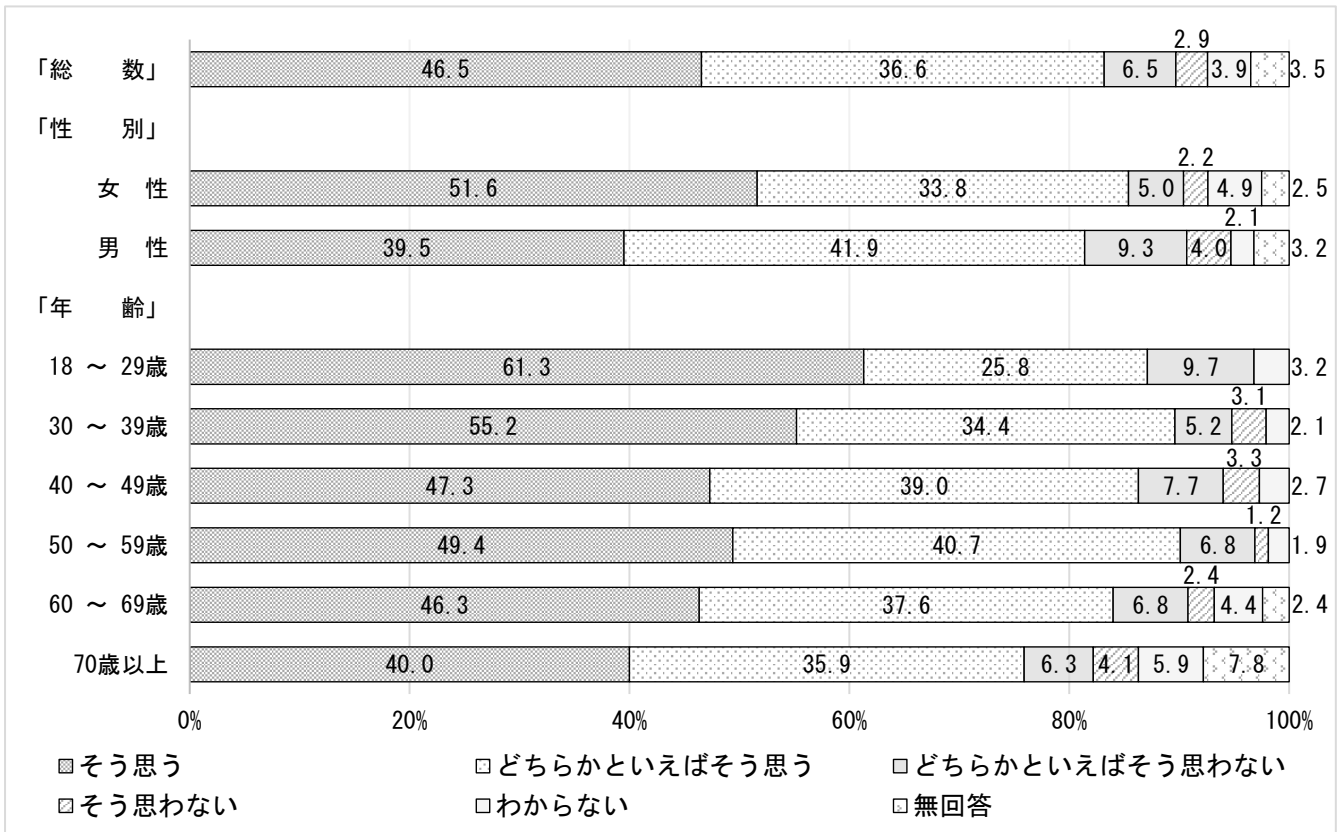
学校での教育について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答が多かったのは、「男女がお互いの人権を尊重する適切な教育が行われる方がよい」が91.3%で最も高く、以下、「進路指導は、性別に関わらず同じように行われる方がよい」（84.2%）、「積極的に男女平等教育を進めた方がよい」（84.2%）、の順となっている。

また、「名簿、持ち物などでの男女の区別をなくした方がよい」と答えた者は、前回調査より9.8ポイント増加（40.7%→50.5%）した。

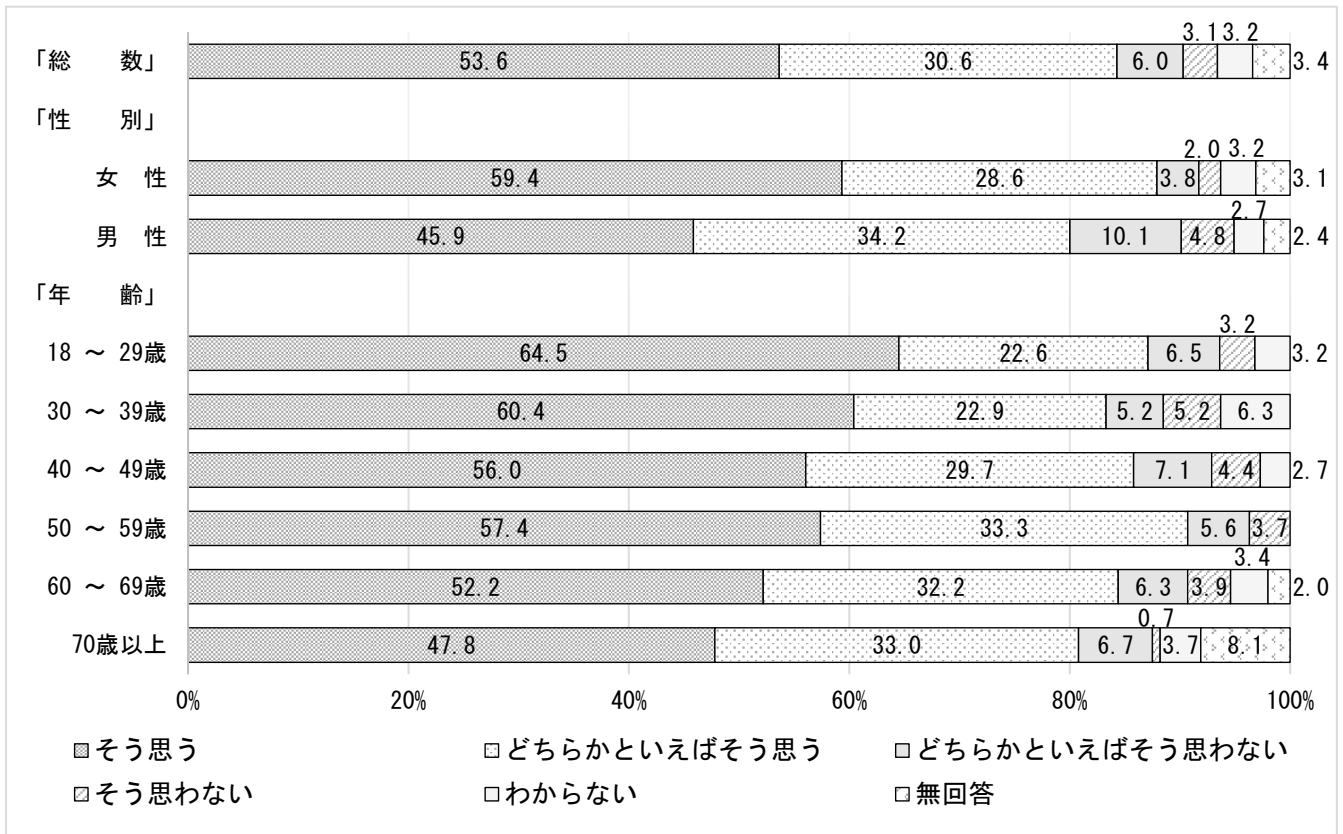
(1) 名簿、持ち物などでの男女の区別をなくした方がよい



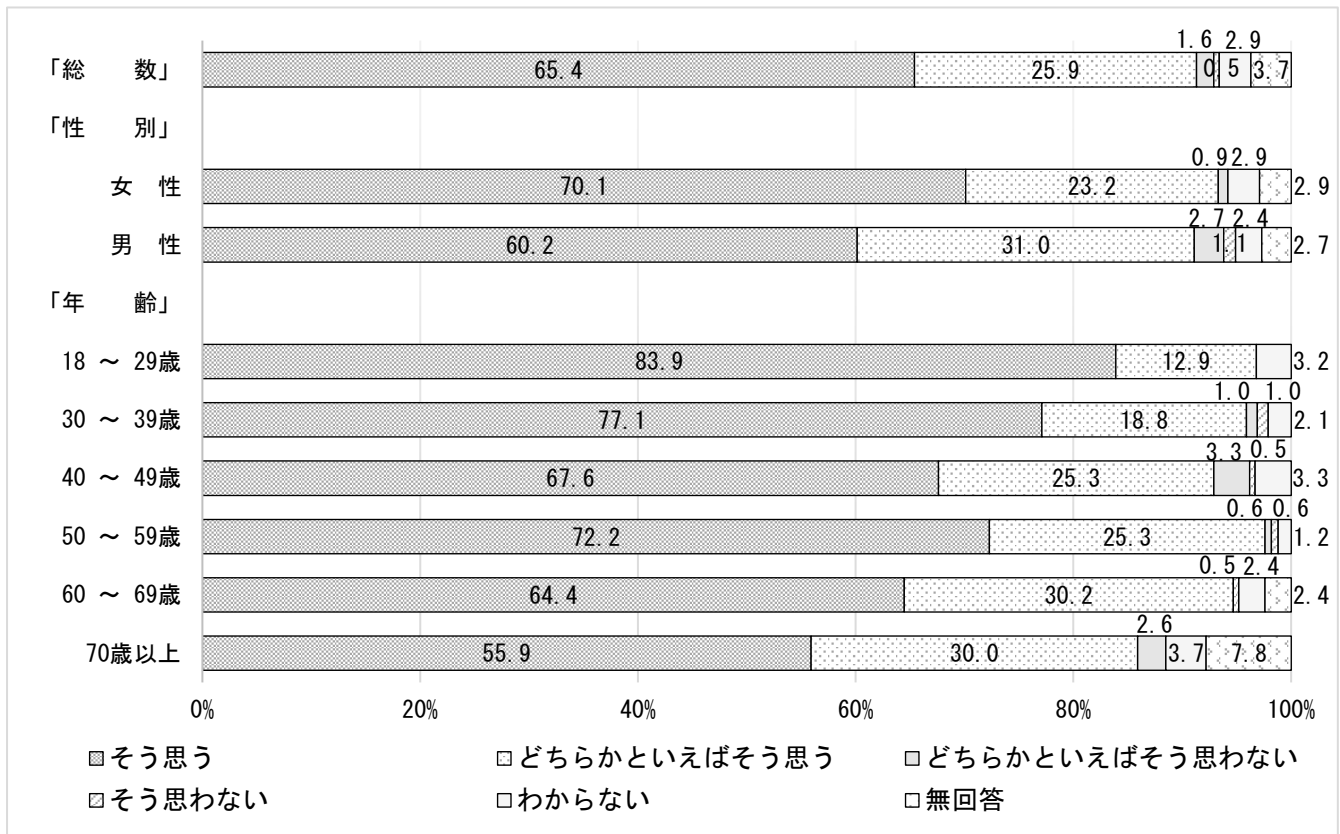
(2) 性別にかかわらず個性を生かした教育が行われる方がよい



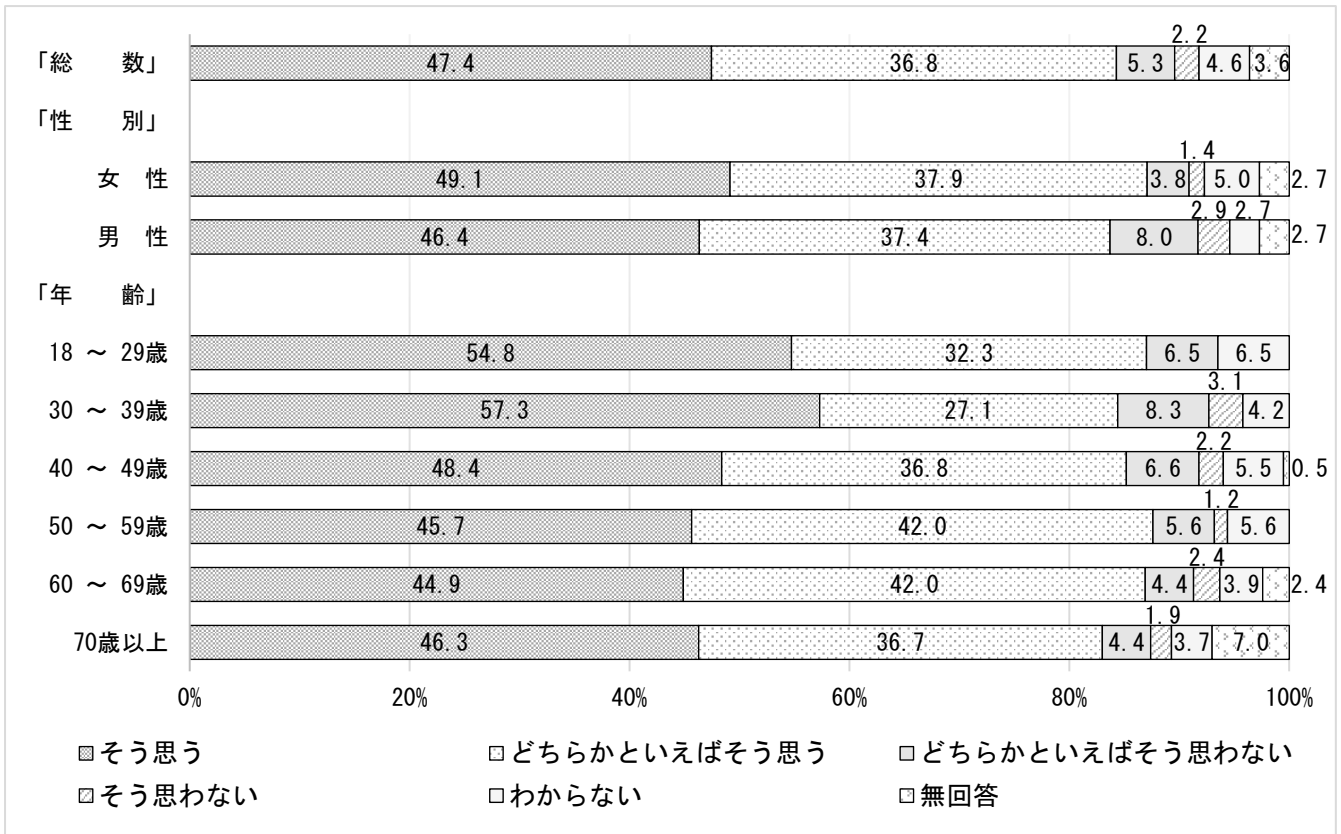
(3) 進路指導などは、性別にかかわらず同じように行われる方がよい



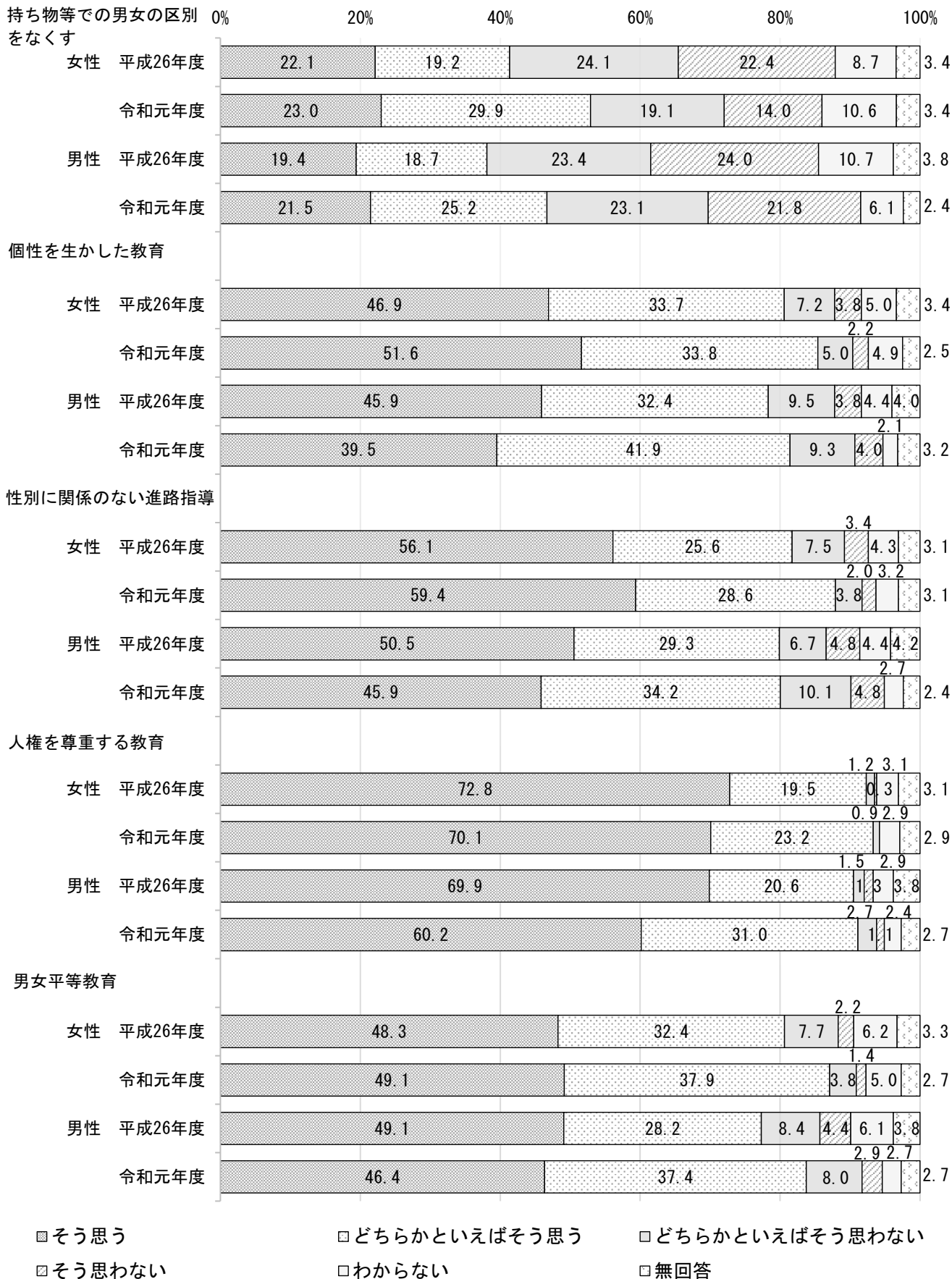
(4) 男女がお互いの人権を尊重する適切な教育が行われる方がよい



(5) 積極的に男女平等教育を進めた方がよい

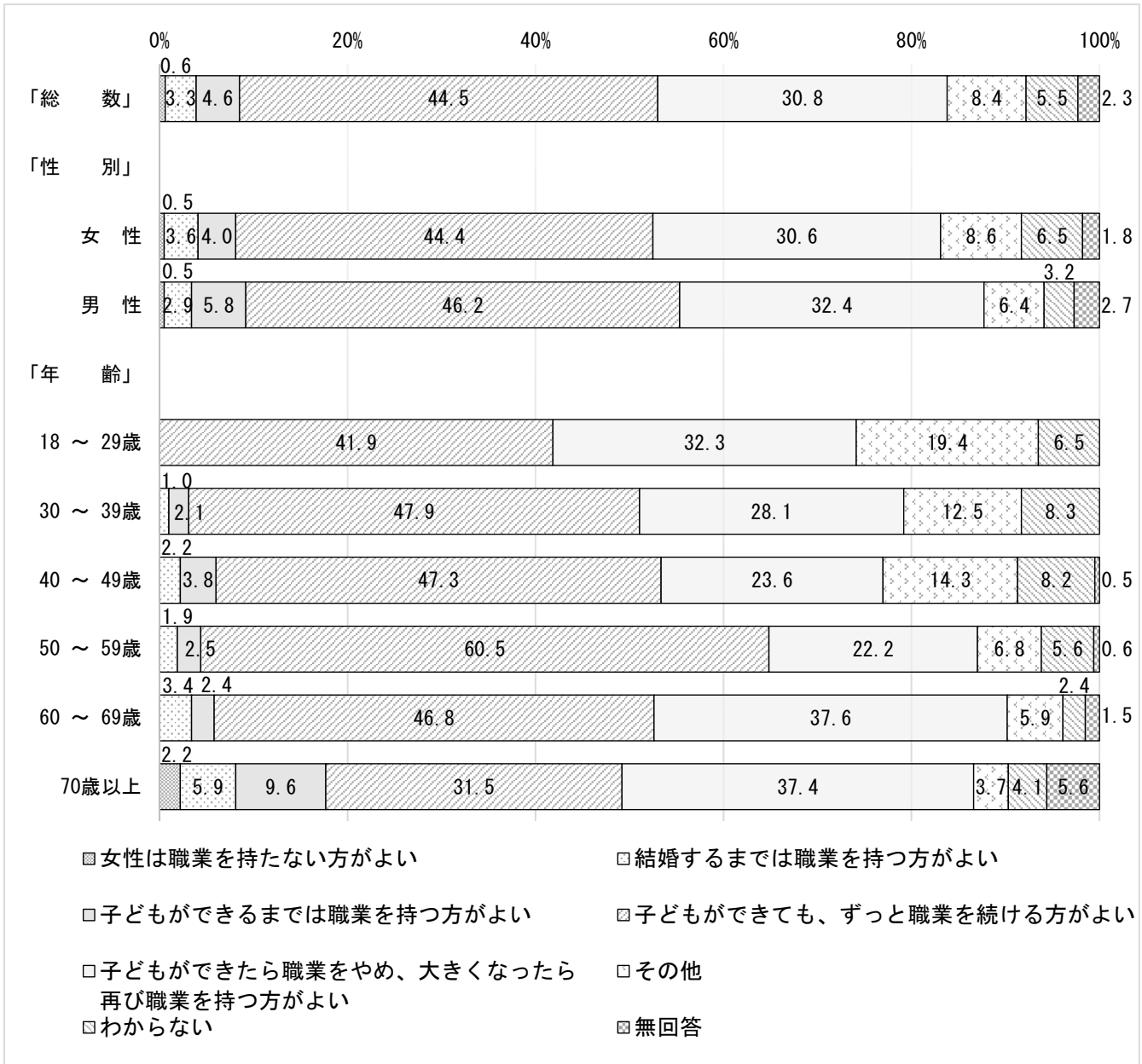


前回調査（平成26年度）との比較



就労について

問 14 あなたは、女性が職業を持つことについて、どう思いますか。当てはまるものを選んでください。（○は1つだけ）



○その他意見

- 1 学校を卒業したら就職し、子どもや結婚など変化したあとはその人や家族が決めること
- 2 いつでも自由に選択ができること
- 3 女性も職業を持ち、結婚や子育てで不利なことがない社会制度を構築し、このような男性にはしない質問がなくなればよいと思う。
- 4 職業を持ちたいと思う女性が、いつまでも続けられる方がよい。
- 5 女性全てについてではなく個々に考えるべきと思う。
- 6 子どもが育てられる環境であれば職業は続ける。
- 7 決めつけず、働きたい時に周りが協力してもらえるとよいと思う。
- 8 個人の意志を尊重
- 9 体力、考え方、仕事の意欲は人によるので全員同じという考え方をあてはめる方が違和感があります。

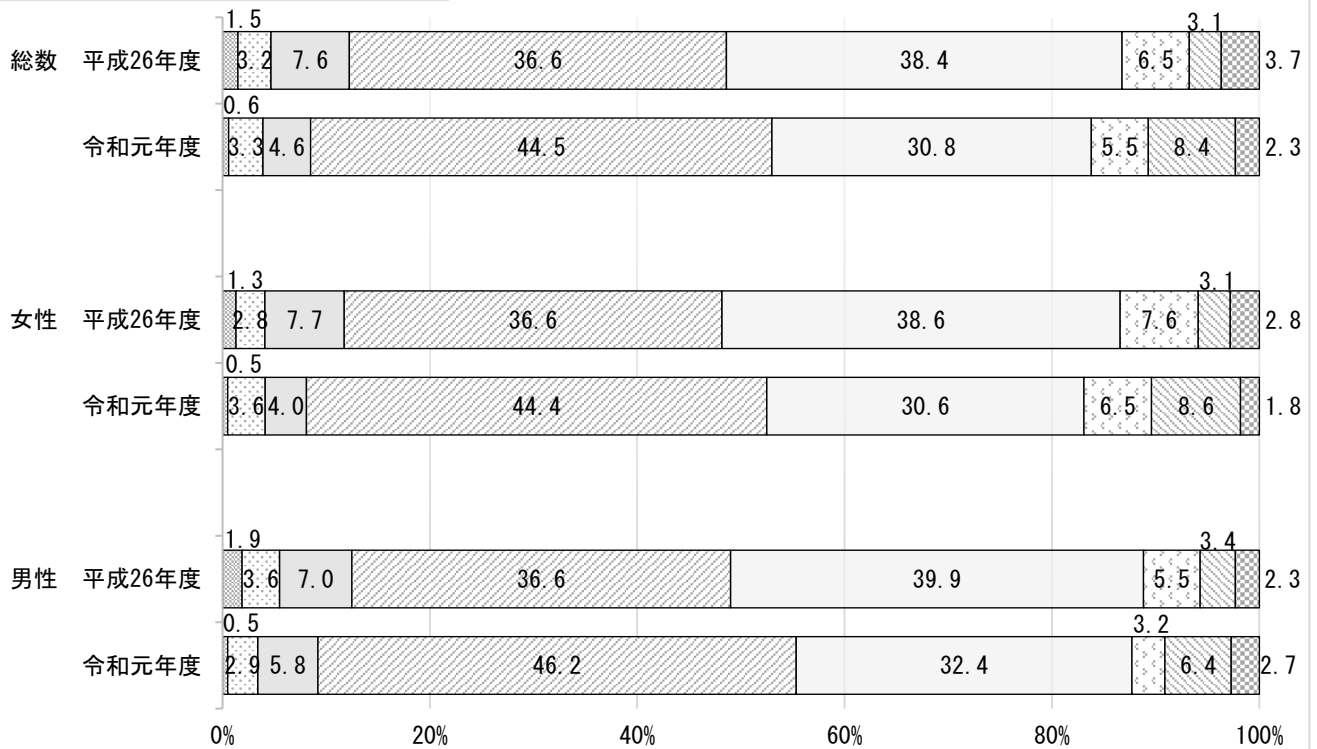
- 10 男女平等をすすめるなら女性も結婚、出産に関係なく働く。男性も主夫、パートの選択肢もありが当り前に選べるようになるとうい。
- 11 結婚、子育てにも対応出来る職業を持つ方がよい。
- 12 家族構成員の年齢、健康等により決定する。
- 13 個人のライフスタイルによる。
- 14 それぞれ職業を持つことにおいて事情があるので、個々の女性の考え方を尊重したい。
- 15 本人が望む生き方でよい。
- 16 これが絶対と言うのではなく、家庭、夫婦の話合いでいろいろなパターンがあつていいと思う。
- 17 独身の間は、職業をもつべきだが、結婚や子どもができるなど、家庭生活の変化によって、職業をやめるといふのも一つの選択肢としてあり、どのタイミングがいいとかではなく、あくまで、本人や家族の意志選択によって、職業に続けるもしくは、やめるべきである。
- 18 専業主婦を希望する人もいるので、いろんな選択が必要
- 19 画一的に論ずるもの。その多様性が色メガネなく受け入れられる社会であるべきで、後進性に憂う。
- 20 男女平等で一生職業を持つべき。
- 21 子どもができたなら職業を続けるかどうか夫婦で話をして決める。
- 22 保育の充実が出来てから。
- 23 家庭・育児中心の生活が理想だが、余裕のある生活を送るためにも仕事を続けることは良いと考える。
- 24 本人が就職・職業を望む人は自分に合った出来ることやりたいことで職業を持てばいい。
- 25 その時々状況に応じて柔軟に働けるとよい。
- 26 個人の自由にできるような、職場や家庭環境になると良いと思う。
- 27 個人によって事情が異なるので、「こうすべき」とはいえない。仕事を持つことは、良い。
- 28 人それぞれなので…経済環境や身体状況もあるため一概に言えない。
- 29 本人がどうしたいのかが一番大事。個人の意志を尊重。働きたくても働けてない人もいることには、心痛めますが。
- 30 子どもありきの話などで、何事も判断するべきではない。
- 31 職業を持つ、持たないは本人の意志。社会はその選択の意志を尊重すべき。続ける場合の会社、社会や家族の理解協力が必要
- 32 個人の思想と家庭の状況によって選択するべき。
- 33 職業を持つていても結婚や出産などのイベントに合わせ、やめてもいいし、続けてもいい。自身の優先順位に合わせる。
- 34 短期休業。あとはフレックスで職業を持つ。
- 35 個々の女性の考え、生活にそつた考えで職業を持つ、持たない、続ける、続けないを考えればよいと思う。女性とひとくりにすること自体が差別につながると思う。
- 36 仕事を持つ事は良いと思う。いつやめるとかは夫婦が話して決めたら良い事

【全体】

女性が職業を持つことについて、「女性は職業を持たない方がよい」と答えた者が0.6%、「結婚するまでは職業を持つ方がよい」と答えた者が3.3%、「子どもができるまでは職業を持つ方がよい」と答えた者が4.6%、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と答えた者が44.5%、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなつたら再び職業を持つ方がよい」と答えた者が30.8%となっている。

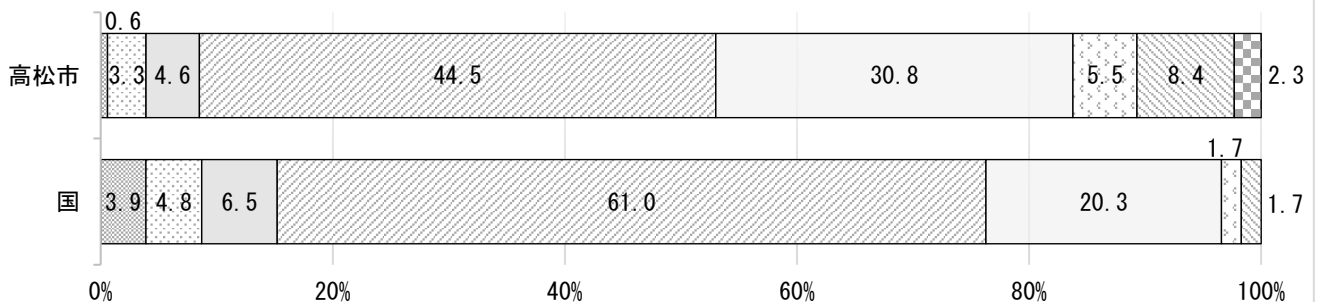
前回の調査結果と比較してみると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と答えた者の割合が7.9ポイント上昇(36.6%→44.5%)し、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなつたら再び職業を持つ方がよい」と答えた者の割合が7.6ポイント低下(38.4%→30.8%)している。

前回調査（平成26年度）との比較



- 女性は無職の方がよい
- 結婚するまでは職業を持つ方がよい
- 子どもができるまでは職業を持つ方がよい
- 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい
- わからない
- その他
- 無回答

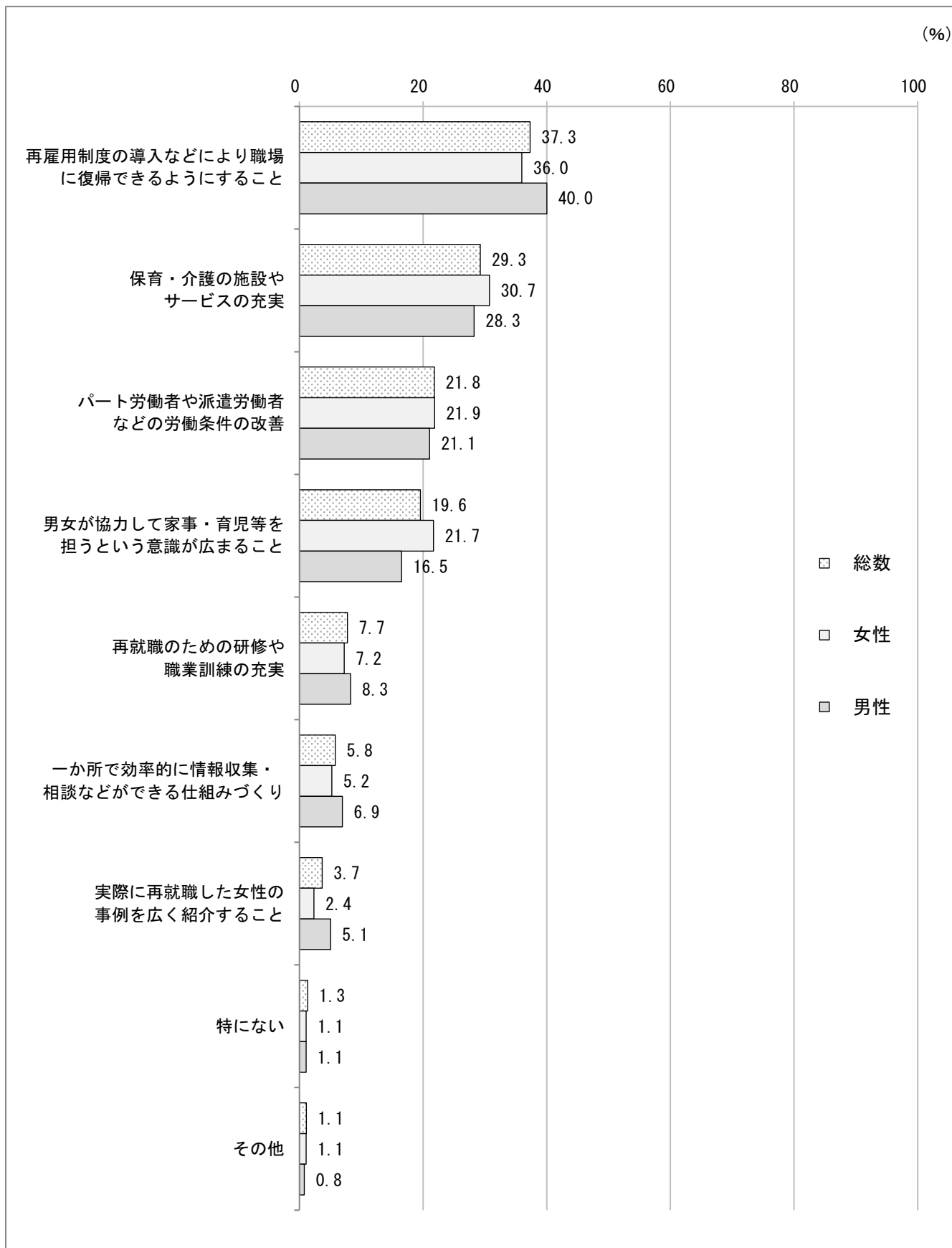
国との比較



- 女性は無職の方がよい
- 結婚するまでは職業を持つ方がよい
- 子どもができるまでは職業を持つ方がよい
- 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい
- わからない
- その他
- 無回答

[問 14 で「1 女性は職業を持たない方がよい」以外を選んだ方のみお答えください。]

問 15 出産・育児・介護などのため仕事をいったん辞めてから再就職を希望する女性が、再就職しやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。特に当てはまるものを選んでください。(〇は3つまで)



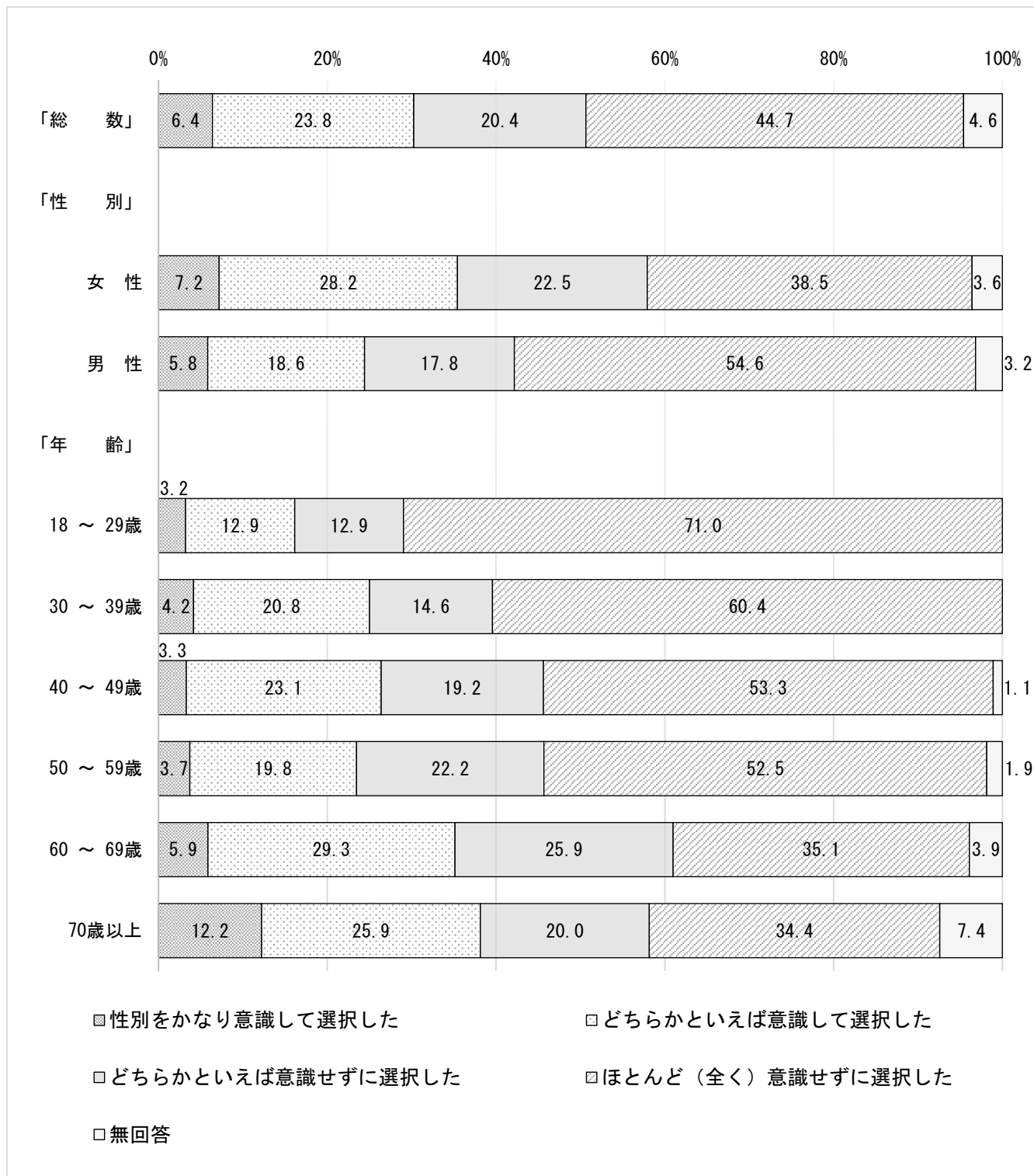
○その他意見

- 1 そもそも辞めなくてもいい職場を目指す。
- 2 再雇用制度ではなく、休職制度を充実させる。
- 3 現在のネックが何かを明らかにする。その上でその問題は誰が解決することかを、尋ねること？
- 4 企業利益と相反。年功の継続を認めると給与の負担が増え、企業側がネック
- 5 いったんやめなくてよい社会にしなければならない。
- 6 保育だけではなくて、学童の差をなくしてほしい。（小学校により受入れ人数がちがうなど）学童を充実させないと、低学年の子どもがいるときに困る。保育→学童がエスカレート式に受け入れ先が決まると仕事がしやすい。
- 7 出産、育児の場合は、再就職の際の子どもの受け入れ、待機児童問題の改善
- 8 産休・育休取得時の企業の欠員補充を行政側がバックアップすること。人材採用費用の補助等。でないと中小企業の女性職員の“産・育休の取得しづらい風潮”がある企業について、いつまでたっても問題が解消されない。

【全体】

女性の再就職支援に関して、回答が多かったのは、「再雇用制度の導入などにより職場に復帰できるようにする」（37.3%）、「保育・介護の施設やサービスの充実」（29.3%）「パート労働者や派遣労働者などの労働条件の改善」（21.8%）の順となっている。

問 16 あなたは、進路や職業を選択する際に、性別を意識しましたか。この中からお答えください。
(○は1つだけ)



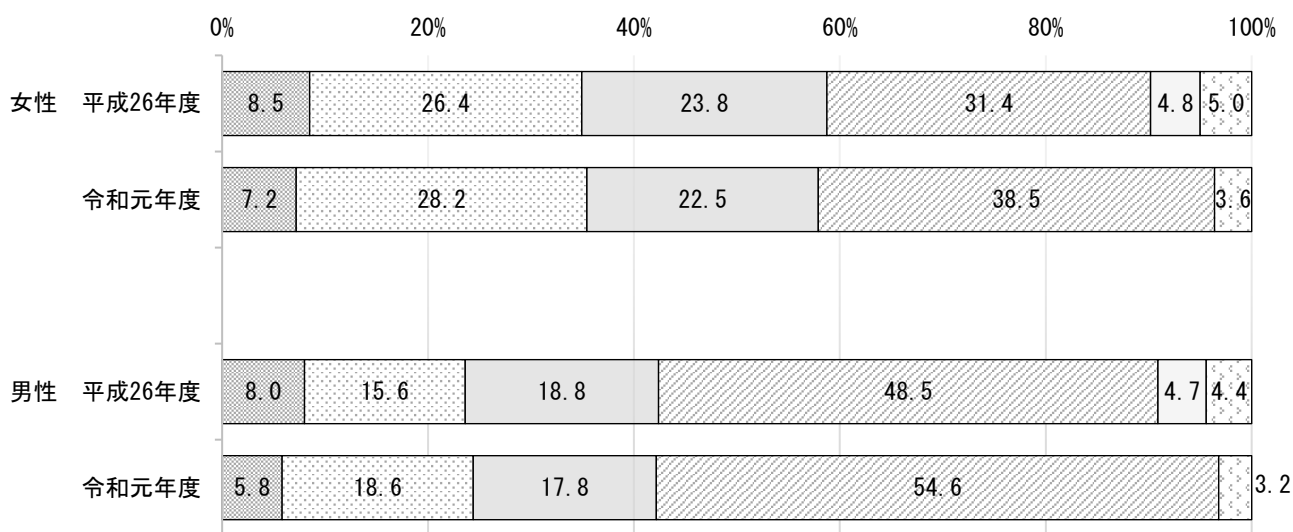
【全体】

進路や職業を選択する際に、性別を意識したか聞いたところ、「性別を意識して選択した」とする者の割合が30.2%、「性別を意識せずに選択した」とする者の割合が65.1%となっている。

性別を見ると、「性別を意識して選択した」とする者の割合は女性で、「性別を意識せずに選択した」とする者の割合は男性で、それぞれ高くなっている。

年齢別に見ると、「性別を意識して選択した」とする者は、60歳未満は4人に1人程度が「性別を意識して選択した」と回答したのに対し、60歳以上では3人に1人以上と割合が高くなっている。

前回調査（平成26年度）との比較



性別をかなり意識して選択した

どちらかといえば意識して選択した

どちらかといえば意識せずに選択した

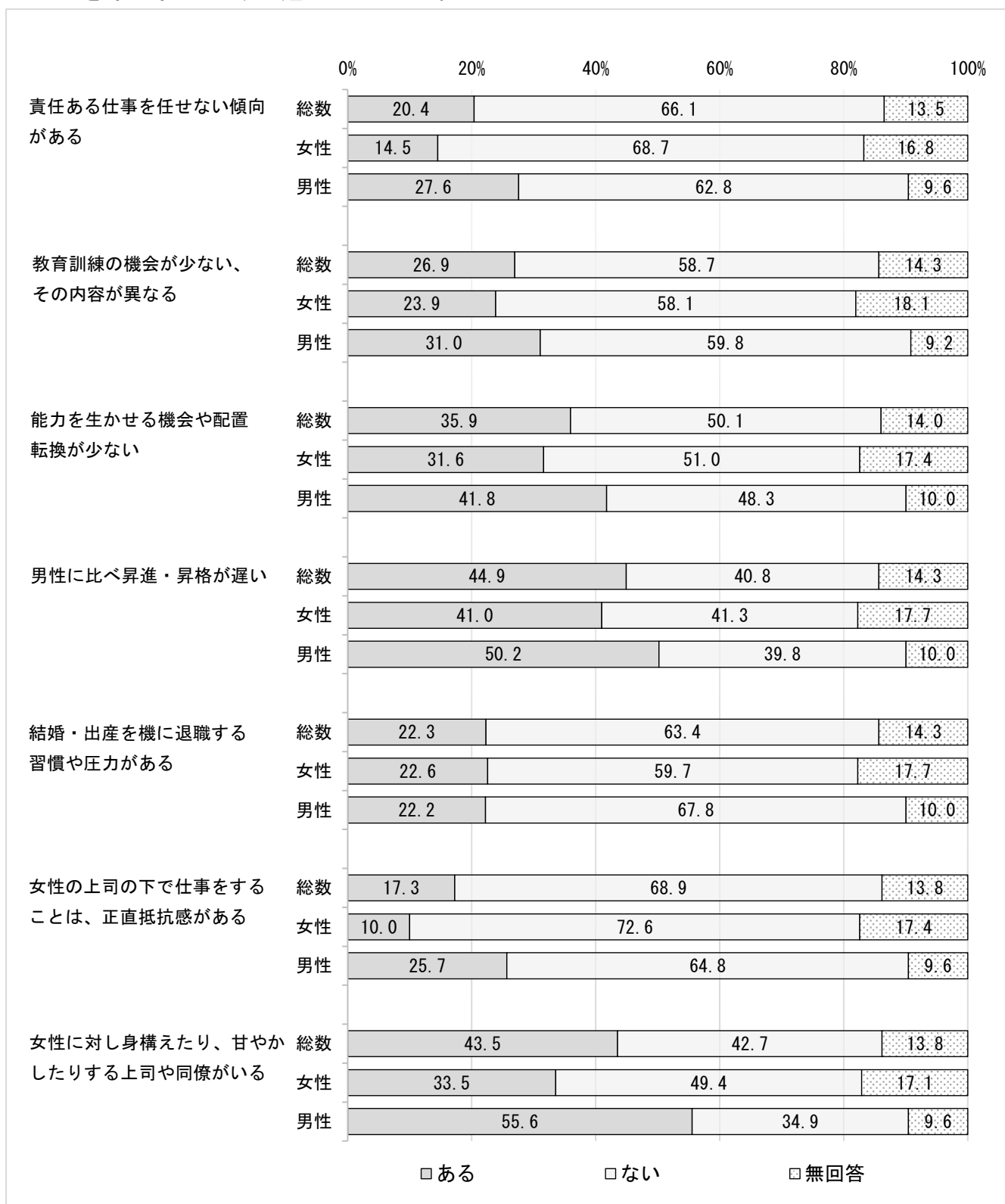
ほとんど（全く）意識せずに選択した

わからない

無回答

[現在、職業を持っている方のみにお聞きします。]

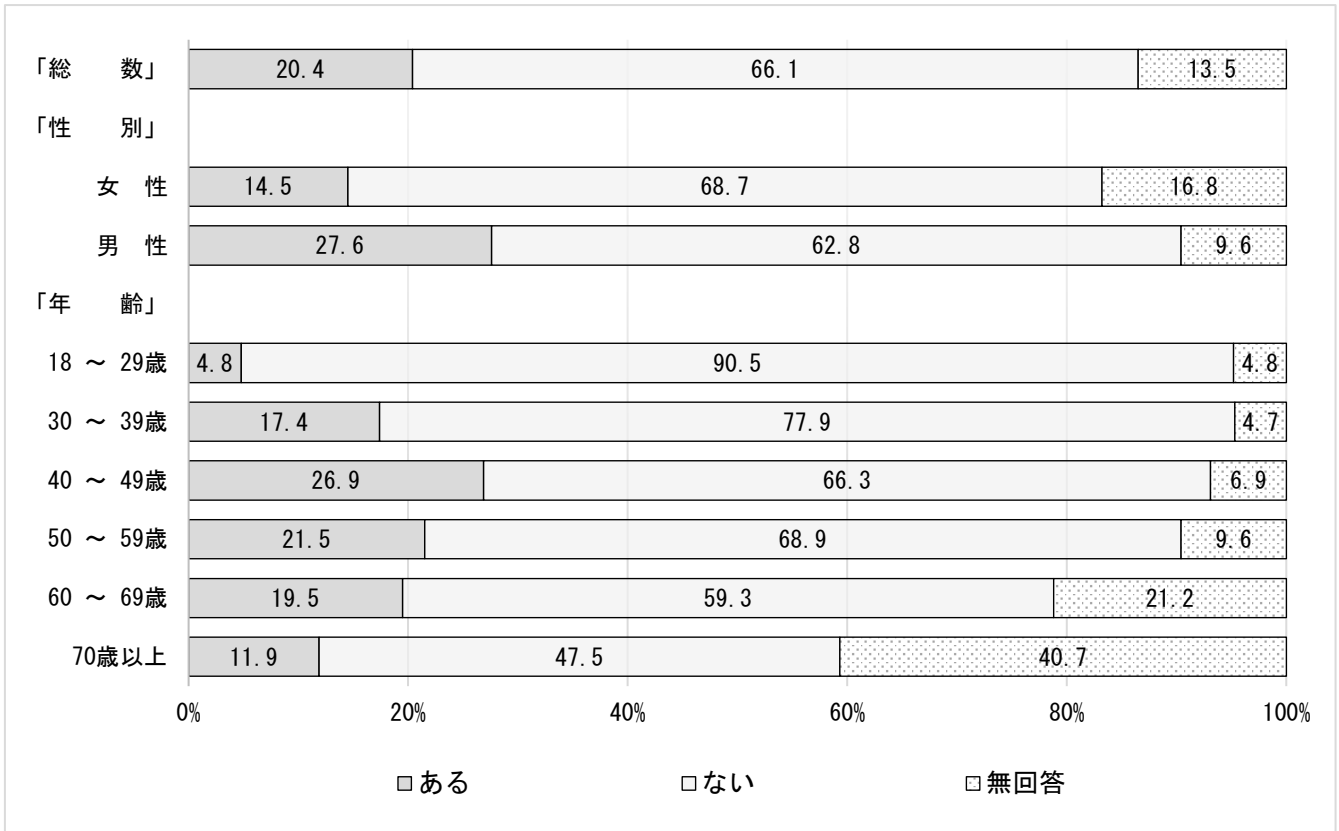
問 17 あなたの職場の中で、女性について、次のように感じることはありますか。当てはまる数字をそれぞれ1つずつ選んでください。



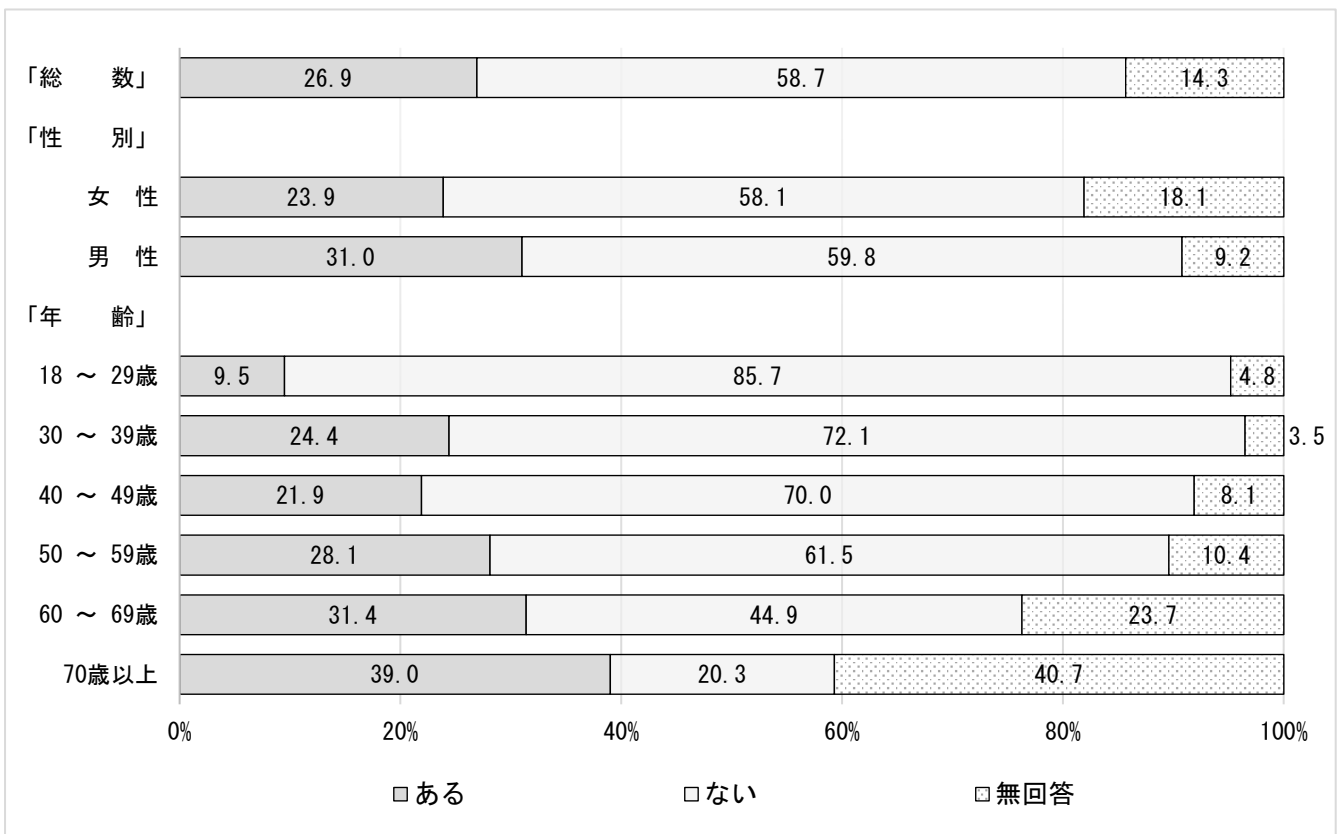
【全体】

職場の女性に関する事柄のうち、「責任ある仕事を任せない傾向がある」が20.4%（前回31.6%）、「教育訓練の機会が少ない、その内容が異なる」が26.9%（前回38.6%）、「結婚・出産を機に退職する習慣や圧力がある」が22.3%（前回31.9%）、「女性の上司の下で仕事をするには、正直抵抗感がある」が17.3%（前回25.9%）といずれも8ポイント以上、前回調査より女性にとっての職場環境が改善されている項目があることがうかがえる。

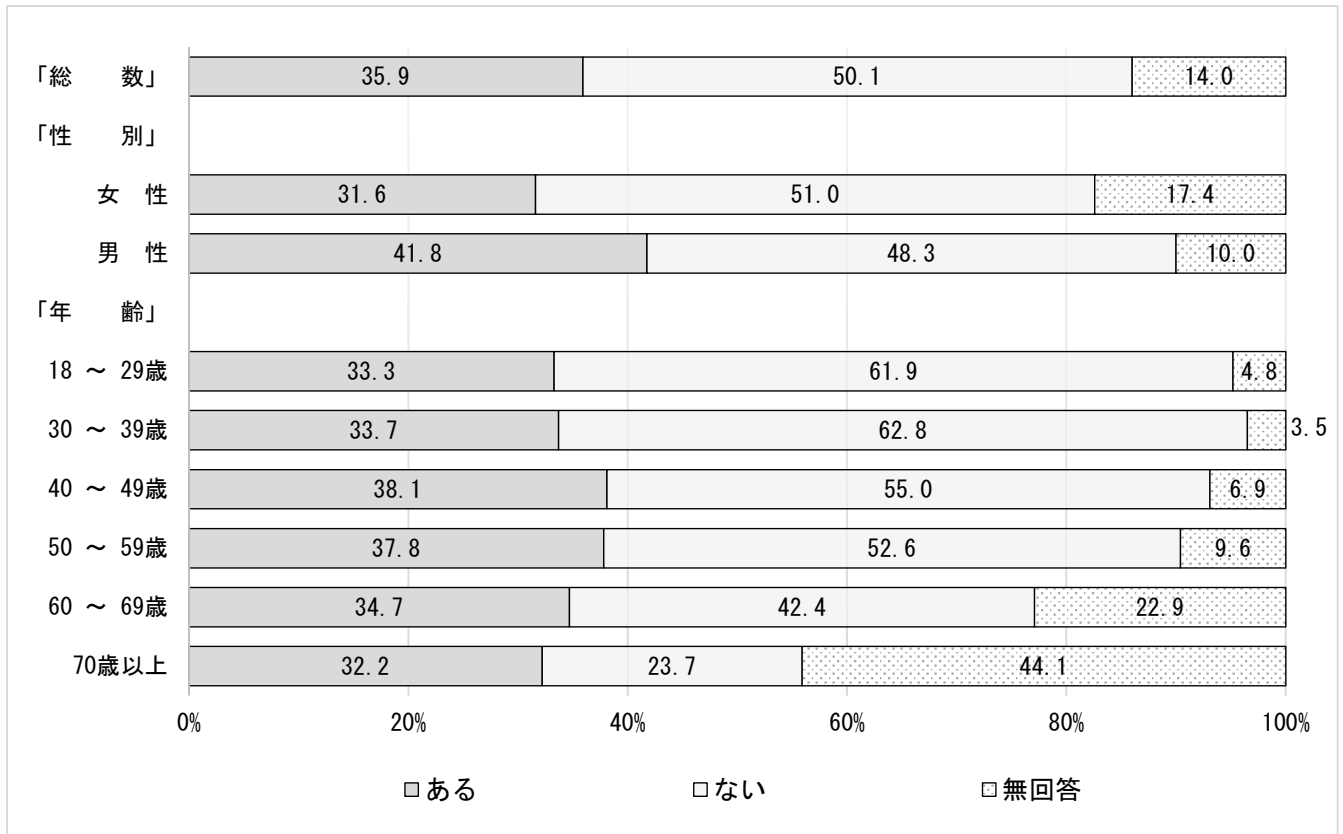
(1) 責任ある仕事を任せない傾向がある



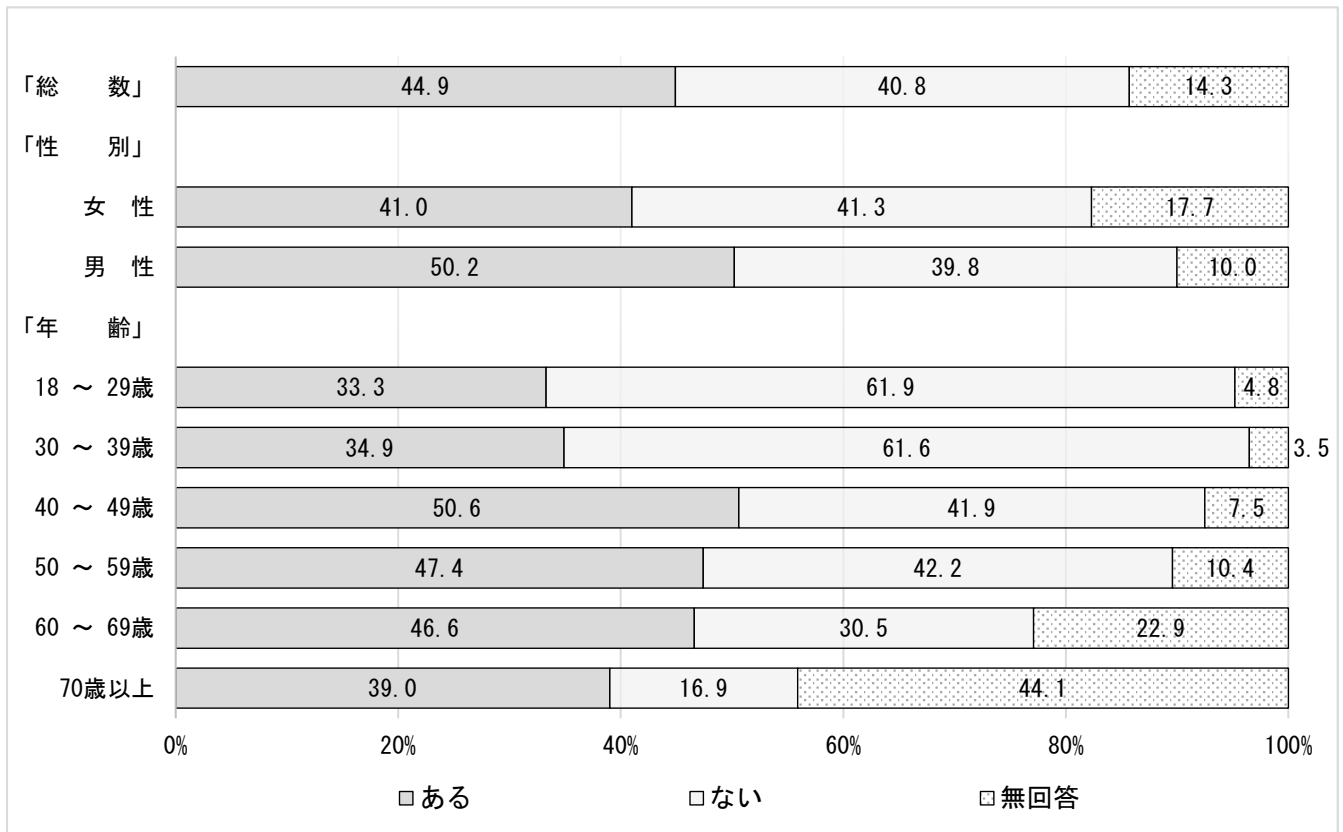
(2) 教育訓練の機会が少ない、その内容が異なる



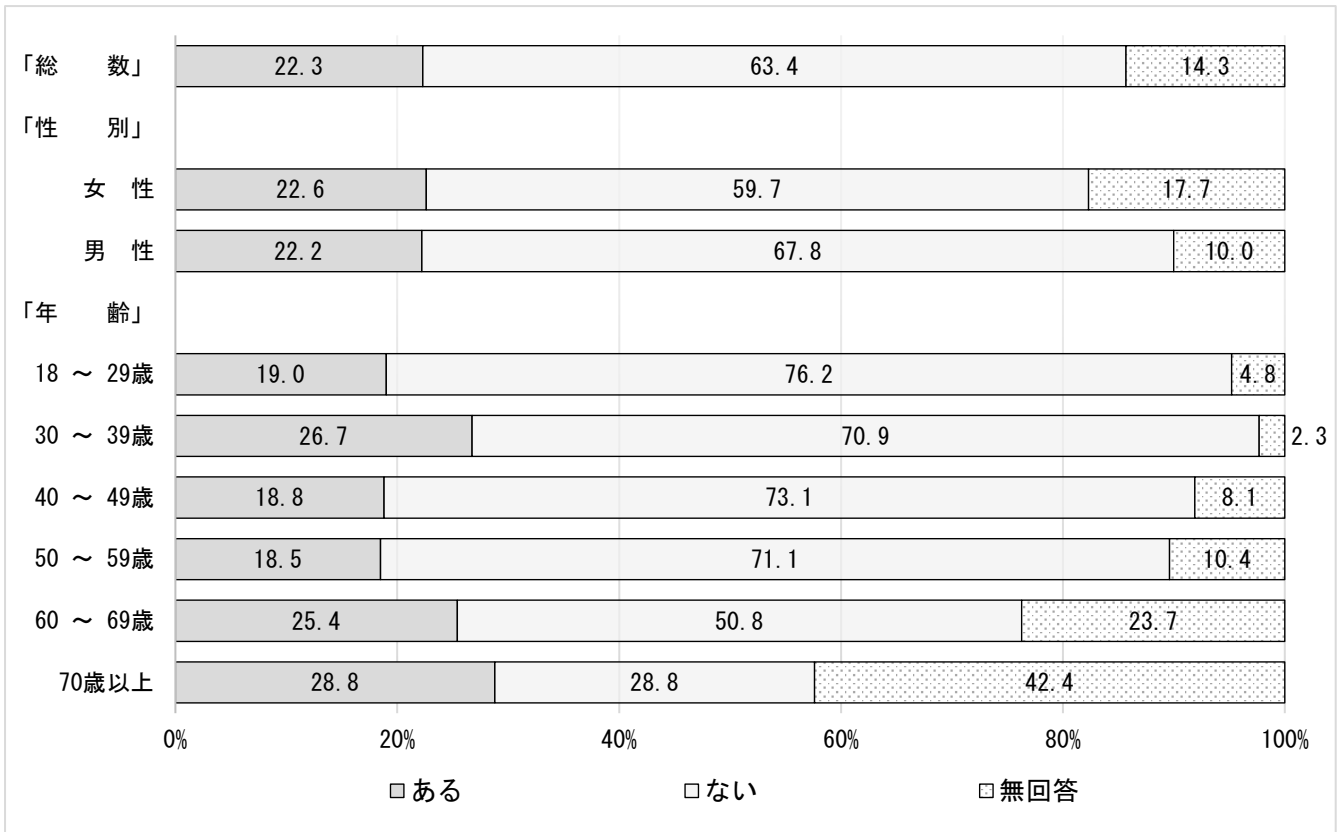
(3) 能力を生かせる機会や配置転換が少ない



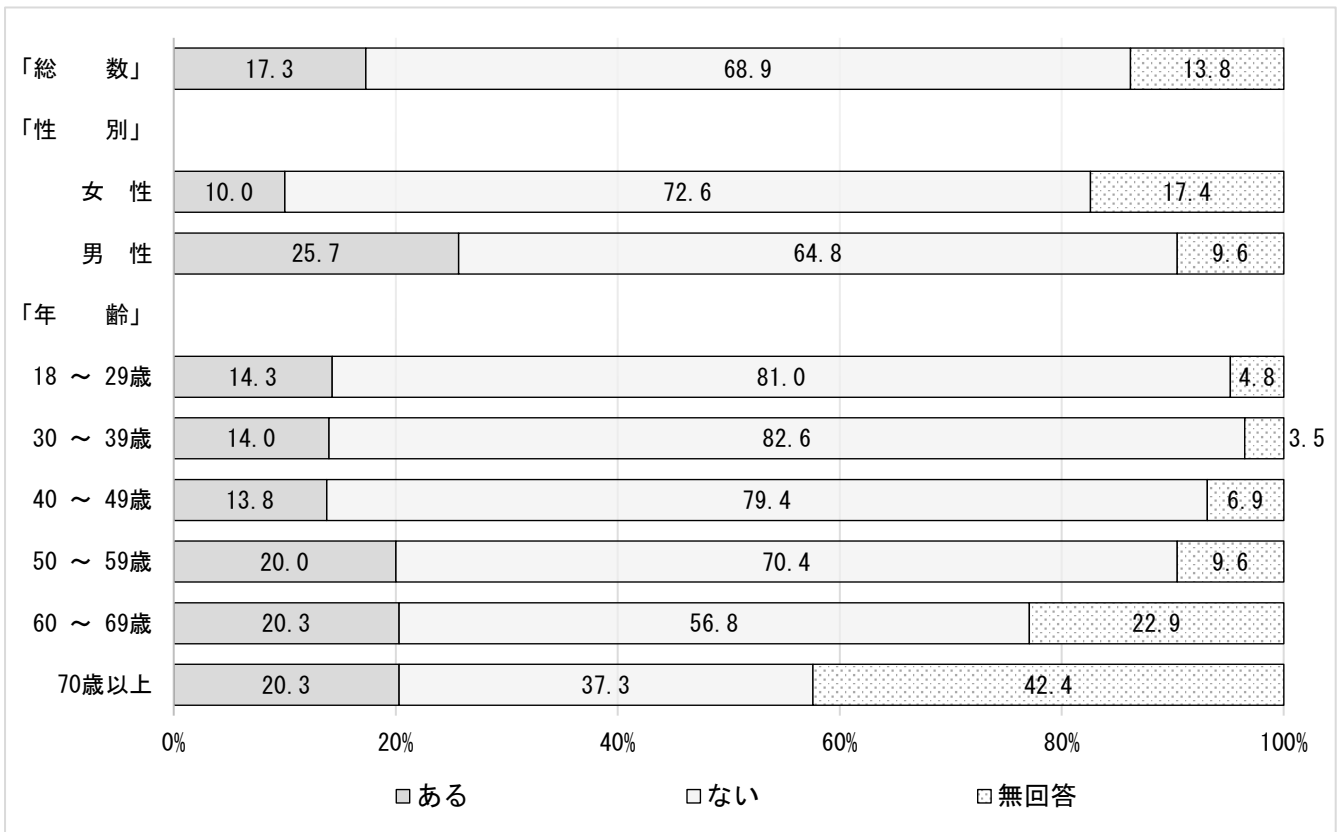
(4) 男性に比べ昇進・昇格が遅い



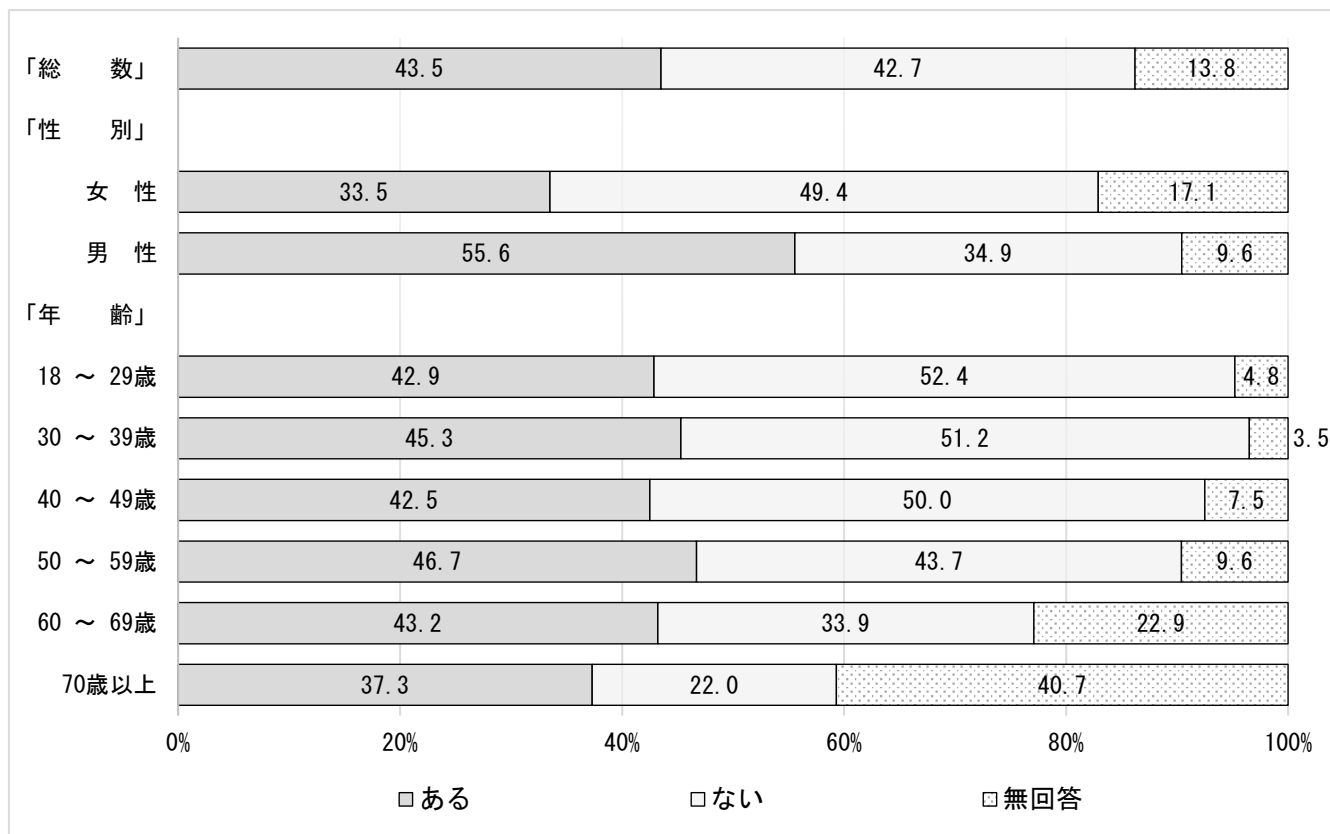
(5) 結婚・出産を機に退職する習慣や圧力がある



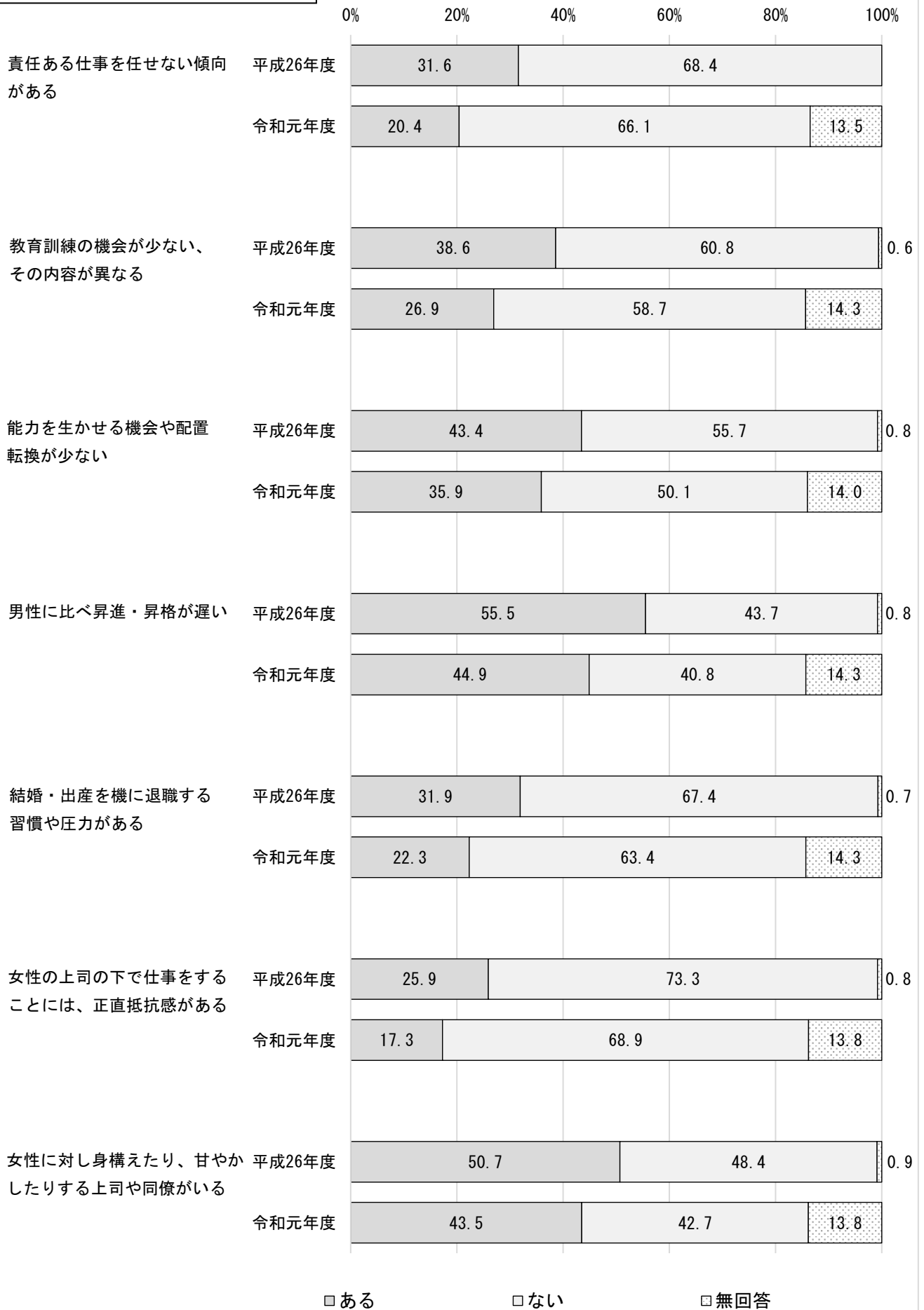
(6) 女性の上司の下で仕事をするには、正直抵抗感がある



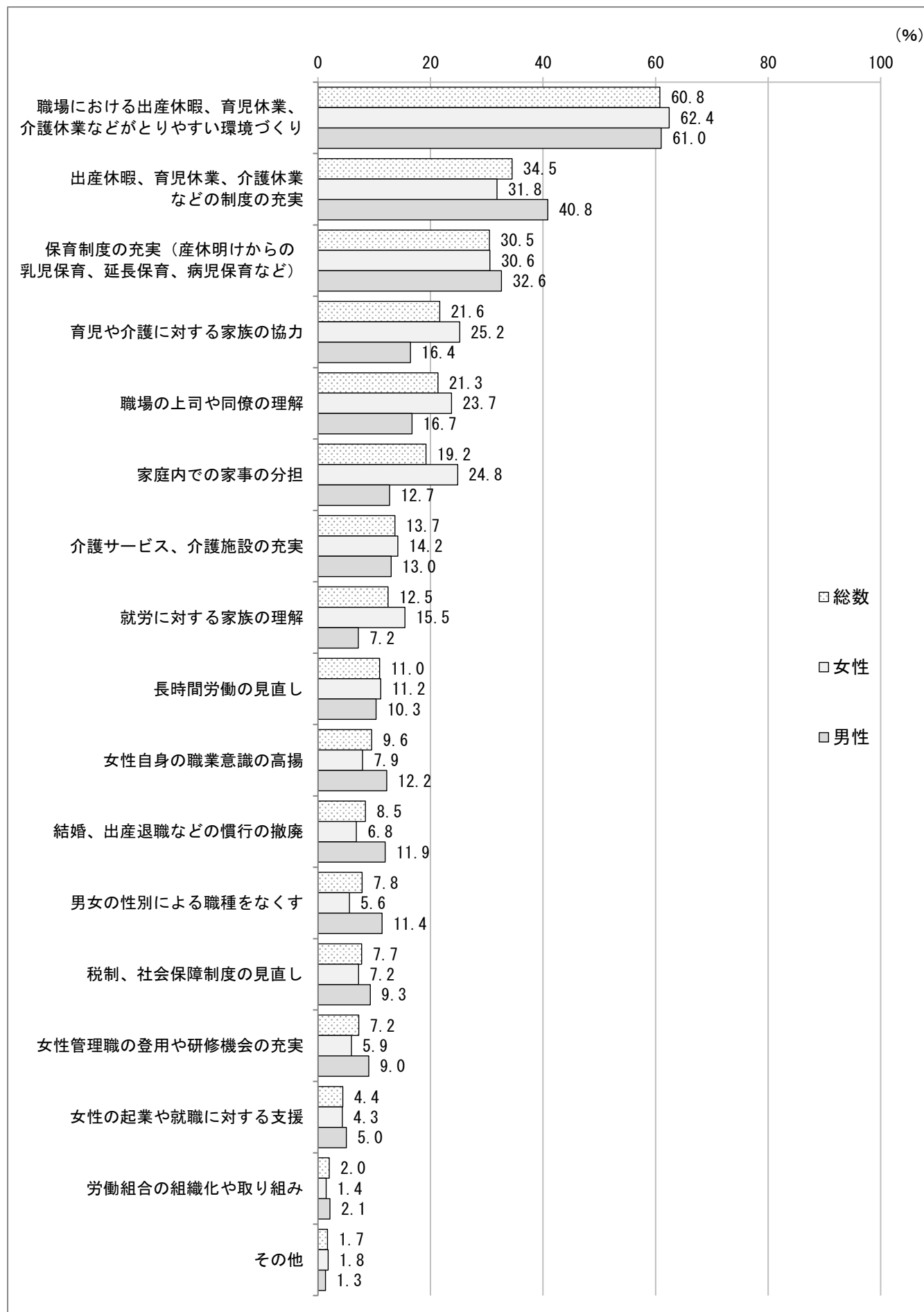
(7) 女性に対し身構えたり、甘やかしたりする上司や同僚がいる



前回調査（平成26年度）との比較



問 18 女性と男性が平等に仕事を続けていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。特に必要と思われるものを選んでください。（〇は3つまで）



○その他意見

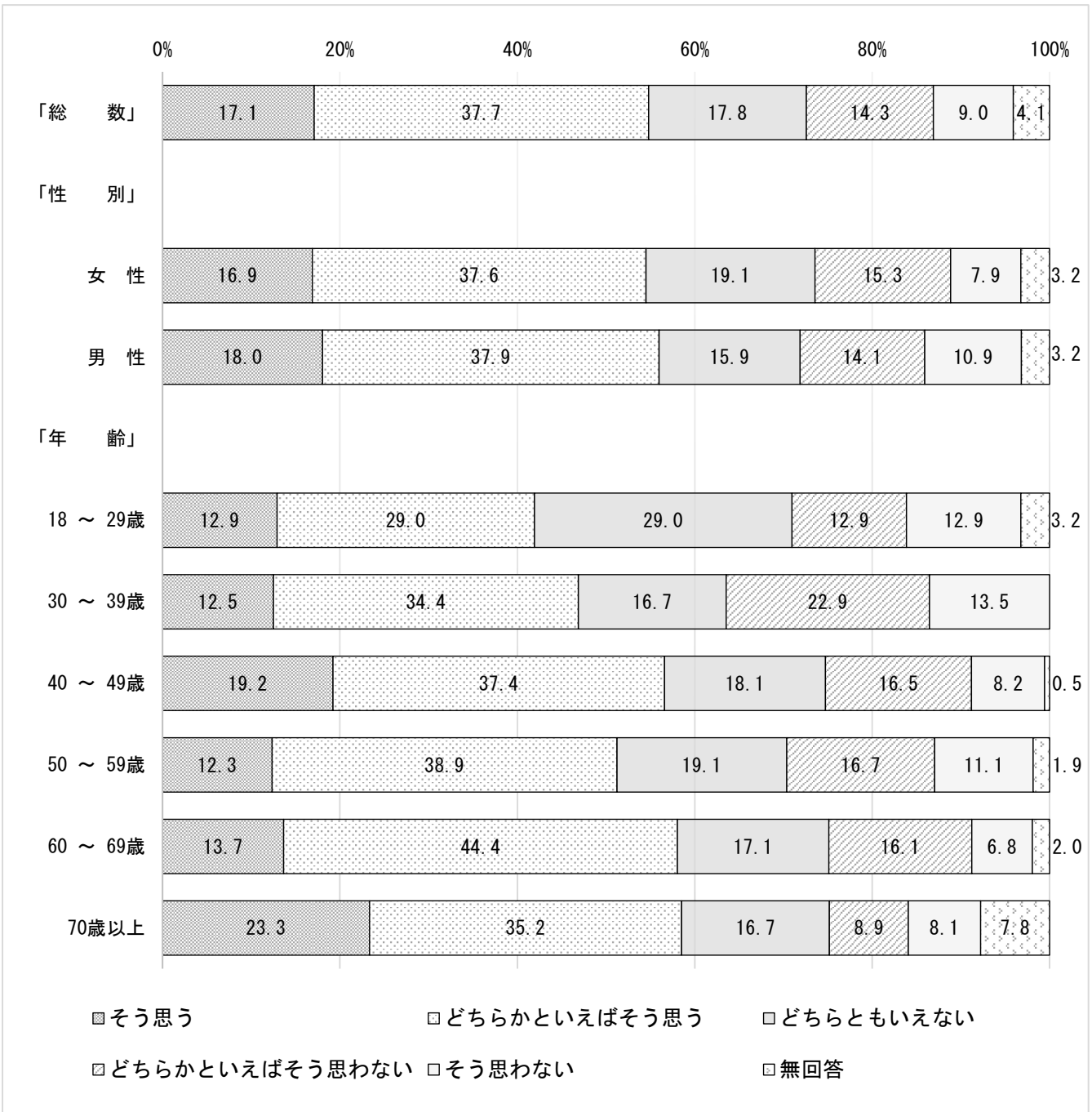
- 1 古い考えの男性への男女平等に対する教育
- 2 男性の意識の改革
- 3 片方の給料が上がる。
- 4 夜勤あり、体力を使う現場仕事ですが男女平等はムリである。お互いできるできないを認めることが先である。
- 5 人手不足の解消
- 6 平等は不可能
- 7 転勤制度をなくすこと
- 8 適切で臨機応変な人事対応
- 9 女性側の意識改革（逃げの姿勢撤廃）
- 10 保育制度の充実だけでなく、学童までの充実が必要
- 11 男性がもっと育児に参加。会社の上司、役員の考えを変えるべき。

【全体】

男女が平等に仕事を続けていくために必要なことのうち、「職場における出産休暇、育児休業、介護休業などがとりやすい環境づくり」が60.8%と圧倒的に高く、以下、「出産休暇、育児休業、介護休業などの制度の充実」が34.5%、「保育制度の充実（産休明けからの乳児保育、延長保育、病児保育など）」が30.5%などとなっている。

ワーク・ライフ・バランスについて

問 19 あなたは、仕事や家庭、地域・社会活動、趣味・娯楽など、自分が希望する時間の使い方ができていると思いますか。当てはまるものを選んでください。（○は1つだけ）



【全体】

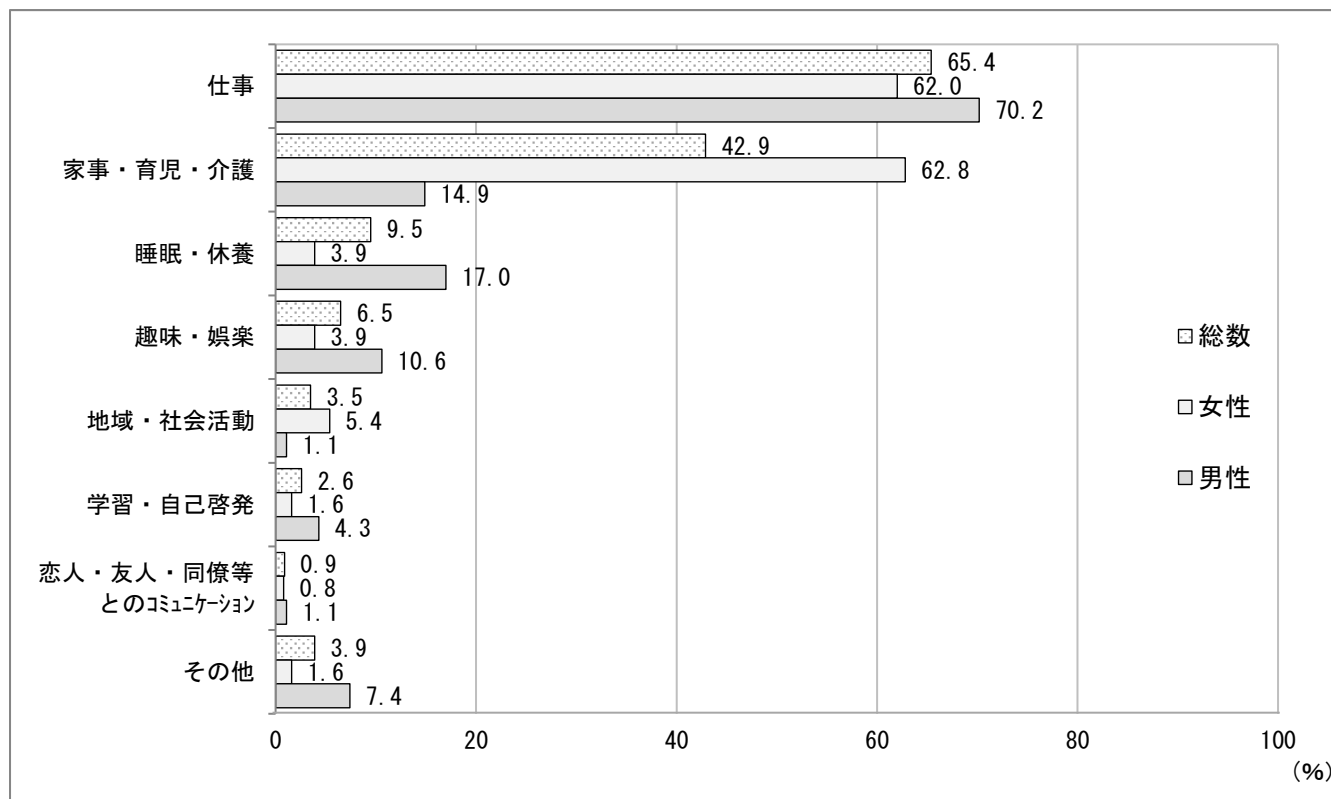
自分が希望する時間の使い方ができていると思うかという問いに対して、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と答えた者は、全体の54.8%となっており、過半数の人が、自分が希望する「仕事や家庭、地域・社会活動」などに時間を使っている。

一方、「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」と答えた者は、23.3%となっている。これらの人が、時間を取りすぎていると考えているのは、男性は、「仕事」が最も多く、女性は、「家事・育児・介護」が最も多くなっている。逆に、時間が取れていないと考えているのは、男女ともに、「趣味・娯楽」が最も多く、その後、「睡眠・休養」が続いている。

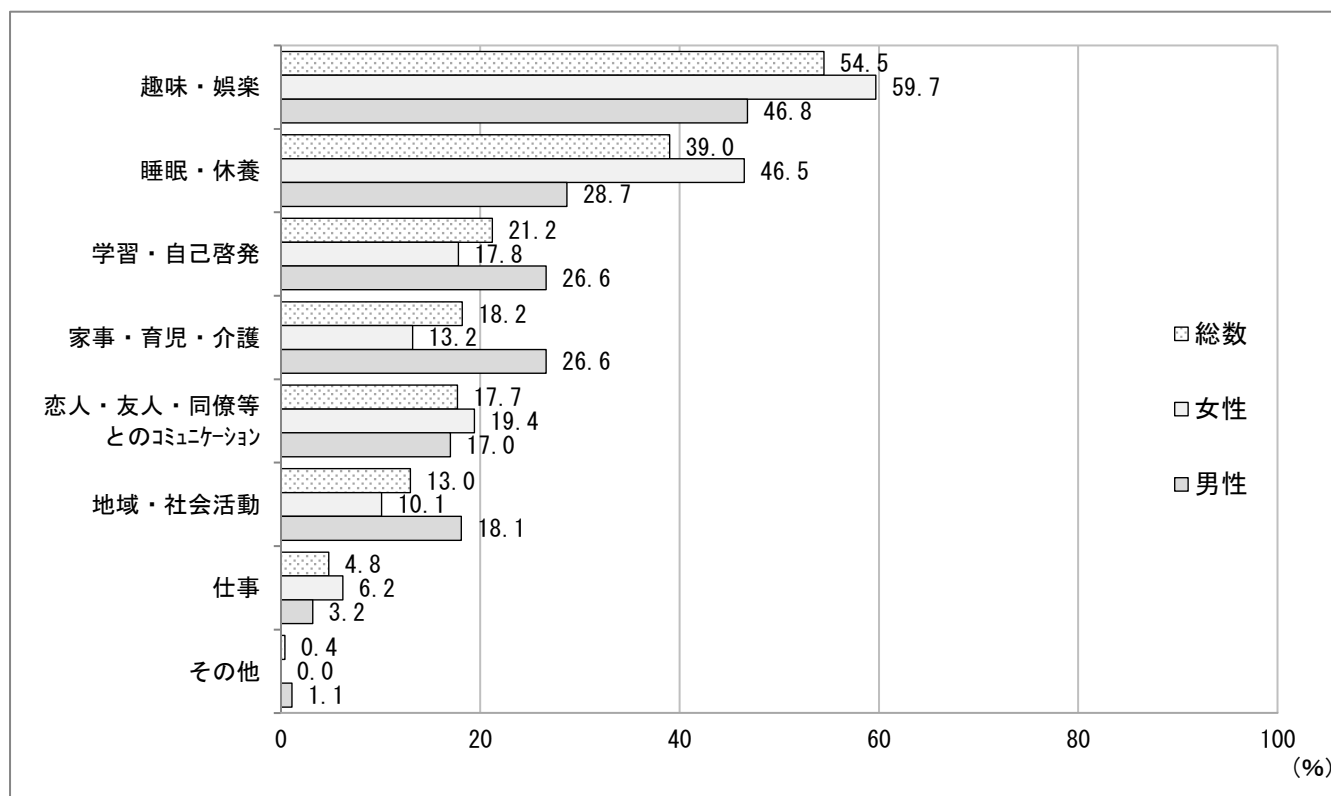
[問 19 で「4 どちらかといえばそう思わない」又は「5 そう思わない」を選んだ方のみ、問 20 と問 21 にお答えください。]

問 20 あなたが「時間を取りすぎていると思う活動」、「時間が取れていないと思う活動」は、どれですか。それぞれ、特に当てはまるものを2つまで選んで番号を記入ください。

(1) 時間を取りすぎていると思う活動

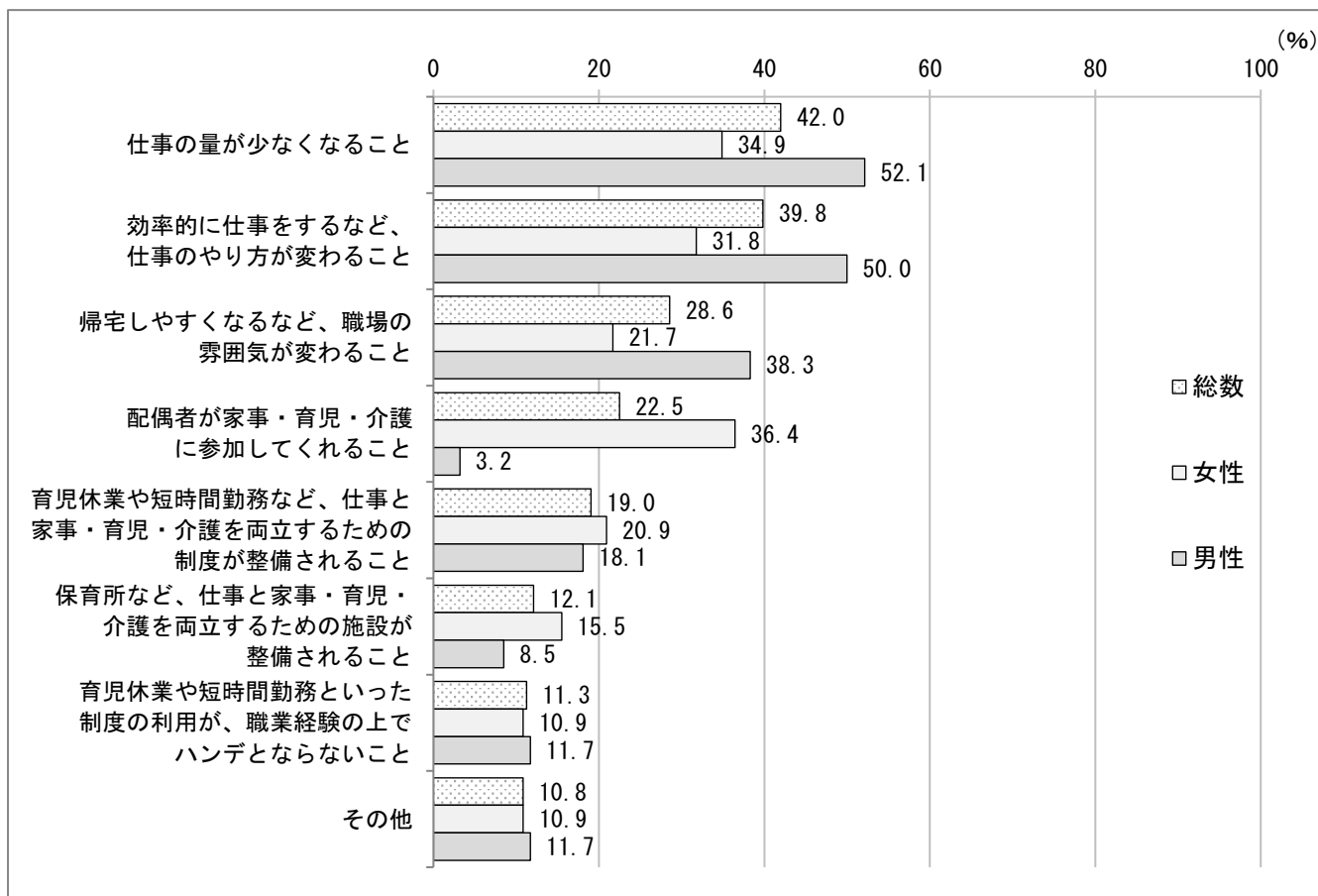


(2) 時間が取れていないと思う活動



[引き続き、問 19 で「4 どちらかといえばそう思わない」又は「5 そう思わない」を選んだ方にお聞きします]

問 21 どのようにすれば、自分が希望する時間の取り方ができると思いますか。特に当てはまるものを選んでください。(〇は3つまで)



○その他意見

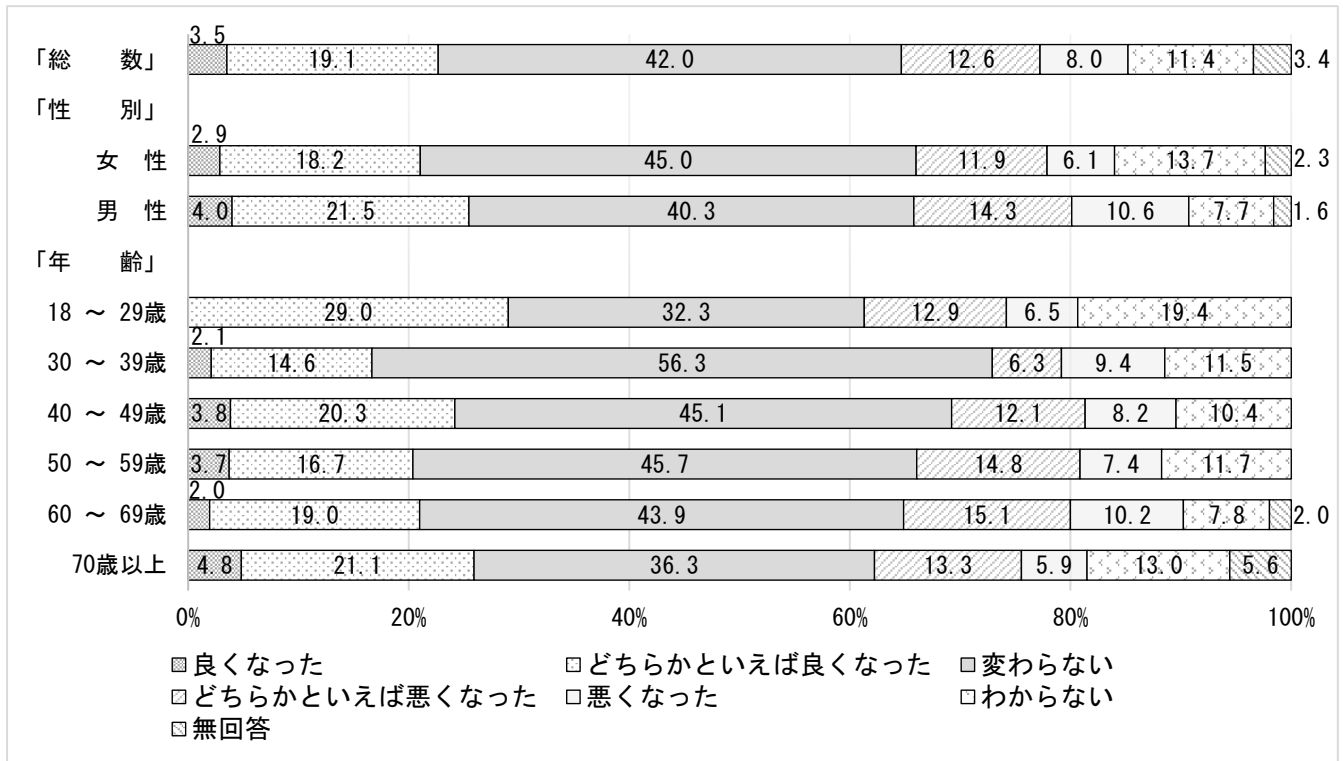
- 1 夫は協力的だが仕事が優先になるので、夫も残業ゼロだと助かる。
- 2 勤務時間（定時）に帰れること
- 3 孫がある程度の年になるまで。
- 4 意欲の向上
- 5 健康を取り戻せたら。
- 6 障がい児に対するサポートの充実。親は全く休めません。夫の出張が多すぎる。
- 7 子どもの成長を待つ。
- 8 自分次第
- 9 情報公開が進むこと
- 10 母子であり手伝ってくれる人がいないため、全部一人でしないといけないので時間はとれない。
- 11 人材が足りないので人材を適材適所に配置する。
- 12 経済的困窮からの脱却（ワーキングプア）

【全体】

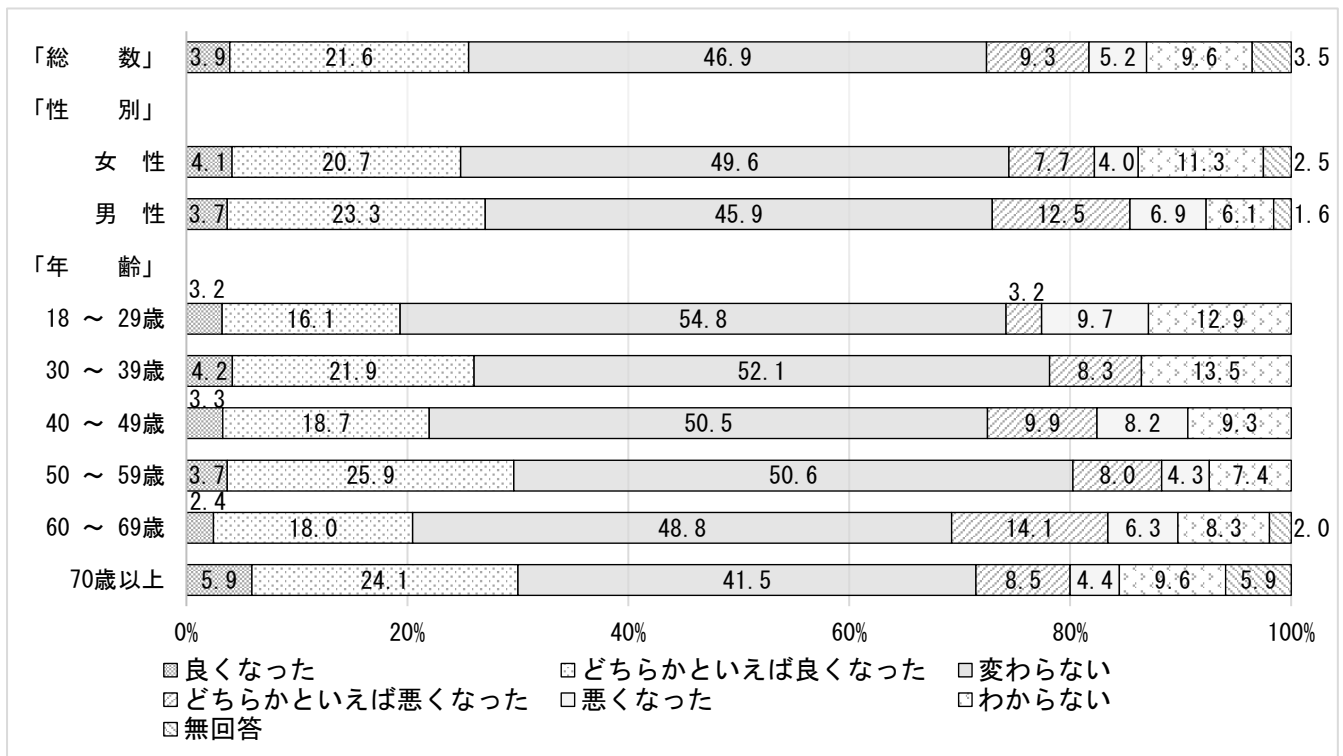
どうすれば自分が希望する時間の取り方ができるかについて、回答が多かったのは、「仕事の量が少なくなること」（42.0%）、「効率的に仕事をするなど仕事のやり方が変わること」（39.8%）、「帰宅しやすくなるなど職場の雰囲気が変わること」（28.6%）などとなっている。

問 22 政府は「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が実現した社会」について、以下の3つの項目を掲げています。あなた自身の生活や身の回りの環境から判断して、それぞれの項目が5年前と比較して、どのように変化していると思いますか。最も近いものをそれぞれお答えください。（○は1つだけ）

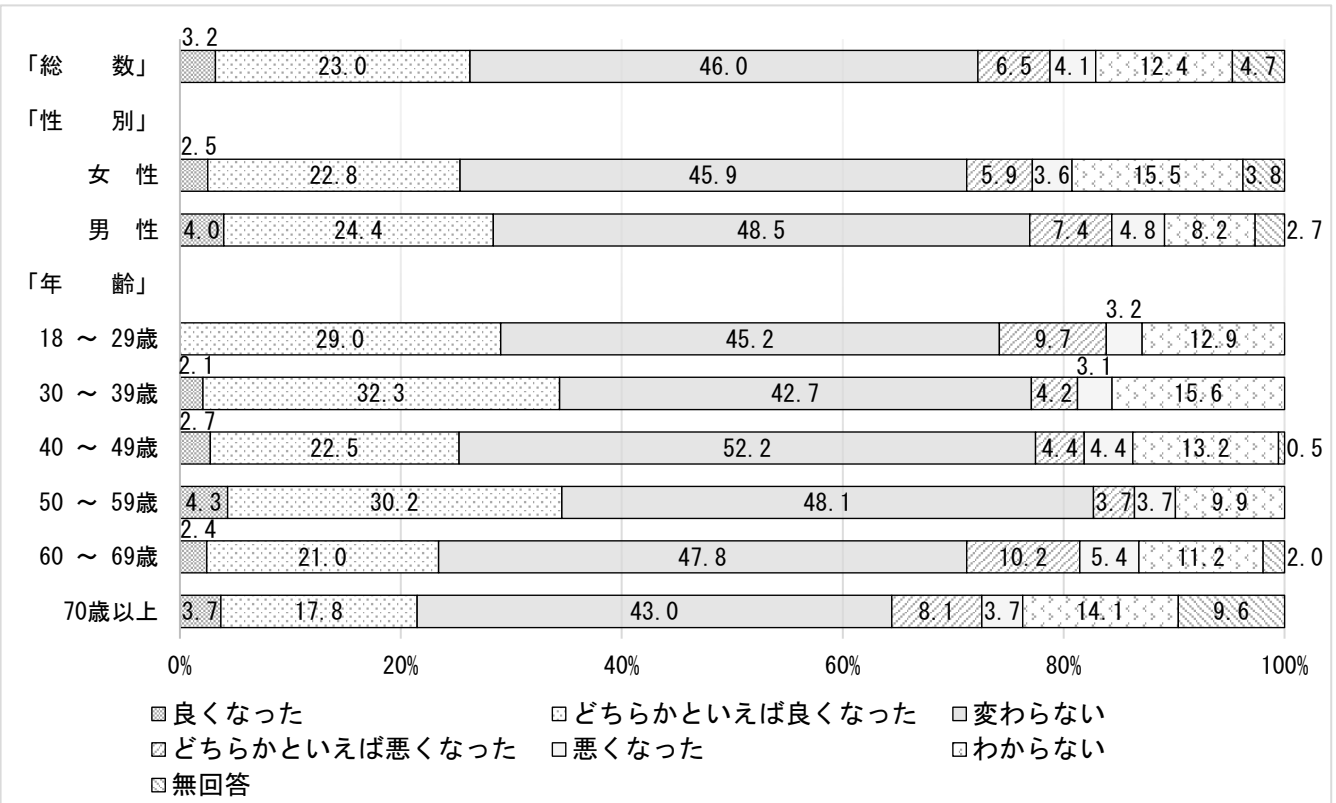
(1) 就労による経済的自立が可能な社会



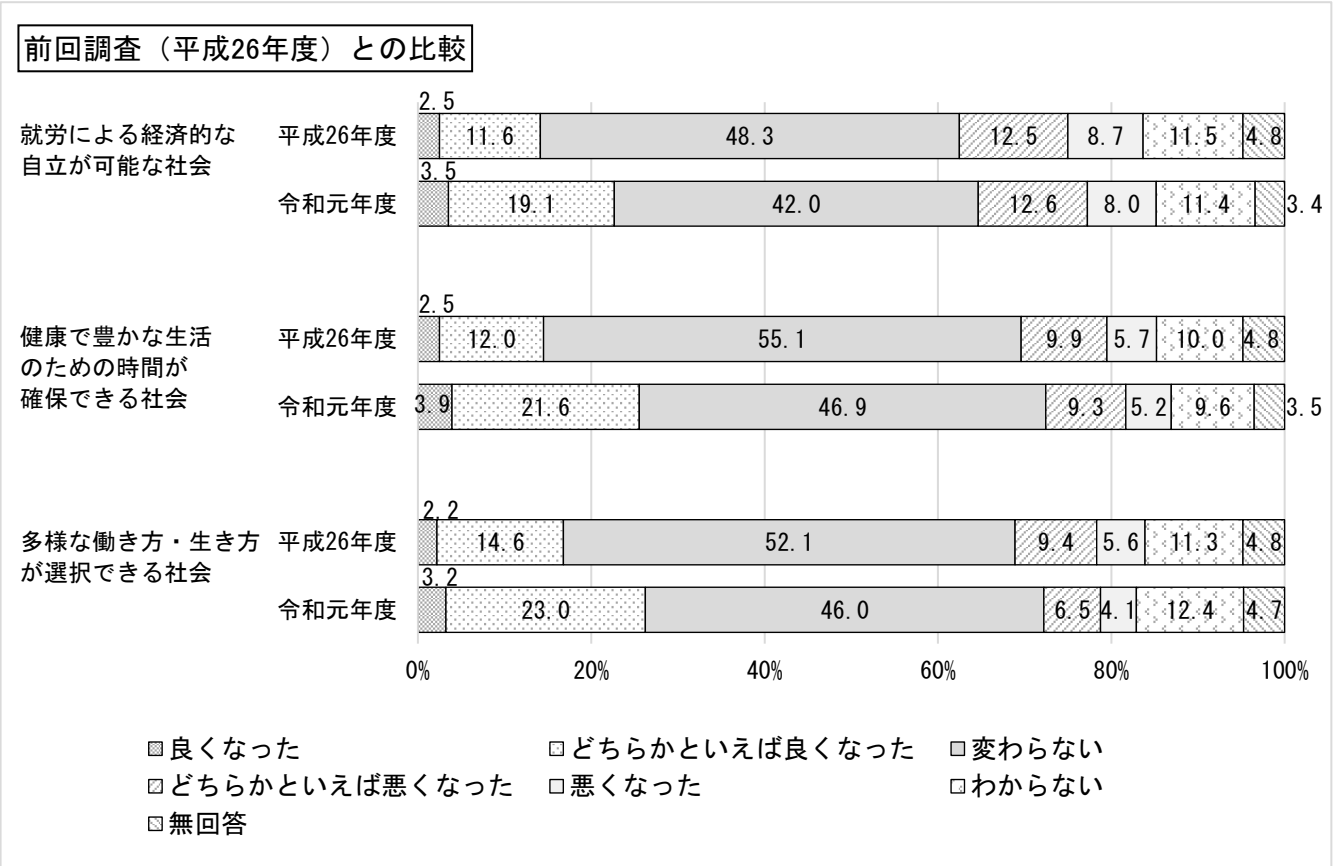
(2) 健康で豊かな生活のための時間が確保できる社会



(3) 多様な働き方・生き方が選択できる社会

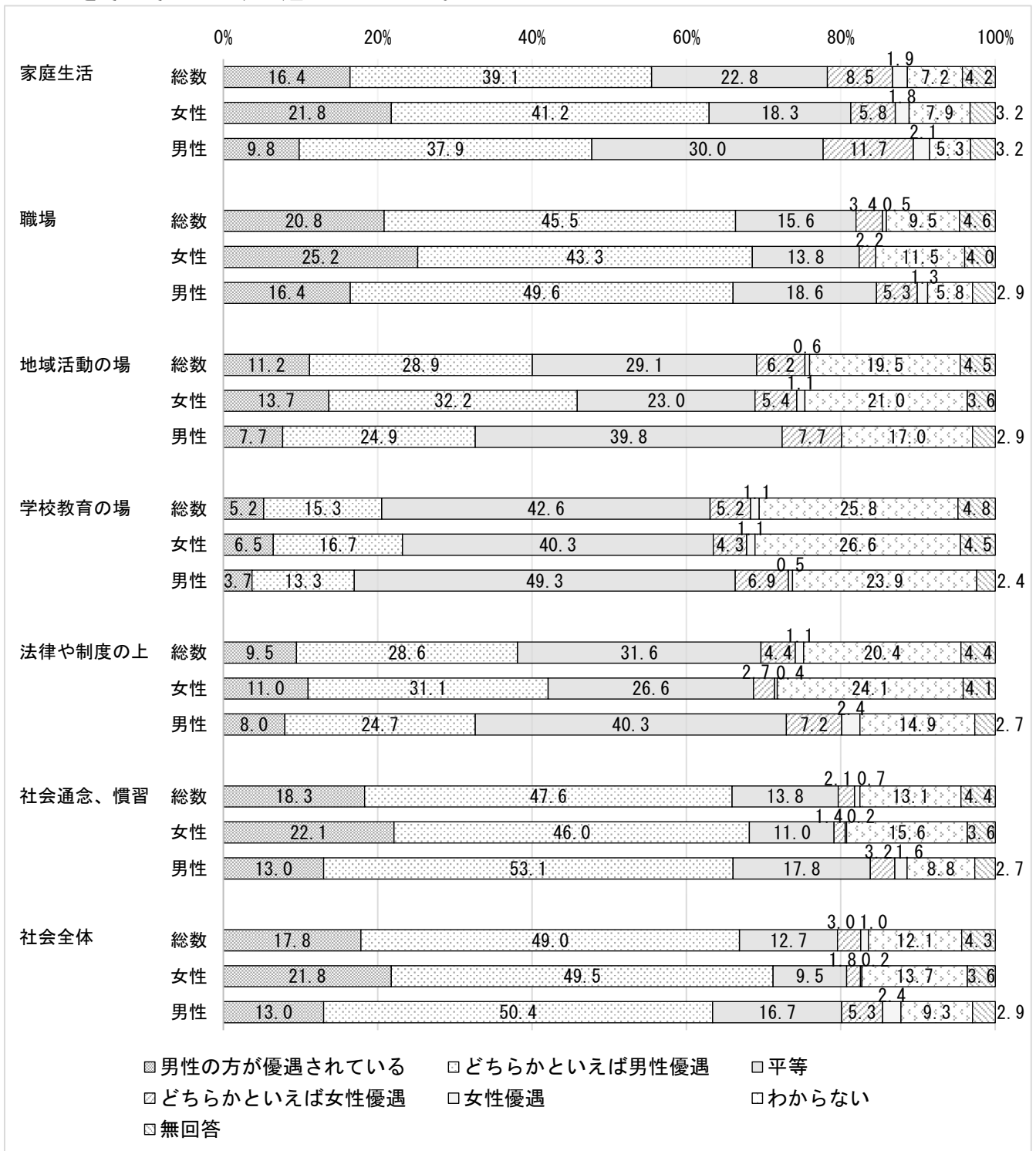


【全体】
 3つの設問について、「良くなったと思う」とする者の割合が、就労による経済的自立では22.6%（「良くなったと思う」3.5%+「どちらかといえば良くなったと思う」19.1%）、健康で豊かな生活のための時間の確保では25.5%（「良くなったと思う」3.9%+「どちらかといえば良くなったと思う」21.6%）、多様な働き方・生き方が選択できる社会では26.2%（「良くなったと思う」3.2%+「どちらかといえば良くなったと思う」23.0%）となっている。



男女平等と多様性について

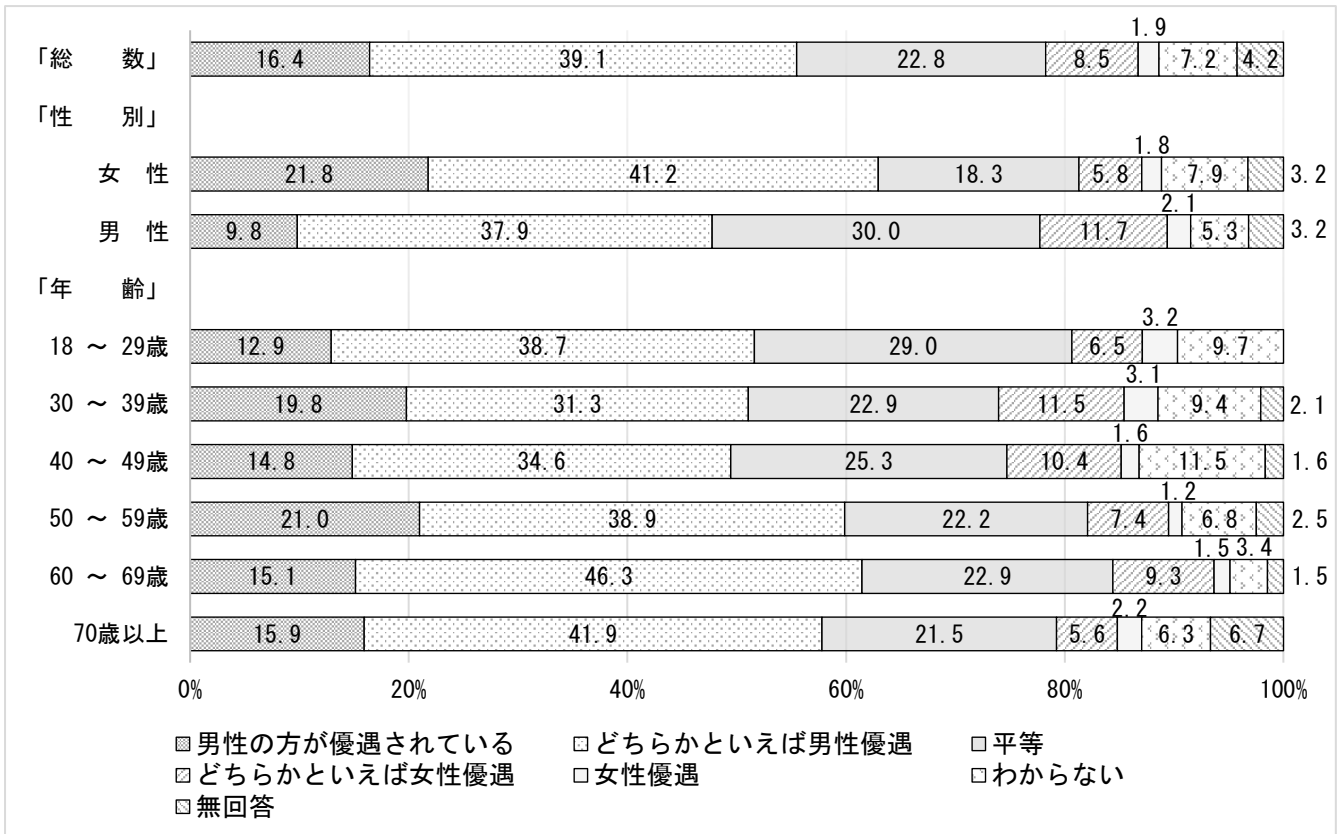
問 23 あなたは、次にあげる分野での男女の地位は平等になっていると思いますか。当てはまる数字をそれぞれ1つずつ選んでください。



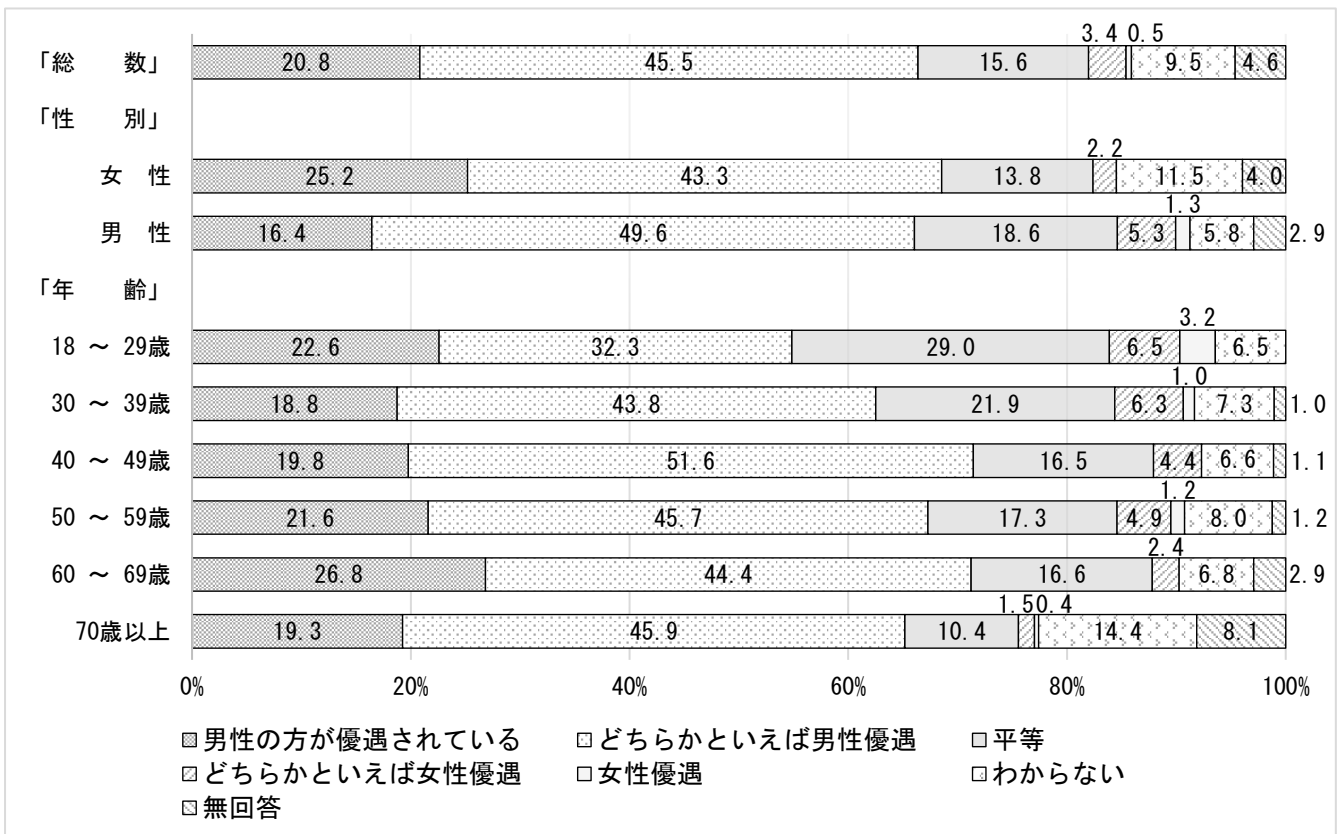
【全体】

各分野における男女の平等意識に関して、「平等」だと思える人が多かったのは、「学校教育の場」（42.6%）、「法律や制度の上」（31.6%）、「地域活動の場」（29.1%）である。
 一方、男性優遇（どちらかといえば男性優遇を含む）が多かったのは、「社会全体」（66.8%）、「職場」（66.3%）、「社会通念、習慣」（65.9%）であり、依然として性差別意識が残っていると言える。
 前回調査と比較して、「平等」だと思える人が増えたのは、「家庭生活」で1.7ポイント、「社会通念・習慣」で1.6ポイントとなっている。
 一方、「平等」だと思える人が減ったのは、「学校教育の場」で△2.8ポイント、「法律や制度上」で△2.0ポイント、「地域活動の場」の△1.5ポイントなどとなっている。

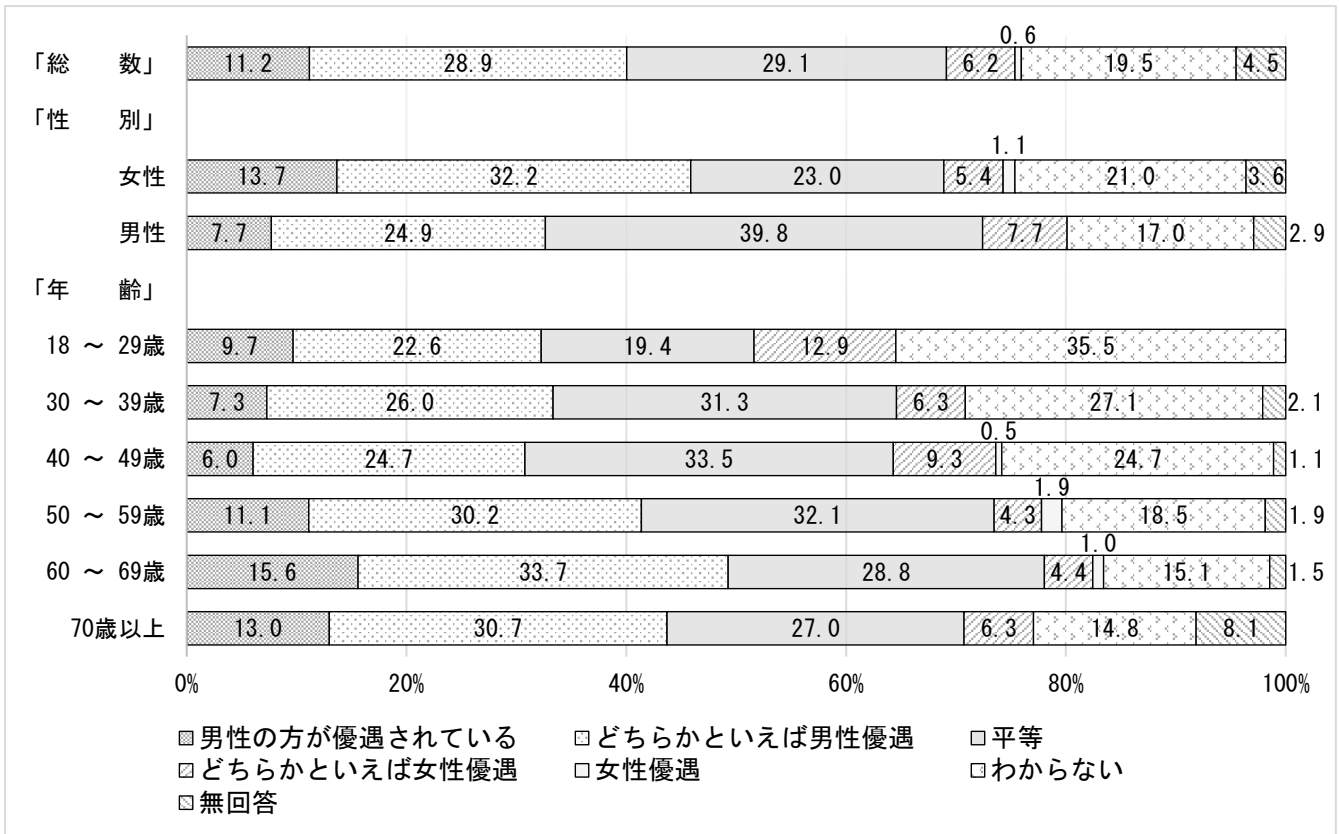
(1) 家庭生活



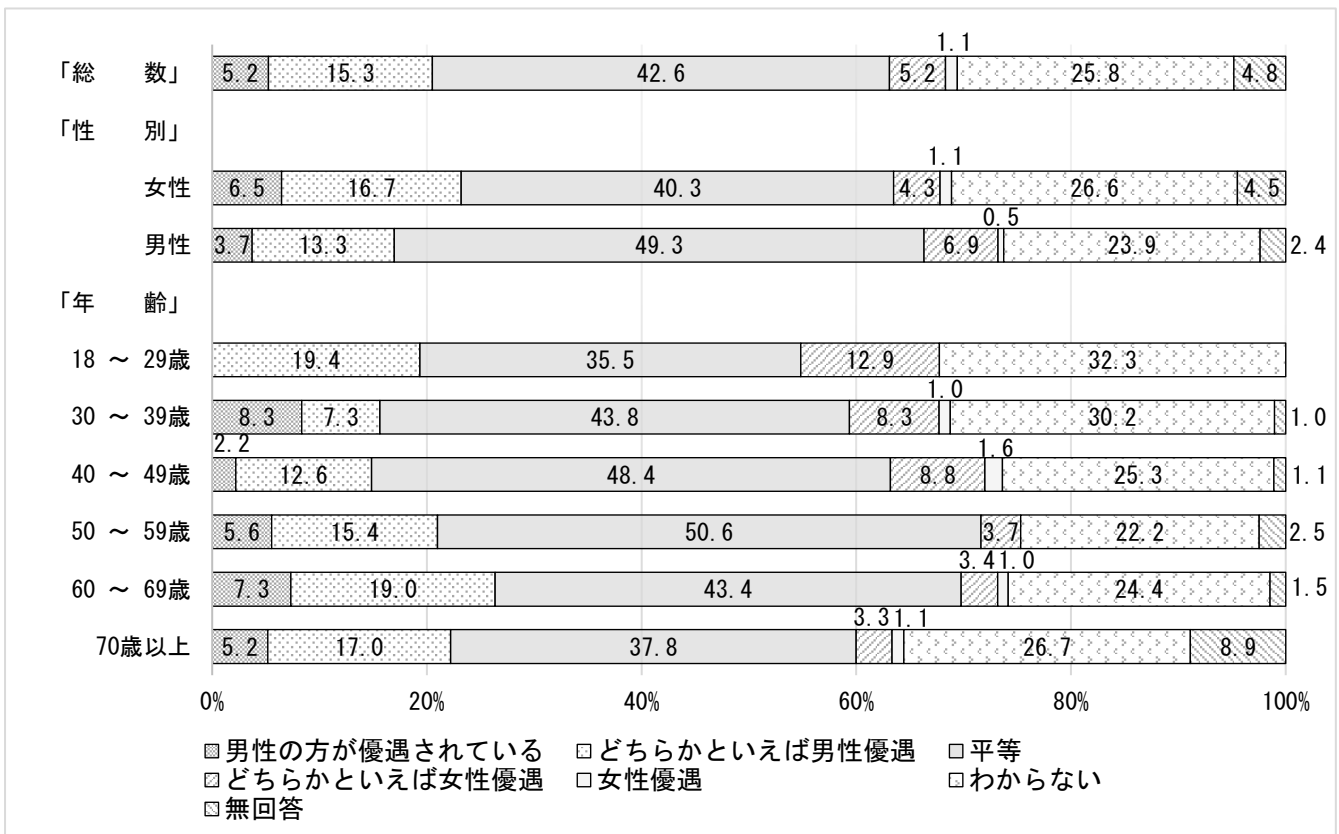
(2) 職場



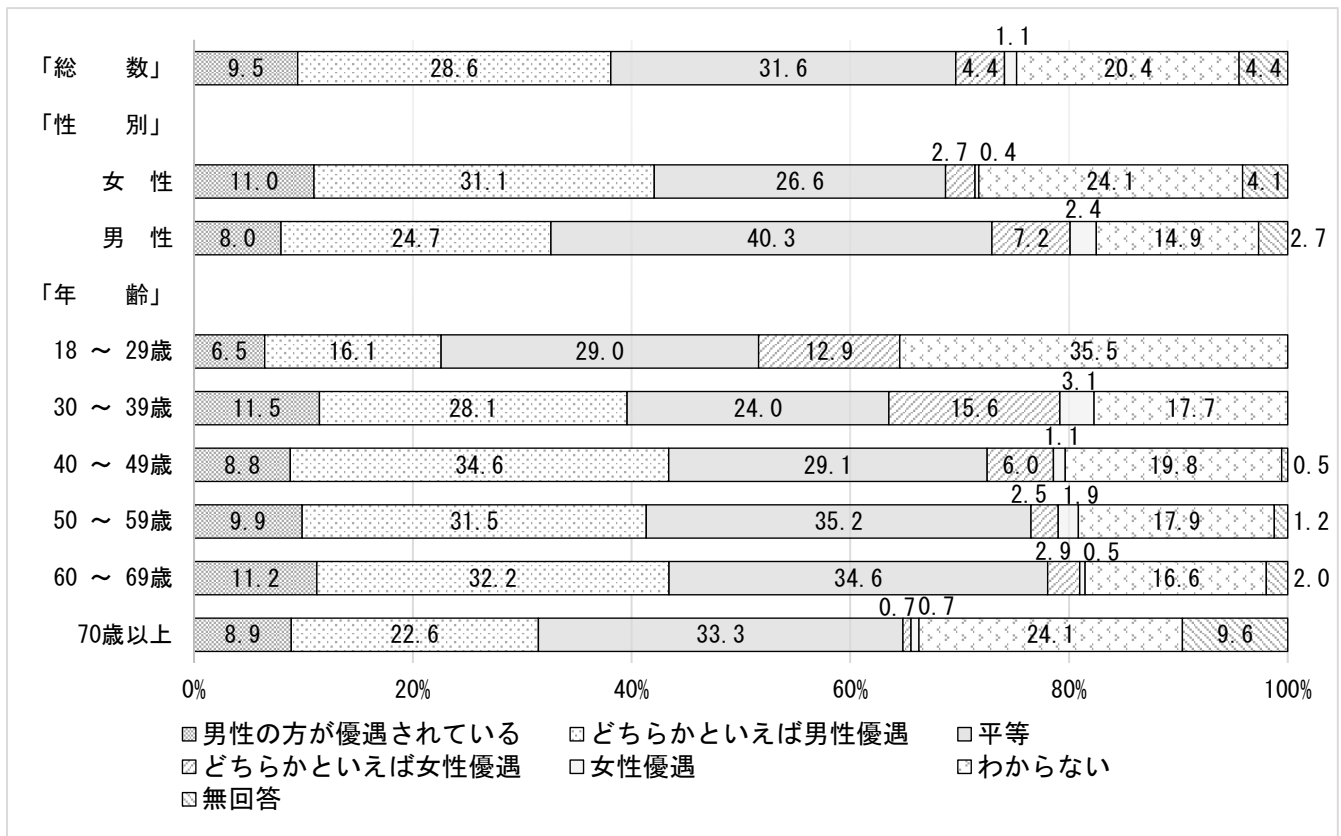
(3) 地域活動の場



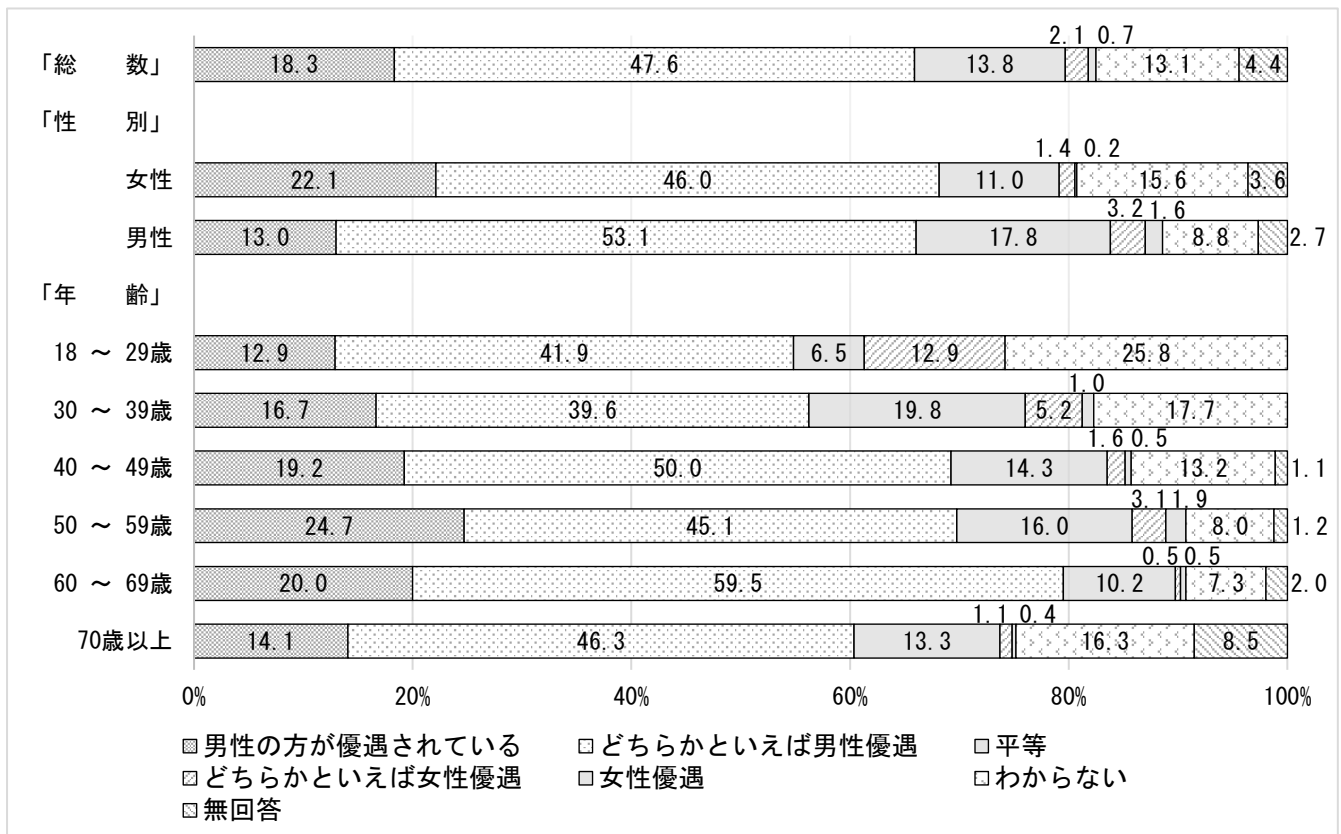
(4) 学校教育の場



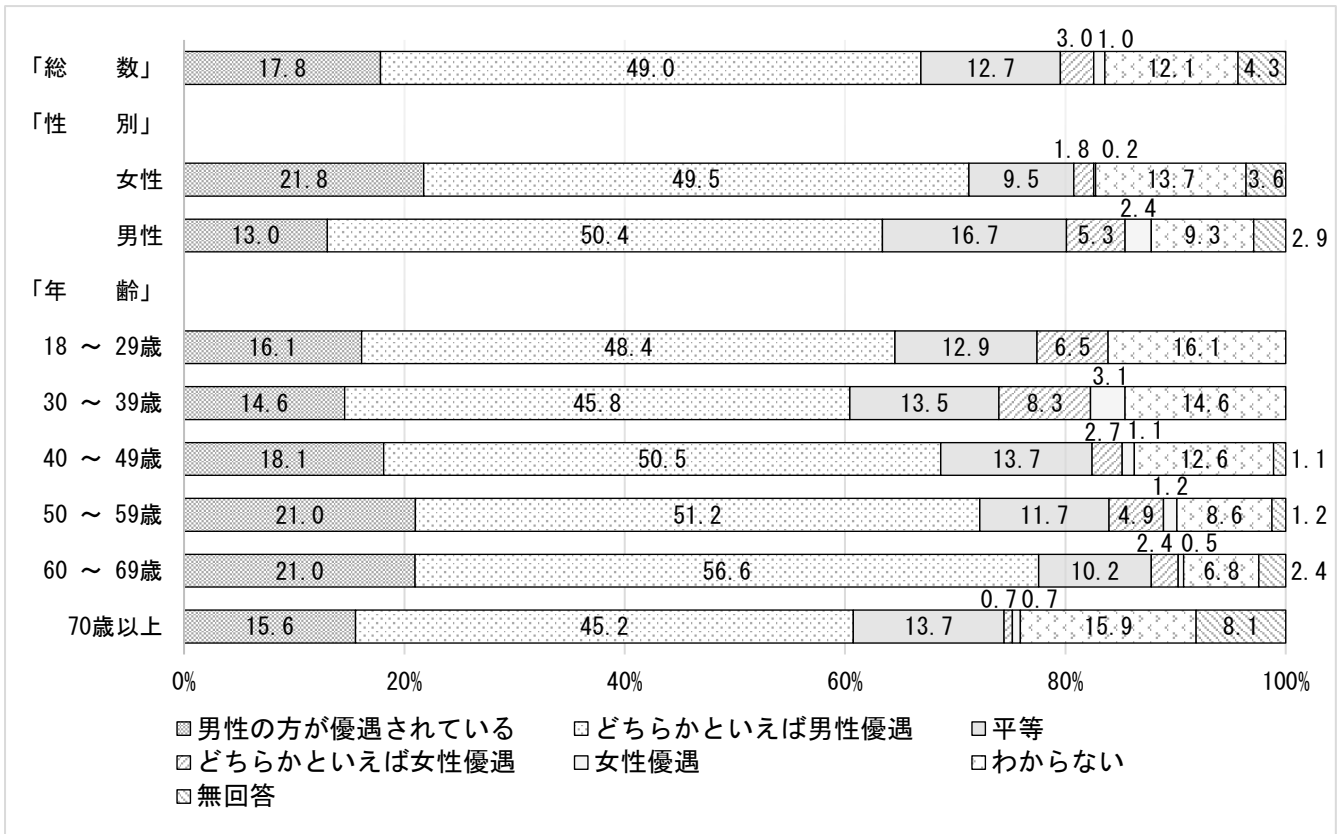
(5) 法律や制度の上



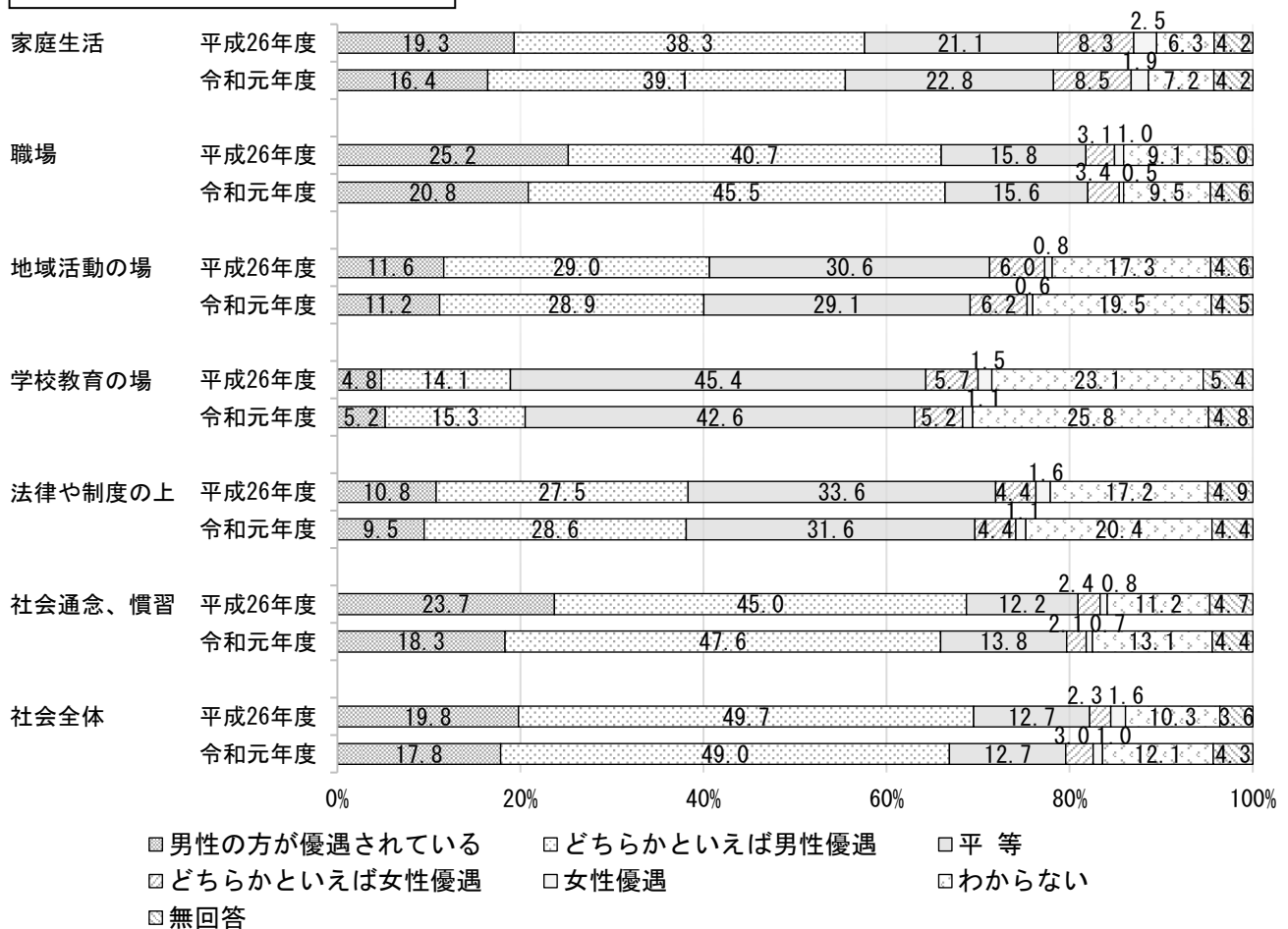
(6) 社会通念、慣習



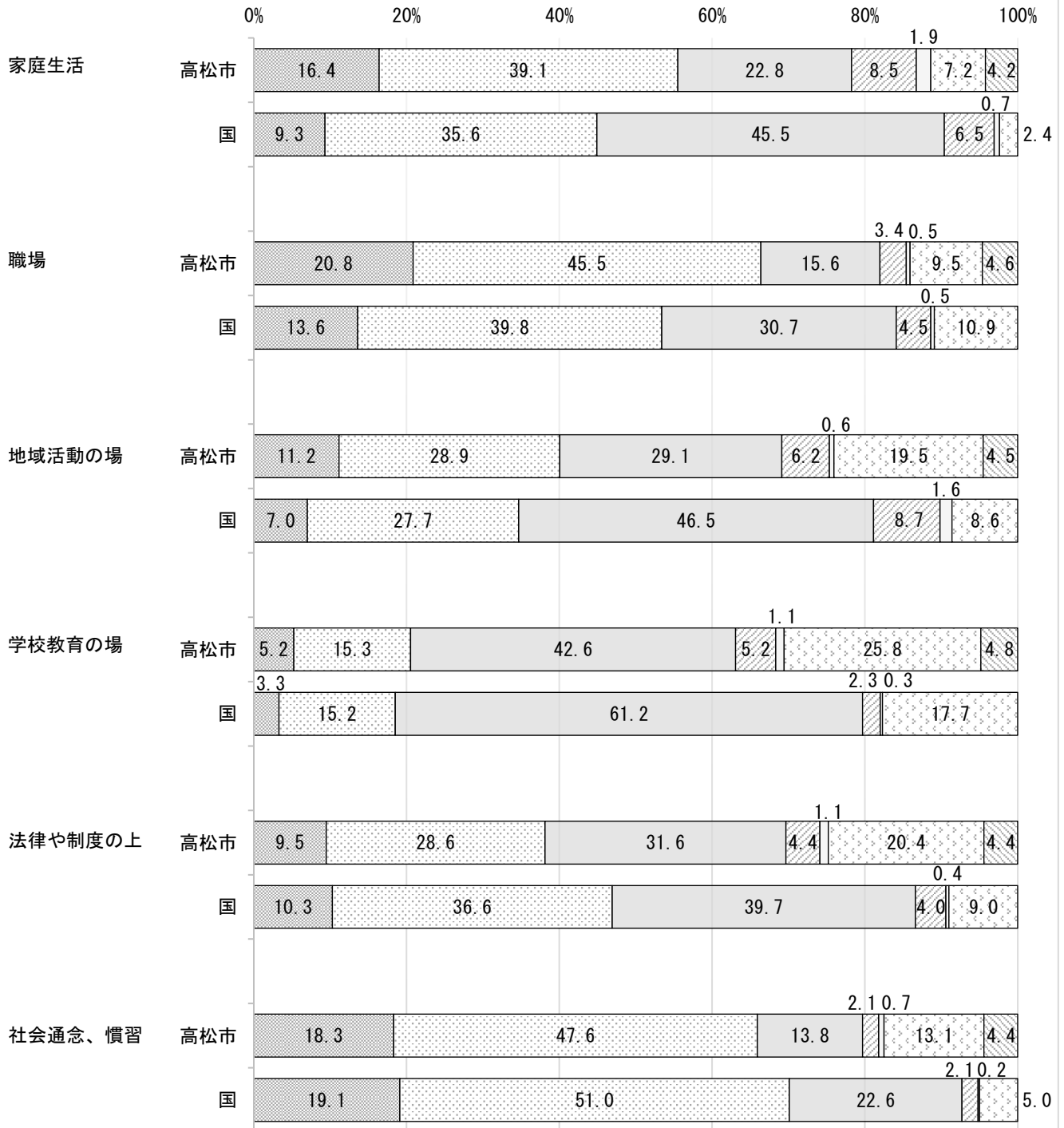
(7) 社会全体



前回調査（平成26年度）との比較

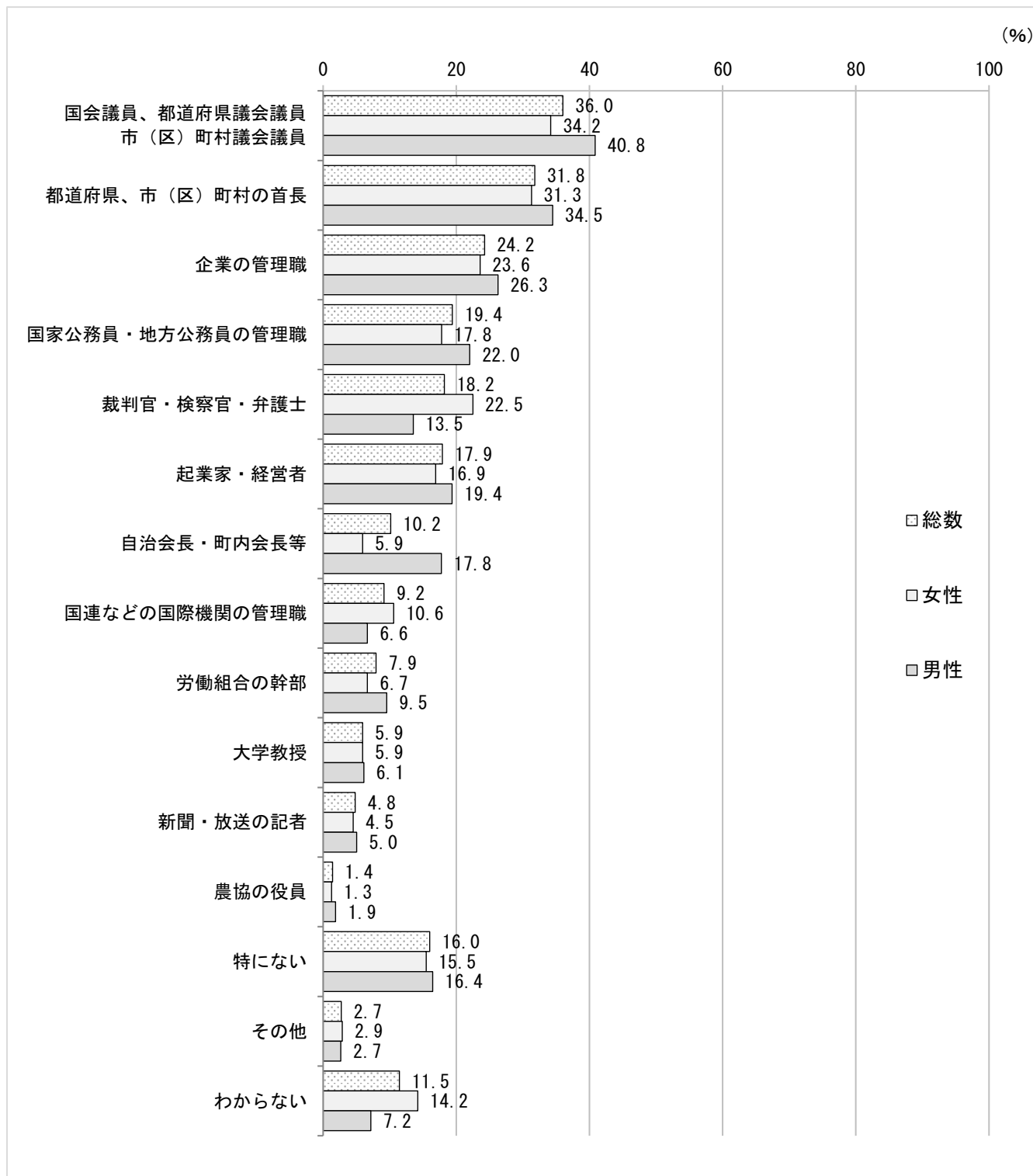


国との比較



- 男性の方が優遇されている
 どちらかといえば男性優遇
 平等
- どちらかといえば女性優遇
 女性優遇
 わからない
- 無回答

問 24 次にあげるような職業や役職において、今後女性がもっと増える方がよいと思うのはどれですか。特に当てはまるものを選んでください。（○は3つまで）



○その他意見

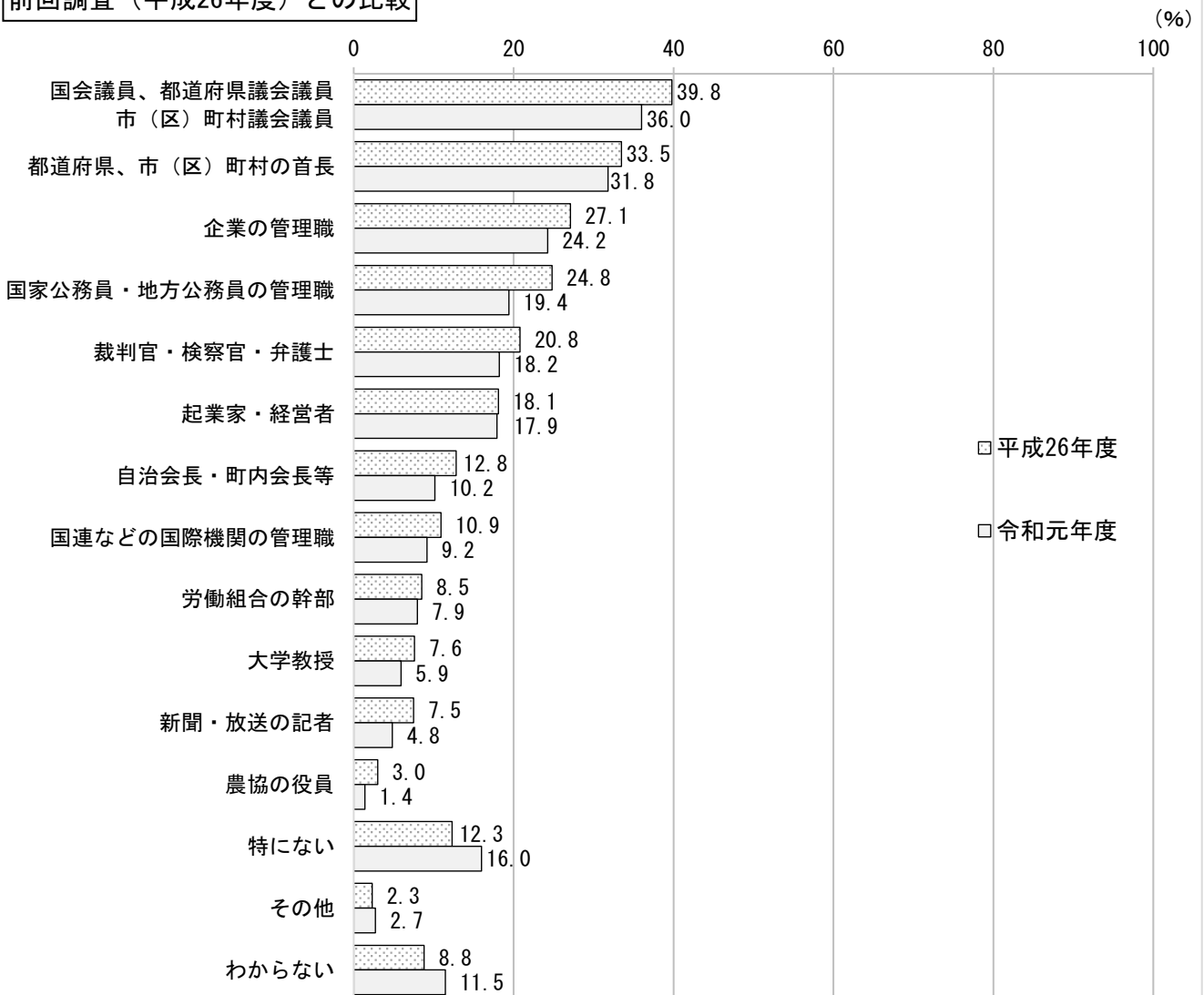
- 1 医者
- 2 自衛隊員
- 3 男性だろうが女性だろうがかまわない。
- 4 その仕事に向いている人
- 5 女性がもっと広く活躍の場を持つべき。

- 6 あらゆる分野で増えると良い。
- 7 社会の考え方が変わらなければいくら女性を優遇しても声を上げつづけなければ同じではないかと思う。
- 8 性別へのこだわりを全てにおいてなくす。
- 9 女性というより若年が増えるとよい。
- 10 役所の窓口の人、市民と接する事のある立場の人
- 11 産婦人科医師、泌尿器科医師、肛門科医師、乳腺科医師など女性にとってデリケートな所をみる医師
- 12 能力があれば登用する、なければしない。それが平等であり、機会の平等があれば良い。
- 13 能力のある女性が、当該職種を希望してもなれないのだとしたら制度を見直すべき。

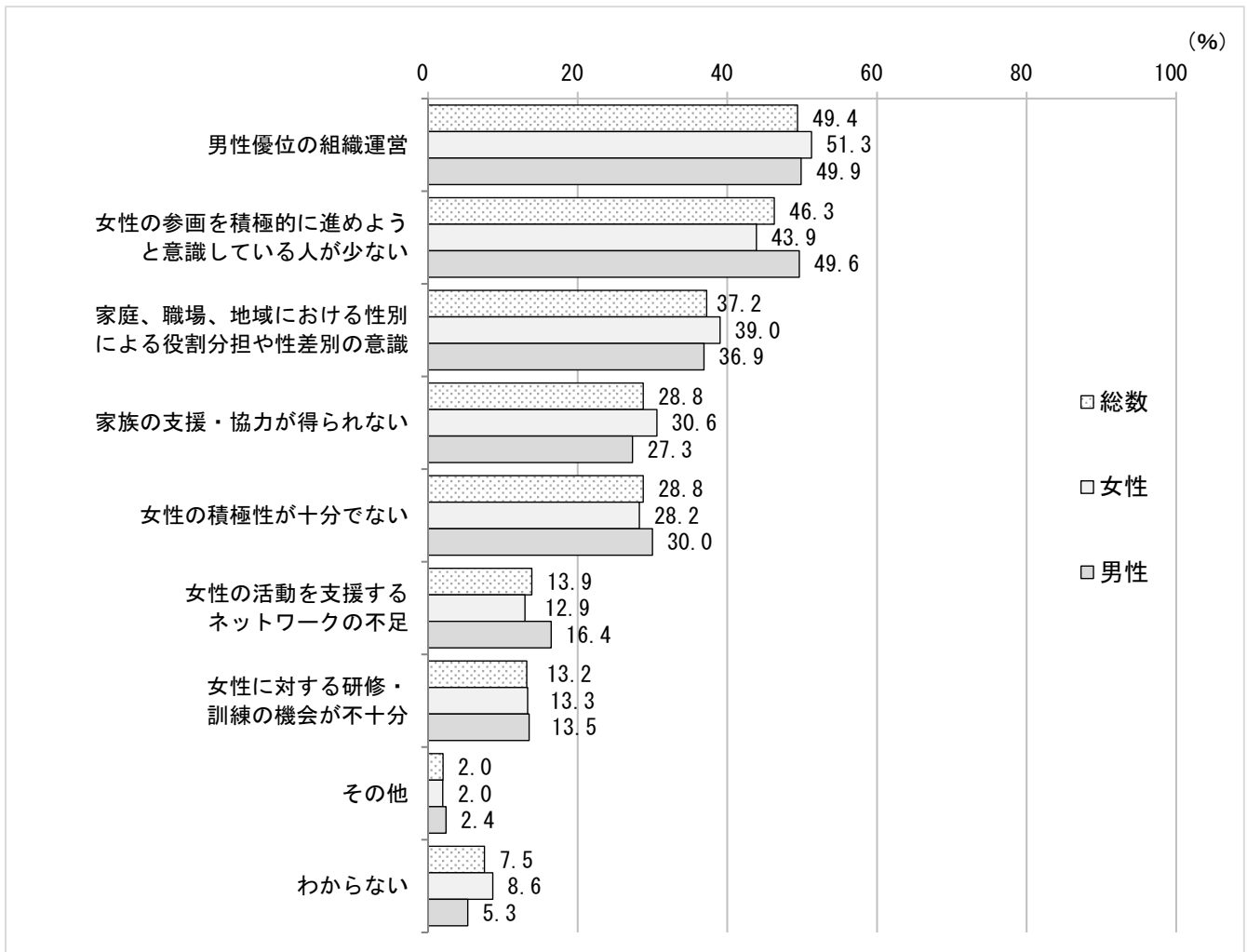
【全体】

女性が増える方がよいと思う職場や役職のうち、回答が多いのは、「国会議員、都道府県議会議員市（区）町村議会議員」（36.0%）、「都道府県、市（区）町村の首長」（31.8%）、「企業の管理職」（24.2%）、「国家公務員・地方公務員の管理職」（19.4%）などとなっている。

前回調査（平成26年度）との比較



問 25 政治や行政、地域、職場などにおいて、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が少ないと言われていますが、あなたは、その理由は何だと思えますか。特に当てはまるものを選んでください。（〇は3つまで）



○その他意見

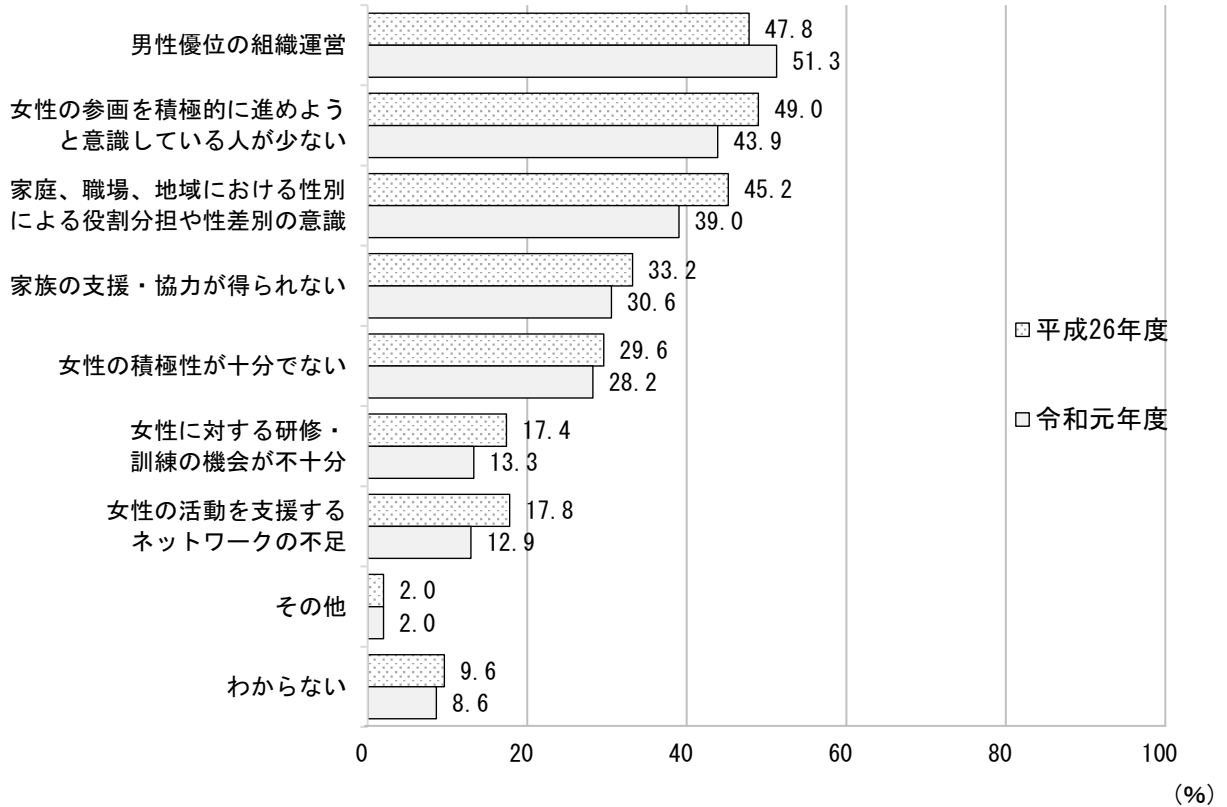
- 1 日本人の女性は控えめだから（国民性）
- 2 男女に関わらず、中央集権が支配する日本では政策意図の本質が隠されていることが問題
- 3 出産期間中はどうしてもむずかしい。
- 4 なれる方は、職についていると思うため。
- 5 議論できる人間が男性の方が多い？
- 6 退職、休職のリスクが現時点で男性より高いため。（会社の立場として）
- 7 適材適所が成立っていないので配置の工夫が必要
- 8 政治が本気で考えてないから。

【全体】

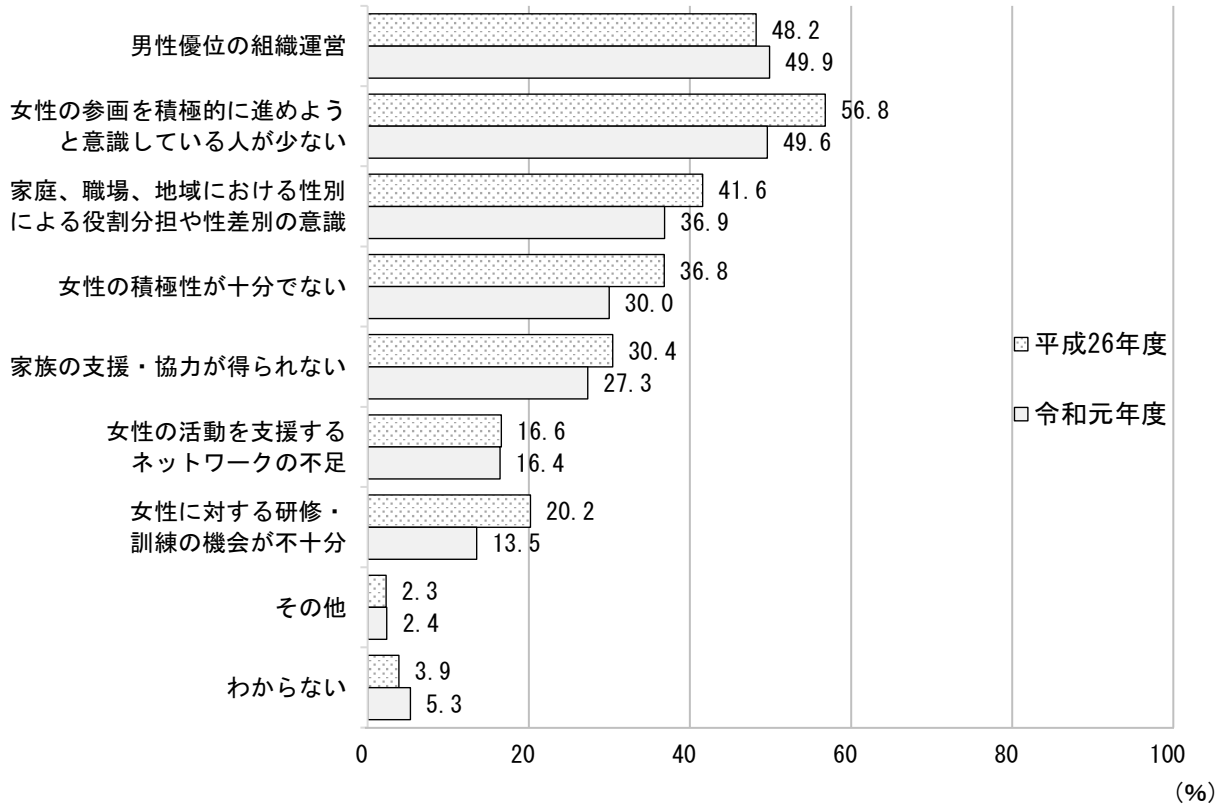
女性の参画が少ない理由のうち、回答が多かったのは、「男性優位の組織運営」（49.4%）、「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない」（46.3%）、「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識」（37.2%）などとなっている。

前回調査と比較して、変化が大きかったのは、女性では、「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識」が6.2ポイント、男性では、「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない」が7.2ポイント減少している。

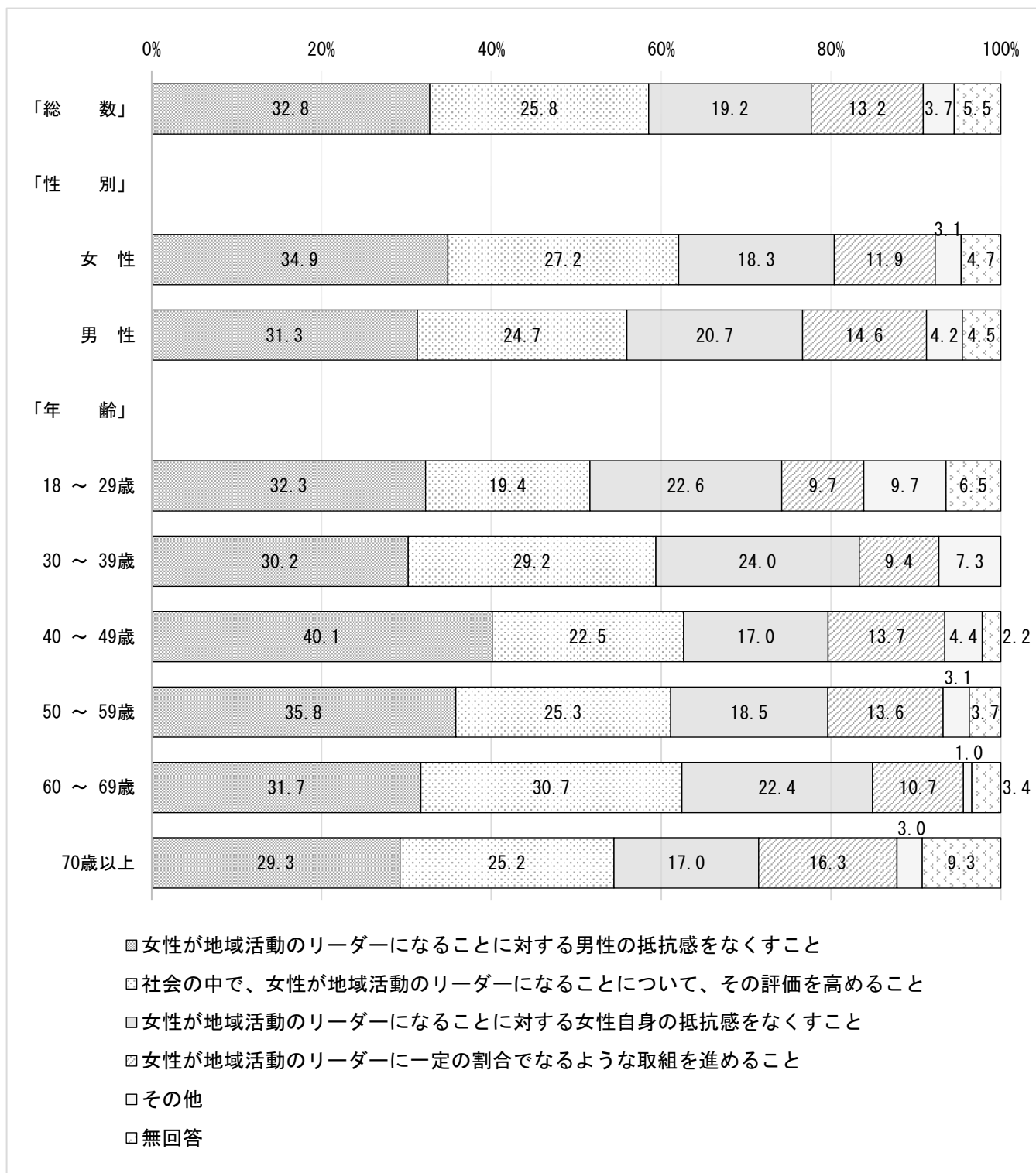
【女性】 前回調査（平成26年度）との比較



【男性】 前回調査（平成26年度）との比較



問 26 女性が地域活動のリーダーになるために必要なことは何だと思えますか。特に当てはまるものを選んでください。(〇は1つだけ)

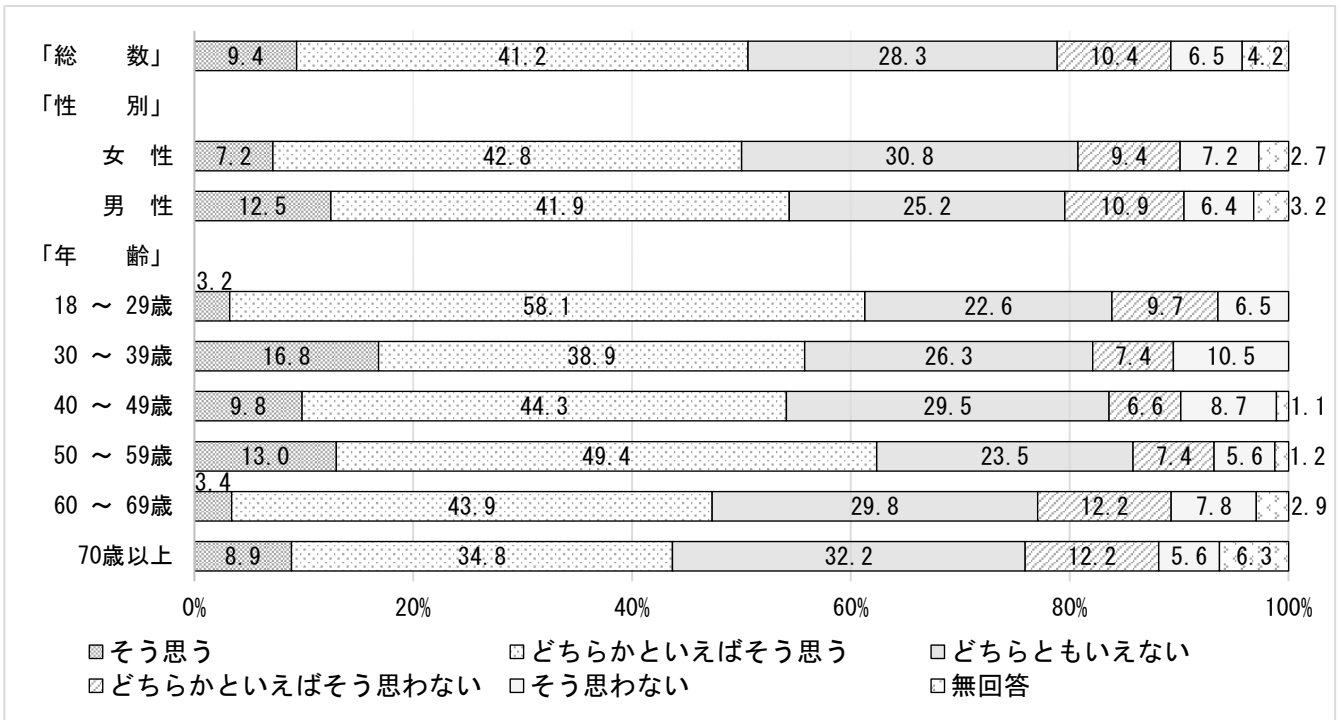


【全体】

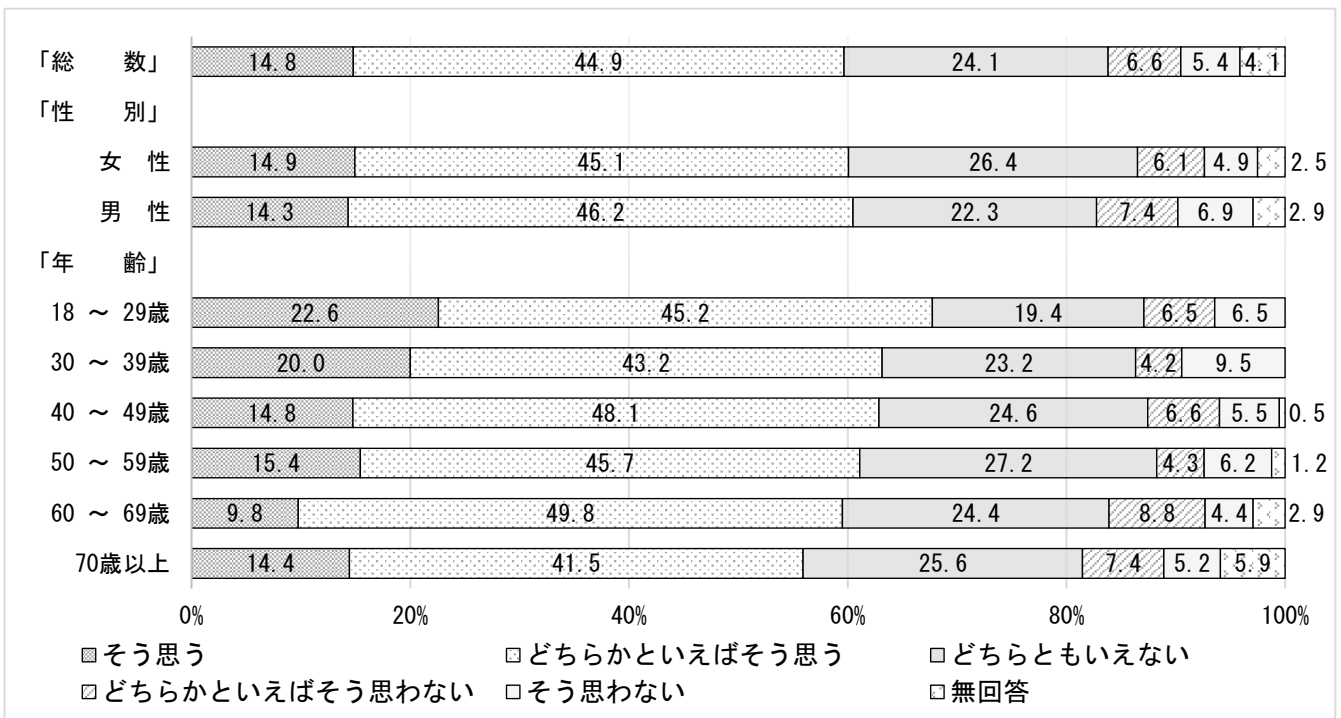
女性が地域活動のリーダーになるために必要なことについて、回答が多かったのは、「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」(32.8%)、「社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること」(25.8%)となっている。

問 27 女性の活躍を推進する法律ができたことにより、就業希望、両立支援など、働く場面において、5年前と比較して、どのように変化していると思いますか。最も近いものをお答えください。（○は1つだけ）

(1) 女性が働き続けられる環境になっている



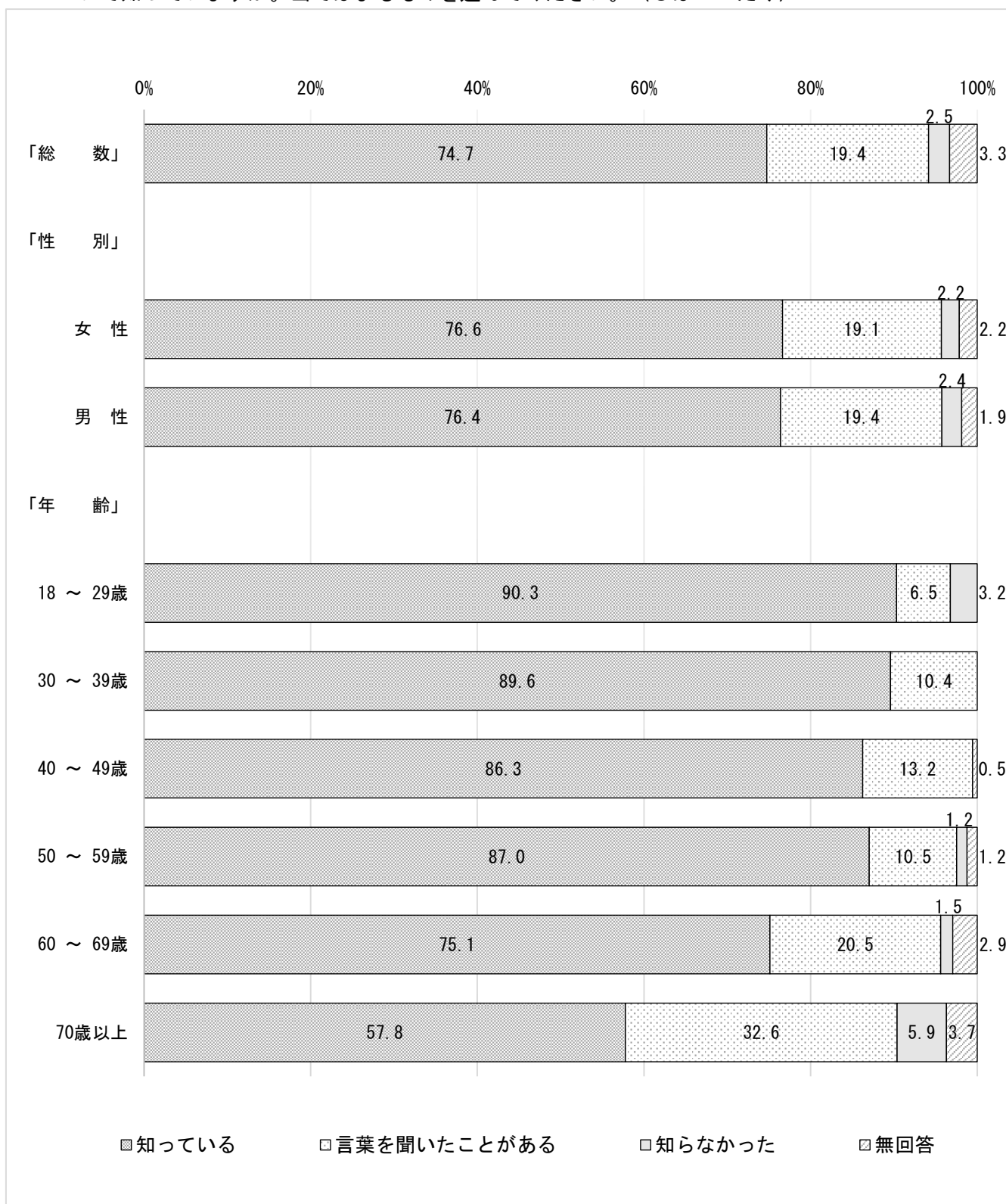
(2) 活躍する女性が増えている



【全体】

女性の活躍に関して、女性が働き続けられる環境になっているかを聞いたところ、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」が50.6%となっており、「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」の16.9%を大きく上回った。その一方で、「どちらともいえない」が28.3%に上り、あまり実感がわいていない人も一定数いることがうかがえる。

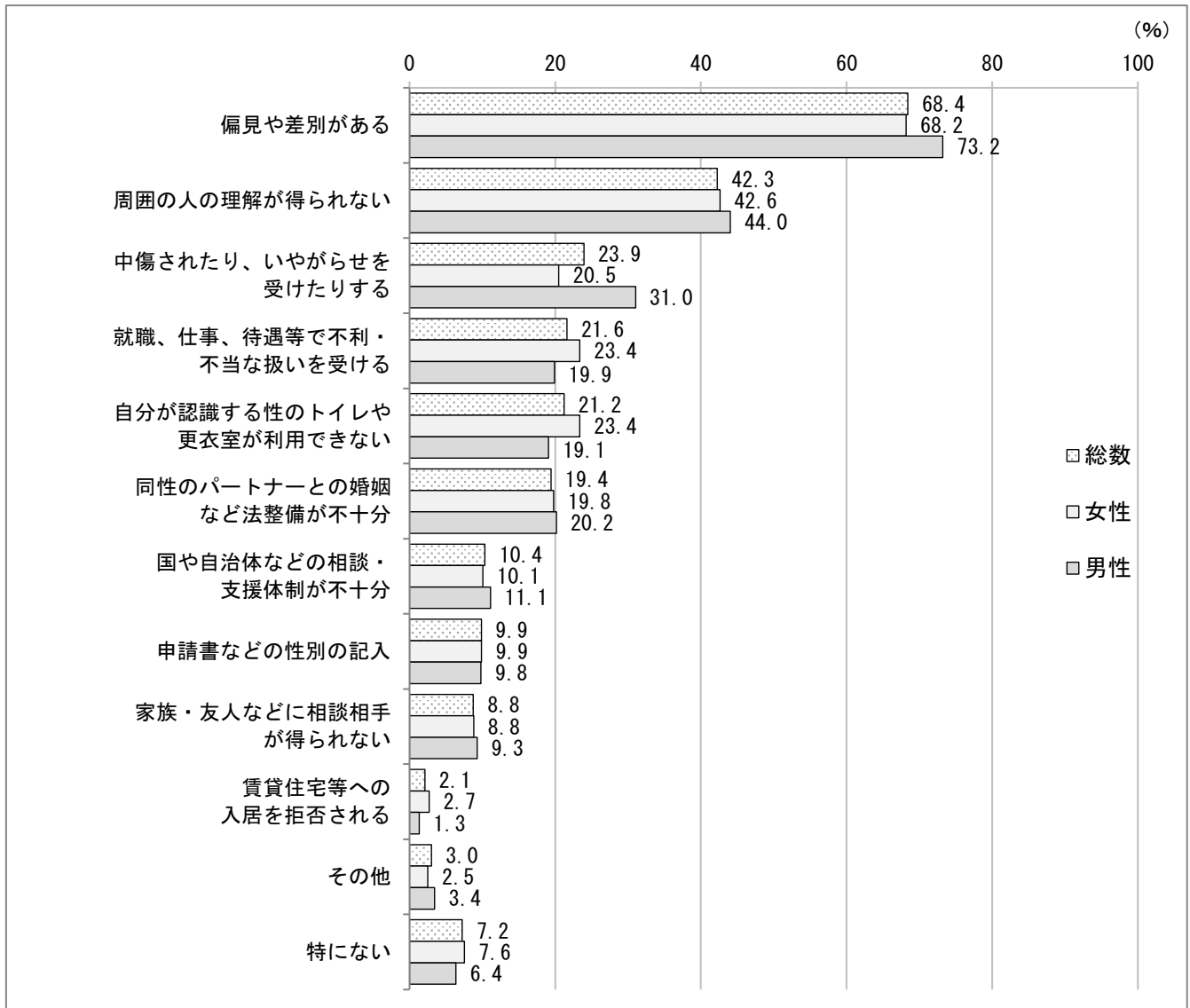
問 28 あなたは、同性愛者（レズビアン／ゲイ）や両性愛者（バイセクシュアル）、性同一性障害（生まれた時の身体の性と自覚する心の性が一致しない人）など、いわゆる性的少数者（LGBT）について知っていますか。当てはまるものを選んでください。（○は1つだけ）



【全体】

性的少数者（LGBT）に関して、「知っている」という回答が74.7%に上った。年齢別に見ると、「知っている」という回答は、若い世代で非常に高くなっている。しかし、70歳以上においても57.8%と、社会全体で性的少数者（LGBT）という言葉の認知度が高くなっていることがうかがえる。

問 29 性的少数者（LGBT）の方にとって、どのようなことが問題だと思えますか。特に当てはまるものを選んでください。（〇は3つまで）



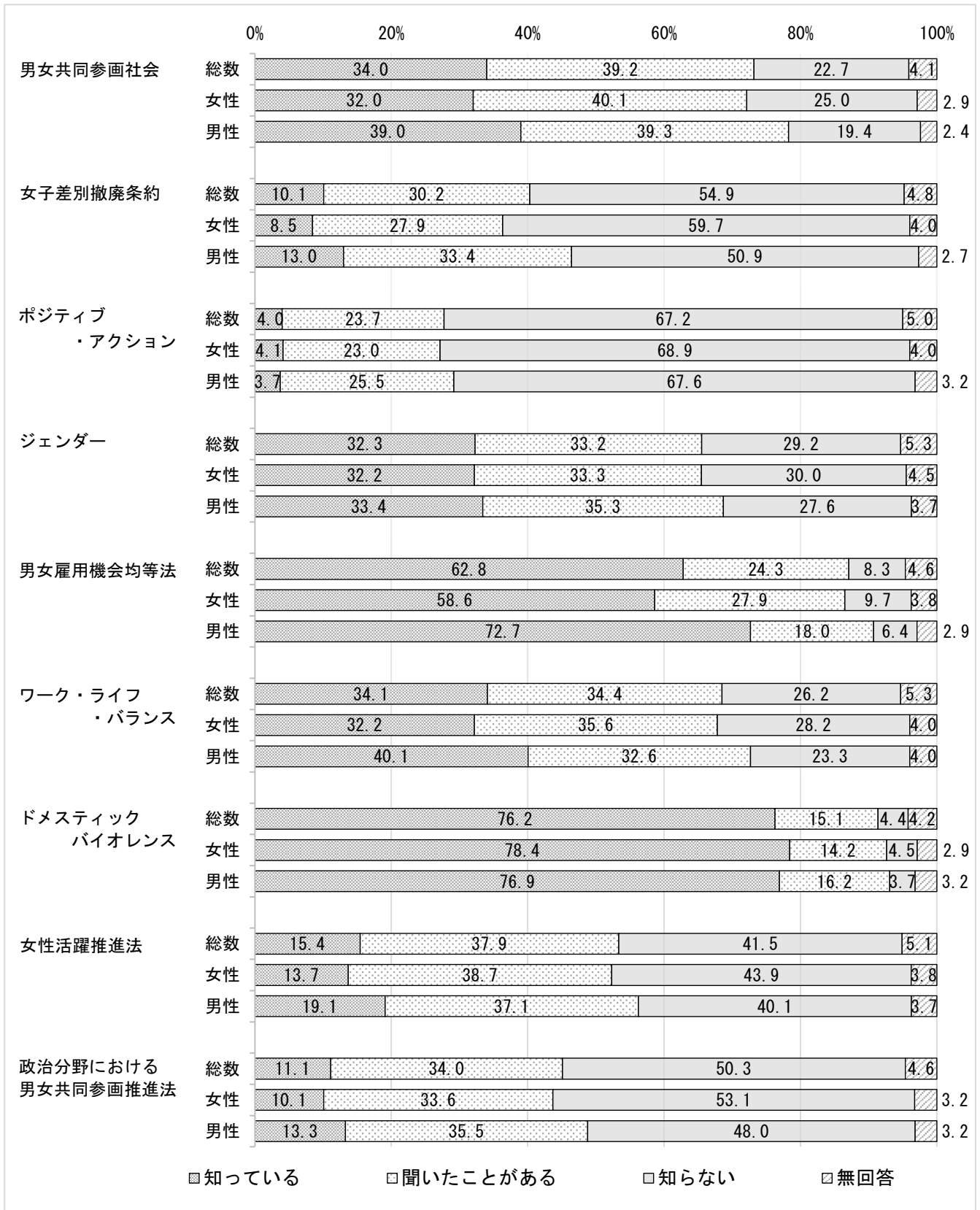
【全体】

性的少数者（LGBT）にとってどのようなことが問題だと思うかについて、回答が多かったのは、「偏見や差別がある」（68.4%）、「周囲の人の理解が得られない」（42.3%）、「中傷されたり、いやがらせを受けたりする」（23.9%）などとなっている。

○その他意見

- 1 選択肢全て当人には大問題。選ばない。マイノリティに対する社会の見方が変わるようにする為の教育、政策がない。
- 2 社会の対応全て
- 3 自分では、想像できない部分が多い為何を必要としているのかが難しい。
- 4 一般社会のとまどいがある。
- 5 個別事案について訴訟を希望する者を支援（経済的、精神的）する組織を作る。
- 6 TVで特別にさわぐこと
- 7 思いやる心のとぼしい方が少数いる事

問 30 あなたは、男女平等に関する次のことについてご存知ですか。当てはまる数字をそれぞれ1つずつ選んでください。

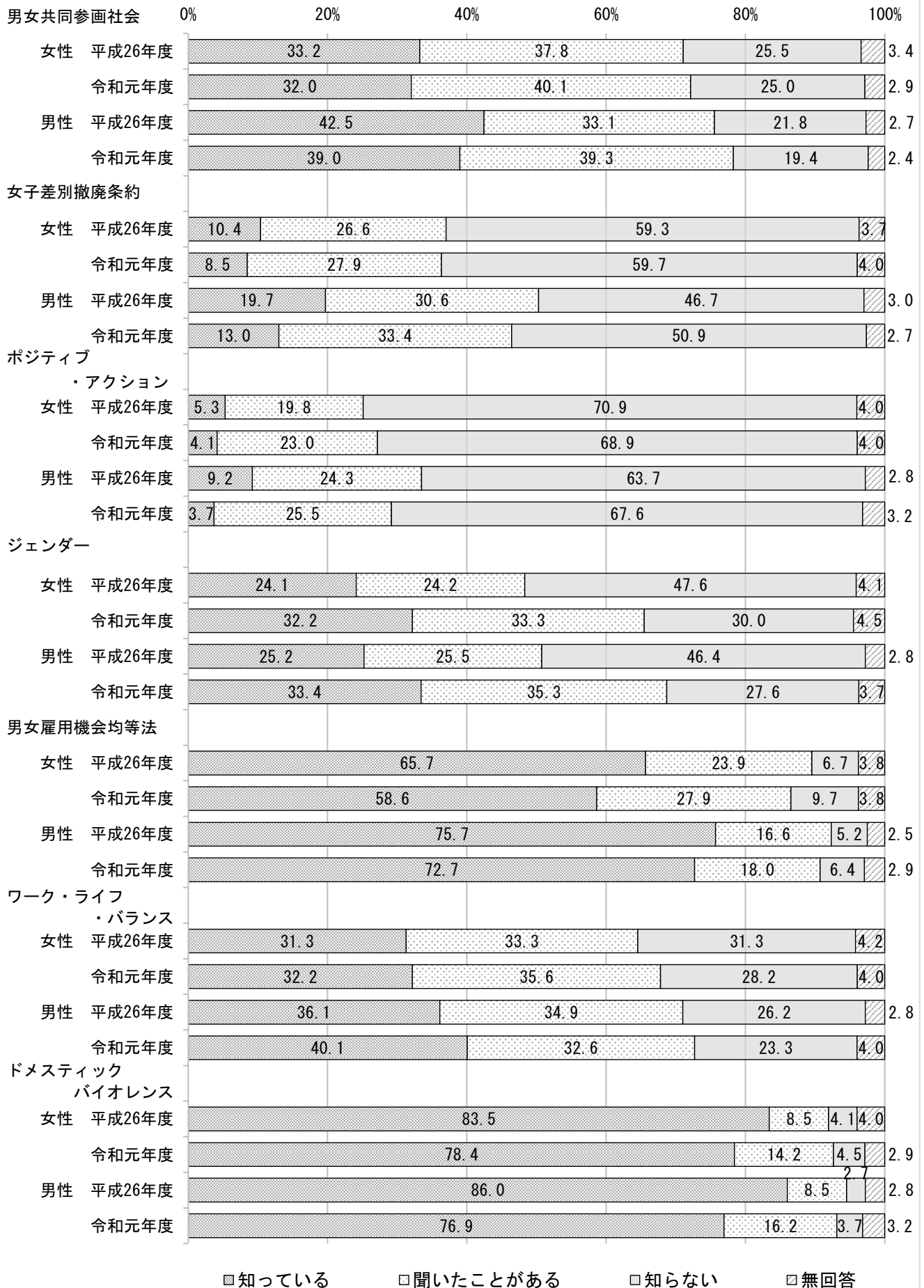


【全体】

男女平等に関する事柄のうち、「知っている」と回答が多かったのは、「ドメスティックバイオレンス」（76.2%）、「男女雇用機会均等法」（62.8%）などとなっている。

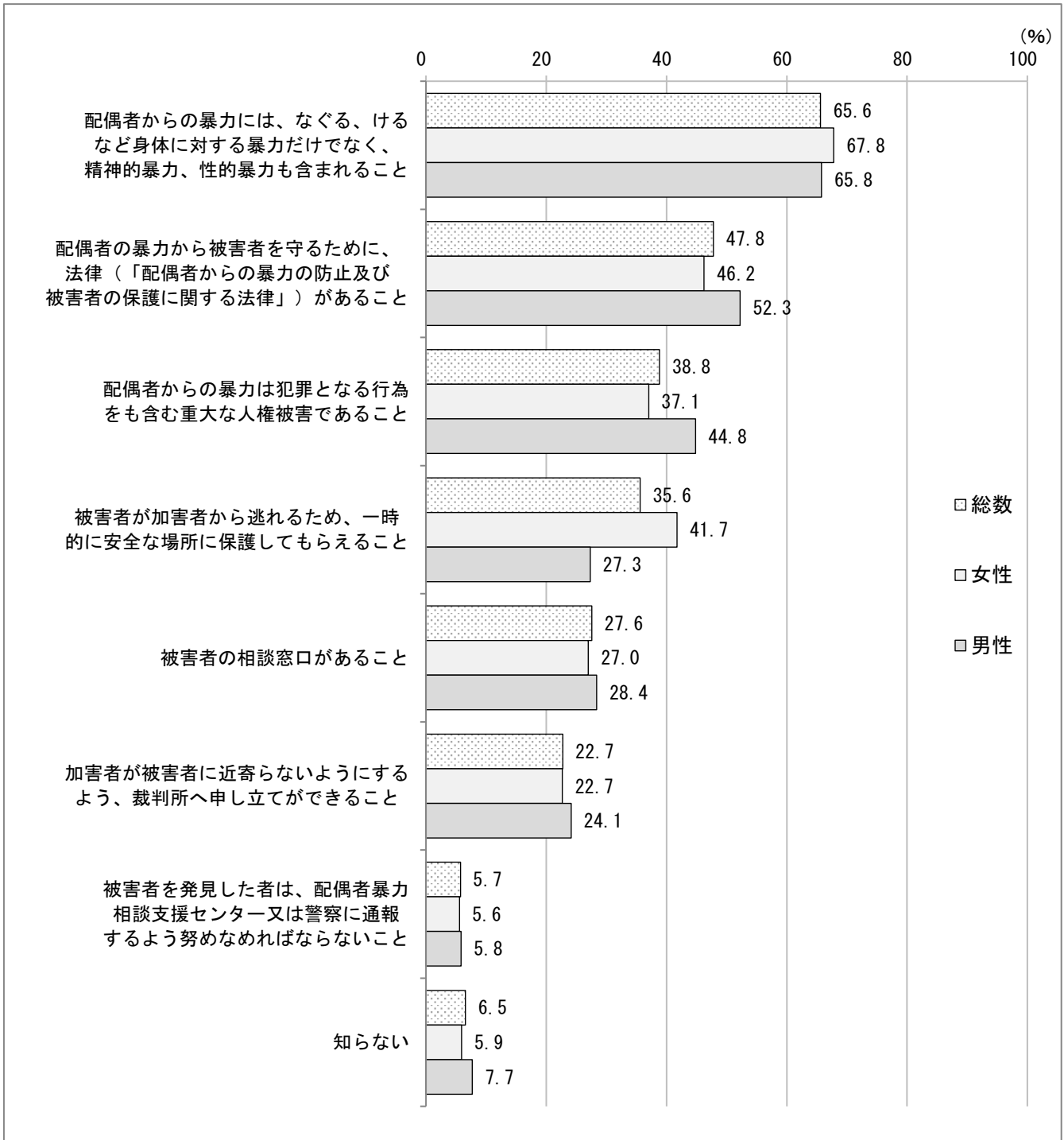
一方、「知らない」と回答が多かったのは、「ポジティブ・アクション」（67.2%）、「女子差別撤廃条約」（54.9%）、「政治分野における男女共同参画推進法」（50.3%）などとなっている。

前回調査（平成26年度）との比較



男女間における暴力とハラスメントについて

問 31 あなたは、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関して、次のことを知っていますか。ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者も含みます。特によく知っているものを選んでください。（〇は3つまで）

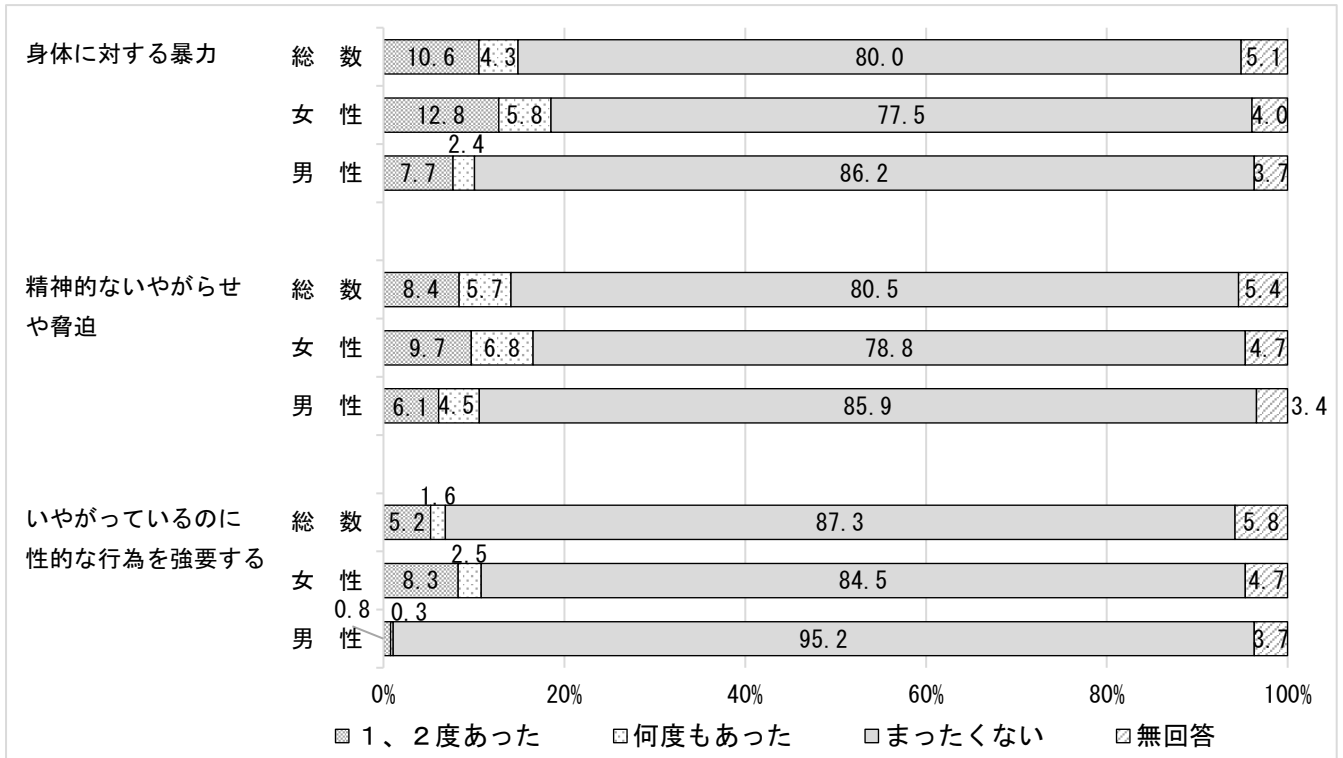


【全体】

暴力の防止及び被害者の保護に関する事柄のうち、「よく知っているもの」を複数回答で聞いたところ、回答が多かったのは、「暴力には、身体に対する暴力だけでなく、精神的暴力、性的暴力も含まれること」（65.6%）、「暴力から被害者を守るために法律があること」（47.8%）、「配偶者からの暴力は犯罪となる行為を含む重大な人権侵害であること」（38.8%）、「被害者が加害者から逃れるため、一時的に安全な場所に保護してもらえること」（35.6%）などの順となっている。

実際に事案が発生した場合の、相談窓口や保護施設が存在があまり知られていないことが分かる。

問 32 あなたはこれまでに、あなたの配偶者や恋人などから次のようなことをされたことがありますか。当てはまる数字をそれぞれ1つずつ選んでください。

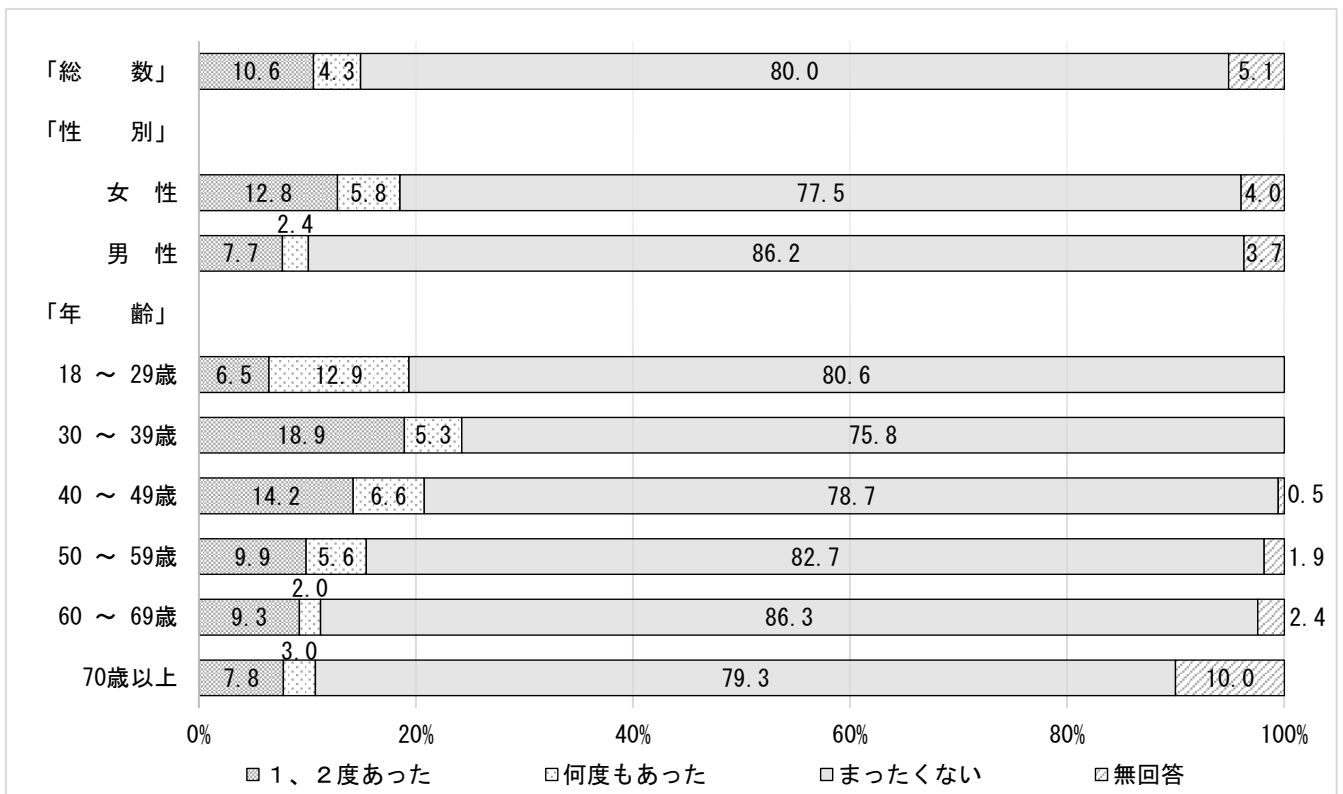


【全体】

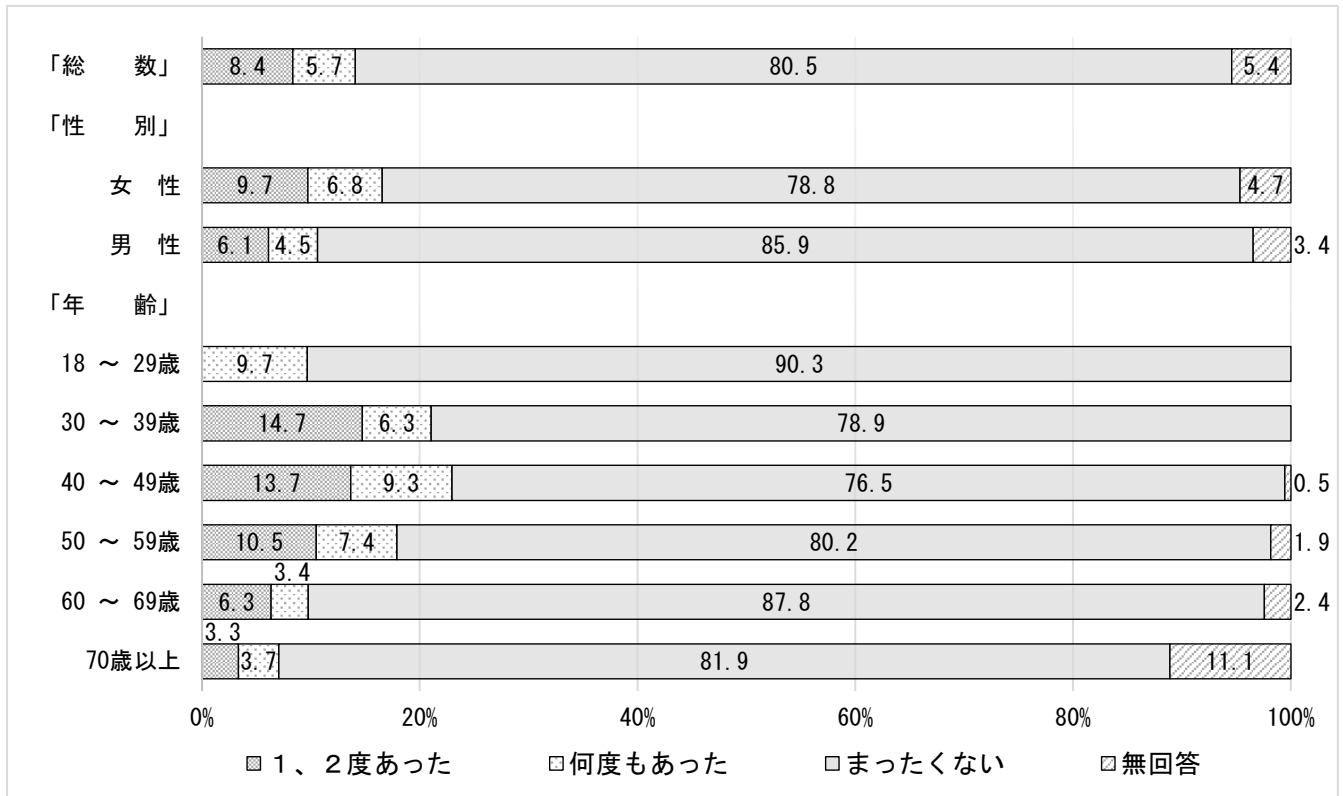
配偶者から受けた暴力について、性別ごとでは、すべての項目において、男性より女性が多く暴力を受けていることが分かる。

暴力の種類別に年齢区分で見ると、「身体に対する暴力」は30代で、「精神的ないやがらせや脅迫」は40代で、「性的な行為の強要」は30代でそれぞれ多くなっている。

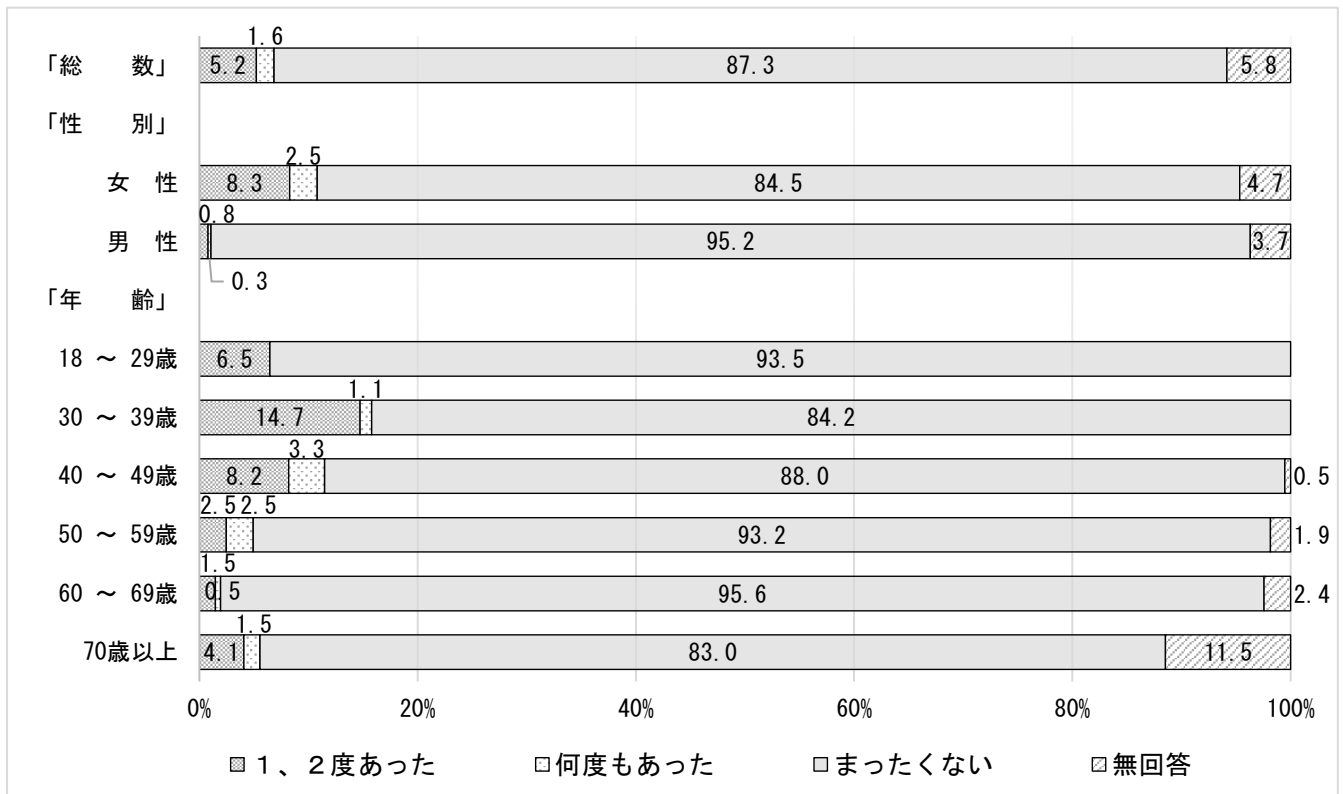
(1) ながったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴力を受けた



(2) 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなた若しくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた

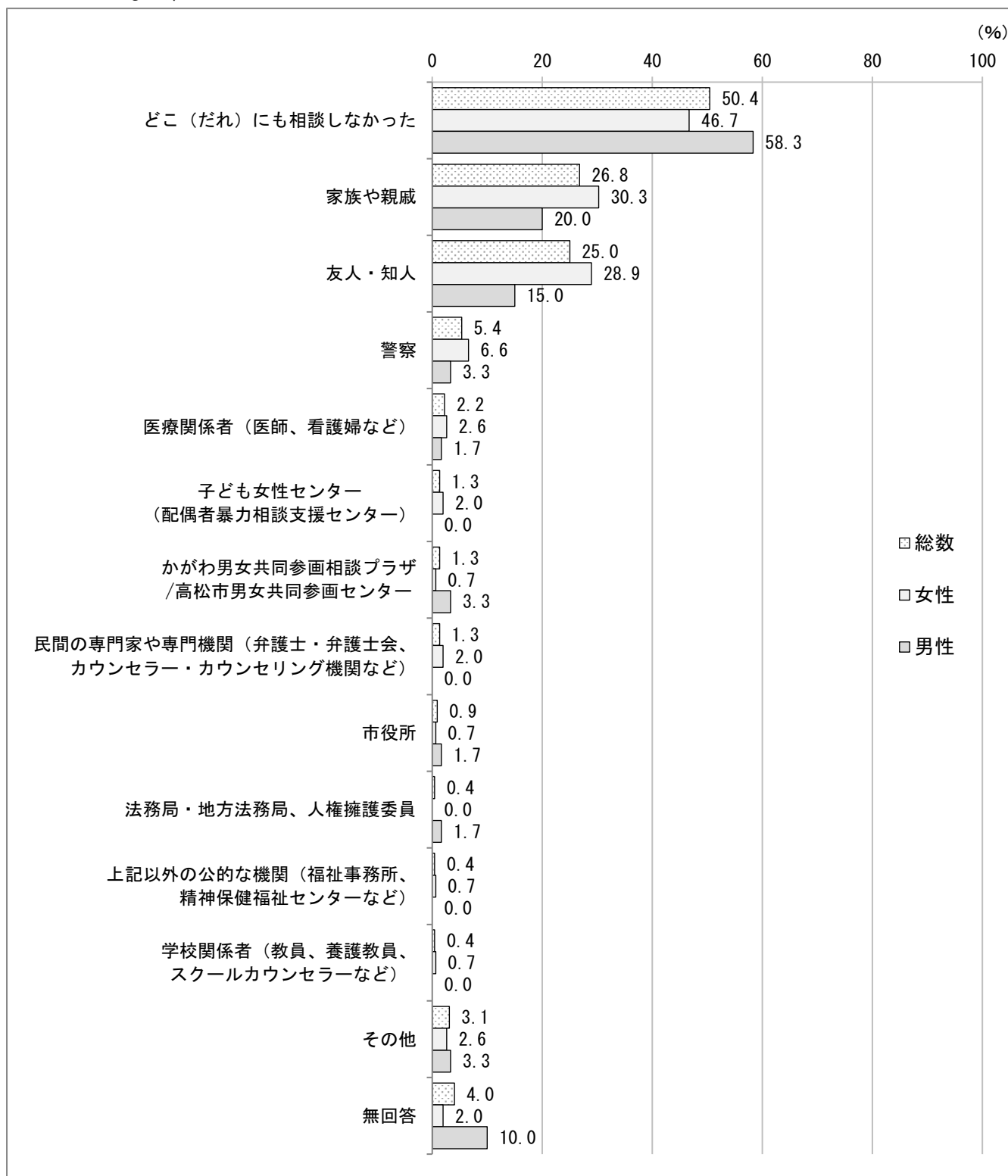


(3) いやがっているのに性的な行為を強要された



[問 32 のうち一つでも、「1」又は「2」と選んだ方のみお答えください。]

問 33-1 あなたは、あなたの配偶者や恋人などから受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。特に当てはまるものを選んでください。(〇は3つまで)

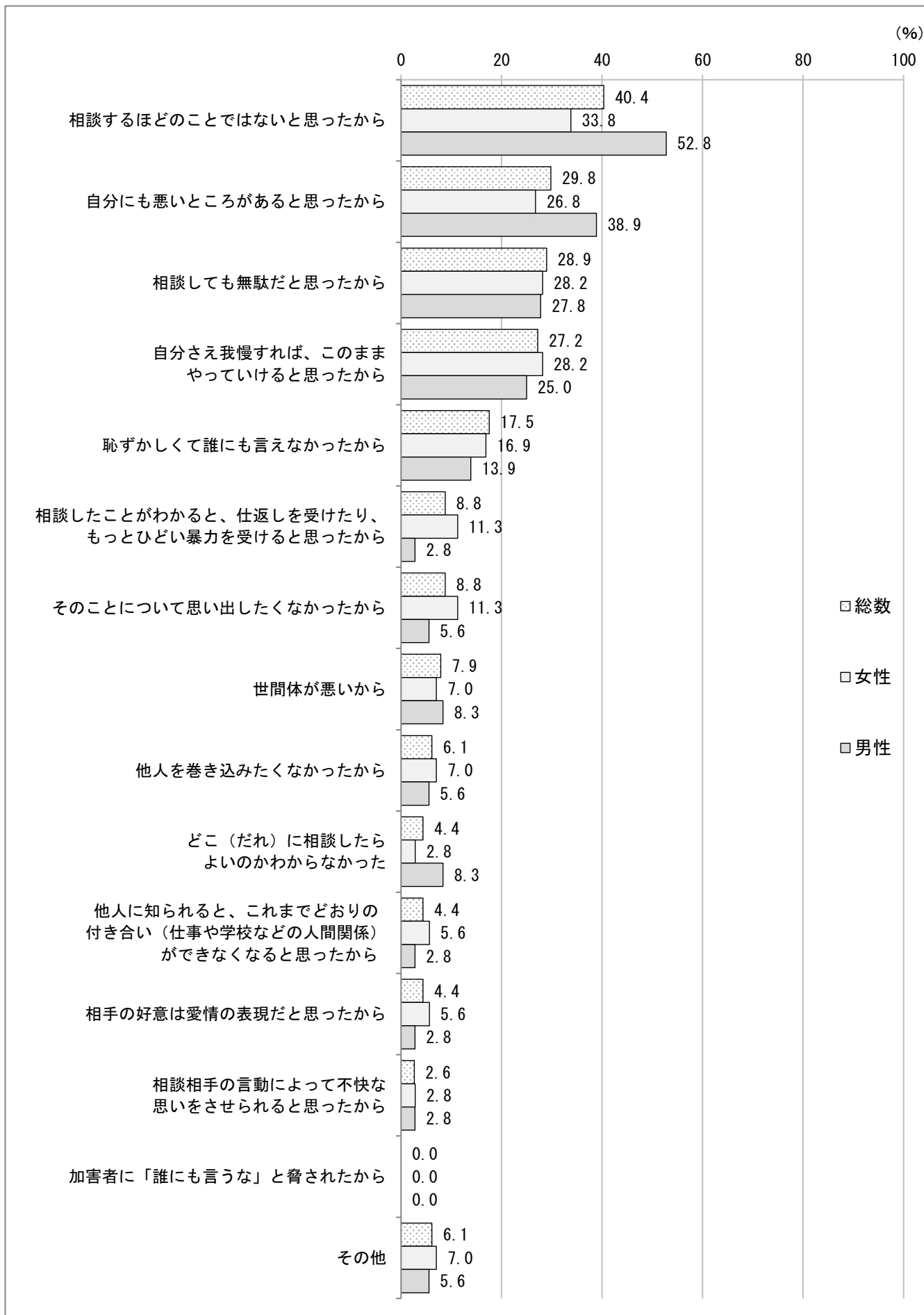


【全体】

配偶者から受けた暴力に関する相談先のうち、回答が多かったのは、「どこ(だれ)にも相談しなかった」(50.4%)、「家族や親戚」(26.8%)、「友人・知人」(25.0%)などとなっており、被害者がだれにも相談できなかった事案が多いことがうかがえる。

[問 33-1 で「13 どこ（だれ）にも相談しなかった」を選んだ方のみお答えください。]

問 33-2 なぜ、どこ（だれ）にも相談しなかったのですか。（○は3つまで）



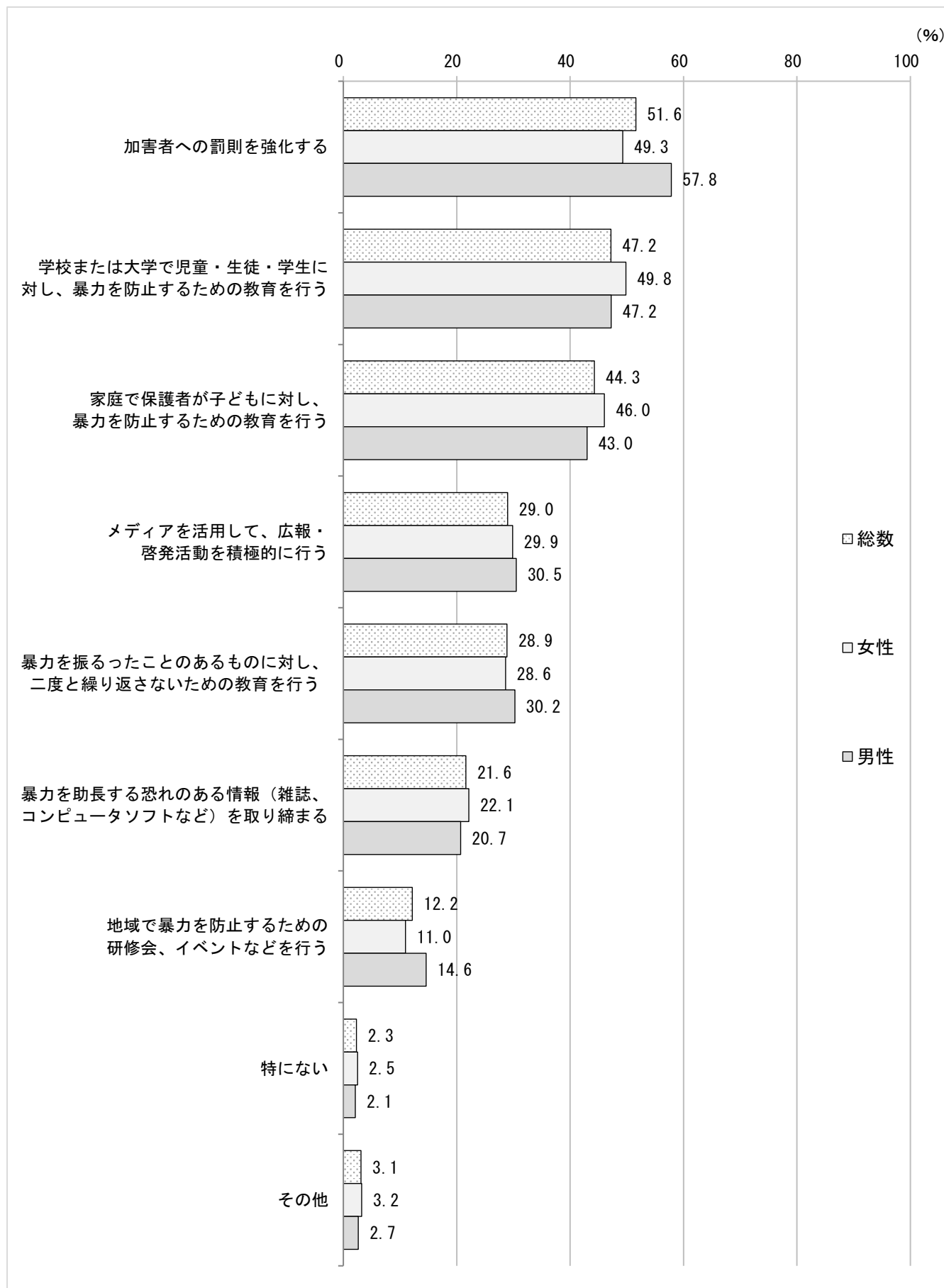
○その他意見

- 1 私は男性だが職場でのこと。女性のいい分を全て信じてしまう、男性上司。まったくどうにもならない。女性の陰湿なヤリ口をはっきり証明するのは、非常にむずかしい。
- 2 話し合っただけで自分自身で解決した。
- 3 今から25年前の事で、私自身も若く色々な情報を知る事（機会）がなかった為。
- 4 親や、まわりの人が悲しむと思ったから。
- 5 問題意識が低かった。
- 6 けんかの延長としか思っていなかった。
- 7 相手が認識していないから、まわりは聞き入れない、外面が良いから。

【全体】

相談しなかった理由のうち、回答が多かったのは、「相談するほどのことではないと思った」（40.4%）、「自分にも悪いところがあったと思った」（29.8%）、「相談しても無駄だと思った」（28.9%）であり、問題を自分の心に閉じ込めてしまっている様子がうかがえる。

問 34 男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。特に当てはまるものを選んでください。（〇は3つまで）



○その他意見

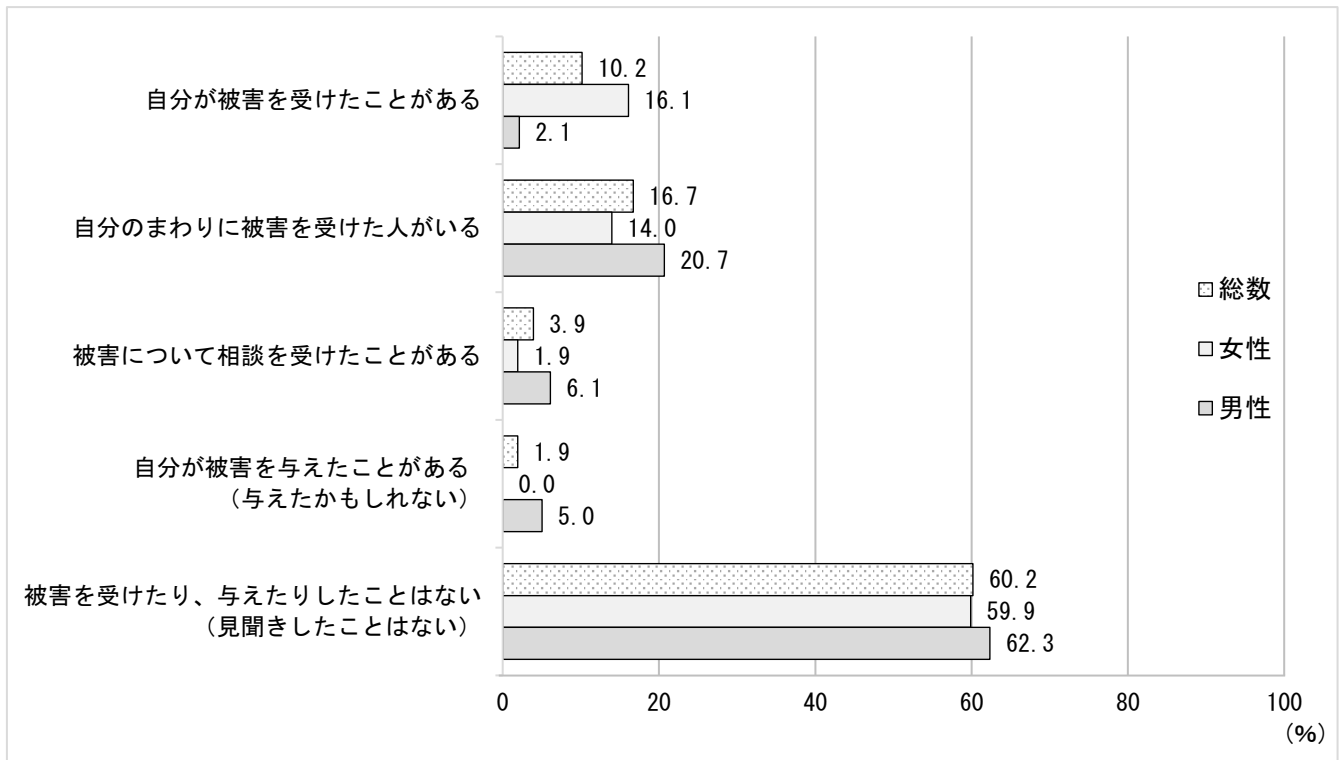
- 1 世界中の人々が自分のことを正しく表現して相手に伝える力を身につけること
- 2 法整備。暴力は犯罪という意識に変えていく。
- 3 同じ相手だと繰り返されるので別居した方が良い。
- 4 感情の問題でありどこまでが暴力になるか計れない。
- 5 暴力をふるう者の自覚と反省を待つしかない。
- 6 防止するのは難しいから被害者を守ることに力を入れてもらいたい。
- 7 情報公開
- 8 被害者が打ち明けやすい環境、また、その話をきくことのできる社会
- 9 学校教育の道徳を見直す。
- 10 厳罰化
- 11 子どもの頃からの社会とのかかわりの強化
- 12 家庭を維持することへの意欲が継続し、被害意識がことさら表面化せず、時間とともに治癒した。
- 13 女性も加害する能力と意思があるという認識の共有
- 14 家庭内でお互いが大きなストレスをかかえた場合、いさかいがあるときに、暴力を防止することは、不可能だと考えます。
- 15 加害者の精神バランスの安定が計れるような社会づくり
- 16 しつくと暴力についてもう一度考え直す。
- 17 防止することはむずかしいので、逃げる勇気を持つことが大事
- 18 逃げる場所を作る。行政組織のぬるい考えの改革
- 19 相談窓口の充実を図り、相談する勇気をもつ。

【全体】

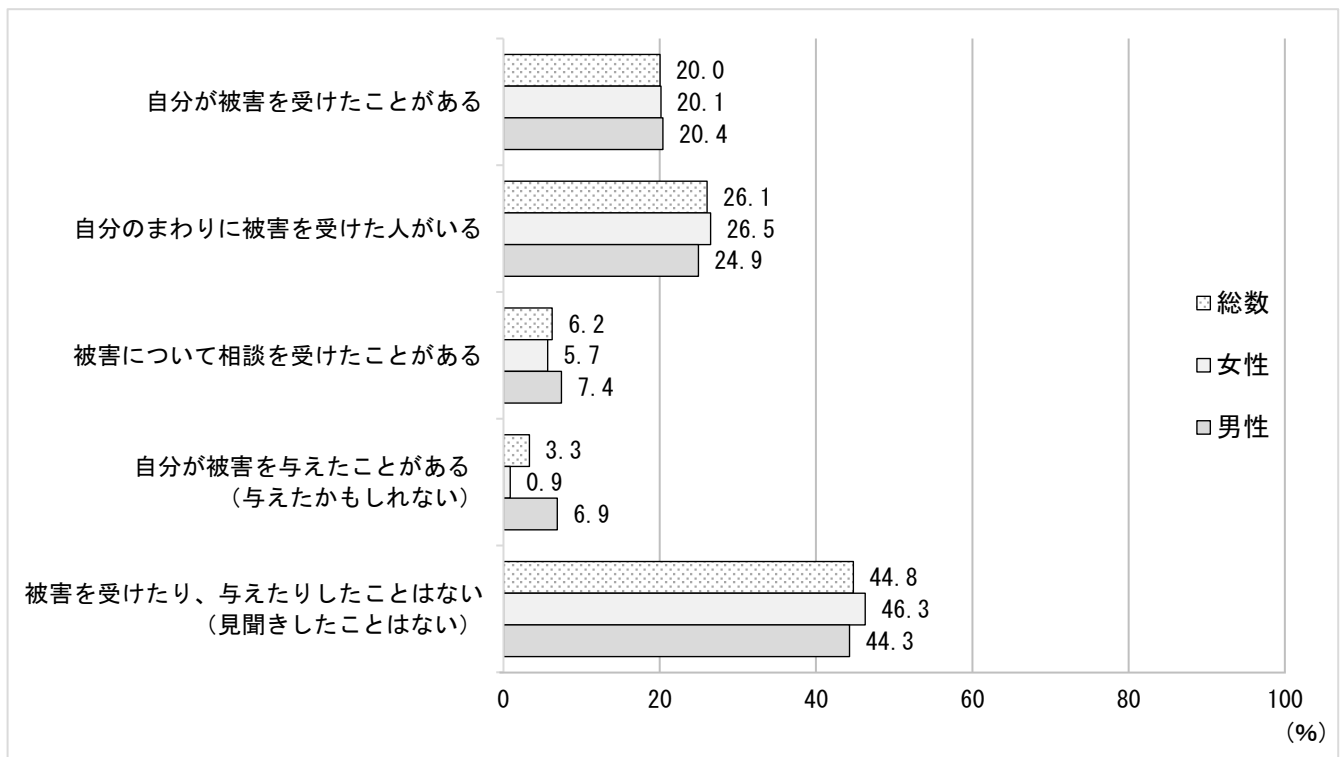
男女間における暴力の防止に関する事柄のうち、回答が多かったのは、「加害者への罰則を強化する」(51.6%)、「学校または大学で児童・生徒・学生に対し暴力を防止するための教育を行う」(47.2%)、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」(44.3%)などとなっている。

問 35 あなたは、次の(1)から(4)までの行為について経験したり、身近で見聞きしたりしたことがありますか。当てはまる数字をそれぞれ3つまで選んでください。

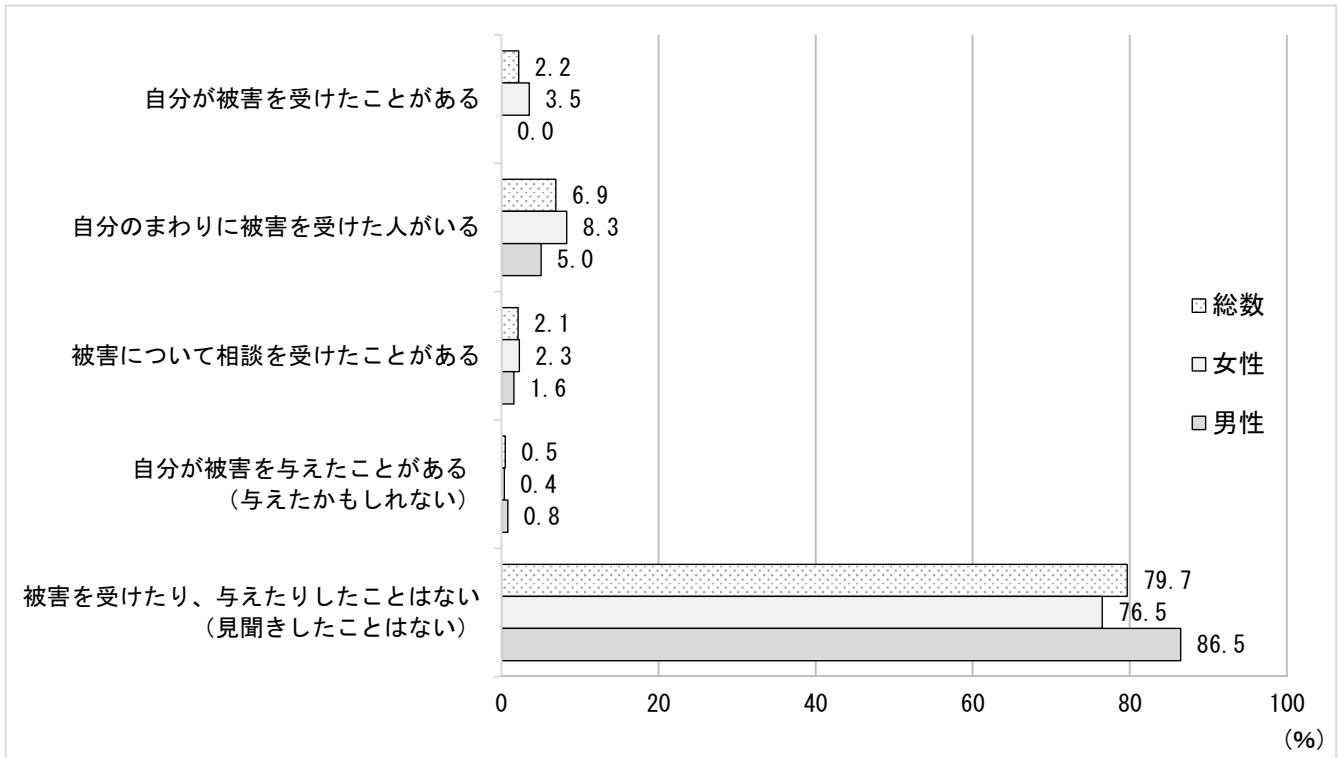
(1) セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）



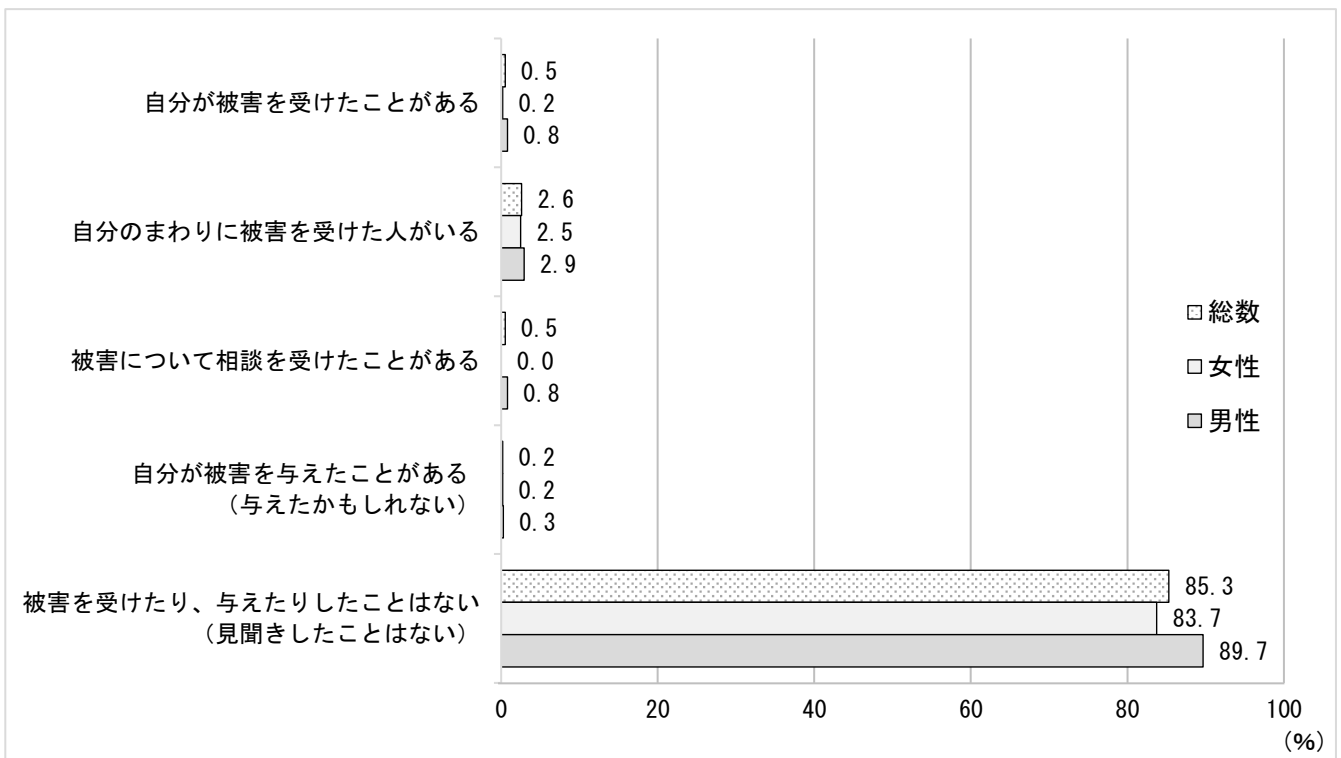
(2) パワー・ハラスメント（パワハラ）



(3) マタニティ・ハラスメント（マタハラ）



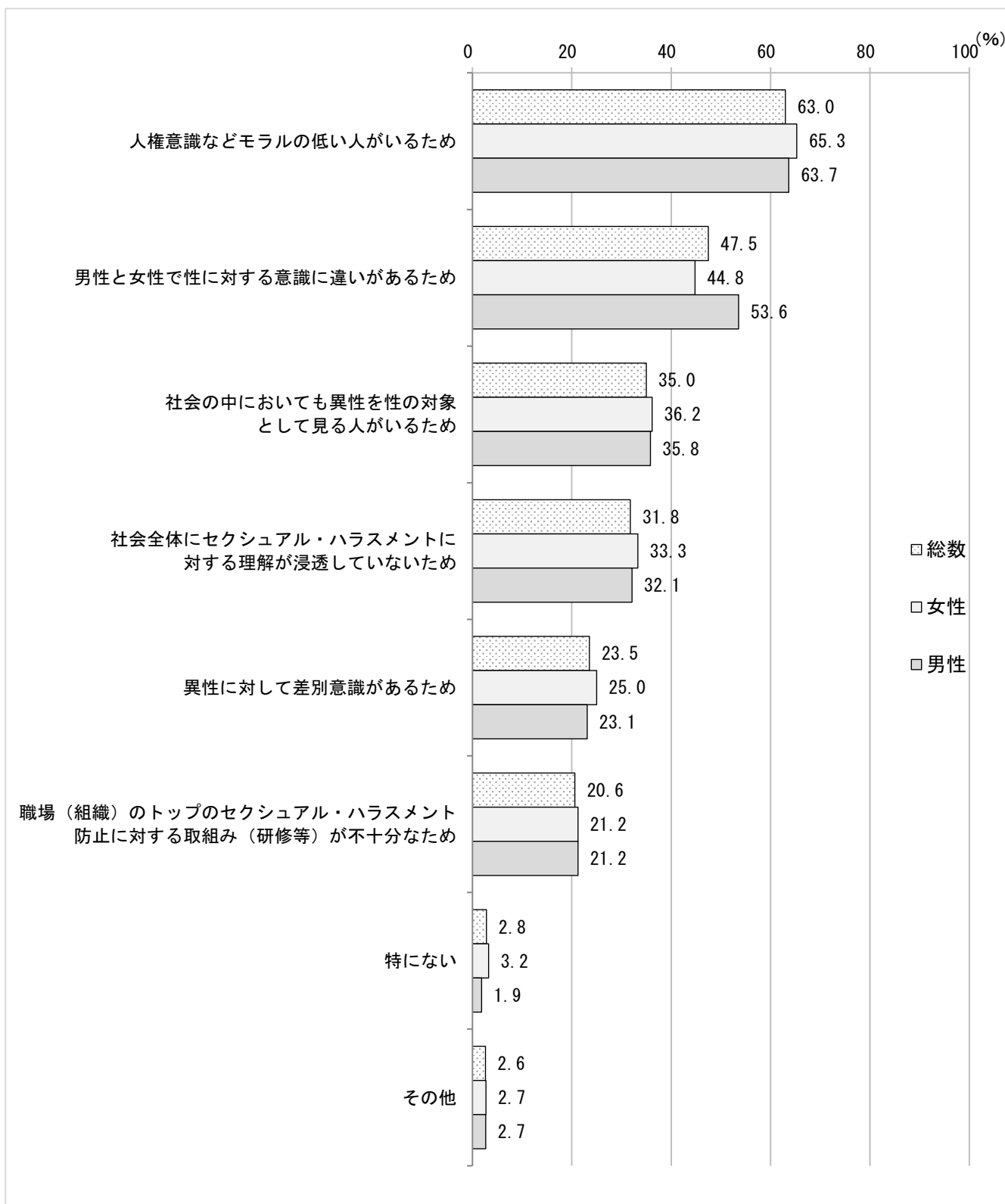
(4) パタニティ・ハラスメント（パタハラ）



【全体】

パワー・ハラスメントについて、「自分が被害を受けたことがある」（20.0%）、「自分のまわりに被害を受けた人がある」（26.1%）という回答は、46.1%を占め、特に深刻な状況であり、防止のための取組を推進していく必要がある。

問 36 セクシュアル・ハラスメントは、どのようなことが原因で起きると思いますか。特に当てはまるものを選んでください。（〇は3つまで）

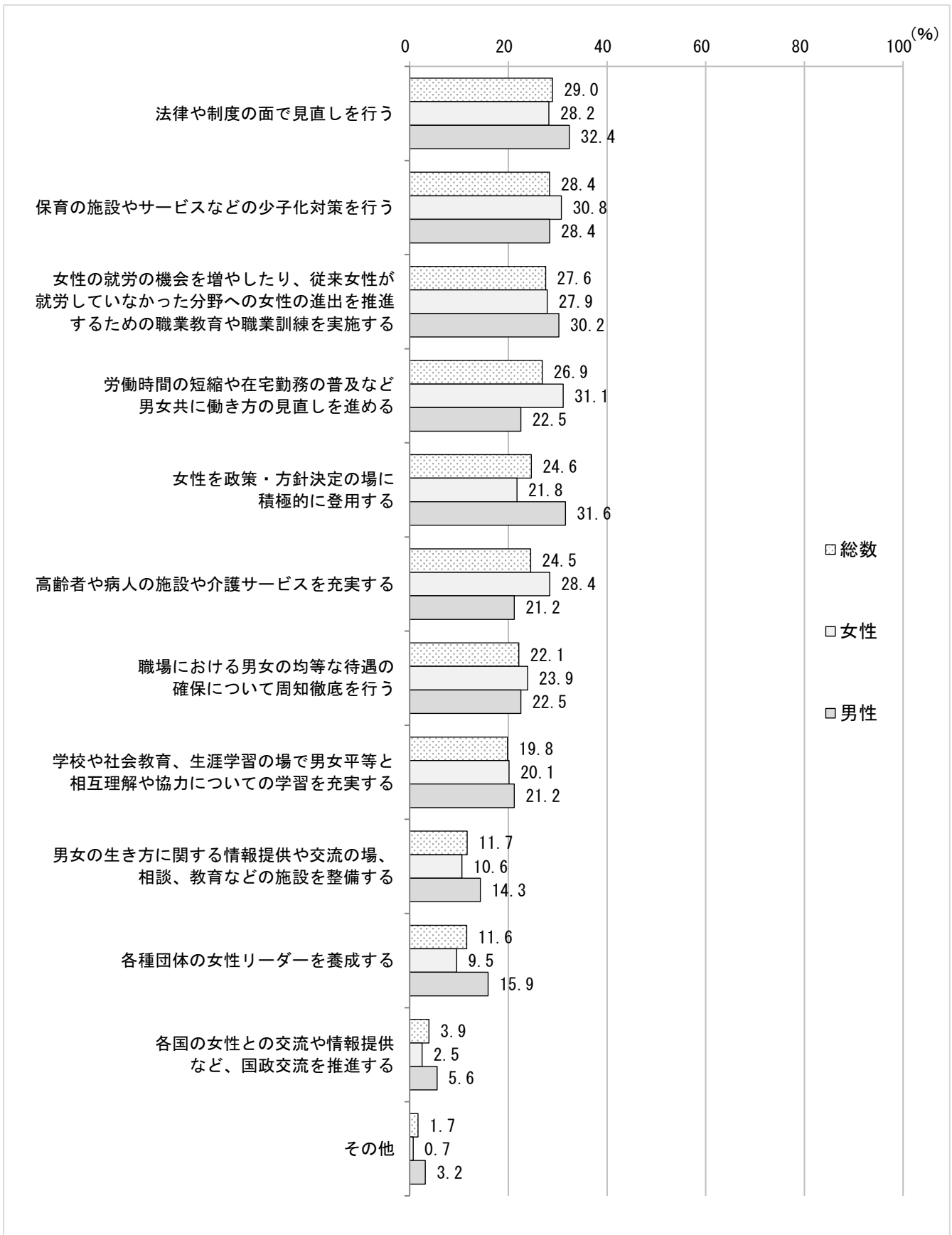


【全体】

セクシュアル・ハラスメントが起きる原因について、回答が多かったのは、「人権意識などモラルの低い人がいるため」（63.0%）、「男性と女性で性に対する意識に違いがあるため」（47.5%）、「社会の中においても異性を性の対象として見る人がいるため」（35.0%）などとなっている。

男女共同参画社会に関する行政への要望について

問 37 あなたは、男女共同参画社会を形成していくために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。特に当てはまるものを選んでください。（〇は3つまで）



○その他意見

- 1 幹部の意識改革
- 2 周知方法をもっと考える。セミナー、チラシ作成だけでは一方通行。効果がみえない。意見交換、交流の場を多くもうけ、働く女性の意見をまとめ、経営者に直接伝えることが必要（マスコミなども利用）
- 3 やりすぎると逆効果です。
- 4 「…すべし」という道徳教育をやめて、「自分にされたくないことは他者にしない」を理解できるような基本法や、各種職業の従事者の知識からより社会を理解できるような学校教育が必要
- 5 十分している。
- 6 本気で政治が話合う。
- 7 本当に能力のある人を登用し、性別にとらわれない事
- 8 無職業（ニート）の人が少なくなる様に、働きやすい環境を整えるべきだ。

【全体】

行政が力を入れるべき事柄のうち、回答が多かったのは、「法律や制度の面で見直しを行う」（29.0%）、
「保育の施設やサービスなどの少子化対策を行う」（28.4%）、「女性の就労の機会を増やしたり、従来女性が就労していなかった分野への女性の進出を推進するための職業教育や職業訓練を実施する」（27.6%）、
「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める」（26.9%）などとなっている。

ご意見・ご要望

問 38 男女共同参画社会や男女間の暴力についてご意見・ご要望がありましたらご自由にお書きください。

- 1 会社ぐるみで不利な事を隠そうとする場合があるのでそのような会社への介入指導
- 2 家庭・学校+地域活動での教育が大切だと思います。
- 3 尊重
- 4 早い段階からの性教育は必要だと思います。女性が大切にされる世の中になるためにも。
- 5 女性が抱えていることが圧倒的に多すぎる。子育てをしながら、家事、仕事を続けるのは本当に大変。よっぽど理解してくれて協力してくれる夫がいないと能力がありやる気があっても夢を（仕事）あきらめざるをえない人がたくさんいると思う。男性の意識をかえてほしい。育児がどれだけ大変か知ってほしい。
- 6 男尊女卑への改善活動
- 7 男女平等と言ってはいますが、実際男性しか出来ない事、女性しか出来ない事があります。全てにおいて平等とは、言えないと思います。子育てをしていく上で、子ども（男の子）には、男女では力の差が大きい為、女性に暴力は絶対にダメと言いきかせてきましたが、最近女性から男性への暴力があると聞き、どの様に言い育てれば良いのか…。暴力には、反対ですが、ケンカ（子ども同士）には賛成です。小さな時に痛みを知らず育った人間が、他人に対して暴力すると私は思います。
- 8 夫婦の問題
- 9 県・市議会議員は、半数は女性でなければならないとし、50%は、女性議員とする法律をつくる。
- 10 子どもを産み育てよ。仕事も続けよ。結局女性の負担が増えているように思う。心のゆとりを持って子育てしてほしい。そうでないと2人目3人目と繋げられない。家事をして家庭を支えることに喜びを感じる人もいる。各家庭で仕事、家事等の役割分担が出来ていれば良い。それを認め合う社会であってほしい。
- 11 共同参画については、育児・介護により社会に出にくい女性を支援するための意見を集約させること、暴力については、氏名の公表等、社会的な罰則強化
- 12 日本は特に女性を低く見る傾向がある。女性を大切にし尊敬していく教育が大事。女は3歩下がってとか、女の人がかよわい部分と美化されたような風潮がある。女性をたてる男性はカッコ良いですよ。
- 13 今、働いている家庭を持つ女性は、国の方針の“女性活躍”により会社での責任はどんどん重くなっているのに対し、家事や育児の負担が軽減されている訳ではないので、結果的に負担だけが増えていると思われます。
- 14 男女平等の人権意識の構築が必要。小さい頃からの人としての平等意識、相手を思いやる心を育てること。観念ではなく、実践で。単に道德教育だけで終わらせないこと
- 15 男女お互いが柔らかな心で認め合える心がなければ参画の社会などは成り立たないと思います。
- 16 暴力被害を受けた方が相談できる窓口とカウンセリング（医者）の体制を整える。暴力をふるわせない強い態度が示せる様な教育・訓練学習の機会を作ってみたらどうでしょう。

- 17 30代前半です。今の時代は、男女ともフルで働かないと収入が低い為、子育ても大変です。男性も少しは、家事もして頂かないと、子どもを産む気持ちになりません。夫婦で生活するだけで精一杯です。男性の収入が増えない分、生活、家事をしてくれるのが当たり前になってほしいです。女性は自立しているので、離婚しやすくなっています。男性は、子どもを産む事がないので、その期間（妊娠中、産後）働けるのが羨ましいです。在宅で働ける仕事が増えてほしいと思います。
- 18 人間として、心技体を如何に成長させるべきか家庭、学校、社会等で、真剣に道徳教育に含めて、取組まなければ、安心して生活が出来ないのでは？
- 19 社会全体が未だ男女共同参画への理解度、特にお子様を持つ家庭での夫、子どもの理解度が低い為に重要会議及び打合せ等に女性の宿泊が伴う出張機会をなかなか与えられない。
- 20 学校教育の場でも教師の立場を利用して、生徒を頭ごなしに怒り、パワハラだと感じる事が多々ある。自分（教師）より年齢も身体も小さい子ども達も一人ひとりしっかりとした考えを持っているので、もっと個人を尊重した教育を心がけてほしい。
- 21 意識のある人はいるが、社会の受け皿が不十分。活躍が限られてしまう。笛吹けど踊らず。積極的に参加できる仕組み作りが必要
- 22 子どもの頃からの生活習慣、態度で、男女平等の理念を身体全体にたたきこんでいく生活が必要。しかし理想と現実では違うことはわかっている。少しのことから意識改革を始めよう。
- 23 国政及び地方選挙において男女の候補者数を、同数とする。（努力目標ではなく）男女間だけではなく「暴力」に対する、概念、定義を共有できる手立てを講ずる。
- 24 日本の教育はおかしいと思う。
- 25 社会をより良くするために何が正しくて、悪いことか知らせる機会を与えることが必要
- 26 経済的なゆとりで底上げが可能、そこから上のモラルは知識が解決
- 27 家事等は女がして当然と思っている男性が多い。女性の給料が少ないので男性に口ごたえをして、男の口から誰に喰わしてもらっていると言われるとがまんするようになる。
- 28 男女間・子どもへの虐待については、もっと法律で厳しく罰すべき。通報などが、しやすいしくみ・通報を生かせるしくみを作るべき。暴力の双方に対する教育が必要
- 29 基本的な人権教育を低年齢からの実施が必要と思う。
- 30 公的機関に在籍中でしたが、今年度変わった上司にパワハラを受け、まさに先月より診断書が出て休職中。職場内でヒアリングされた上層部の見解は、①見てきて明らかにパワハラだったと言う人がいる。していた人は、パワハラではないと言っている。職場としては「わからなかった」が答え。②その人達への処分、注意はない。③引き続き現状のまま職場復帰してほしいだった。また、1回や2回ではパワハラとは言えないとの解答。行政機関がその様な対応、教育、知識でどうするのか。立場が上、組織が大事というだけで、弱い立場の者が退職せざるを得ない状況になる社会を行政からまず変えてほしい。男尊女卑も行政の方が民間よりずっとひどい。トキが止まった組織だ。
- 31 男女共同参画社会について、女性が昇格することに違和感のない空気感が必要であると思うが、必要以上になにか取り組みをする必要はないと思う。
- 32 男女が不平等であるという前程のアンケートに、すこし違和感がある。昔とちがい不平等ではないと、言いつづけるべき。
- 33 義務教育における、カリキュラム等の見直し⇒人間性を求める教育へ⇒・人・物・命の大切さを教育の中へ⇒・教師の資質向上
- 34 家庭での教育が大切
- 35 気軽に相談できる窓口があればいいと思います。

- 36 男性から男性へのパワハラは横行は根強い。上司のいきすぎたプロ意識がパワハラへとつながっていると感じる。プロ意識をパワハラに正統化にしている。このことが職場で能力を生かす事、生き生きとした生活をさまたげている。
- 37 料理教室や美容室が女性限定の所があったり、男性が参加してもよい料理教室やカルチャーセンターの講座などが女性の数が多くて参加しにくいので、そこで男性はコミュニケーション能力をみがいた人でないと気軽にそういう所に参加できないと思う。女性は同性同士で活動するのが好きな傾向があるが、そうでない女性も多くいると思うので、性差のない文化趣味的活動の情報がまとまったものがあると、少しずつ男女の性差の距離が短くなると思う。
- 38 行政の方で周知しても地方の方では、古い考え（男尊女卑）の方が多いのでなかなか改善されない。
- 39 女性の立場を守ろうとすることに意識がいきすぎて、逆に男性がきつい仕事ばかり負わされるといった場を目にしたことがある。そのあたりも徹底しなければ、男女平等は実現できない。
- 40 事件になっているのは一部で本当はもっと多いのではと思う。役所・警察・裁判所等のヨコの連絡を緊密にする。
- 41 力では、どうしても女性は男性にはかなわないので、小さい時から、護身術のようなものを事あるごとに習い、習得して、自分のからだだけでも守ることができればと思う。
- 42 高齢者が安心して暮らせる毎日、介護保険制度の更なる整備・充実、介護生活支援等
- 43 職場で研修を受けたが、まだまだ日本では、男女差別があると思った。もっと学校等で教育をしないといけないと思った。
- 44 子どもの頃からの教育が非常に大切であると考えます。
- 45 男女間の暴力については厳しく罰を与えるべきだと思います。特に性被害においては厳しく、くりかえすものについては、アメリカのように、名前や住所を公表して二度と再発しないように社会でしっかりと対応すべき。
- 46 男性、女性にはそれぞれの適性がある。男性は出産できない。共同参画ばかり進めようとするから、少子化となる。
- 47 「男女間の暴力」を「パートナー間の暴力」と訂正してほしい。「男男間」でも「女女間」でも暴力はある。設問の書き方にとっても違和感を覚えた。近所のコミュニティセンターで、トイレが男女で別れておらず、車イス用もない。古い施設なのは分かるが、そういう小さいことをいつまでもそのまま（古い考えのまま）にしていることが、利用者、その周囲、家族の人の意識下に、「人はこう扱われてもいいんだ」というメッセージを送り、私達はそれを受けとり続ける。そこから、人の人権意識、他人に対する意識が悪く育っていくと思う。トイレという人のプライベート空間すら分けられていない社会。トイレに男女同室という“平等”はいりません。早急に改善してほしい。
- 48 子ども殺しの罪を重くする。裁判でよく、過去の「事例は…」とよく言うが、こんなのではA Iでもできる。
- 49 マスコミ等で暴力や性的な報道をとりあげすぎる。報道が過剰になり、かえって刺激してしまうこともあり、エスカレートすることもある。何より教育が必要であるが教育者自身、ふさわしくない者が最近多いように感じる。また、教育者の採用が、そもそも少なく、オーバーワークとなり、ひへいしている。だから、良い教育ができない。そして、教育できてない子どもがふえる。勉強だけでなく性格的なことや、コミュニケーション力をもっと重視した採用がはかられるべき。
- 50 暴力追放、犯罪のない世の中…無理かなあ～？ どうして、おこるのだろうか？ やはりそれは世の中が生活が苦しくなっているからではないのでしょうか？ 給料が安月給であり上がらないのに物価、消費税の引き上げ等などではないのでしょうかと思います…？

- 51 男性の家事参加は子どもの頃からの家庭環境（親が家事をさせていたか）が大きいと思います。自分のことは自分ですという教育を浸透させてほしいです。女性がリーダーである必要はなく、有能なリーダーであれば男性が多くても問題ないですが、一般的な家庭の感覚がわかる人であってほしいです。
- 52 男性の育休は、無給と聞きました。これでは、意味がないと思います。
- 53 モラハラについての質問がないのはなぜ？家庭内では、セクハラ、パワハラよりモラハラの方が問題だと思う。
- 54 今、子ども達が学校や家庭で、男女は常に平等でお互いが大事に思い合うことが大切だと教えることが、一番大切なことだと思う。
- 55 大いに推進すべきことである。今後の社会は男女均等が、ますます必要である。
- 56 法律による規制強化、人権教育による女性地位向上
- 57 暴力とか…自分のもどかしい行き場のない感情を暴力で表現することしかできない人もいると思う。社会も変化していかなければいけないけど、その変化も感じられない人もいると思う。全ては自分自身がストレスを作ってる。自分が変わらないといけない事を気づけていない。自分で気づくことが一番大事！
- 58 弱い者をかばい男性が上であるとの考えを捨てること
- 59 男性の意識改革が重要な問題です。男女共同、（学校、職場共に）社会で、区別せずに、学習を共にして、その上で、男女を機会を与える事。女性を登用しなくても、優秀であるから、登用すると男女を均等に待遇すること
- 60 ペナルティ強化、罰則強化をすること
- 61 各個人が自覚を持つ事
- 62 性別ではなく、個人個人を尊重し、大切にす意識改革。暴力は犯罪であるということを徹底させるため警察の介入。統計上の数字ではなく、現実をよく見て、正しい認識をする。
- 63 最近の方は自分の事だけを考えて相手の事はあまり思っていない様な気がします。悲しいと思います。若い方は機械と話をしている様ですね。
- 64 社会全般において、男女平等であることは、基本であるが、体質的に男性にしか出来ない事、女性にしか出来ない事があるので、そのことを相方がフォローしあえる気持ちを持つことが大切と考える。
- 65 やりすぎると逆効果です。
- 66 男女共同参画社会の推進に賛同するが、「差別」と「区別」の混同があってはならないと考えます。それぞれの性の持つ良さ、それぞれの人間が持つ個性の良さが活きた社会の形成を願います。
- 67 介護をもっと、たすけてほしい。かならず老人がふえてきます。
- 68 法や制度が充実していても、結局人の心がバリアフリーになっておらず、辛い思いをする人が出てきてしまう。私は月に1~2日しか休みがなく、仕事に追われる日々だが、その中で、子育てをしていくのは不安だ。職場で男性と平等に仕事をしているつもりだが、このまま産休や育休をとると不利になる部分も多い。社会がその平等ような考えになっておらず、まだまだ産休育休で休む女性を見る目は厳しい。早く、法や制度のように、周りの理解が進み、世の中が本当のバリアフリーになったら良いと願う。
- 69 「由らしむべし、知らしむべからず」ことの本質をもとに、立法したのであれば、やるべきことは自ずと明らか。それらしいことを言ってお茶を濁すから、現場が困り税金をムダ使いする破目になっている。
- 70 法律、政策を作る過程が見えないから、出来上ってもこのようなアンケートの発出になり、市民が何を求めているかを現場で模索しているのではないか？元はといえば調子のよい意味不明のかけ声で、適当にごまかす内容が下りてきたので現場で困っているのでは？
- 71 男女共同参画といっても、やはり、体力的な事、子どもの事等、男の人がやるべき事、女の人が、やった方がいい事もあるのでなかなかむずかしいと思います。

- 72 年配層のファミリーに対する圧力が酷い。知らない年配の方に早く2人目を産みなさいなど、精神的圧力をかけてくる人が多い。昔の固定観念を押しつけてくる。
- 73 女性の社会進出のため、能力のある方は積極的に登用する。しかし「管理職を○%、○人」とかの目標を達成するために無理に女性登用するのは女性に負担がかかる。
- 74 男女問わず相手への敬意があれば、暴力もなくなるし、差別もなくなるし、すべて平和になるのになあと思います。
- 75 単純な平等ではなく、両性の違いや本質に基づく衡平を図るべきだが、そうした視点は欠けている様に思われる。
- 76 上司や先輩といった逆らえないような部下や後輩が、上の人の持っている立場という権力で、暴力（言葉や行動）が行われているのは学生、社会人問わず必ずある。子どものまま大人になっている大人がいる中で男の人からすれば女性は力でも弱い。それをどう改善するか対処するか考えさせられる事がある
- 77 お互いにおもいやりを持って接すること
- 78 男女共同参画社会については、男女の性差は必ずあるので、しっかり実現することが大事なのかどうか分かりません。男女差別はなくすべきだと思いますが、男性と女性が同じことをするのは難しい気がします。例えば幼い女の子を男性の保育士にあずけるのはちょっと…とってしまいます。女性がいいです。
- 79 女性らしさ、男性らしさがうすれて行く様に思います。子ども達にとっても母と父をくらべてしまうので、あまりこの言葉はすきでない。
- 80 子ども時代に大人からの不適切な子育てによる心の育ちの問題が大人になっても影響していること。また参画社会や男女関係のあり方など時代にあった教養などが身につけられていない環境にあるために、古風な家族関係から抜け出せないと感じる。
- 81 男性がどんどん弱くなりそうで心配である。
- 82 どうしても、女性の方が体力が弱い点 その人の育ってきた環境の違いがある点
- 83 男性の意識が変わらない限り、この問題は改善されないと思う。
- 84 DV、パワハラ、セクハラなどの相談窓口
- 85 働きたい女性がいるように家事をしたい男性がいると思う。女性が働いてもやっていける収入など。各家庭によって違って住みやすい環境。園や学校の保護者の集まりは、今は90%女性です。
- 86 女性自身が意識を改善し、能力的にも向上していく必要があると思う。制度的には平等になっているし、能力のある女性が不等に差別されているとは思わない。
- 87 小学生からの道徳授業が必要かと。成人してから教育しても遅いかと。
- 88 家庭と学校での教育が良い社会を作っていくと思う。
- 89 男女間の暴力について、被害を受けた者は勇気をもって通報。加害者には必ず、制裁を課す。泣き寝入りは決して許さない世の中を作る。いかなる理由ある時でも、暴力は決して許されない。
- 90 女性から男性への暴力（精神的、言葉の暴力）のクローズアップ
- 91 公的機関の隠ぺい体質の改善。過剰な加害者保護の改善
- 92 男性側がすぐに加害者側にどうしても扱われやすいという不平等はあるように感じる。（女性側が加害の側面もあるのに関わらず。）
- 93 「男女共同参画社会」恥かしながら、今回初めて目に致しました。そこそ問題では？税金を取る事ばかり発信せずもっと、情報提供して欲しい。
- 94 学校や家庭での、継続した教育が必要だと思う。

- 95 職場でも、無条件で男性社員が給与面、昇給等優遇されている。男性が「上」という考えが根強い。女性は結婚、出産で長続きしないというイメージも根強い。男性の育児、介護参加を当たり前とする世の中であってほしい。制度や環境もあると思うが男性の考え方を改める必要がある。男性だけ、女性だけでなく同様に活躍できる社会づくり
- 96 一方で男女共同参画社会を企業が過敏に捉え、女性を優遇しすぎるケースも現実として発生している。本来の意味で不利益を被る内容を含めた平等を考えるべき事が必要であると考えている。
- 97 環境や企業の取り組みが必要。法を整備しても対応できない中小企業等もある。暴力については個人意識、男女間の不平等のあらわれだと思ふ。
- 98 人として互いに認め、尊敬できる、世の中が一日も早く来ることを願っています。
- 99 まずは、国会議員、都道府県市区町村議会議員を始めとし、各会社にも、50%/50%の割合で、男性も女性も均等に議員になれるようにする。各会社の職員も、50%/50%を目標にして雇用、地域活動、啓発活動など出来るようにすること
- 100 男尊女卑の社会は職場・家庭環境の中で、未だ多いのが現状。結局は個人の意識。もう少し時が経たないと減らないと思う。
- 101 働きたくない、家事や育児に専念したいという女性（又は男性）の意思も尊重できる社会づくりが必要。そのために男性又は女性の給料の確保が大切
- 102 幼少期の環境が、とても影響していると考えています。最近の教育現場でのニュースなどでも感じますが、教諭になる為にもっと教育をしっかりするべきだと思います。子どもが子どもに教育をしていく事が、最もおそろしい事だと思っています。
- 103 男女共同参画社会のメリット、デメリットもしっかり考えて行く必要があるのではないか！男女間の暴力は個々の問題である。それをどう対処するのかしっかりとした法の確立
- 104 まだ現代には男性は仕事、女性は家庭という考え方が根強いと思います。小学生頃から、男の子も女の子も、家事を出来るようにしたり、家庭や学校で、男は強く、女はやさしく、なんてことを言わなくなれば、自然に性に対する思いこみや、抵抗感もなくなって行って、大人になってパートナーを得た時に、当り前に助け合えるようになると思います。
- 105 窓口の人には、たとえ小さな訴えであってもすべて真摯に受け止めて、きちんと1人1人の対応をしてほしい。あとで事件になってから謝罪するのでは意味がないので、特に暴力やストーカー、迷惑行為に対する市民の訴えにきちんと対応してほしい。
- 106 男女平等とは言いますが、身体的に女性は男性ほど体力がなかったりするし、また、逆に男性が女性より不利な点もあると思います。平等という意味が、その辺りの違いをよく理解した上で、本人の適性なども考えないと、一概に何でも平等は厳しいと思います。
- 107 男女平等というと、何でも同じ事を求めてくる職場があった。男性24人、女性1人での部署。力仕事は、男性には劣ります。その分、細かな作業は誰よりも得意でした。なので、力仕事は男性にたのみ、代りに細かな作業を手伝い、適材適所を求めましたが、却下され、肉ばなれになり労災という結果、おそまつです。
- 108 結婚で、男性の姓になる、家系を継ぐ事が当然となっている事に違和感がある。女性にも、キャリアや、守りたい物があると思う。少子化の今後、結婚へのブレーキになるように思う。
- 109 現在、マスコミ新聞報道など、同じ事件などコメンテータなど、なぜと云うような人のコメントなど見聞きしていると、うんざりします。人は多様性を認めて行く事が必要と思われれます。

- 110 身近で暴力行為を見たら、通報することを徹底すべきと思う。大人であっても子どもであっても止めることは勇気がある。せめて弱者の力になれるよう地域皆で見守り、悪いことには声をあげていかななくてはならない。
- 111 「こども六法」という本が話題ですが、こども（小・中・高）のうちからある程度、理解できる法律を教える方が良くと思われる。世の中のしくみを知る上でも必要ではないか。
- 112 外国での男女の問題やケーススタディを参考すべき。
- 113 社会全体の意識改革 その為にはどうする。
- 114 私は何年かだれにも相談できず一人でかかえこんでいたため、このようなアンケートを全員に行い、暴力を行わないよう抑止したり、常に意識させるようなインパクトのあるポスターを大きくはる。よく見かけるのは、トイレの片すみに小さく相談窓口の電話番号を書いているメモ紙サイズのものだから。
- 115 母親の社会復帰が難しい。保育園…働いてないと入れない。面接…保育園が決まったら採用します。どうしたらいい。
- 116 暴力はその人自身の気持ちの持ち様次第な所もある様な…。女性社会…女性が上に立つ事で少し頼り不足に周りの女性自身も思っている所があるので…。
- 117 女性が社会に出るのが正解かどうか、これを考えている人は多くないと思う。労働人口が減少している中、女性の社会進出は必要だと思うが、無理に制度化してまで女性を要職に就ける等の逆差別は不要と思う。能力がない者が上司になっても困る。
- 118 男女問題に限らず災害対策など全てにおいて、行政は問題が起きてから改善点を言い訳のようにあげている点が多々見うけられるが、甘い認識を捨てしっかりと対応するように徹底して頂きたい。
- 119 政治が好き勝手に国会等を終わらせているから良くなならない。まともに政治してくれるなら、こっちからするとどの政党がしてもいいの。このアンケートも「やってます」アピールにしかみえない。
- 120 男女の権利等は平等であるべきだと思うが、どうしても男性でないと、すすめて行くことが体力的等にむずかしいこともあるので、特に子どもができてからは、夫が主で働くという家族が多いように思う。家事、育児を含めた女性の評価はされるべきであると思う。
- 121 昇進は能力で評価されるべきであり、数だけ合わせることは問題。ただし、女性だからと能力が正しく評価されないことも問題。一方で、家庭に入りたい（専業主婦になりたい）女性が理解されない社会には絶対すべきではない。
- 122 性別で体のつくりや根本が異なるので一概に平等はできない。
- 123 男女としている時点で差別だと思う。今は、LGBTの人もいると認識しているのであれば、いつまでも男女としているのは間違いだと思います。男女ではなく一人一人の個を大切に考えていかなければいけないと感じます。

問 39 男女共同参画社会の実現に向けて、今後のキーワードとなるものは何だと思われますか。

- 1 性別は関係ないと思います。出産は女性にしか出来ない大仕事!!暖かい社会になって欲しいです。
- 2 少子化対策
- 3 男女平等
- 4 女性の働きやすい社会にする。
- 5 女性優先の傾向があり、わがままな女性も増える一方です。専業主婦でも夫の帰りを待って家事・育児を半分やらせるなど非常識な一面もかいまみます。社会があまりにも女性・子どもに甘い面ばかりを与えると自分で立つこともできないのに離婚しシングルマザーで税金を支給してもらい生活している人のなんと多いことか。社会がどうかしてあげるのではなく本人が目ざめる事です。自分の子どもは自分が責任もって育ててました。
- 6 認め合う
- 7 男性にも女性にも優しい社会
- 8 教育とマスメディア
- 9 理解し合うこと
- 10 教育、公報
- 11 互いに相手を尊重をする事ができたら!!
- 12 職業選択の自由と、職種の充実
- 13 社会への啓もうと周知だと思う。
- 14 人様
- 15 相互信頼
- 16 自己責任
- 17 ゆとりを持つ
- 18 愛情
- 19 安心して子どもを産み育てられる社会
- 20 ジェンダーフリーの社会の実現
- 21 意識改革
- 22 そんなマジックみたいな一言なんてない。全てつながって全て大事で一言に表せない。そんな単純なことではない。
- 23 男尊女卑社会通念の解消
- 24 他人を批判しない見守るように。
- 25 人権尊重
- 26 平和で明るい犯罪のない世の中
- 27 家庭との両立
- 28 仕合わせ
- 29 公平
- 30 女性の意識向上
- 31 多様性を受け入れられる人が増えること
- 32 性別にとらわれず個々の能力を最大限に生かせる社会の形成
- 33 多様性

- 34 働いている女性からの意見集約と、それによる課題を出すこと
- 35 勇気と慈悲
- 36 男性の理解力、協力
- 37 互いを認め合うこと。それぞれの仕事、役割を家庭内でも話し合っしてほしい。
- 38 男性の意識改革
- 39 「柔軟心」→共に生き生かされる
- 40 積極的な参画
- 41 尊重と協調
- 42 主婦の経験を生かして、親切、ボランティア、平和を作り出す仕事、横のつながりを生かしておぎない合い、個人的に、困っている人のリストを作成助ける。強いられてではなく無理やりでもなく、自発的に、みんなで手助をする。
- 43 個人の尊重
- 44 社会における男女共同参画の確立、促進
- 45 様々な職種への女性の進出
- 46 一人一人の尊厳を大切に！
- 47 男女共に行動する。
- 48 男性の家事、育児への積極的参加
- 49 バランス
- 50 男女にとられすぎずに、それぞれが得意な分野で活躍する。
- 51 偏見の是正
- 52 まずは、「夫婦別姓制度」の導入
- 53 心にゆとりが持てるよう、家族、地域の支援
- 54 家事の分担
- 55 政府の本気度
- 56 時間のゆとり
- 57 男女に限らず人格を尊重する。
- 58 家庭における、男性の協力 男だからしないと言う古い考え方
- 59 待機児童の削減
- 60 全年令（幼児から高齢者まで）における教育
- 61 柔軟性のある社会
- 62 最低時給 UP と多様性への理解
- 63 個人の意識改革
- 64 「男女共同参画社会」の言葉をやめる事 これが、当然の社会である啓もう
- 65 モラルの向上
- 66 共生社会の実現
- 67 together
- 68 ダイバーシティ
- 69 心
- 70 素直な心
- 71 性差では無く能力により社会で認められるようになるべき。

- 72 まずは行政を含む、立場が上となる管理職、経営者等への徹底した男女共同参画社会の教育！率先して行う者達の教育がなってない！
- 73 教育改革
- 74 会って、目を見て話しをする大切さ。
- 75 家事育児を平等に
- 76 男女の職業に対する意識改革
- 77 労働時間の短縮
- 78 法律や制度の見直し
- 79 女性側の意識、覚悟
- 80 協力
- 81 尊重
- 82 経済力
- 83 働き方改革
- 84 収入
- 85 女性目線
- 86 教育者の意識改革
- 87 正常な人間生活が出来る人間があたりまえの社会
- 88 自己啓発
- 89 自己主張ではなく、認め合うこと
- 90 相互理解と実行（お互いの存在を認め、理解し、すぐに実行する事 とりあえず、何かやってみる事から始めると何かが少しずつ変わるはず）
- 91 もう少し若い人達が結婚する世の中になって欲しい。そういったところにも力を入れるべきではないでしょうか。家庭があってそこからの男女共同参画のように思います。
- 92 男女皆が積極・自発的に行動
- 93 お互いの尊敬の念を持つ事
- 94 関心（かんしん）と広報
- 95 相手、他の人に対する敬意
- 96 女性の家事（子育て介護）の軽減
- 97 （出会い）現代の人は自分の世界に入りすぎている。
- 98 協調、共存
- 99 「全ての面で、男が女より優秀」とか、「専業主婦をバカにする」を無くす事
- 100 男女が性別に関係なく活躍できる社会になること
- 101 女性活躍
- 102 育児、家事、介護への支援と仕事の軽減
- 103 公的機関からの意識改革
- 104 子育てのし易い、社会の支援体制づくり
- 105 心のゆとり!!＝経済的なゆとり!!
- 106 超高齢化社会と向き合う。
- 107 女性の長所をいかす。
- 108 みんなで生きやすさを!!

- 109 女性の能力の評価
- 110 個人と社会との関わり方
- 111 つながり 調和 共生
- 112 積極的に進めることに問題あり！
- 113 各自の特性を尊重して、仕事をする。
- 114 相手をなるべく傷つけないようにしようとする配慮と、我慢する力
- 115 自由・平等
- 116 男女ともに甘えを持たない。
- 117 全部同じにする＝平等はムリだと認めること 体力や考え方の違いもあるのにそれを認めない方が平等じゃないと思います。
- 118 生活、育児に対する金銭面の補助
- 119 互いに尊敬する事
- 120 全員のQOLとワーク・ライフ・バランスの向上
- 121 男女共、各々の自身の心構え
- 122 身近な環境の整備
- 123 優しさ（理解）と挑戦（改革）
- 124 「自立」今だに亭主関白な男性は多い。女性もフルタイムで働いているのに、男性は全く家庭の事をしてくれない。家事、育児、介護の9割以上は女性がしています。子どもの頃から一人で生活できる教育が必要だと思います。
- 125 平等であること
- 126 人格尊重
- 127 大人の自己肯定感
- 128 謙虚になること
- 129 会社のトップ（首長）などの意識の高さ←年寄りには偏見が多く、古い考える人間がまだまだいるのが現実
- 130 「ジェンダー」「優しい社会」「平等」
- 131 一人の人間であること
- 132 ウーマンパワー
- 133 自己表現力を高める。
- 134 訓練
- 135 金
- 136 学校や社会教育、生涯学習、男女共学です。
- 137 意識改革 法律での義務化
- 138 育児・介護
- 139 男女の区別をしないとくみをする事 仕事やスポーツ、地域活動の場で子どもの時から実行をすることが大事だと思います。少子化の中では男も女も選んではおれません。
- 140 自覚
- 141 社会全体の理解
- 142 子育て支援
- 143 学習（男女平等と相互理解）の充実
- 144 子どもの時からの思いやりを教えると良い。親を大切にすること無し。

- 145 安心、安全、な地域社会を作ること
- 146 社会生活における男女の意識改革
- 147 年代別、男女別に広く深く意見を聞く事
- 148 男女差別のない社会
- 149 男女家事、育児の協力
- 150 互いの多様性を認め合う社会の実現に向けて何事にも思いやりと感謝をもつ事が大切
- 151 time. 考える時間、向き合う時間を作るところから始めねば。
- 152 個々人が持つ長所の尊重
- 153 男性が女性に対し理解（環境作り）
- 154 職場でも家庭でも、協力する事
- 155 男女差別の意識をなくす。
- 156 環境整備
- 157 男女仲良く!!
- 158 北欧化
- 159 女性自身が意識を更に高くもつこと
- 160 古い考えをなくす。
- 161 男らしさ、女らしさからの脱却
- 162 伝統的な価値観・良識の尊重
- 163 やさしさ
- 164 女性の社会進出と比例して、男性の家事育児の参画のバランスをとることが重要と考えます。
- 165 男女共同参画社会が実現した場合の明るい状況が想像できない。
- 166 お互いの認識を深める。
- 167 改革
- 168 差別
- 169 平和
- 170 自分自身の改革
- 171 社会全体の意識改革のための教育
- 172 あらゆる分野で活躍できる社会
- 173 格差のない社会
- 174 個人の意識
- 175 創造
- 176 幼少期からの教育
- 177 女性の管理職を増やすこと
- 178 “フリー”
- 179 相互協力
- 180 実行
- 181 男女の違いをお互い認識しあうこと、相互理解
- 182 家庭と仕事のバランス
- 183 周知と簡潔
- 184 年長者への教育、意識改革の徹底

- 185 男女というよりもひとりひとり（性別）、（学歴）、（人権）を抜きにして個人が、地域社会を良くして行こうという考えが、行政を良くすると思う!!香川にも素敵なリーダーがどこかにいるはずですよ!!その人達を見つけ出す力をどうぞつけて下さい。
- 186 共に歩む
- 187 呼び掛けの行動
- 188 権力
- 189 誰もが働きやすい職場づくり
- 190 サポート体制の充実
- 191 古い慣習の撤廃
- 192 イノベーション!
- 193 性差による職業選択の壁を低くする事!!
- 194 女性の意識改革、知識習得
- 195 無理な女性登用や、法律等でなく、男女ともに、何でも出来るようにしたり、女性は下だという差別意識をなくす、「教育」だと思います。
- 196 昭和の考えは古い男女平等が家庭・職場・地域において基本であること!
- 197 専門知識を有する者の適材適所の雇用
- 198 女性の自立
- 199 人々それぞれの性格など思いやり、こうで、なければならぬときめつけるのではなく社会のフリー（自由）行政の画一性で進めるのはダメだと思います。
- 200 温故知新
- 201 世代交替
- 202 人として、リスペクト。男女の区別を無くす。
- 203 選択肢の多い社会
- 204 保育支援の充実、子どもを持つことに不安をなくし、社会への参加をしやすくした方が良い。
- 205 相手を理解すること
- 206 男女の関係なく、個人として尊重し合う。
- 207 one team
- 208 One for all, All for one!
- 209 職業訓練
- 210 賃金UP（男女共平等で）
- 211 男女の個性、能力を生かせる社会
- 212 助け合い（協力）
- 213 当事者、行政など関係する全ての者の徹底した意識改革
- 214 なかよし
- 215 本人の自由意志の尊重
- 216 平和な世の中、人と人のつながりが密である社会
- 217 全ての職種での男女比の平等
- 218 力関係
- 219 チームワーク
- 220 個

